

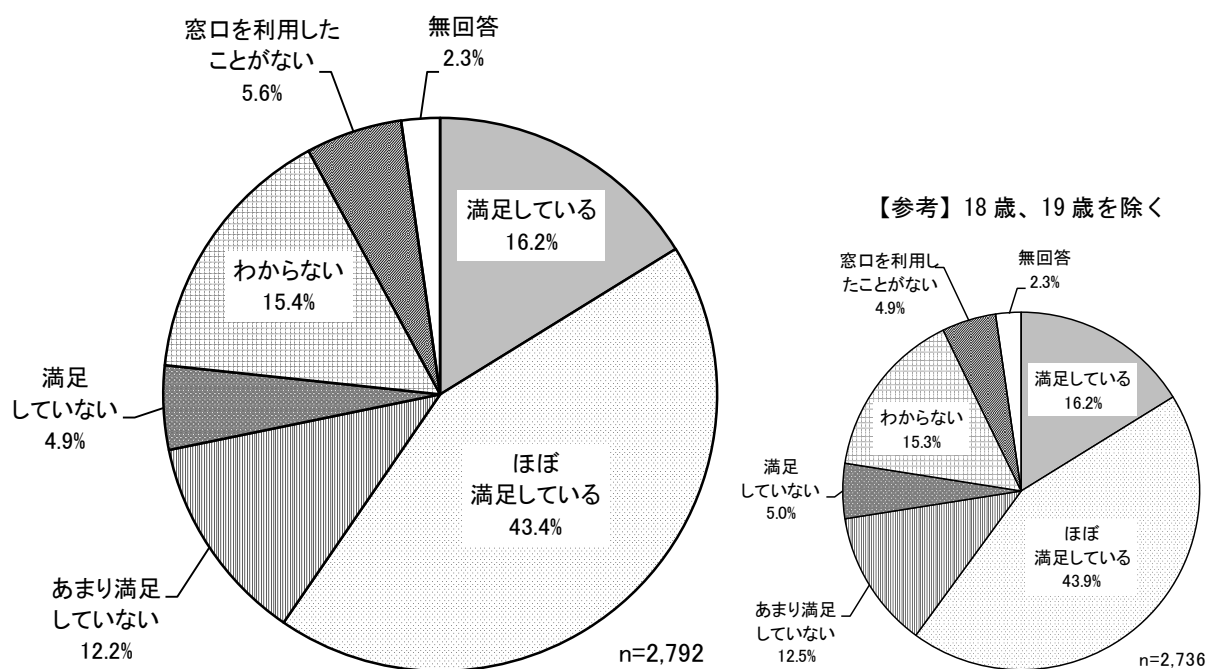
3. 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度

(1) 窓口サービスの満足度

◇《満足》が6割弱

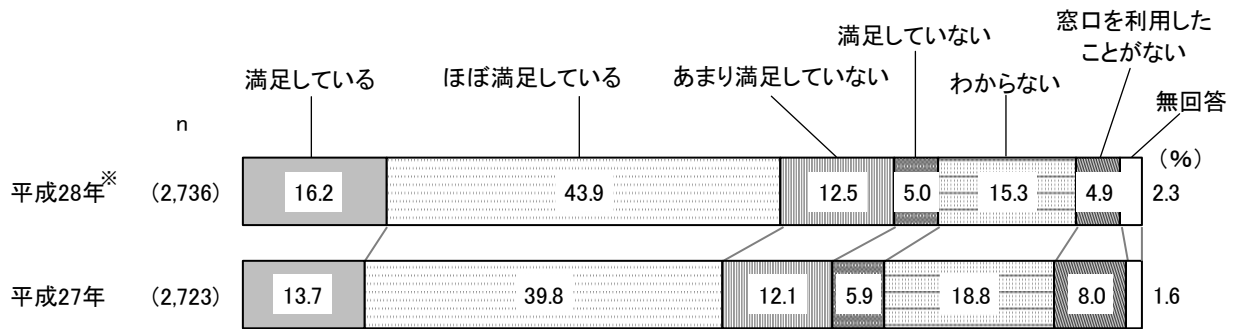
問12 あなたは、市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（○は1つだけ）

図3-1-1 窓口サービスの満足度－全体



市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足しているか聞いたところ、「満足している」（16.2%）と「ほぼ満足している」（43.4%）を合わせた《満足》（59.6%）は6割弱となっている。一方、「あまり満足していない」（12.2%）と「満足していない」（4.9%）を合わせた《不満足》（17.1%）は2割近くとなっている。（図3-1-1）

図 3-1-2 窓口サービスの満足度－経年比較

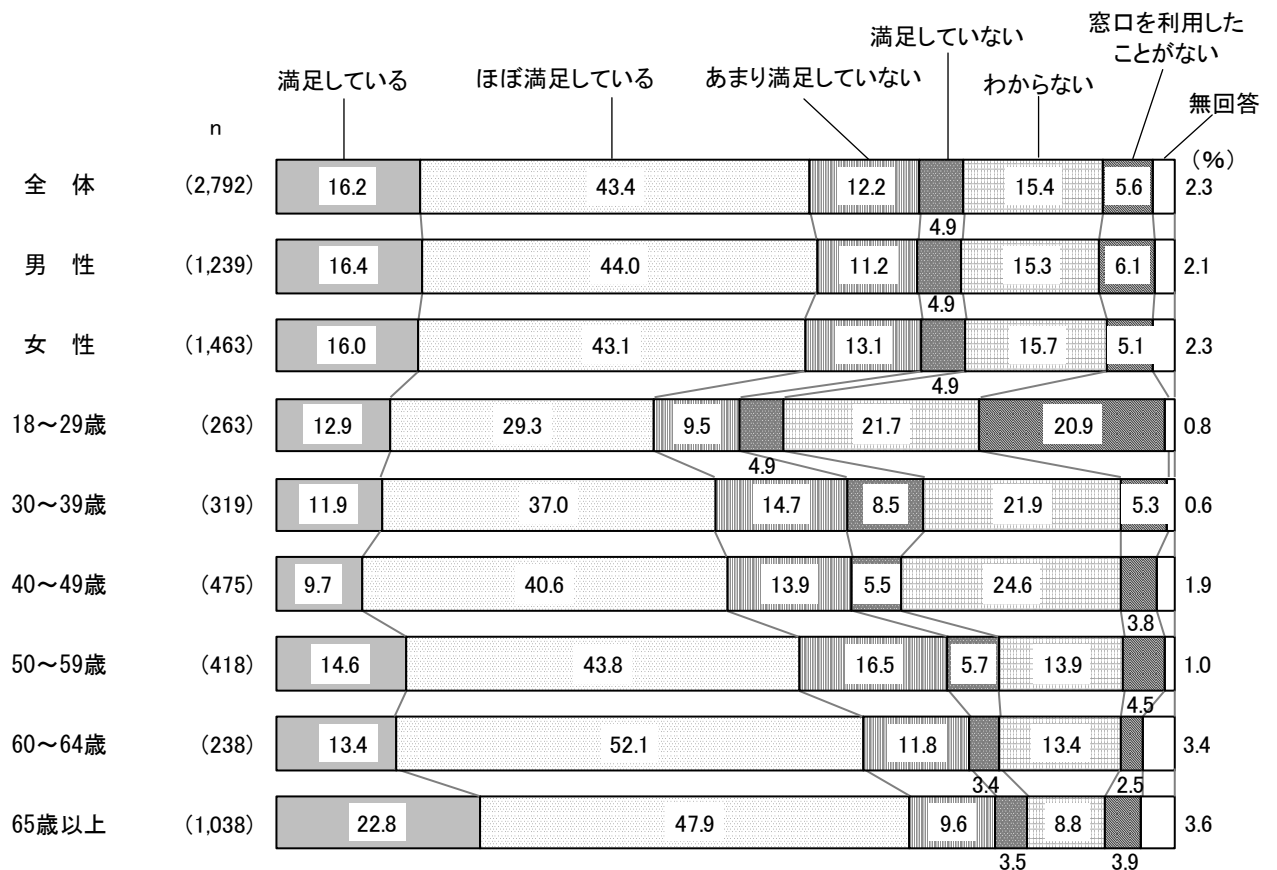


※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、《満足》は、平成27年（53.5%）より6.6ポイント増加している。

（図 3-1-2）

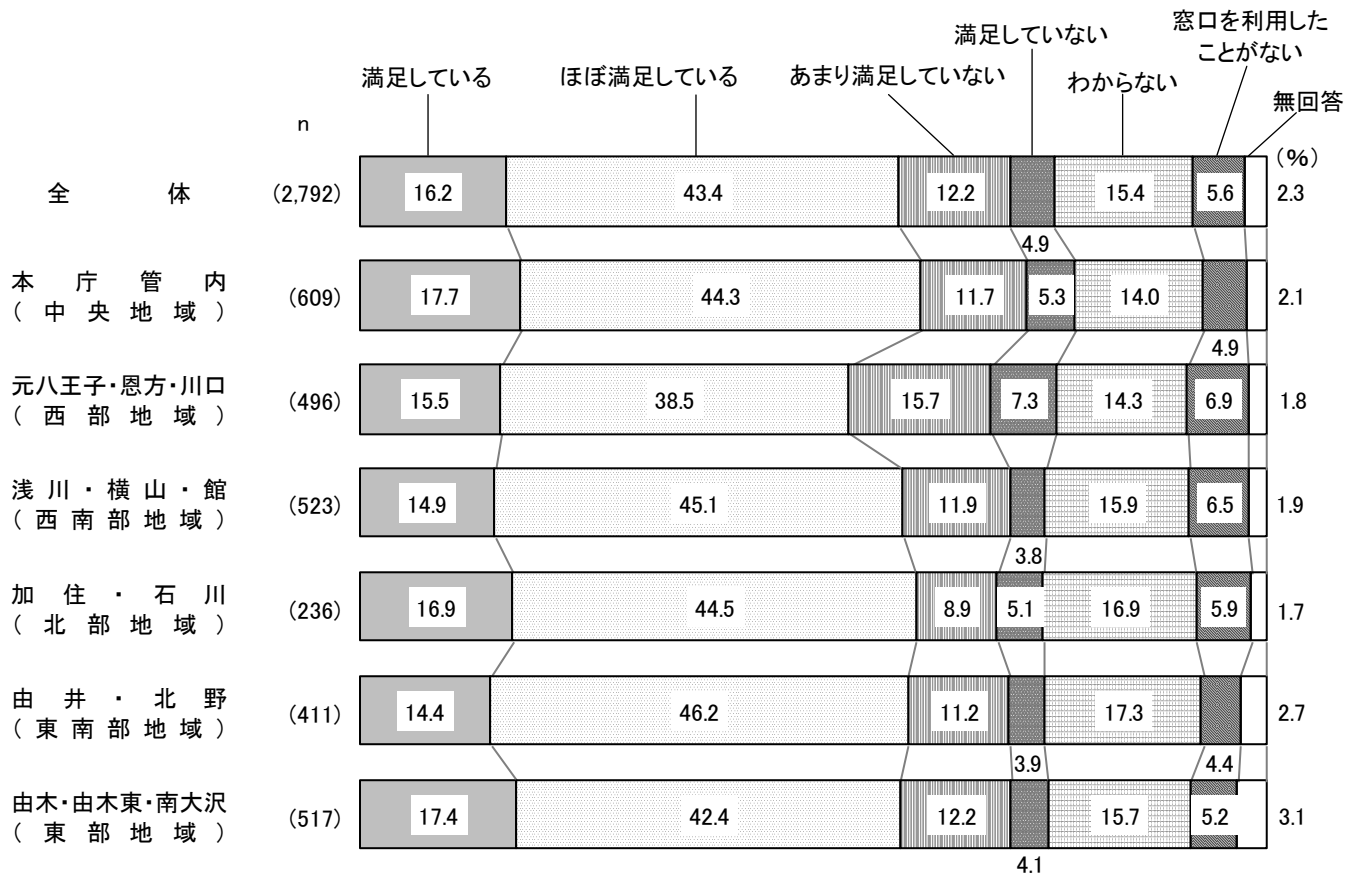
図 3-1-3 窓口サービスの満足度－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《満足》は65歳以上（70.7%）で約7割と多くなっている。一方、《不満足》は30～39歳（23.2%）が2割強と多くなっている。（図 3-1-3）

図 3－1－4 窓口サービスの満足度－居住地域別



居住地域別にみると、《不満足》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（23.0%）で最も多く 2 割強となっている。（図 3－1－4）

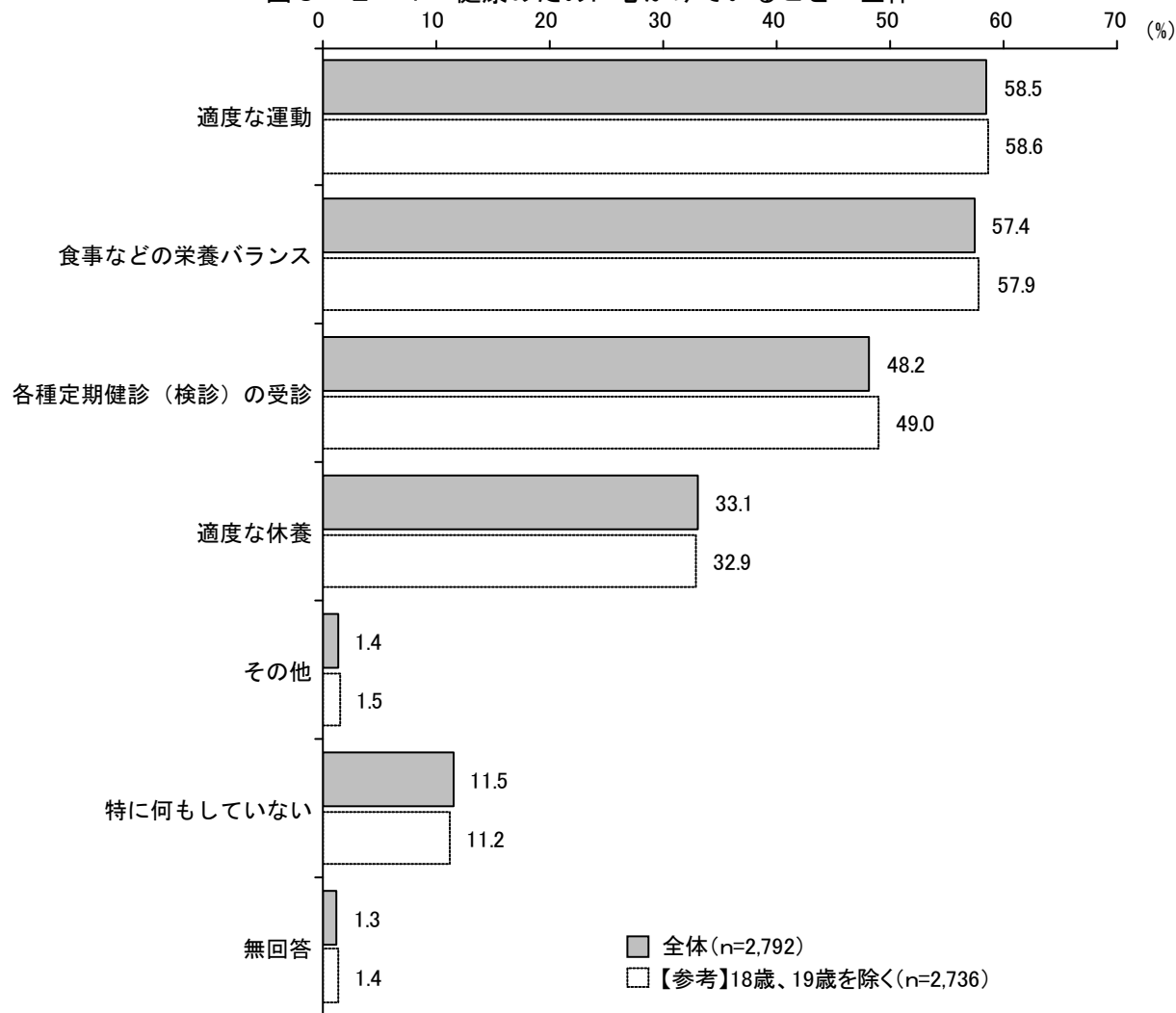
（２）健康のために心がけていること

◇「適度な運動」が６割近く

問13 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。

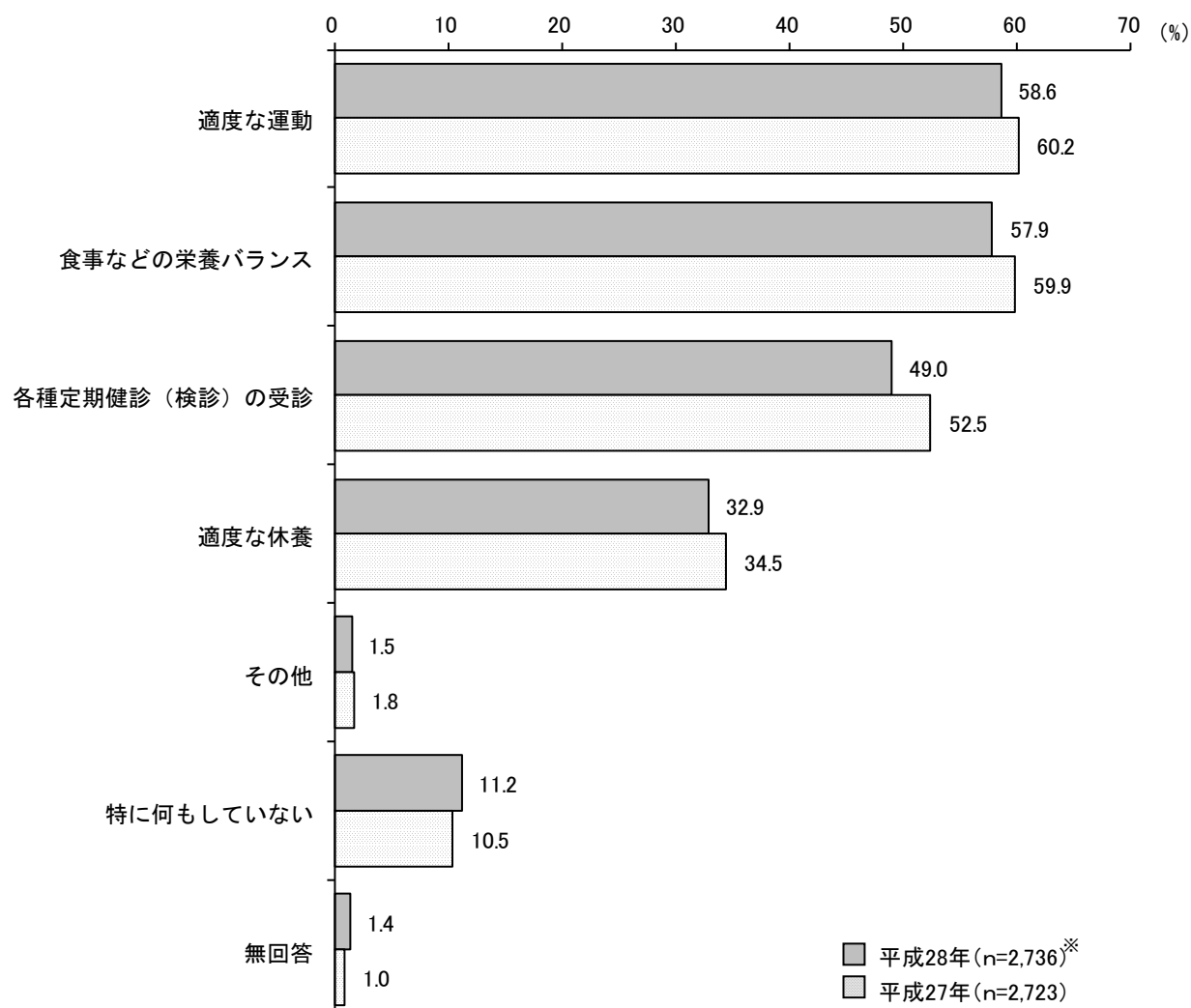
（○はいくつでも）

図 3－2－1 健康のために心がけていること－全体



健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」（58.5％）が最も多く６割近くとなっている。次いで「食事などの栄養バランス」（57.4％）、「各種定期健診（検診）の受診」（48.2％）、「適度な休養」（33.1％）などの順となっている（図 3－2－1）

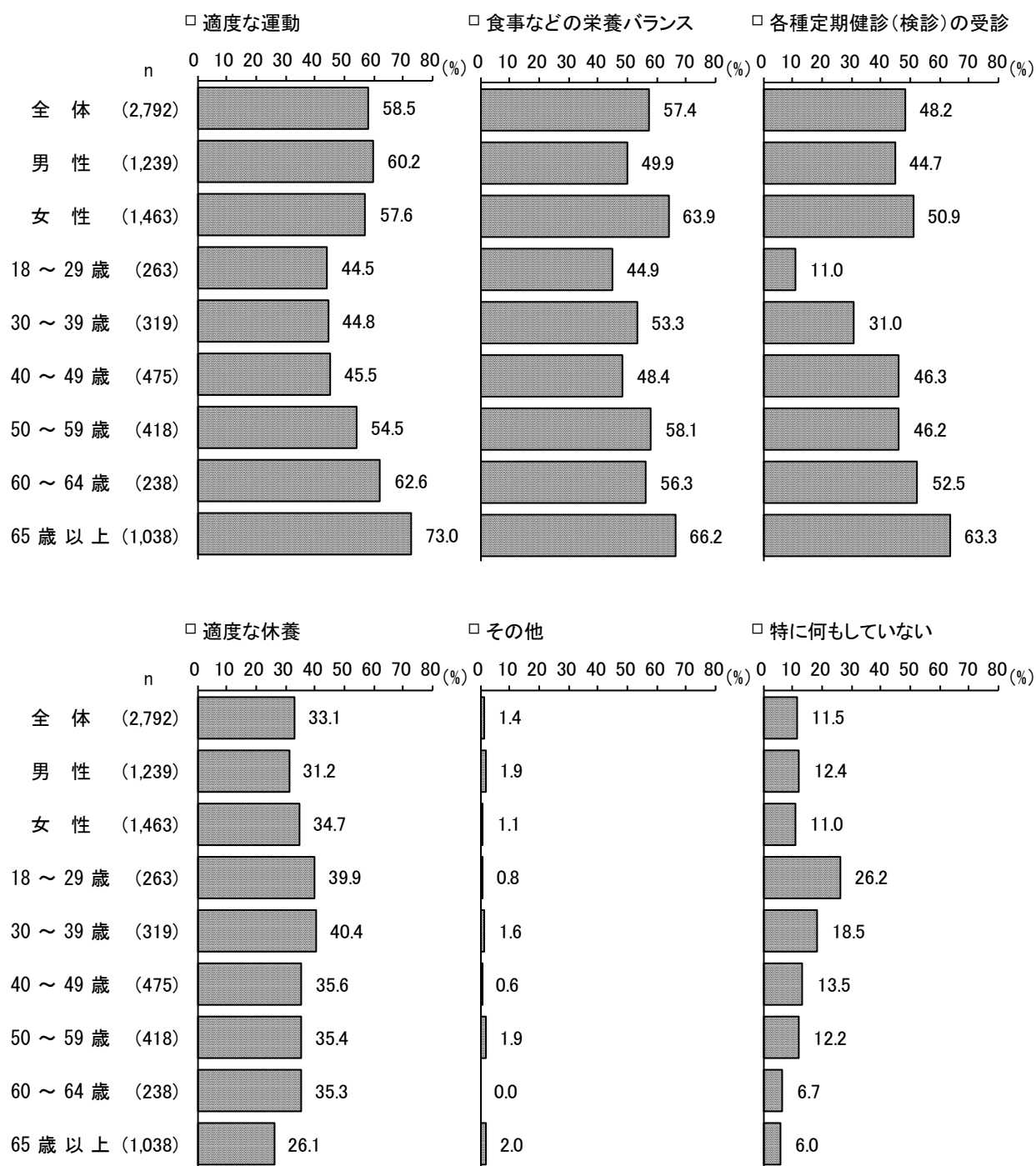
図 3-2-2 健康のために心がけていること一経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「各種定期健診（検診）の受診」は、平成27年（52.5%）より3.5ポイント減少している。（図 3-2-2）

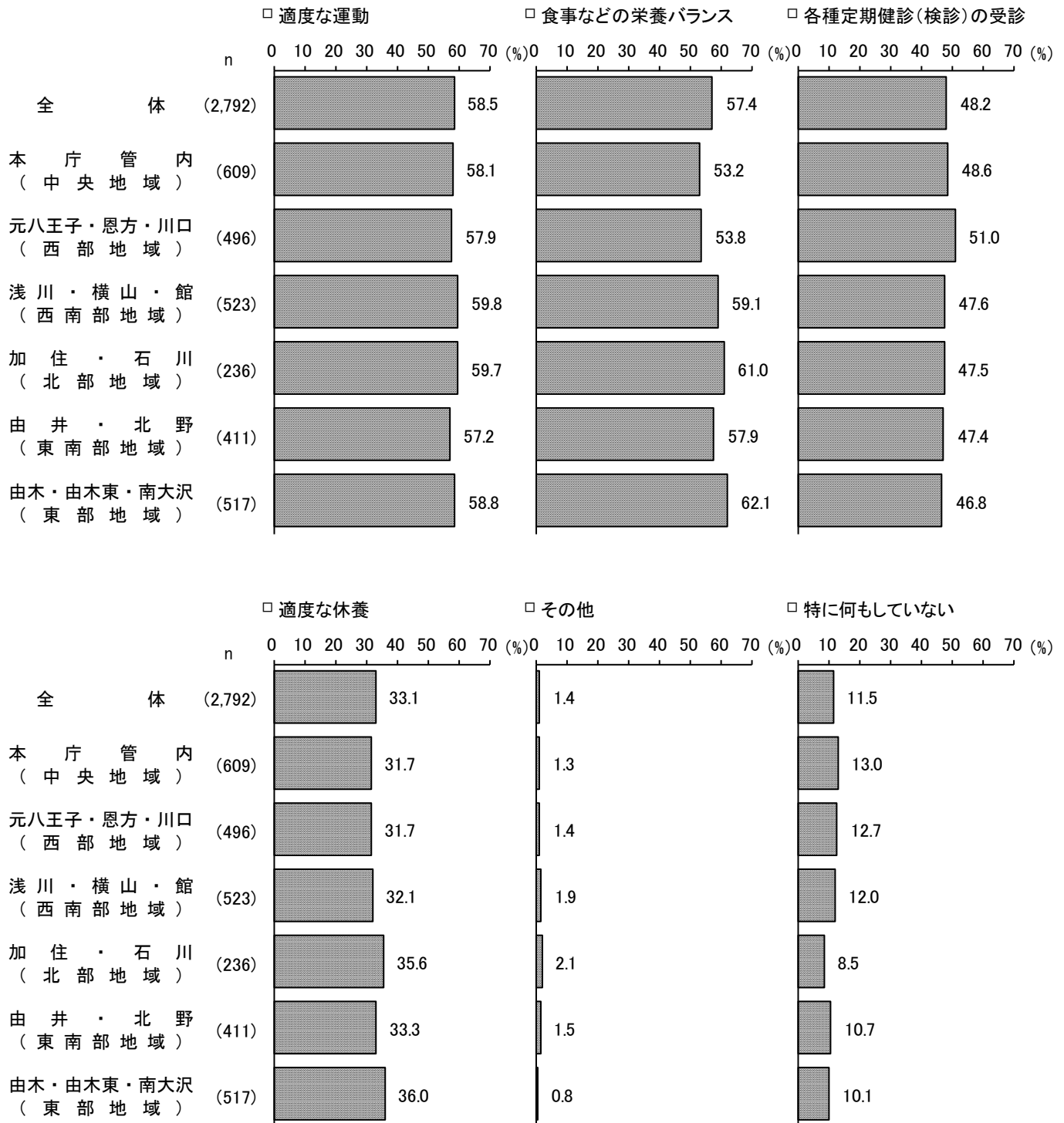
図 3-2-3 健康のために心がけていること－性別、年齢別



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性（63.9％）が男性（49.9％）より14.0ポイント高くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は女性（50.9％）が男性（44.7％）より6.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「適度な運動」は65歳以上（73.0％）で7割強と多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は18～29歳（11.0％）で1割強と少なくなっている。一方、「特に何もしていない」は18～29歳（26.2％）で3割近くと多くなっている（図3-2-3）

図 3-2-4 健康のために心がけていること－居住地地域別



居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図 3-2-4)

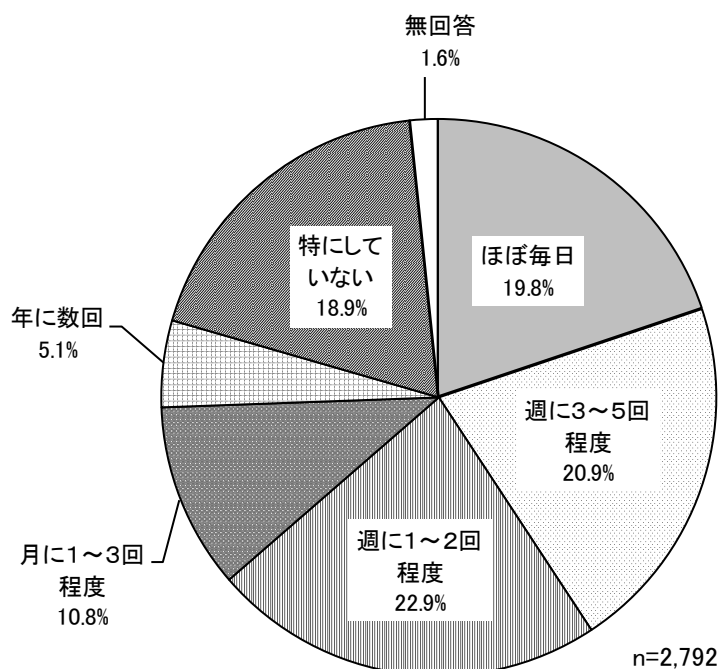
(3) 1年間の運動頻度

◇《週1回以上》が6割強

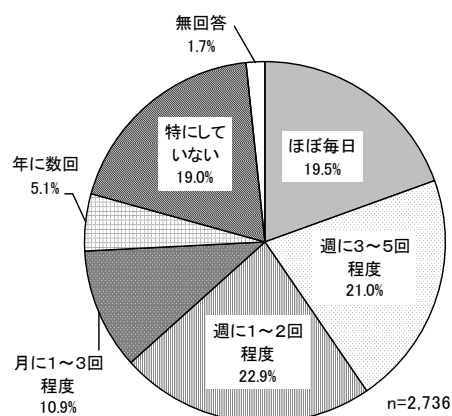
問14 あなたは、この1年間にどれくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計数をお答えください。(○は1つだけ)

※運動には、野外活動（登山やハイキングなど）や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩（散策、ペットの散歩を含む）などで1日合計30分以上行うものも含めます。

図3-3-1 1年間の運動頻度－全体

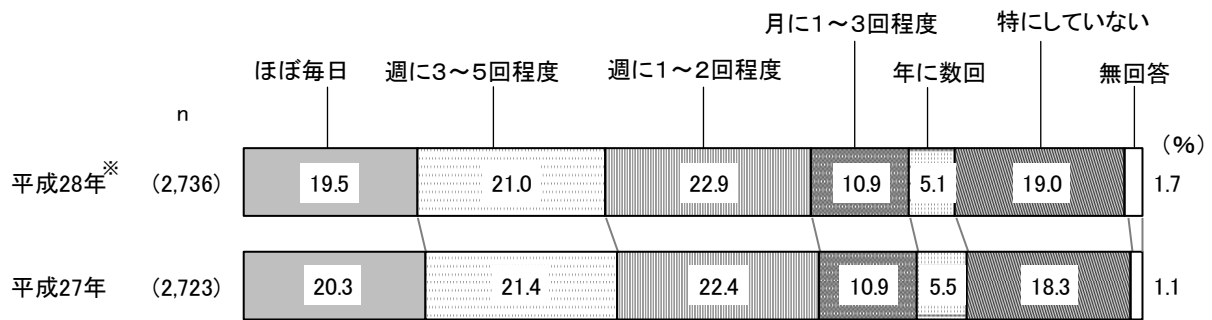


【参考】18歳、19歳を除く



この1年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「ほぼ毎日」(19.8%)、「週に3～5回程度」(20.9%)、「週に1～2回程度」(22.9%)の3つを合わせた《週1回以上》(63.6%)は6割強となっている。「月に1～3回程度」(10.8%)が約1割で、「特にしていない」(18.9%)は2割近くとなっている。(図3-3-1)

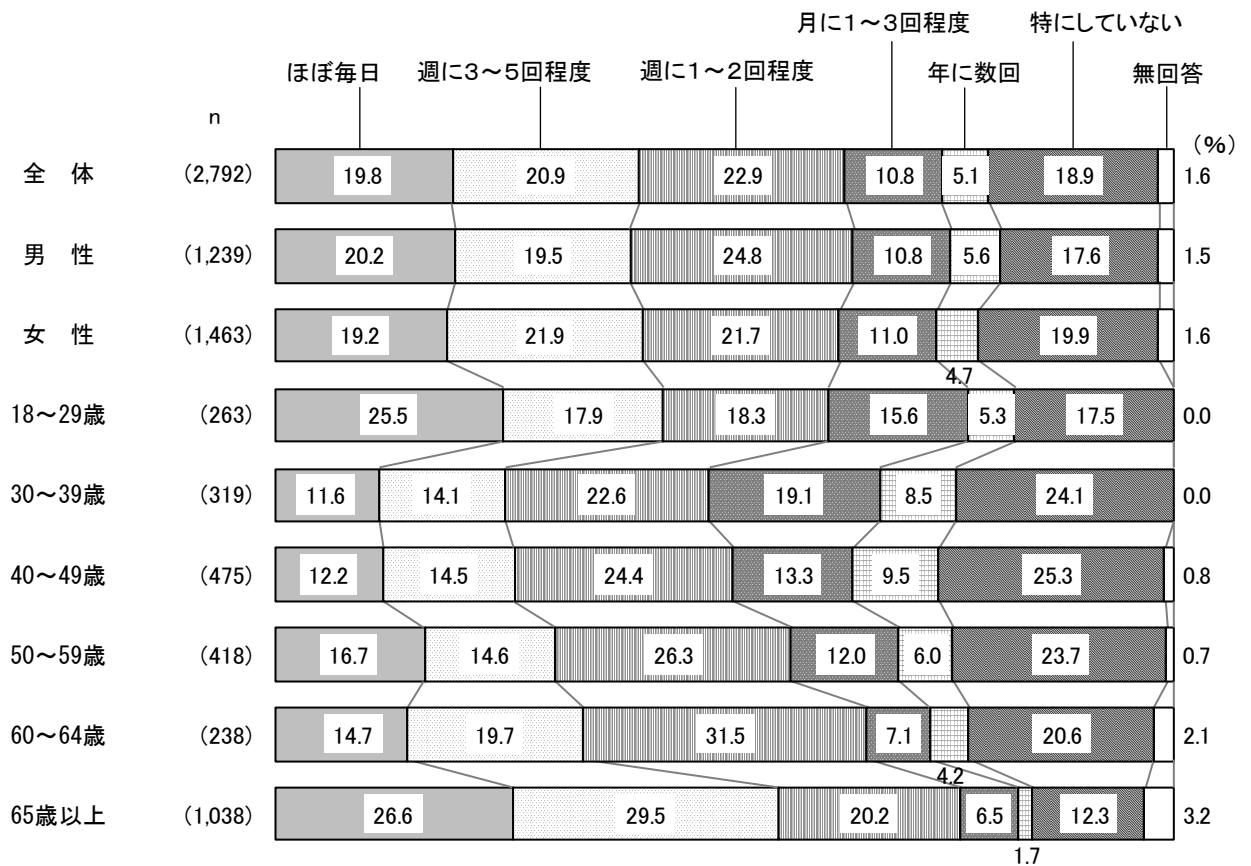
図 3-3-2 1 年間の運動頻度－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-3-2)

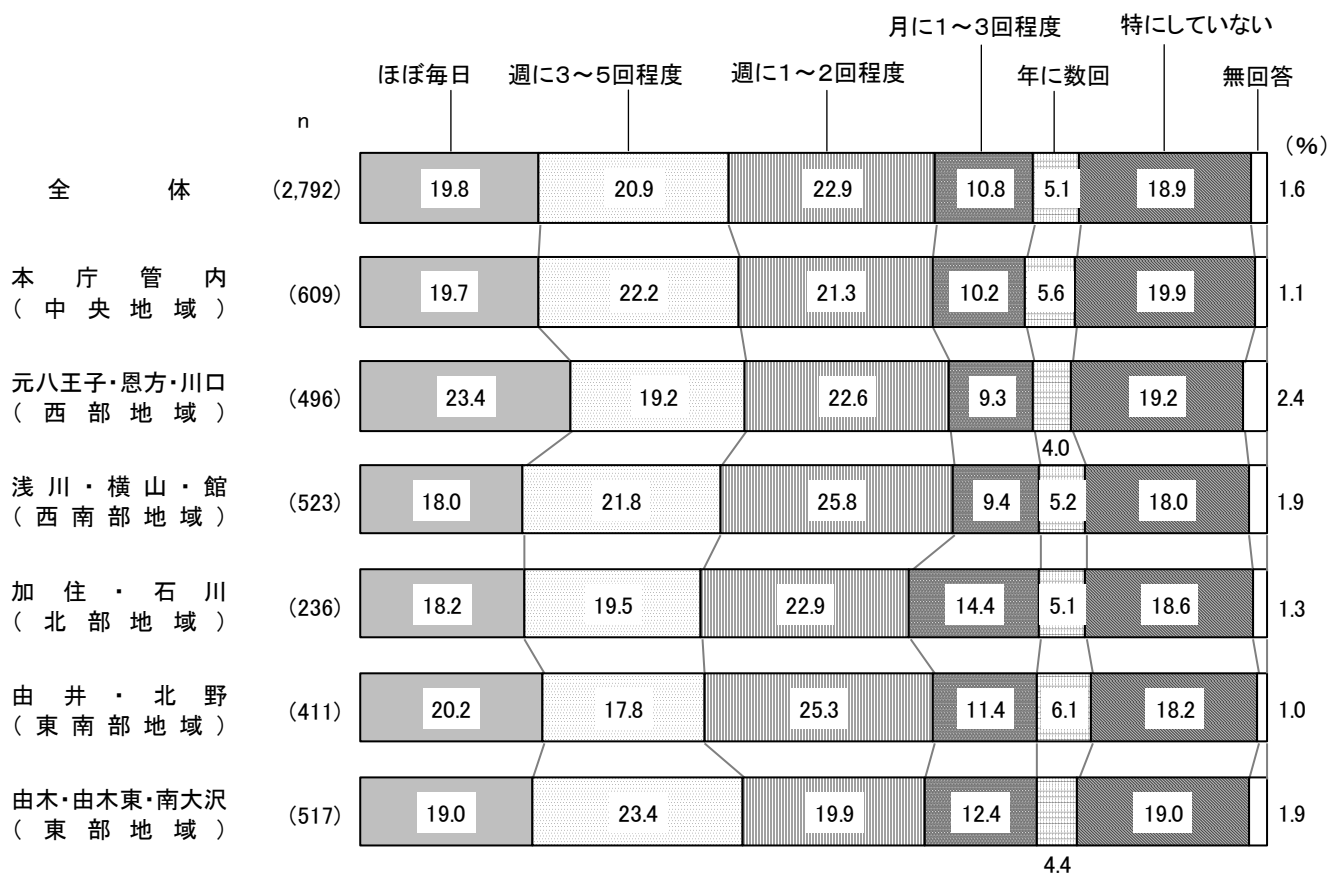
図 3-3-3 1 年間の運動頻度－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

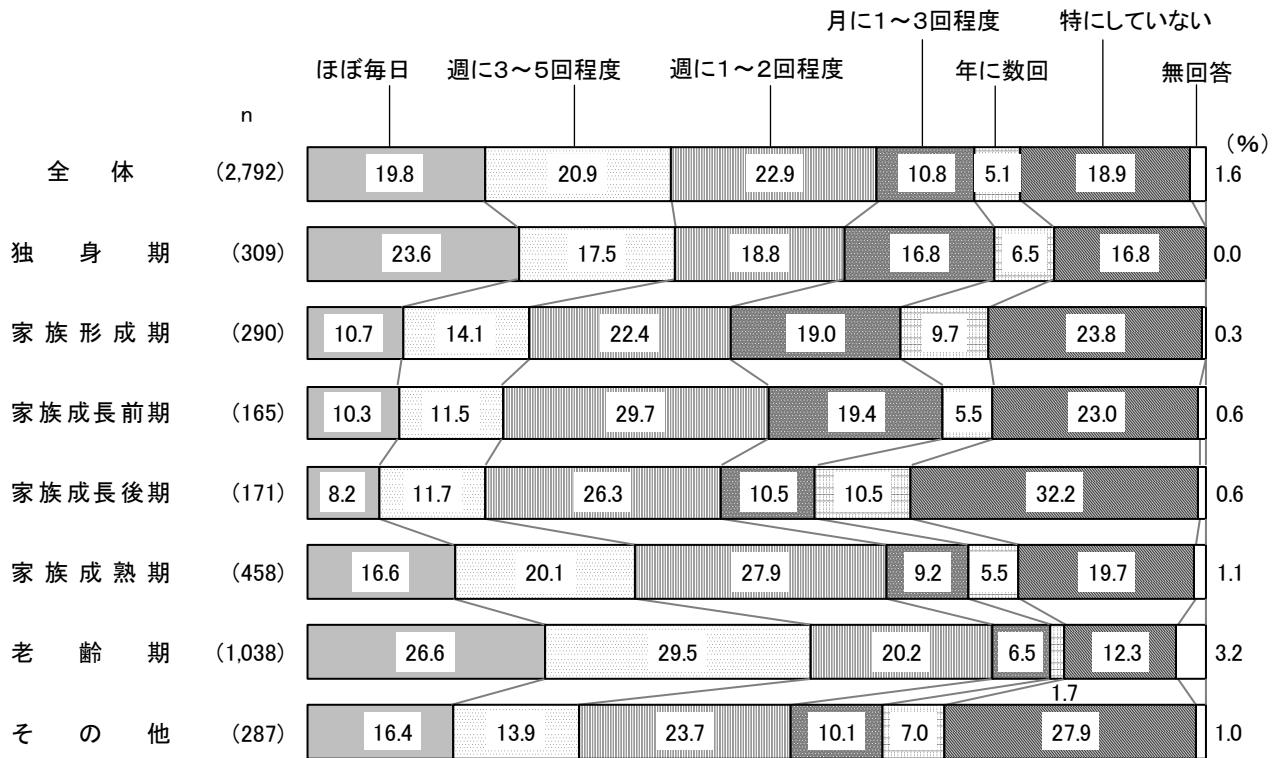
年齢別にみると、「週 1 回以上」は65歳以上 (76.3%) で8割近くと多くなっている。一方、「特にしていない」は40～49歳 (25.3%) が2割台半ばと多くなっている。(図 3-3-3)

図 3－3－4 1年間の運動頻度－居住地地域別



居住地地域別にみると、「ほぼ毎日」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（23.4%）で最も多く2割強となっている。（図 3－3－4）

図 3-3-5 1年間の運動頻度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《週1回以上》は老齢期（76.3%）で最も多く8割近くとなっている。一方、家族成長後期（46.2%）では5割近くにとどまっている。（図3-3-5）

(4) かかりつけの医療機関の有無

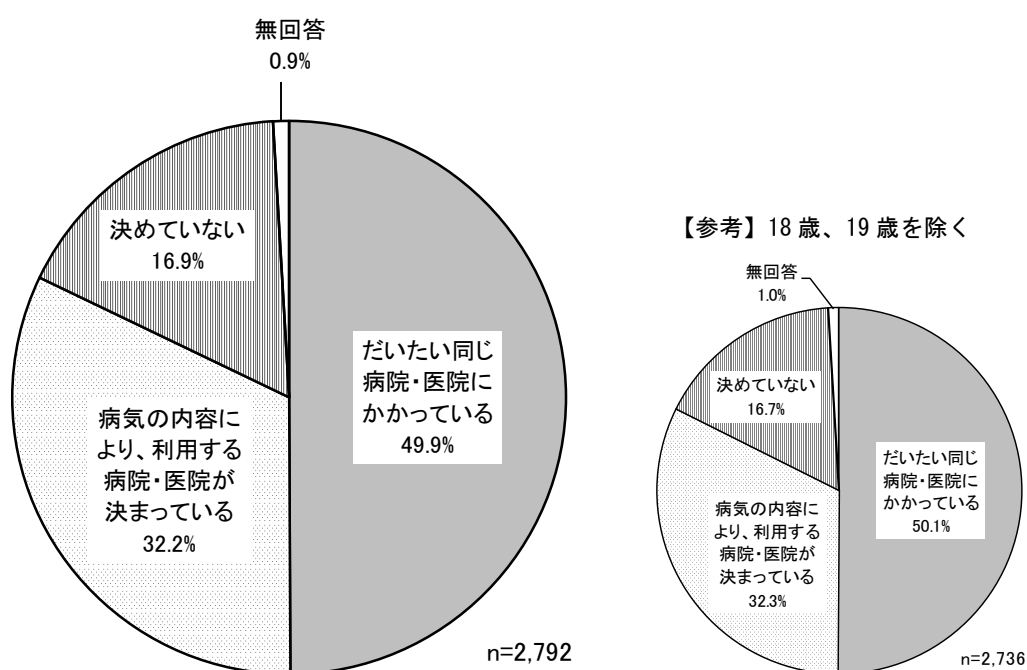
◇《かかりつけの医療機関を決めている》(82.1%)が8割強

問15 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

※「かかりつけの医療機関」とは・・・

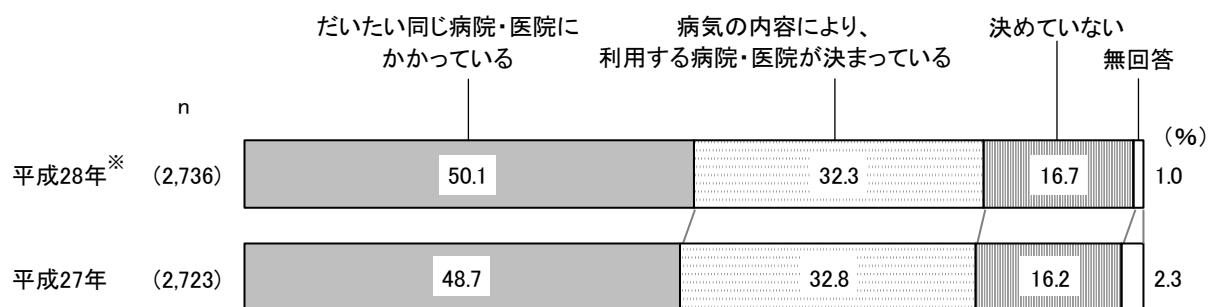
日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

図3-4-1 かかりつけの医療機関の有無－全体



かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(49.9%)が最も多く5割弱となっている。「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(32.2%)を合わせた《かかりつけの医療機関を決めている》(82.1%)は8割強となっている。一方、「決めていない」(16.9%)は2割近くとなっている。(図3-4-1)

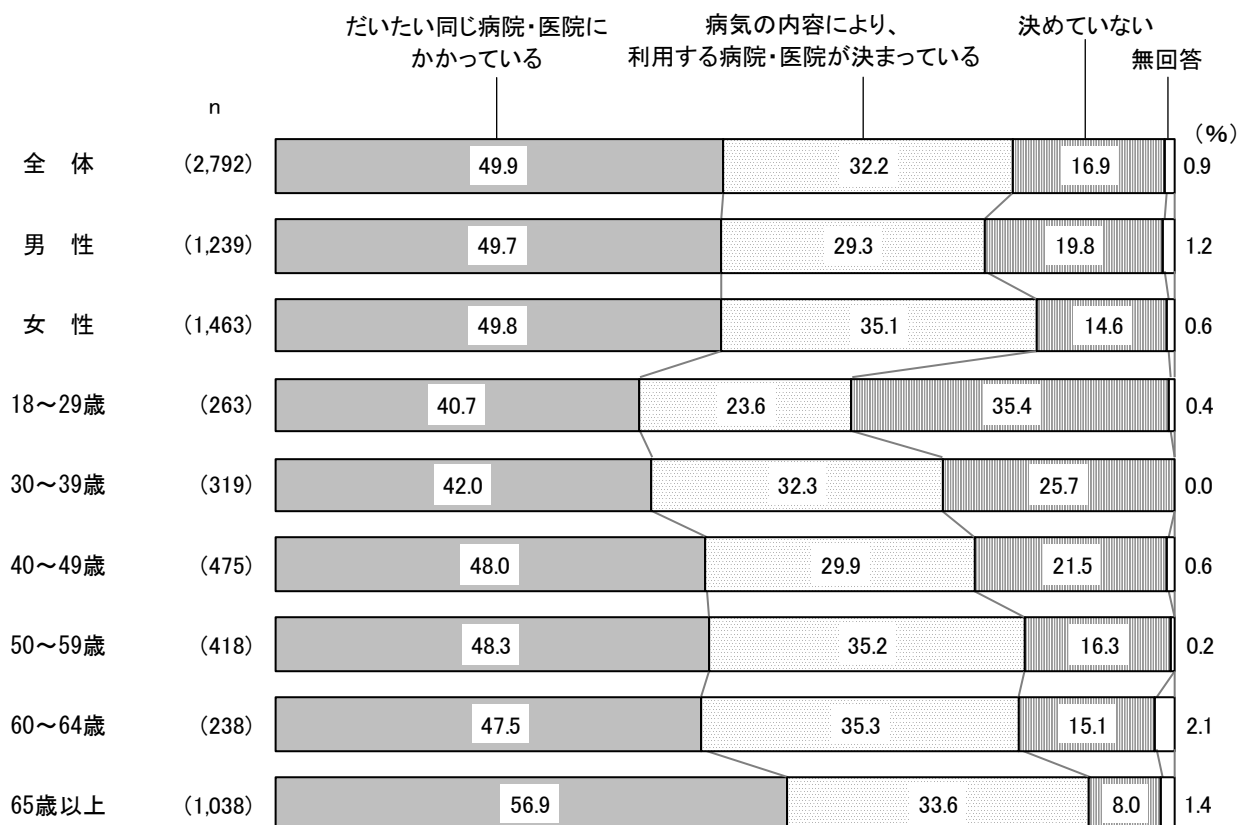
図 3-4-2 かかりつけの医療機関の有無一経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-4-2)

図 3-4-3 かかりつけの医療機関の有無一性別、年齢別

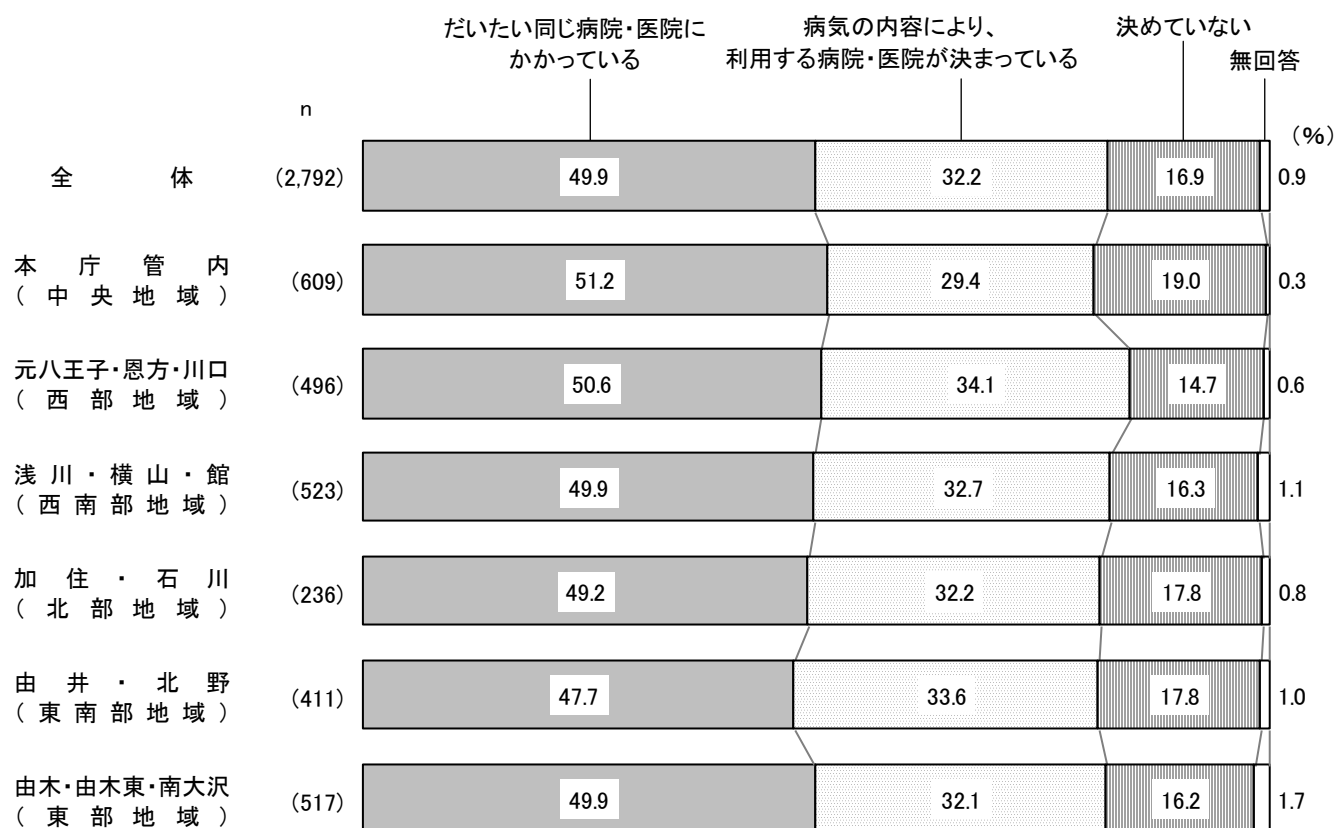


性別にみると、「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」は女性（35.1%）が男性（29.3%）より5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」は65歳以上（56.9%）で6割近くと多くなっている。「決めていない」は18～29歳（35.4%）で3割台半ばと多くなっている。

(図 3-4-3)

図 3-4-4 かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



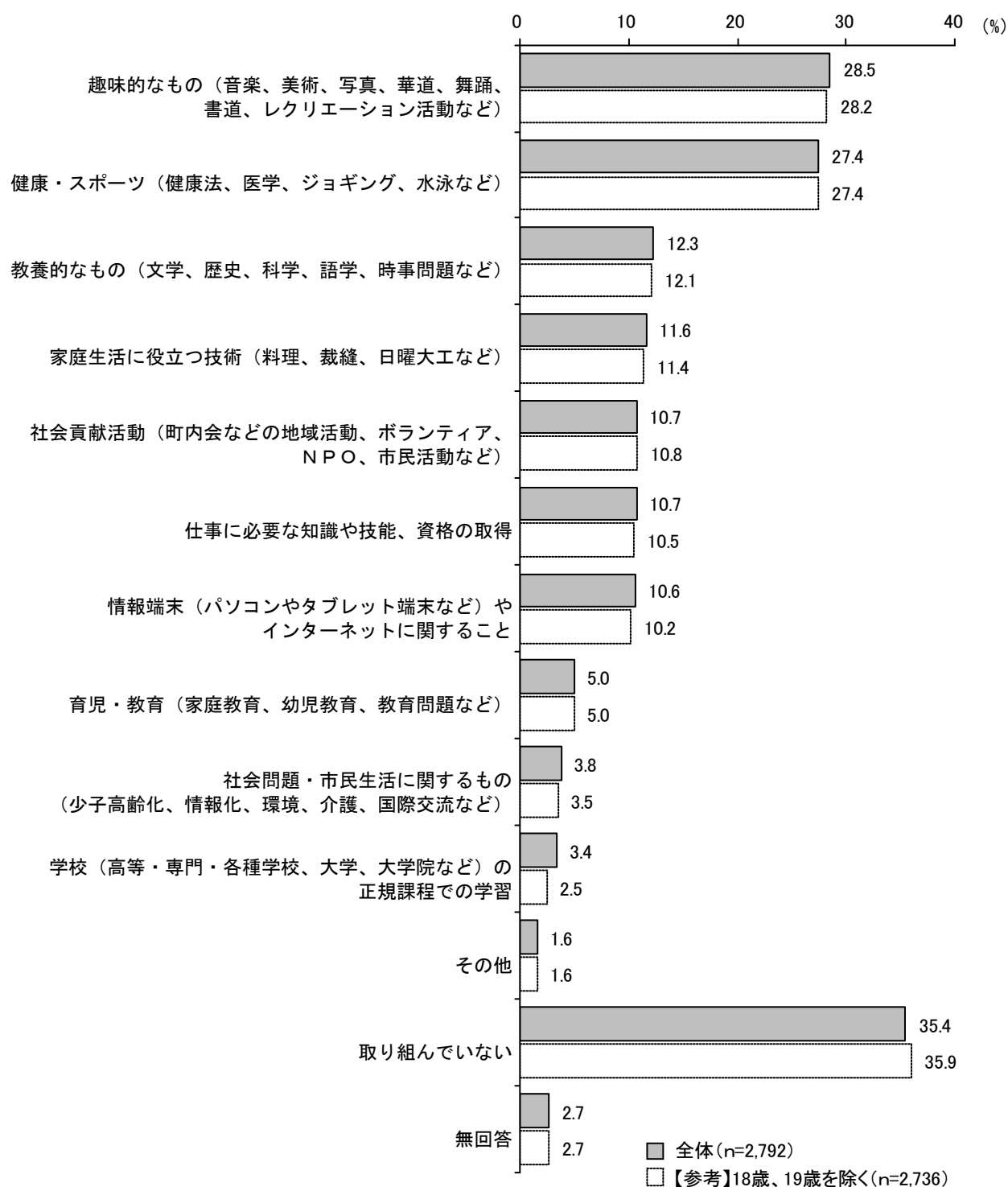
居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図 3-4-4)

（５）１年間に取り組んだ生涯学習活動

◇「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」が３割近く

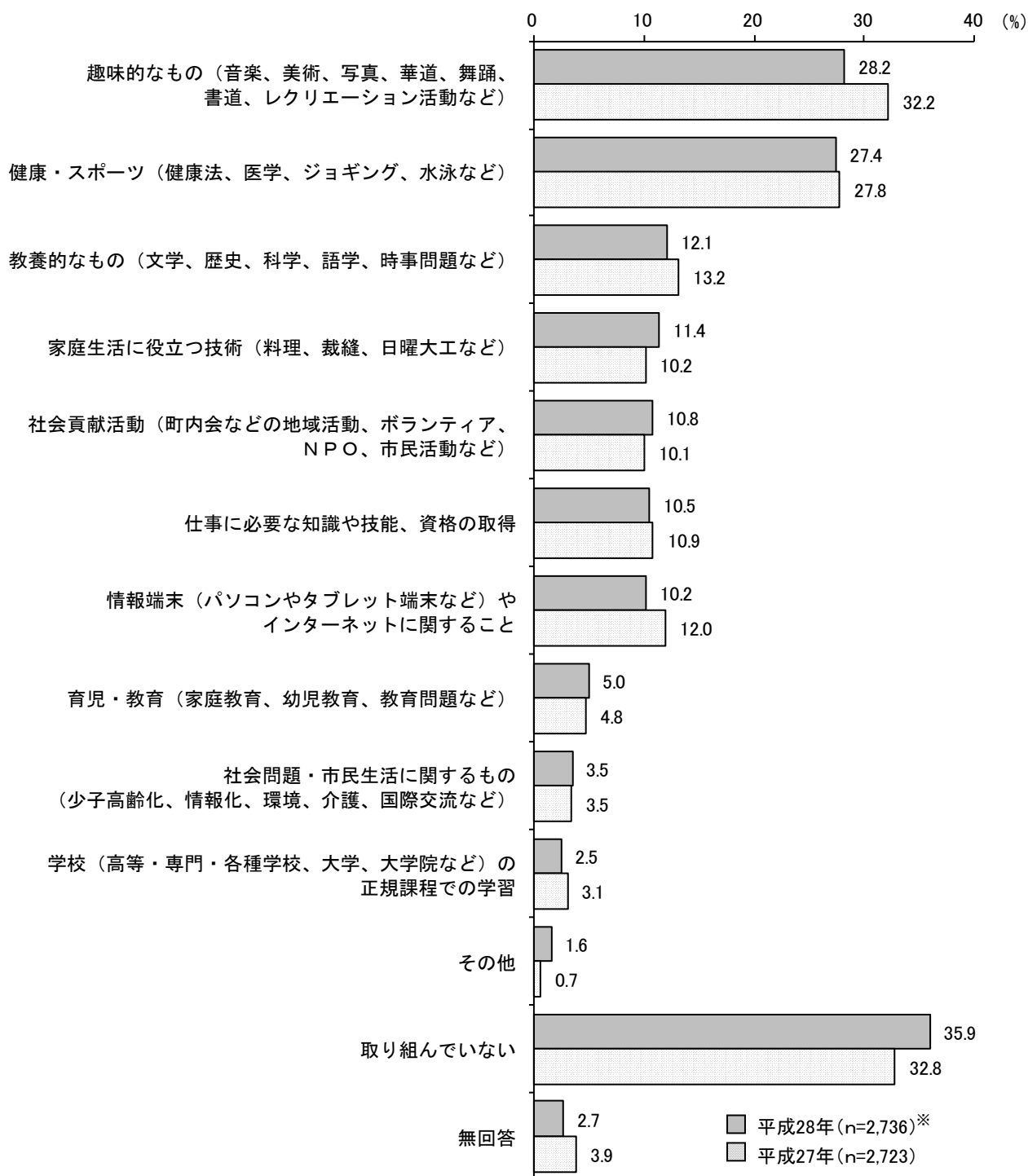
問16 あなたはこの１年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。
（○はいくつでも）

図３－５－１ １年間に取り組んだ生涯学習活動－全体



この1年間に取り組んだ生涯学習活動を聞いたところ、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」（28.5%）が3割近くとなっている。次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」（27.4%）、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）」（12.3%）などの順となっている。（図3-5-1）

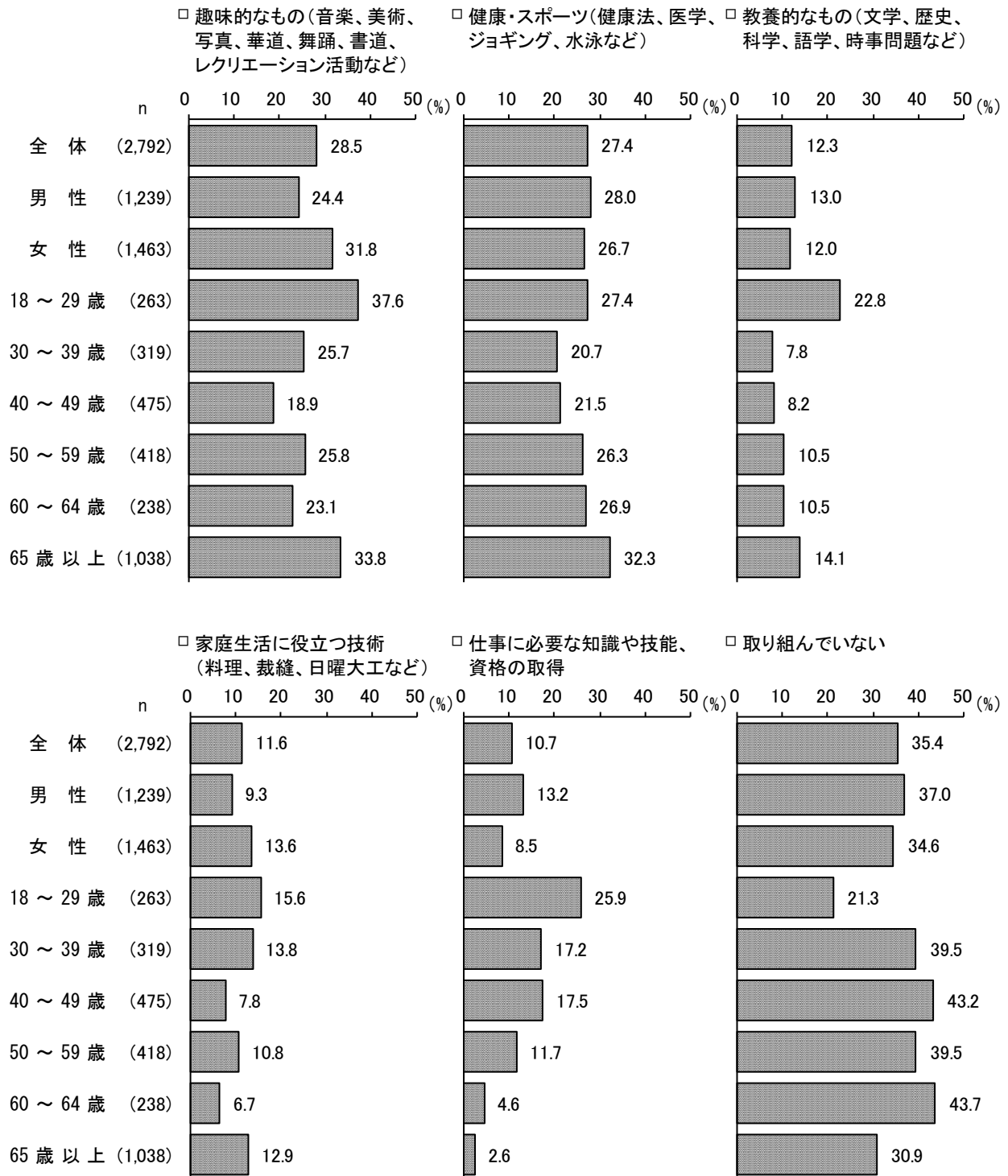
図3-5-2 1年間に取り組んだ生涯学習活動一経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は、平成27年（32.2%）より4.0ポイント減少している。（図3-5-2）

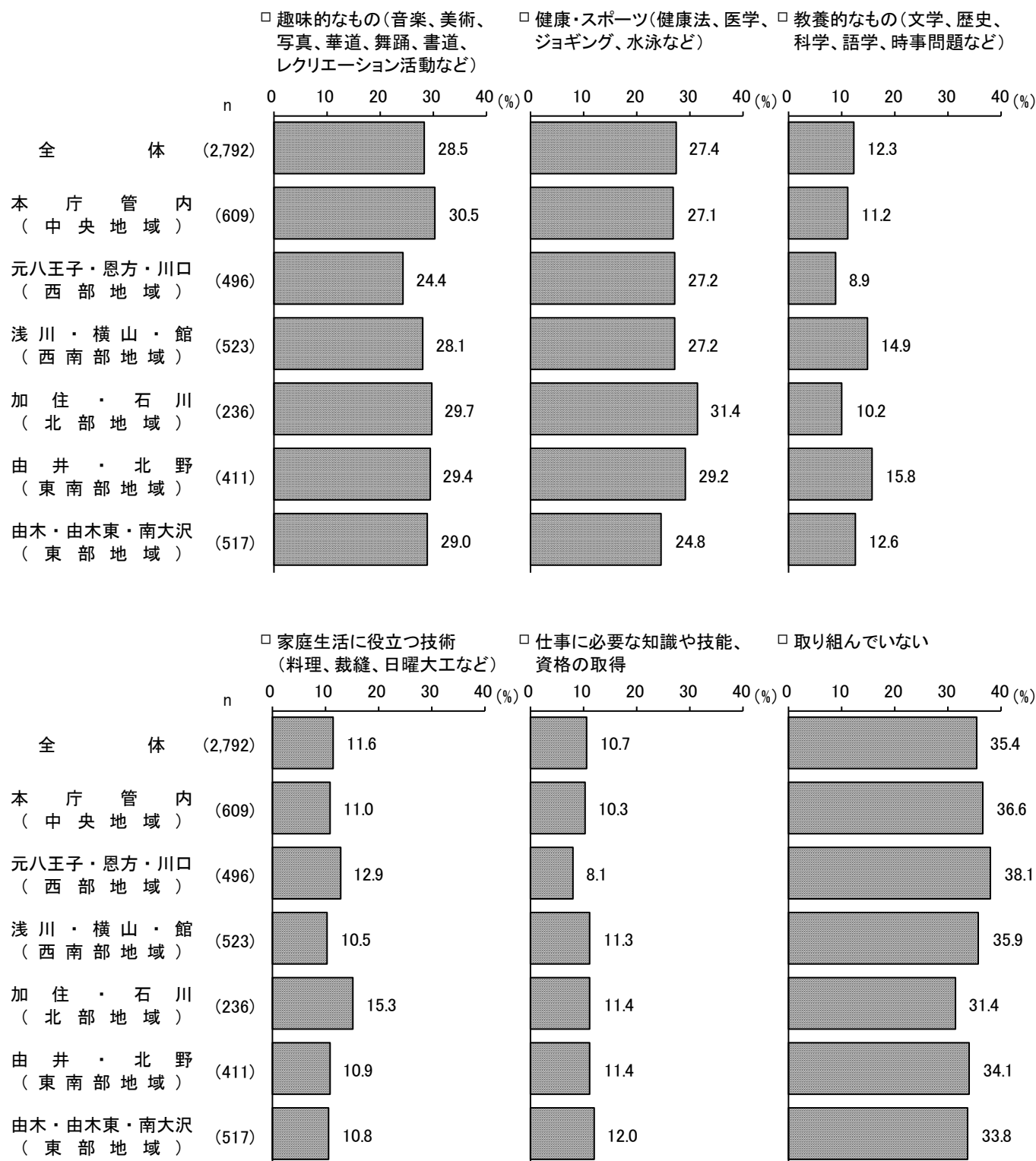
図 3-5-3 1 年間に取り組んだ生涯学習活動－性別、年齢別（上位 5 位＋「取り組んでいない」）



性別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は女性（31.8％）が男性（24.4％）より7.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は18～29歳（25.9％）で2割台半ばと多くなっている。（図 3-5-3）

図 3-5-4 1 年間に取り組んだ生涯学習活動－居住地域別（上位 5 位＋「取り組んでいない」）



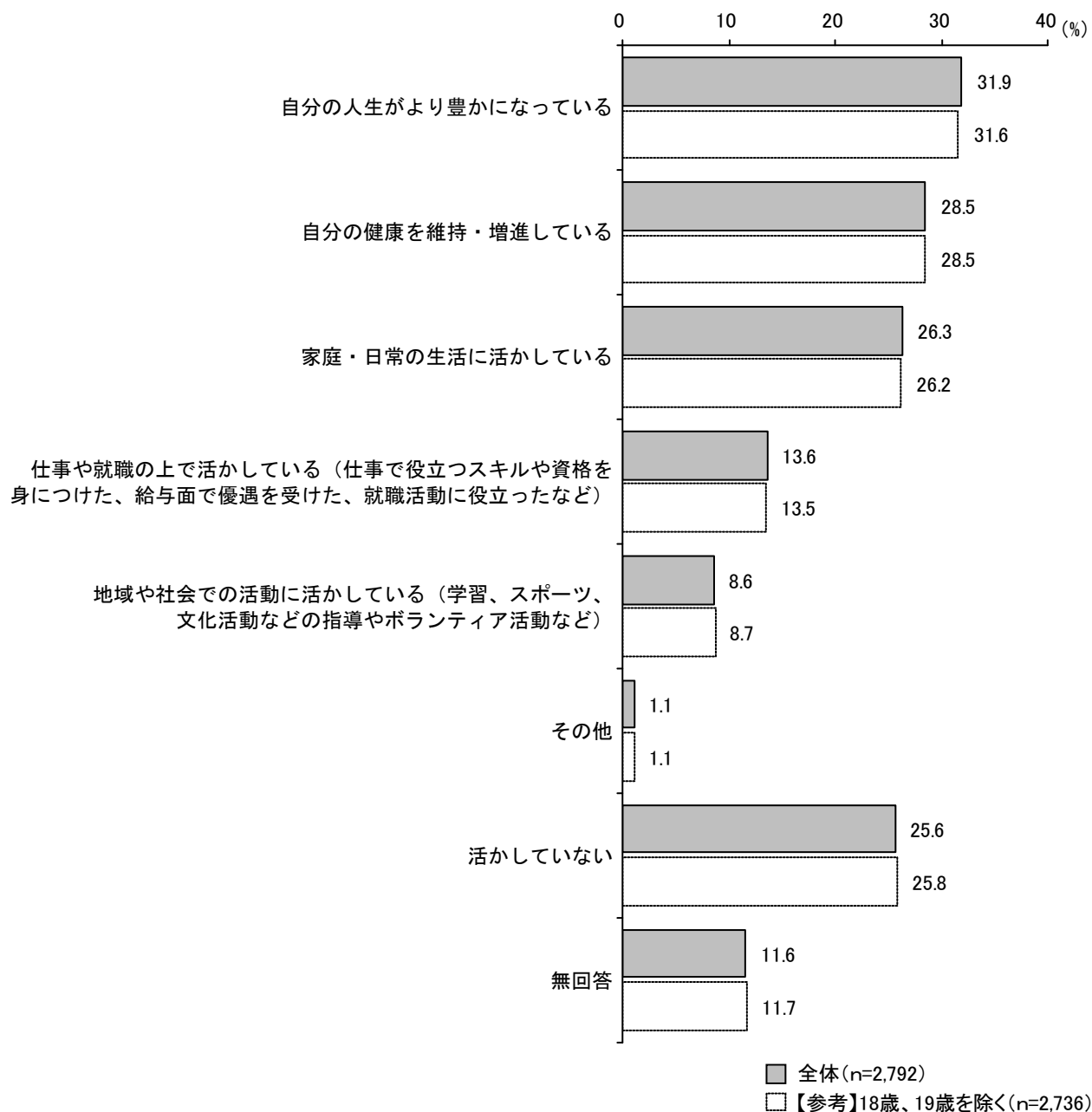
居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図 3-5-4）

（６）生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法

◇「自分の人生がより豊かになっている」が３割強

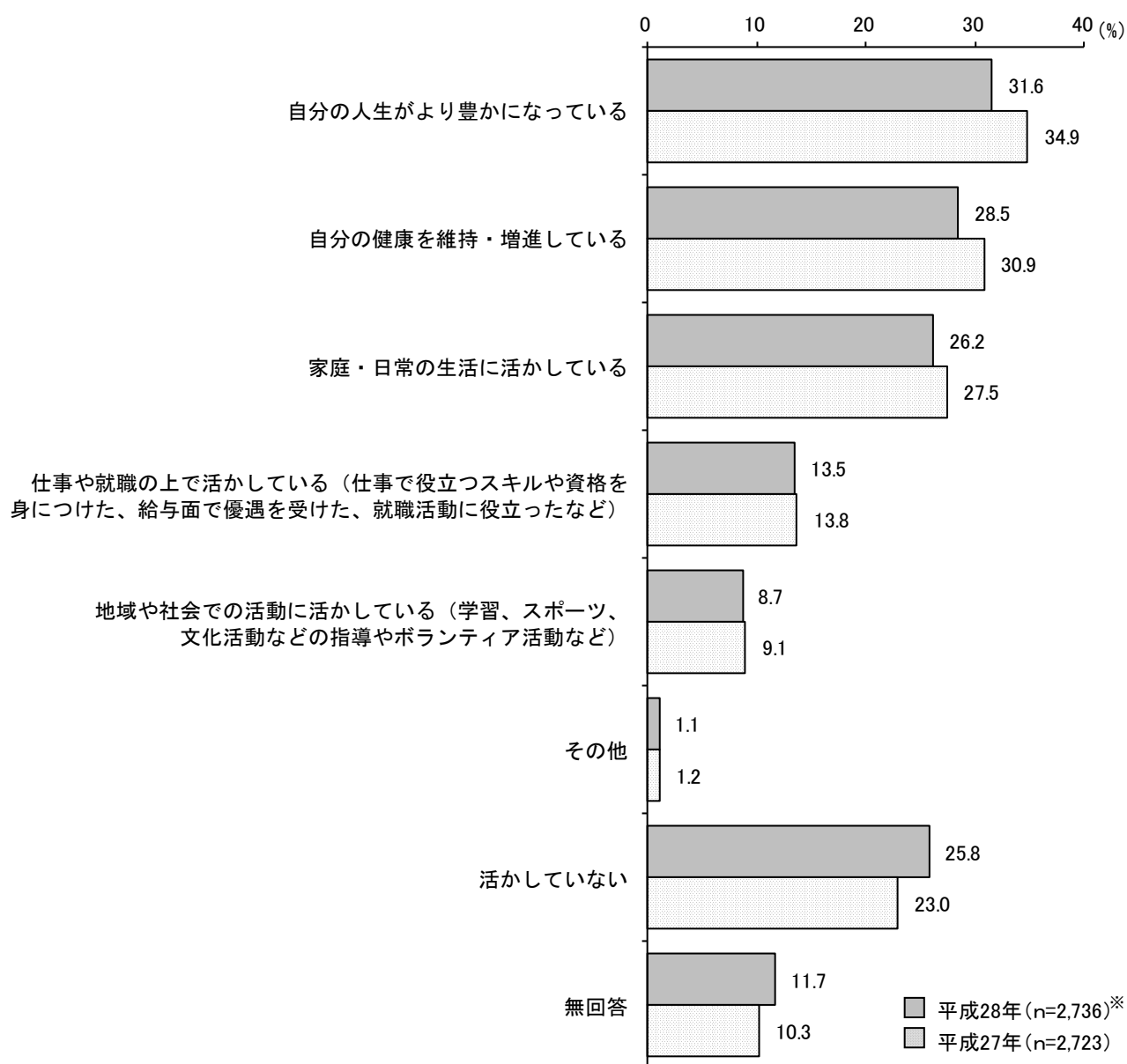
問17 あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。（〇はいくつでも）

図３－６－１ 生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法－全体



生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」（31.9%）が最も多く３割強となっている。次いで「自分の健康を維持・増進している」（28.5%）、「家庭・日常の生活に活かしている」（26.3%）などの順となっている。一方、「活かしていない」（25.6%）が２割台半ばとなっている。（図３－６－１）

図 3－6－2 生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法－経年比較



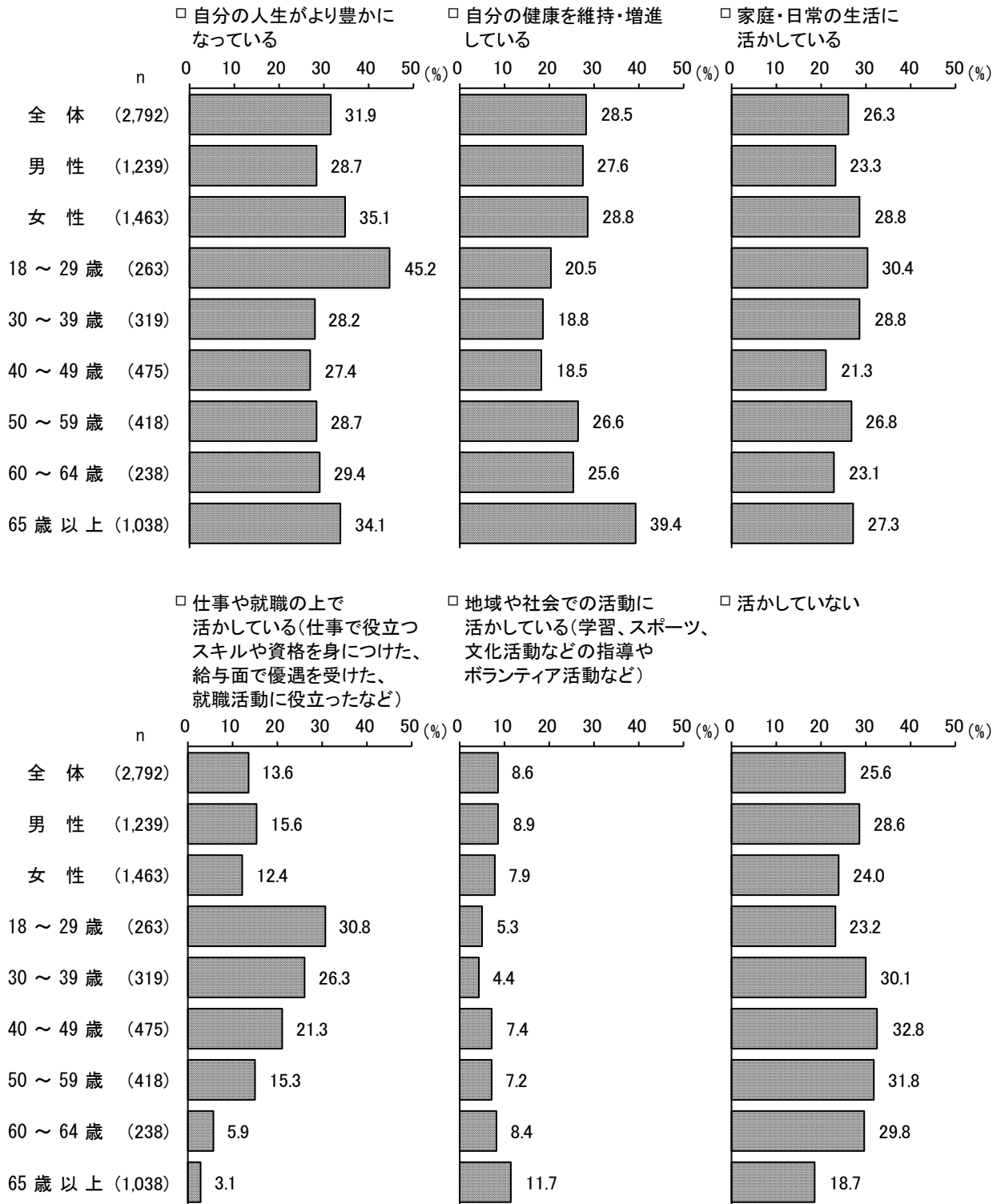
※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「自分の人生がより豊かになっている」は、平成27年（34.9%）より3.3ポイント減少している。「活かしていない」は、平成27年（23.0%）より2.8ポイント増加している。

（図 3－6－2）

図 3-6-3 生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法

—性別、年齢別（上位 5 位＋「活かしていない」）



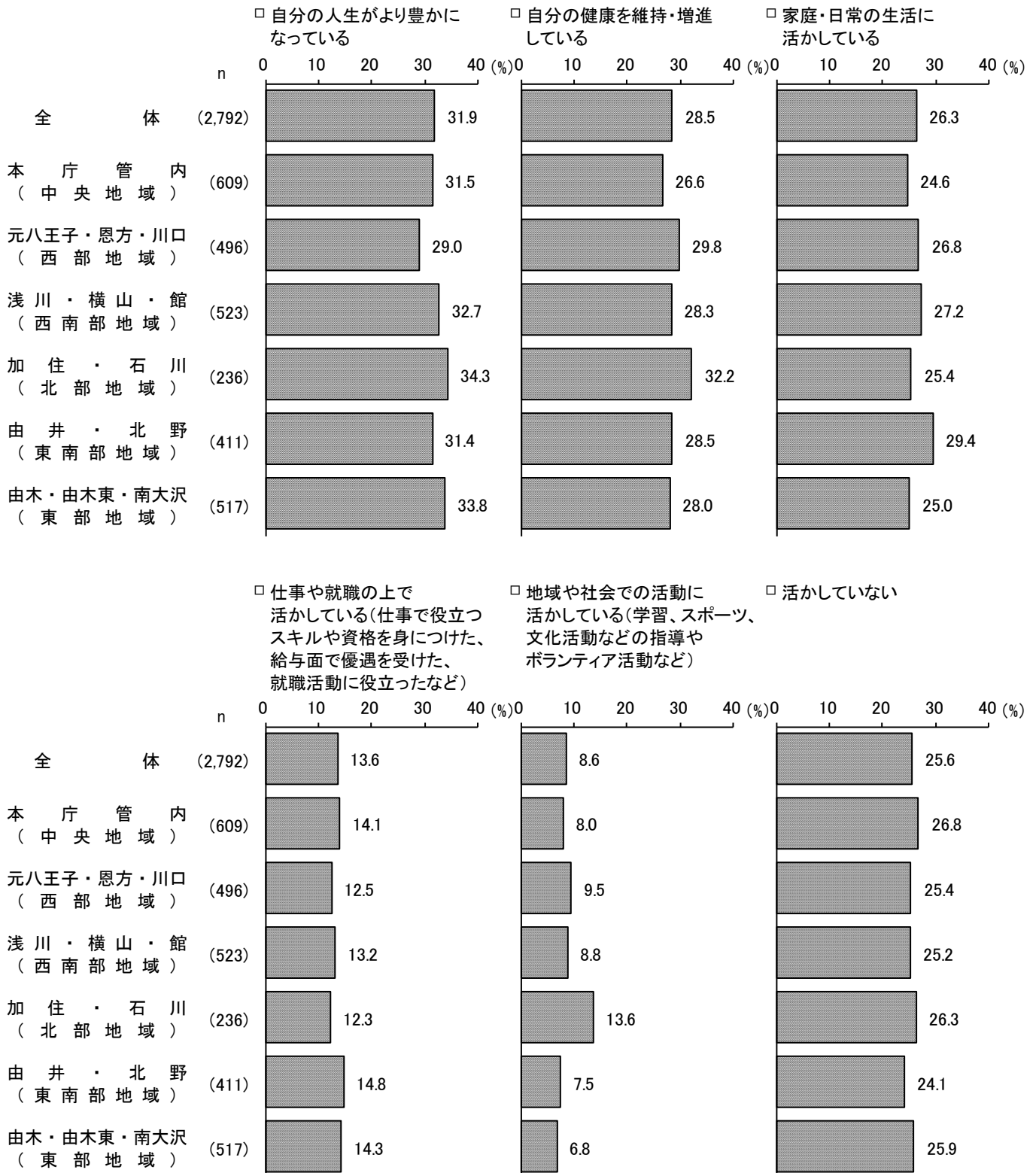
性別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は女性（35.1%）が男性（28.7%）より 6.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は18～29歳（30.8%）で約3割と多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は65歳以上（39.4%）で4割弱と多くなっている。

（図 3-6-3）

図 3-6-4 生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法

—居住地地域別（上位5位＋「活かしていない」）



居住地地域別にみると、「地域や社会での活動に活かしている（学習、スポーツ、文化活動などの指導やボランティア活動など）」は加住・石川（北部地域）（13.6％）で1割強と多くなっている。

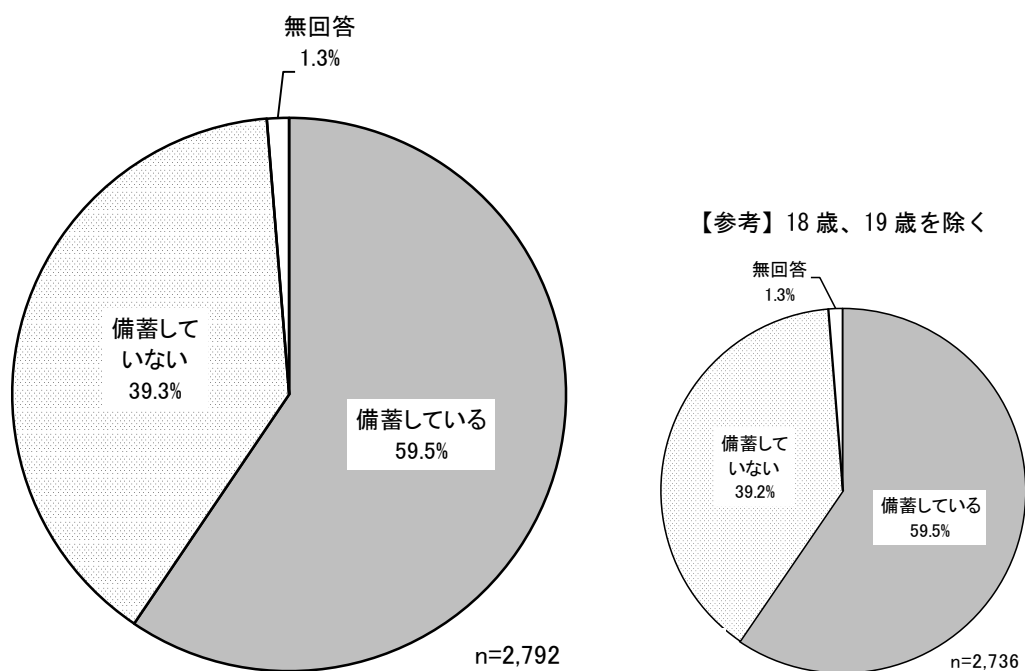
（図 3-6-4）

(7) 食料の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割弱

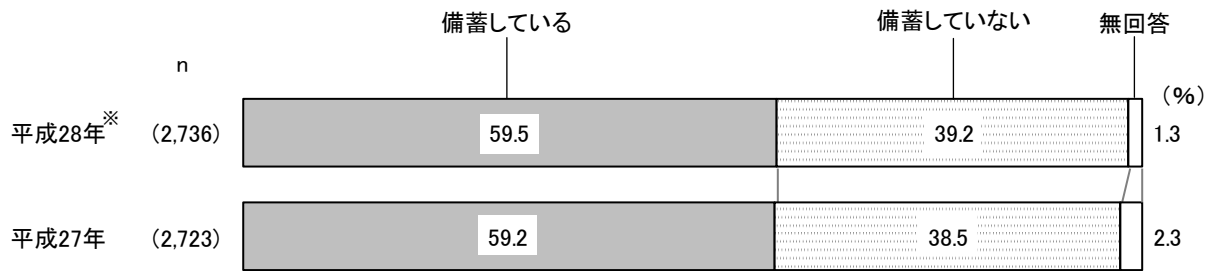
問18 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図3-7-1 食料の備蓄の有無－全体



災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(59.5%)が6割弱となっている。一方、「備蓄していない」(39.3%)が4割弱となっている。(図3-7-1)

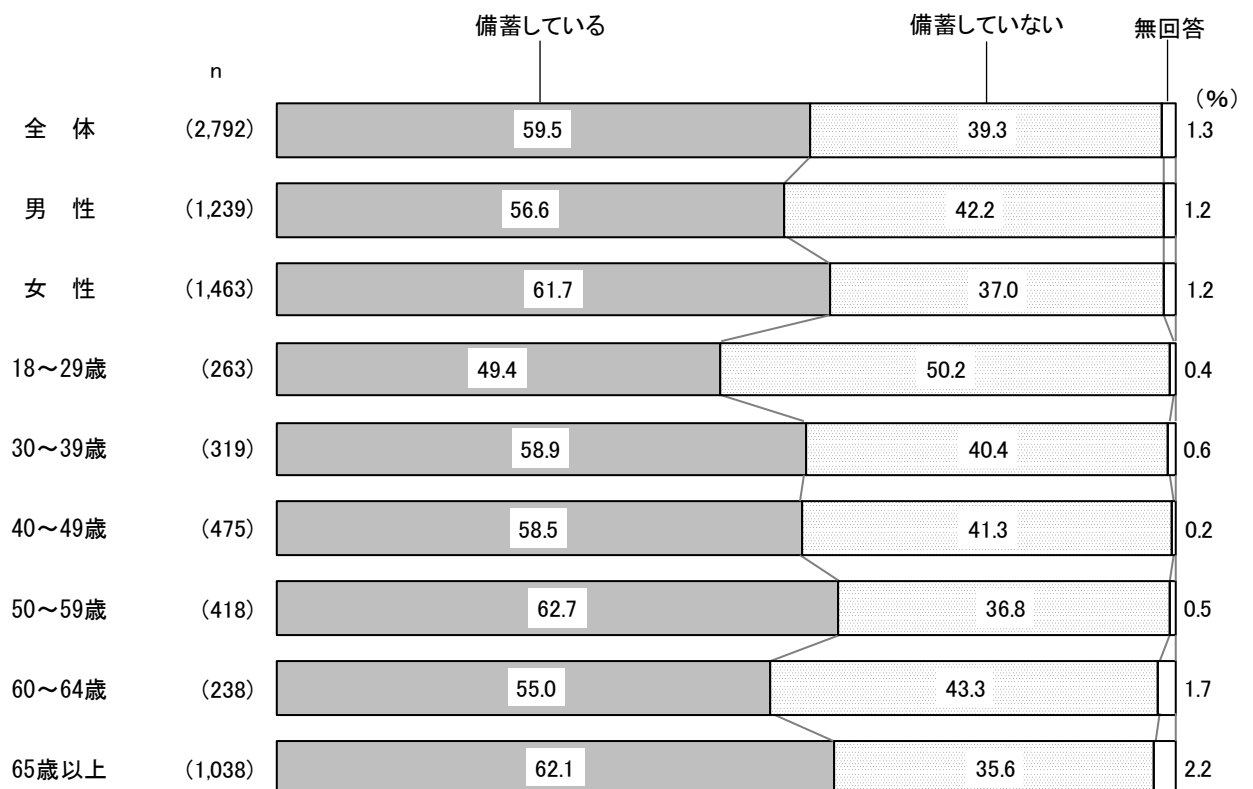
図 3－7－2 食料の備蓄の有無－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3－7－2)

図 3－7－3 食料の備蓄の有無－性別、年齢別

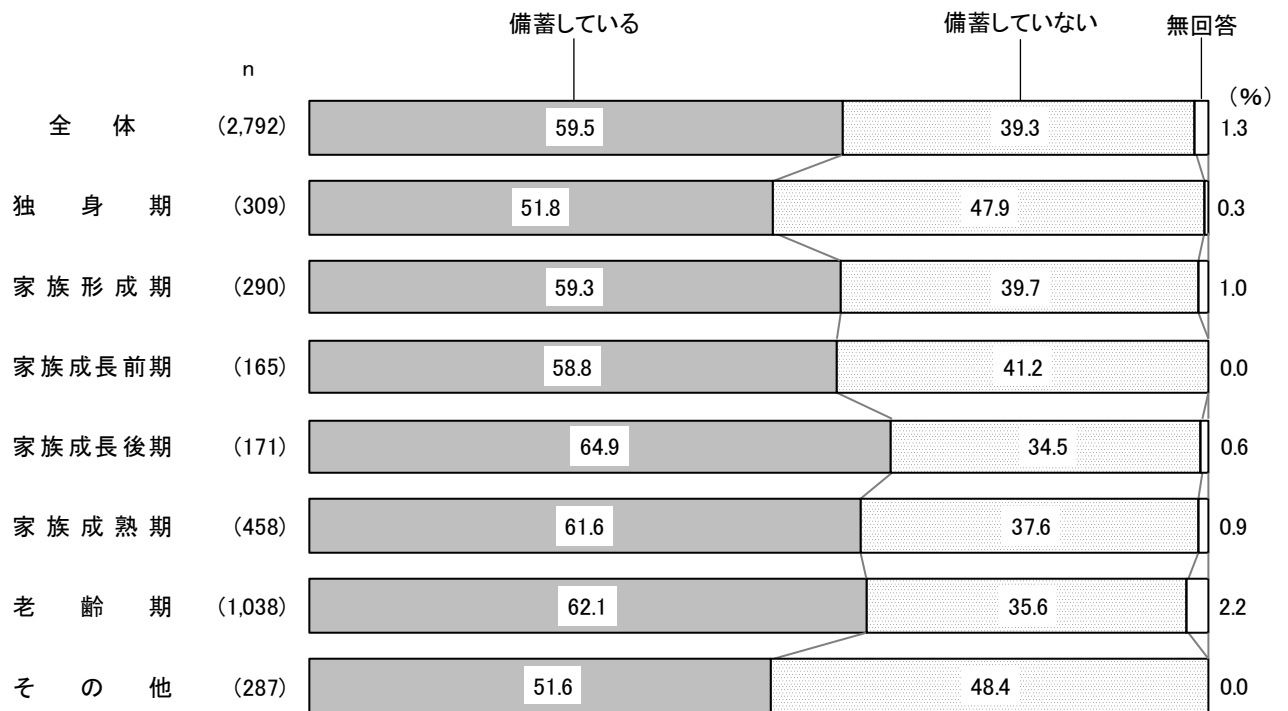


性別にみると、「備蓄している」は女性（61.7％）が男性（56.6％）より5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は50～59歳（62.7％）と65歳以上（62.1％）で6割強と多くなっている。一方、「備蓄していない」は18～29歳（50.2％）で約5割と多くなっている。

(図 3－7－3)

図 3－7－4 食料の備蓄の有無－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長後期（64.9%）で最も多く 6 割台半ばとなっている。（図 3－7－4）

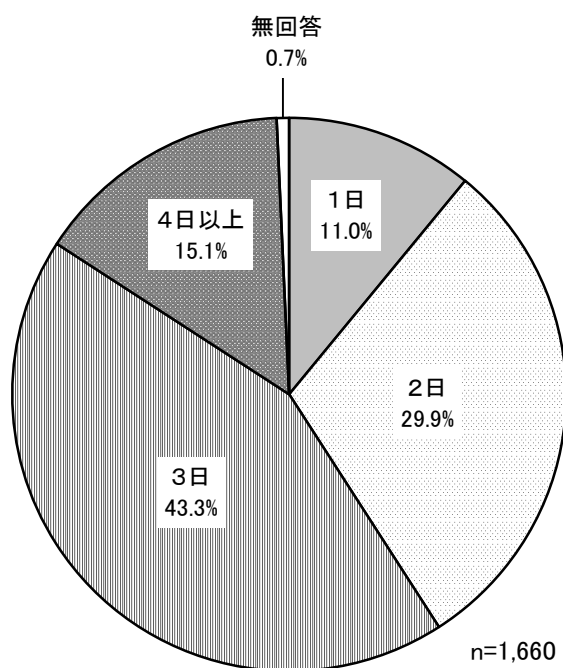
(8) 食料の備蓄量

◇「3日」が4割強

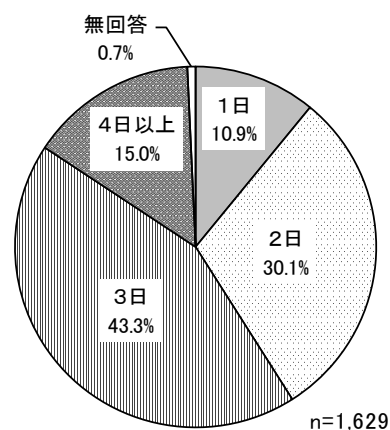
(食料を「1 備蓄している」とお答えの方に)

問18-1-1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

図3-8-1 食料の備蓄量-全体

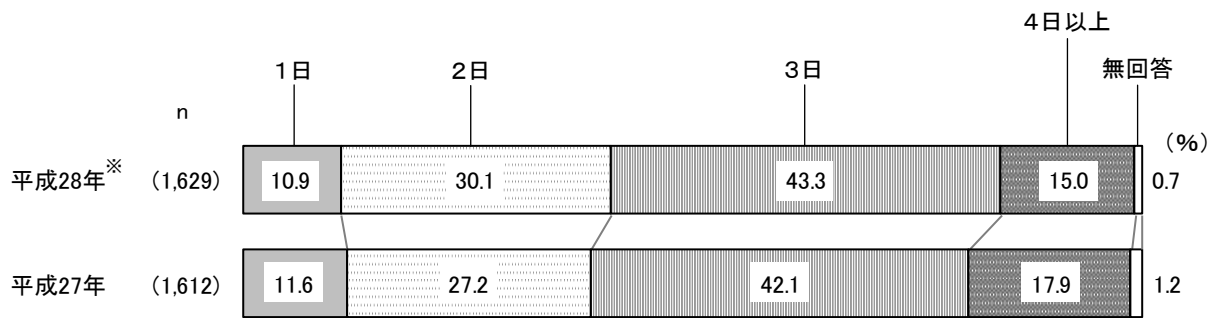


【参考】18歳、19歳を除く



食料を「備蓄している」と回答した1,660人に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているか聞いたところ、「3日」(43.3%)が最も多く4割強となっている。「2日」(29.9%)が3割弱、「4日以上」(15.1%)は1割台半ば、「1日」(11.0%)が1割強となっている。(図3-8-1)

図 3－8－2 食料の備蓄量－経年比較

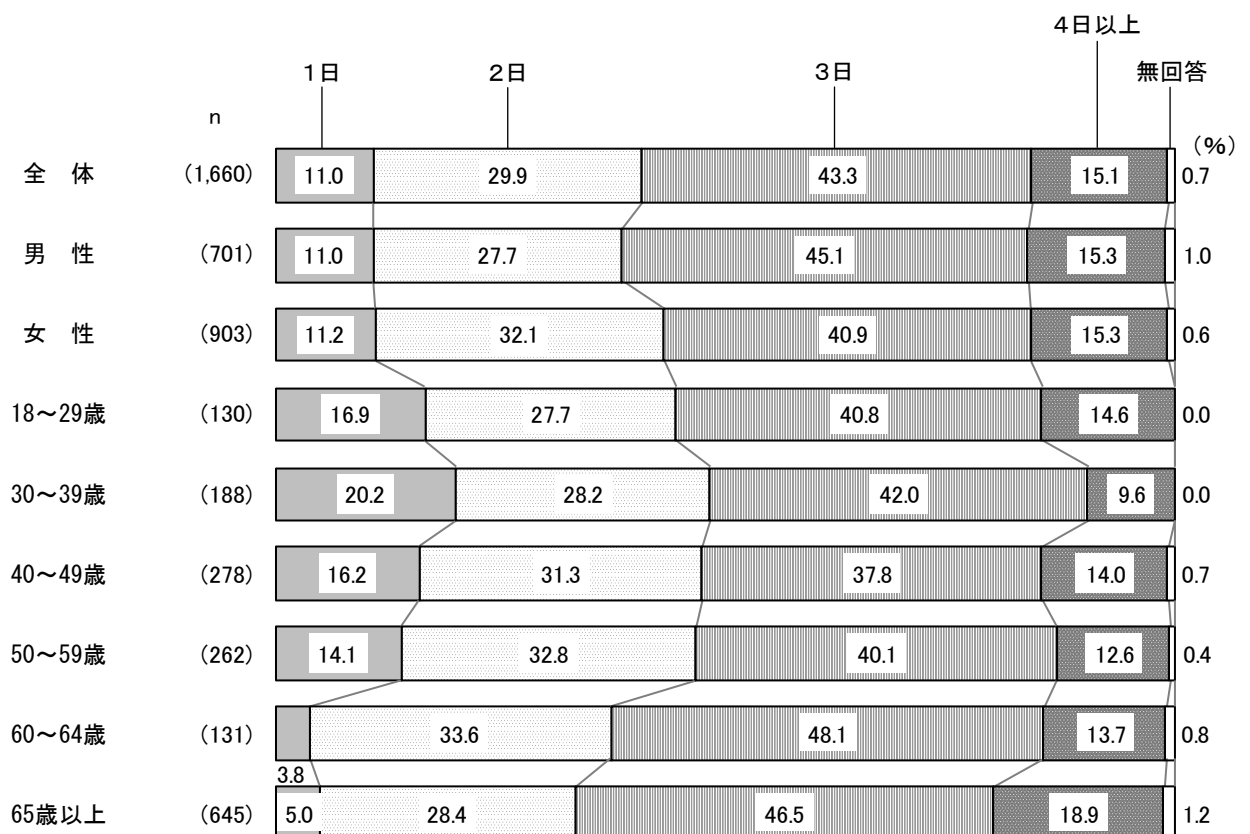


※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「2日」は、平成27年（27.2%）より2.9ポイント増加している。

（図 3－8－2）

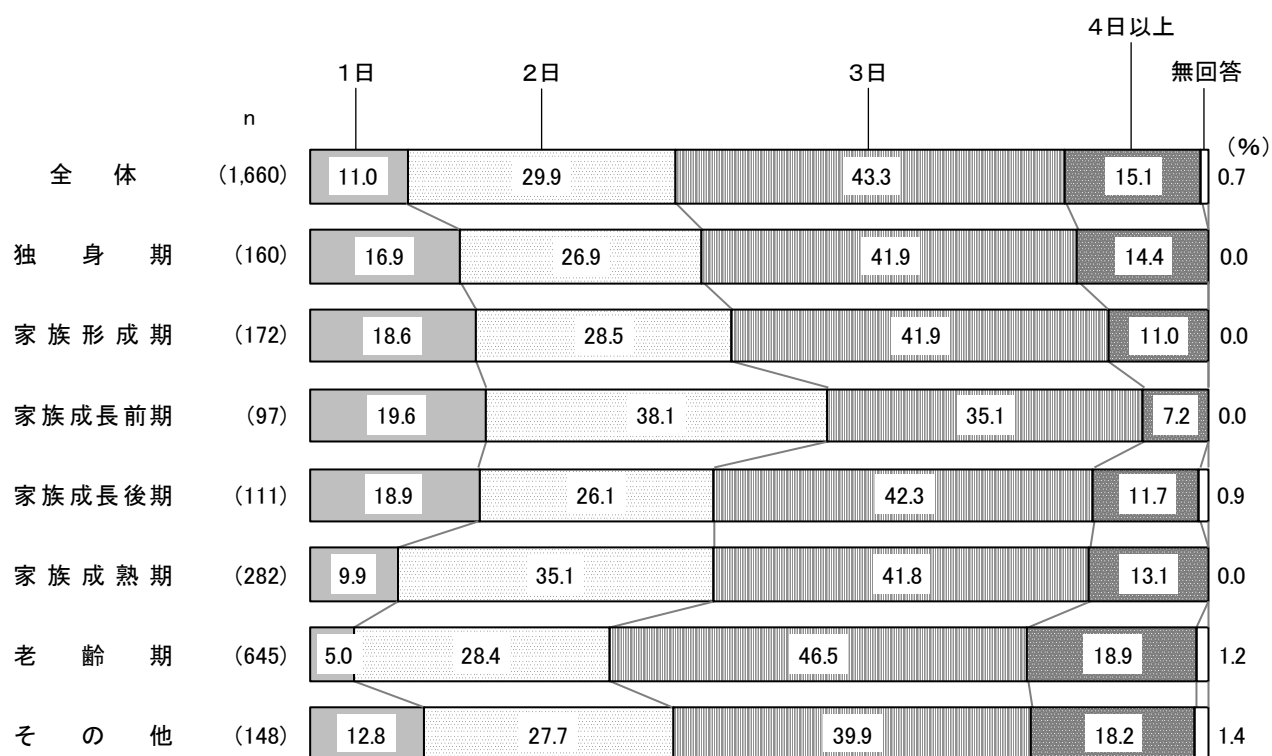
図 3－8－3 食料の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「3日」は男性（45.1%）が女性（40.9%）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「1日」は30～39歳（20.2%）で約2割と多くなっている。（図 3－8－3）

図 3－8－4 食料の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「4日以上」は老齢期（18.9%）で2割近くと多くなっている。「2日」は家族成長前期（38.1%）で最も多く4割近くとなっている。（図3－8－4）

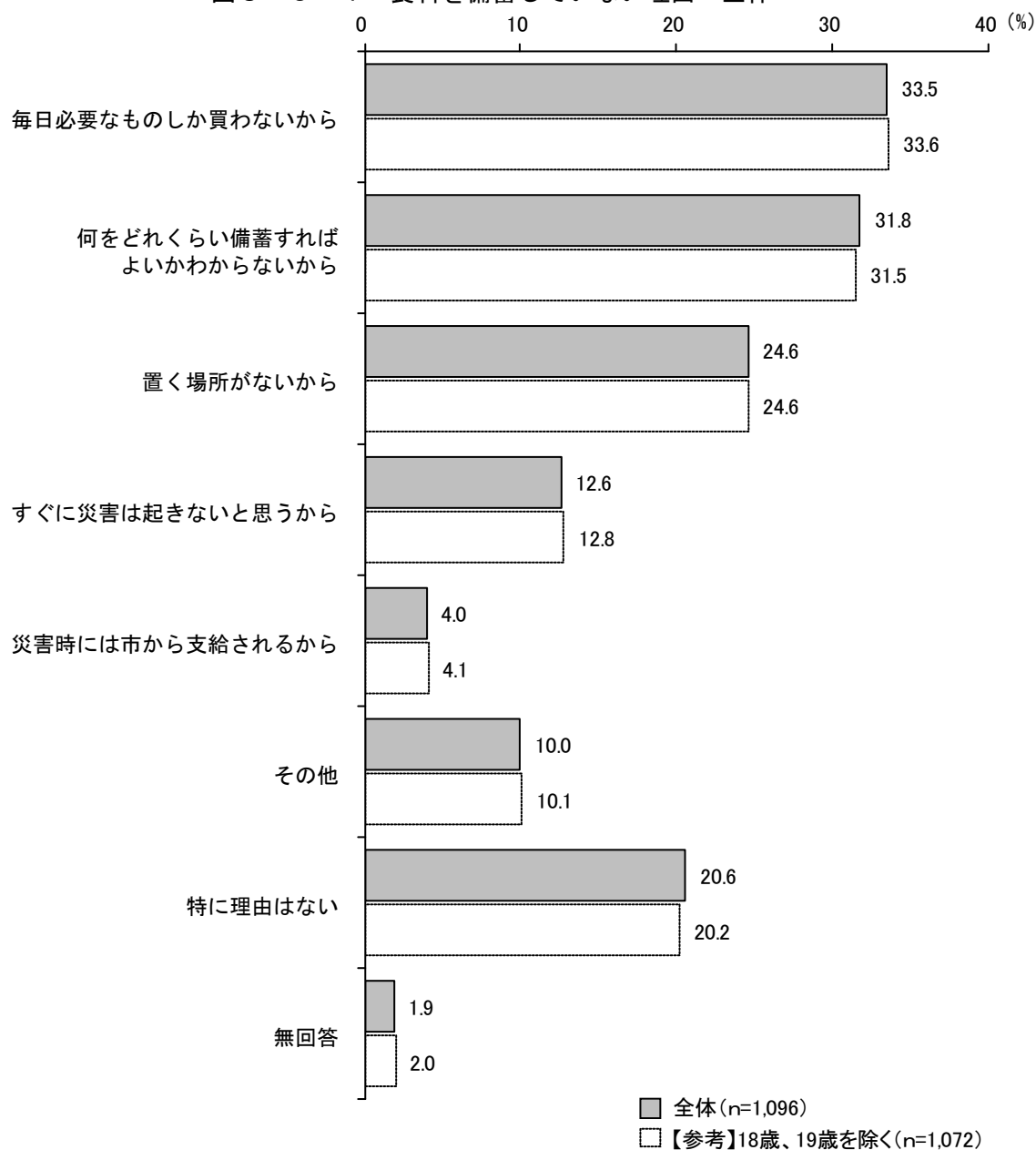
（９）食料を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が３割強

（食料を「２ 備蓄していない」とお答えの方に）

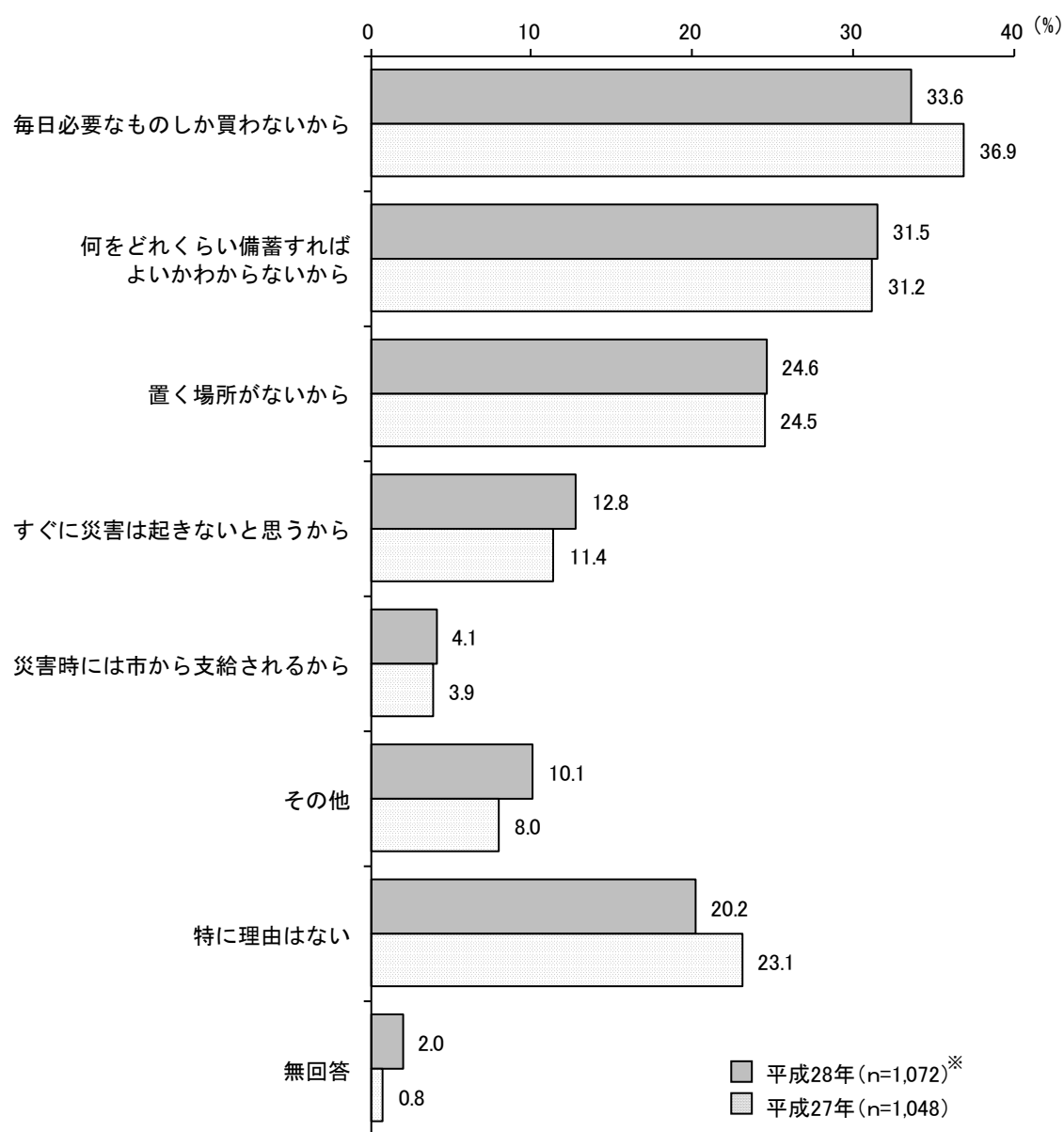
問18－１－２ 備蓄していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

図３－９－１ 食料を備蓄していない理由－全体



食料を「備蓄していない」と回答した1,096人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」（33.5％）が最も多く３割強となっている。次いで「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」（31.8％）、「置く場所がないから」（24.6％）、「すぐに災害は起きないと思うから」（12.6％）などの順となっている。（図３－９－１）

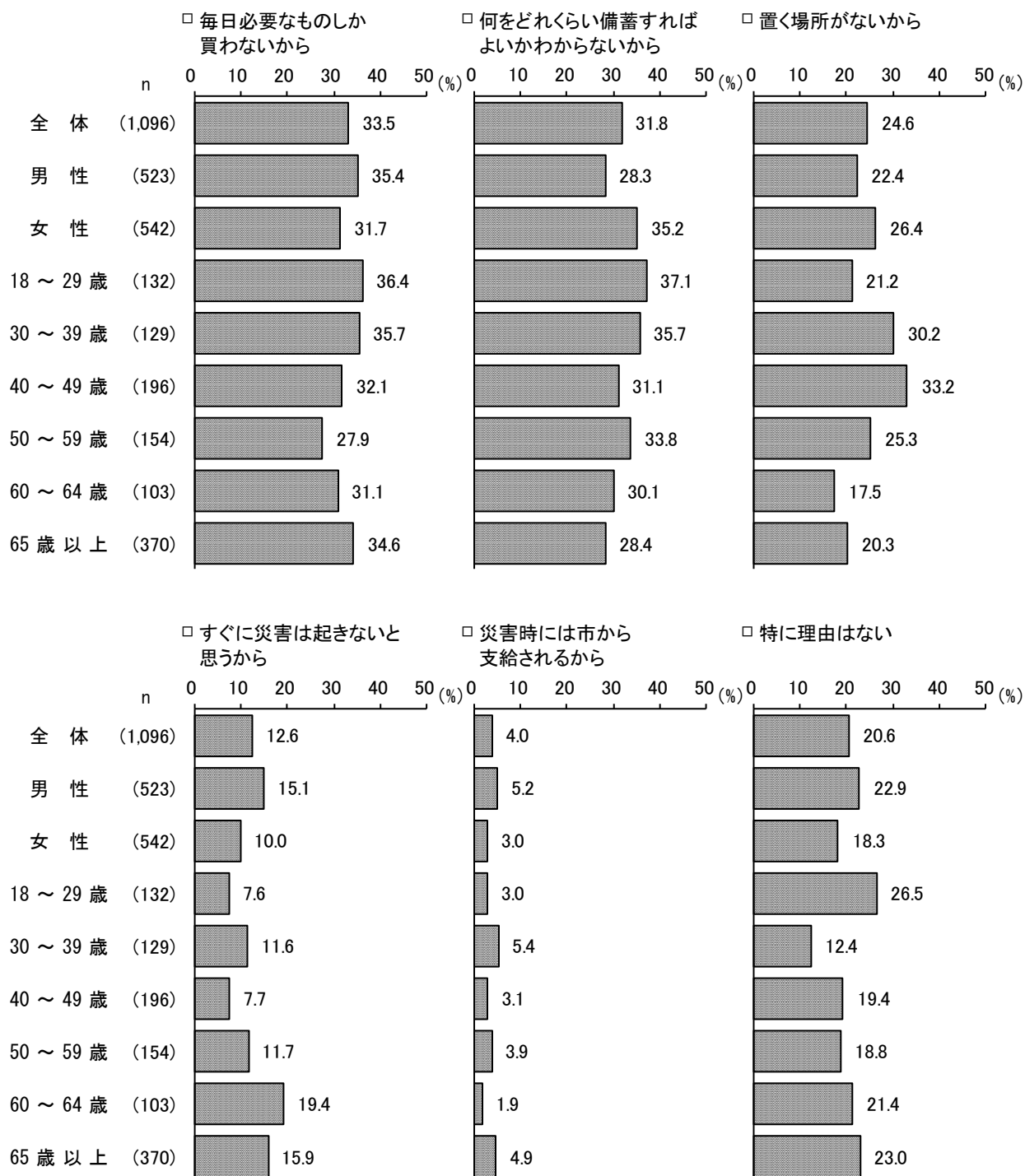
図 3－9－2 食料を備蓄していない理由－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「毎日必要なものしか買わないから」は、平成27年（36.9%）より3.3ポイント減少している。（図 3－9－2）

図 3-9-3 食料を備蓄していない理由－性別、年齢別（上位 5 位＋「特に理由はない」）

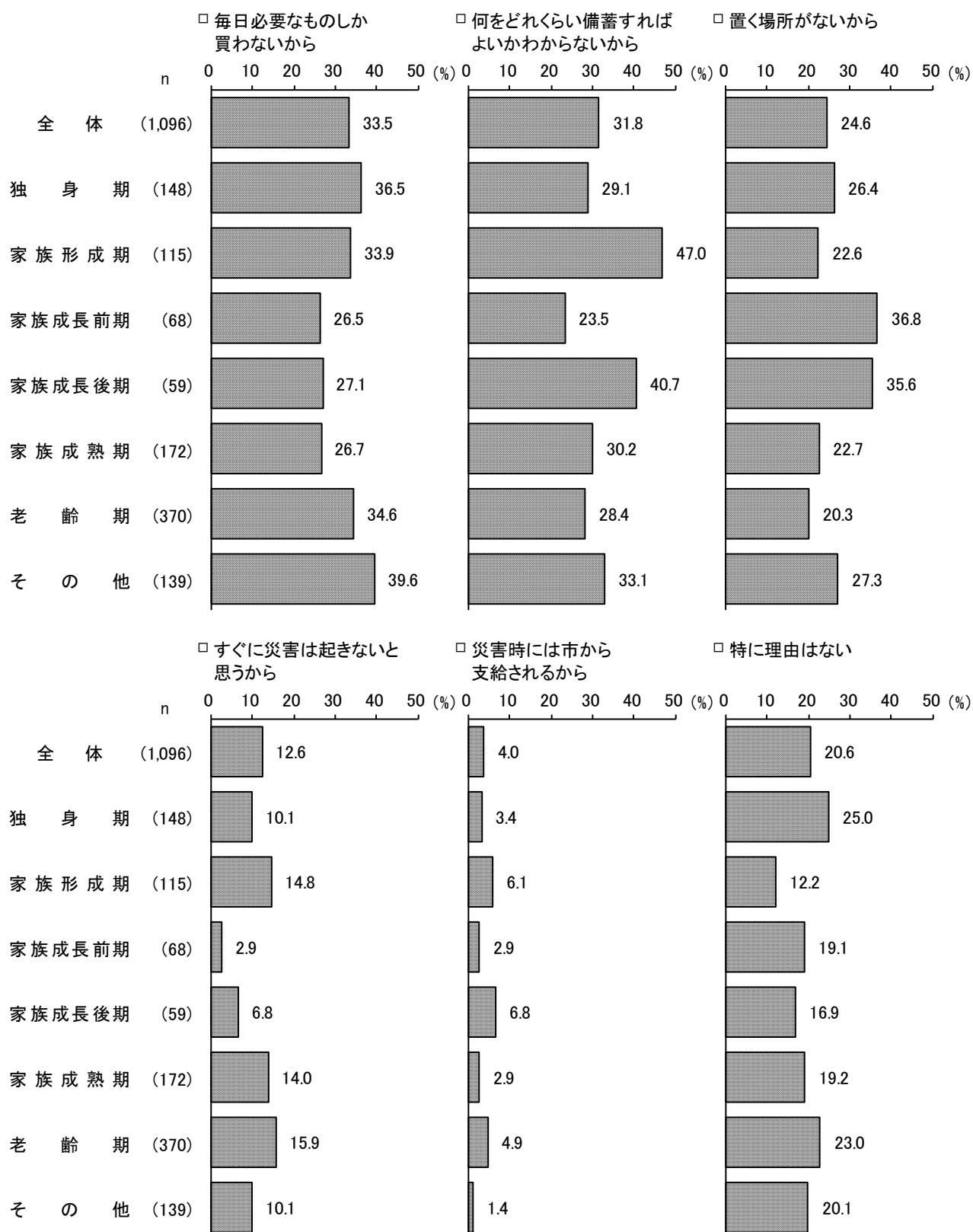


性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（35.2％）が男性（28.3％）より6.9ポイント高くなっている。「すぐに災害は起きないと思うから」は男性（15.1％）が女性（10.0％）より5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「置く場所がないから」は40～49歳（33.2％）で3割強と多くなっている。

（図 3-9-3）

図 3-9-4 食料を備蓄していない理由－ライフステージ別（上位 5 位＋「特に理由はない」）



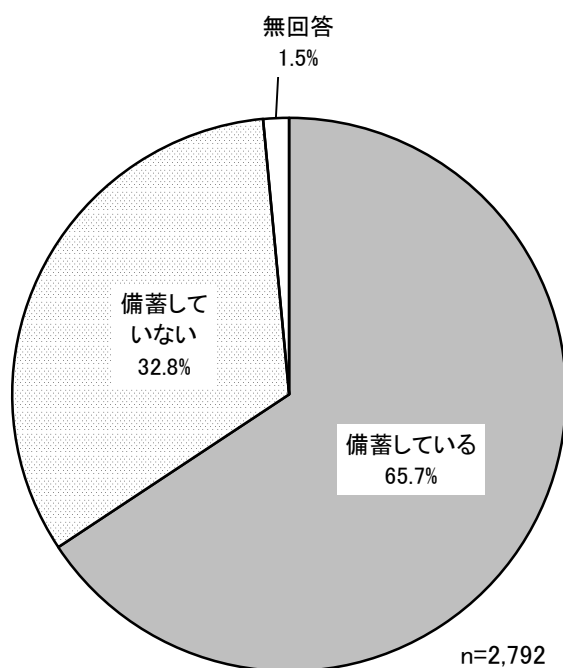
ライフステージ別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（47.0％）で5割近くと多くなっている。「置く場所がないから」は家族成長前期（36.8％）で4割近くと多くなっている。（図 3-9-4）

(10) 飲料水の備蓄の有無

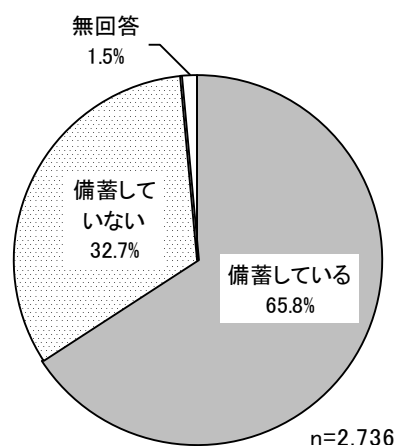
◇「備蓄している」が6割台半ば

問18 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図3-10-1 飲料水の備蓄の有無－全体

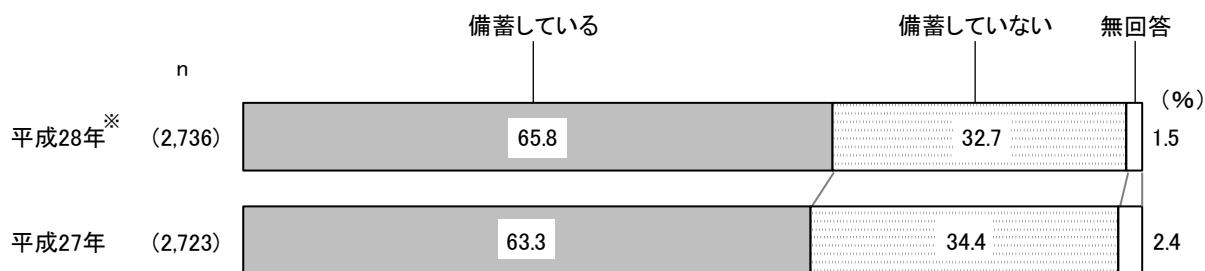


【参考】18歳、19歳を除く



災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(65.7%)が6割台半ばとなっている。一方、「備蓄していない」(32.8%)が3割強となっている。(図3-10-1)

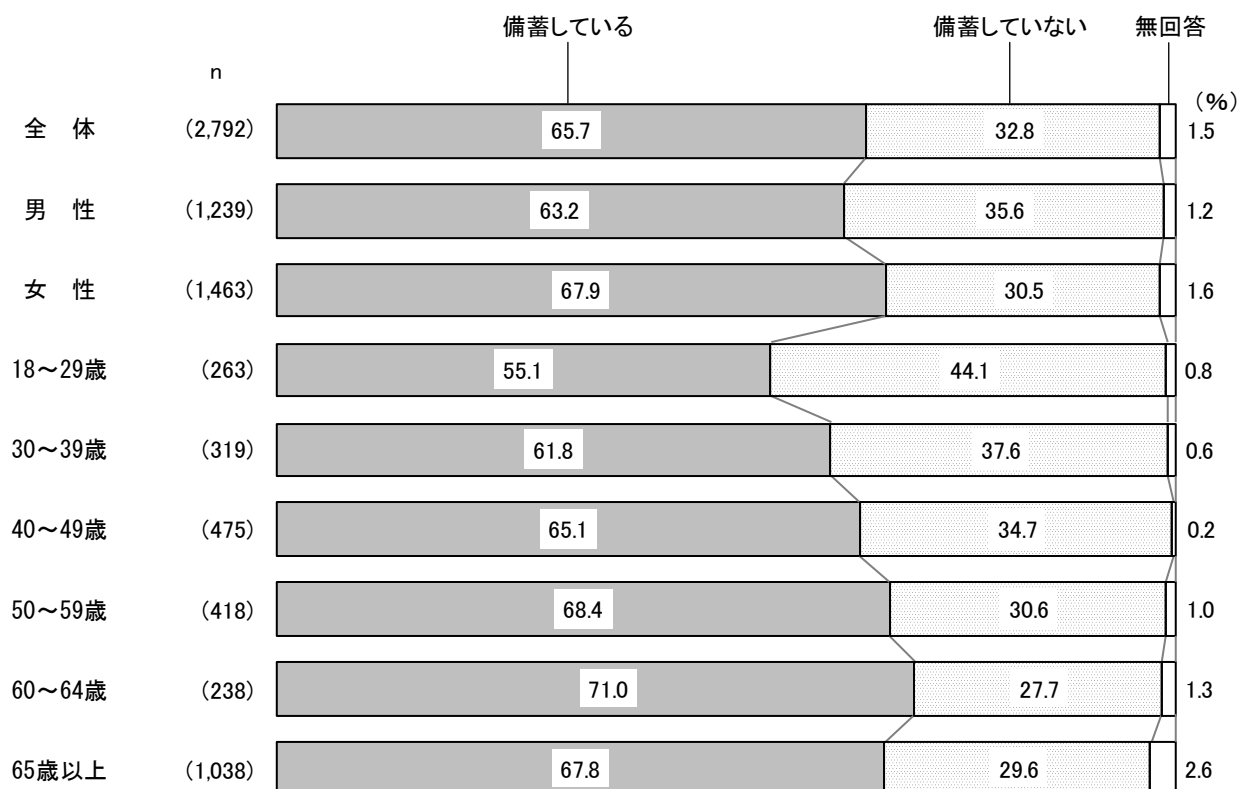
図 3-10-2 飲料水の備蓄の有無－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると「備蓄している」は、平成27年（63.3%）より2.5ポイント増加している。
（図 3-10-2）

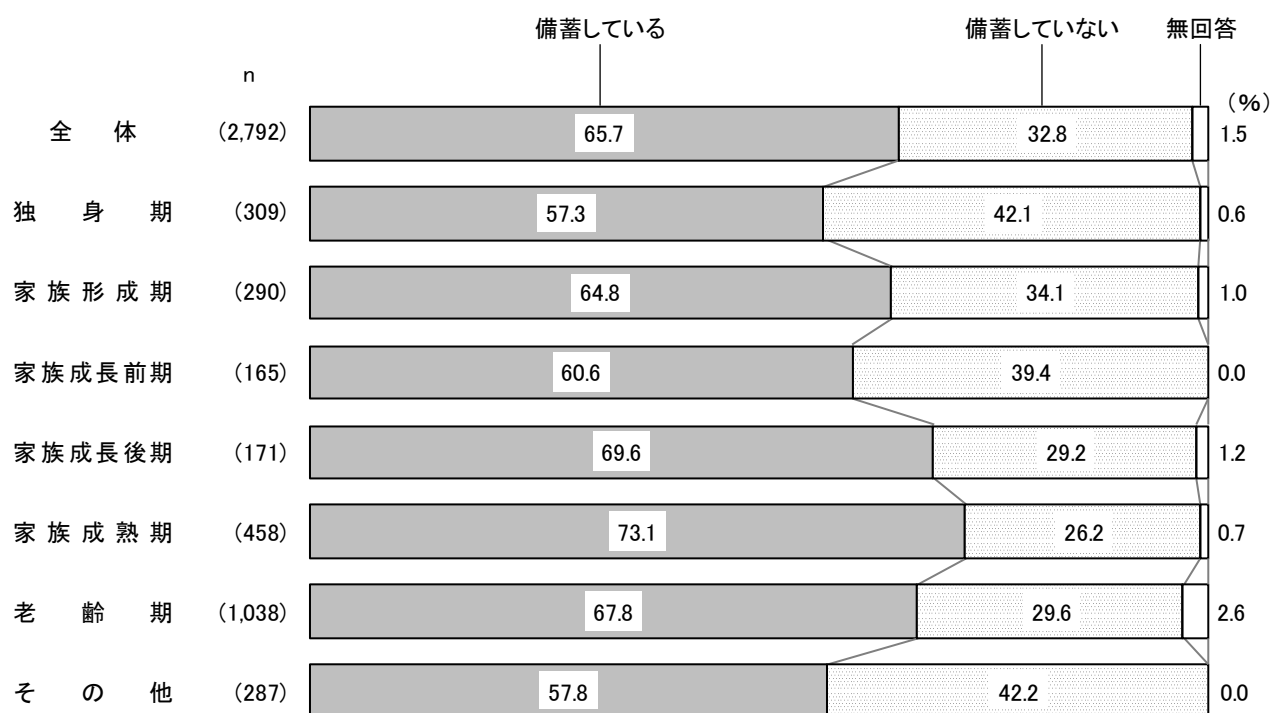
図 3-10-3 飲料水の備蓄の有無－性別、年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（67.9%）が男性（63.2%）より4.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は60～64歳（71.0%）で最も多く7割強となっている。「備蓄していない」は18～29歳（44.1%）で4割台半ばと多くなっている。（図 3-10-3）

図 3-10-4 飲料水の備蓄の有無－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成熟期（73.1%）で最も多く 7 割強となっている。一方、「備蓄していない」は独身期（42.1%）で 4 割強と多くなっている。

（図 3-10-4）

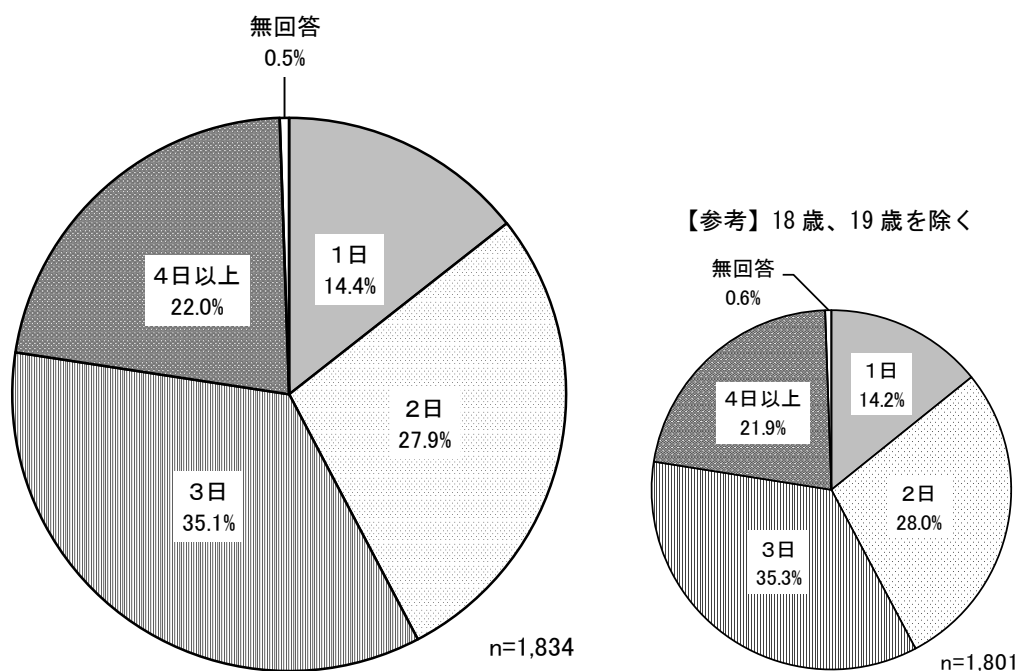
(11) 飲料水の備蓄量

◇「3日」が3割台半ば

(飲料水を「1 備蓄している」とお答えの方に)

問18-2-1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

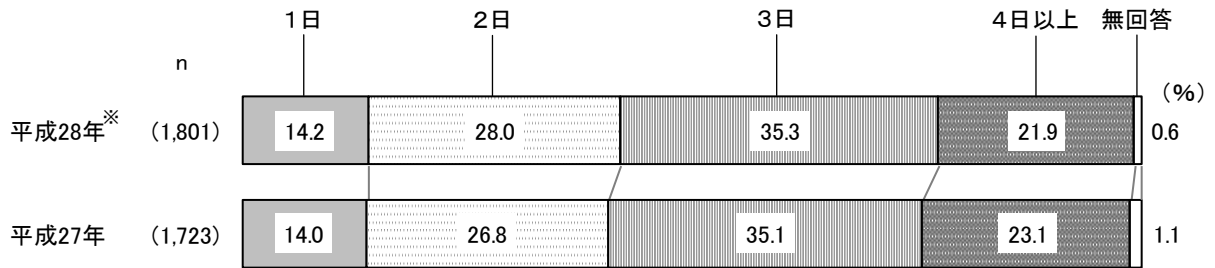
図3-11-1 飲料水の備蓄量－全体



飲料水を「備蓄している」と回答した1,834人に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているか聞いたところ、「3日」(35.1%)が最も多く3割台半ばとなっている。「4日以上」(22.0%)は2割強で、「2日」(27.9%)が3割近く、「1日」(14.4%)が1割台半ばとなっている。

(図3-11-1)

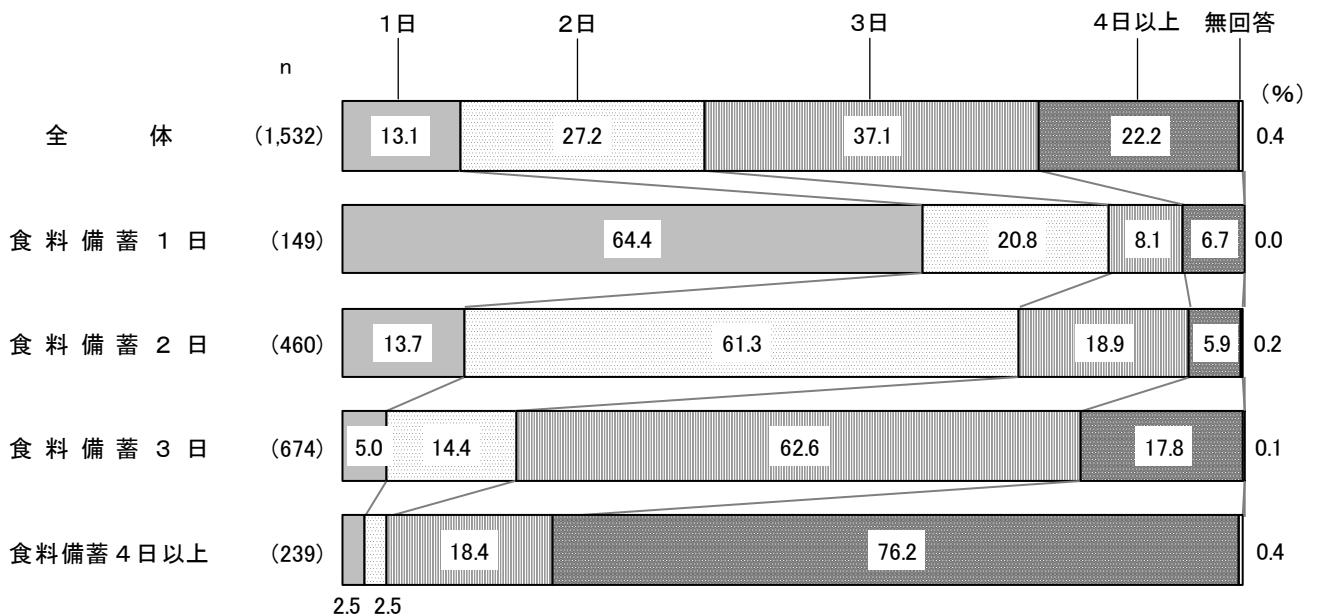
図 3-11-2 飲料水の備蓄量－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

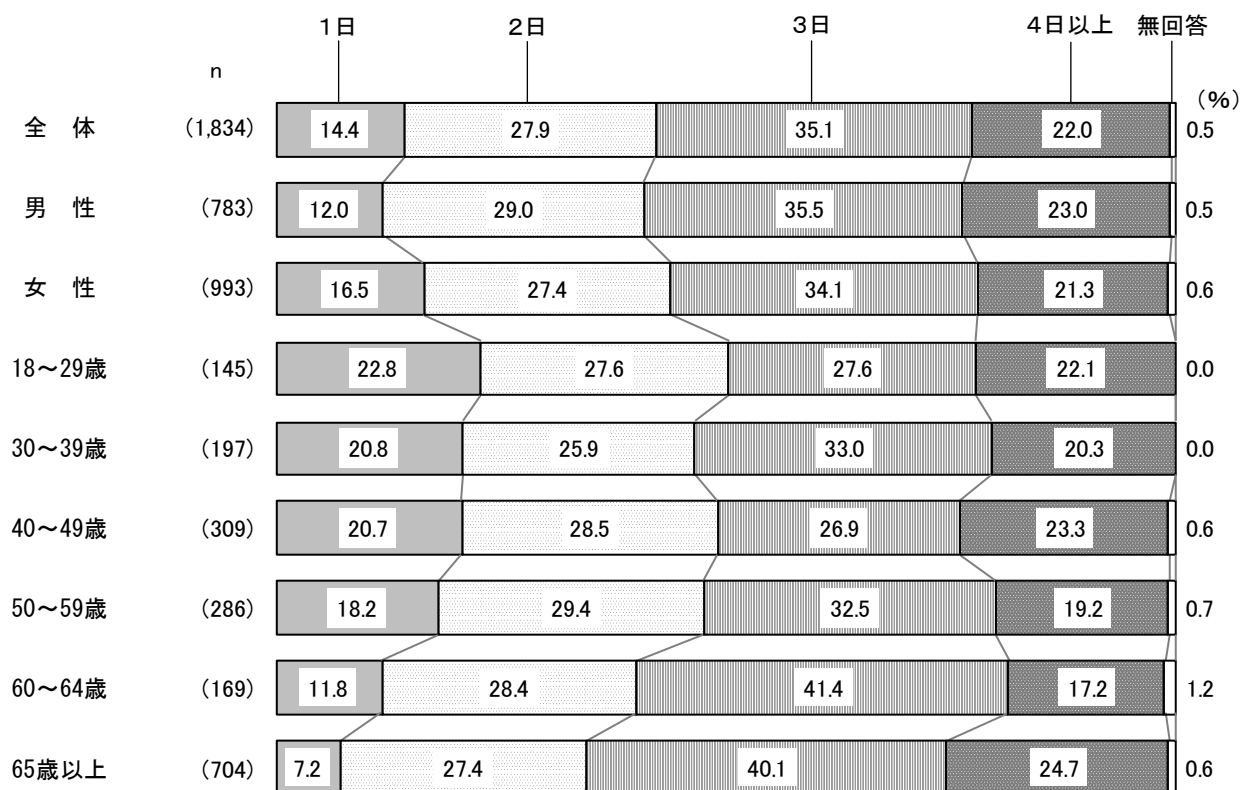
前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-11-2)

図 3-11-3 飲料水の備蓄量－食料備蓄日数別



食料と飲料水とともに「備蓄している」と回答した1,532人について、食料備蓄日数別にみると、食料備蓄 1 日では、「1 日」(64.4%) が6割台半ばで最も多くなっている。食料備蓄 2 日では、「2 日」(61.3%) が6割強、食料備蓄 3 日では、「3 日」(62.6%) が6割強、食料備蓄 4 日以上では、「4 日以上」(76.2%) が8割近くで最も多くなっており、食料と飲料水は同じ日数分備蓄する人が多い傾向がうかがえる。(図 3-11-3)

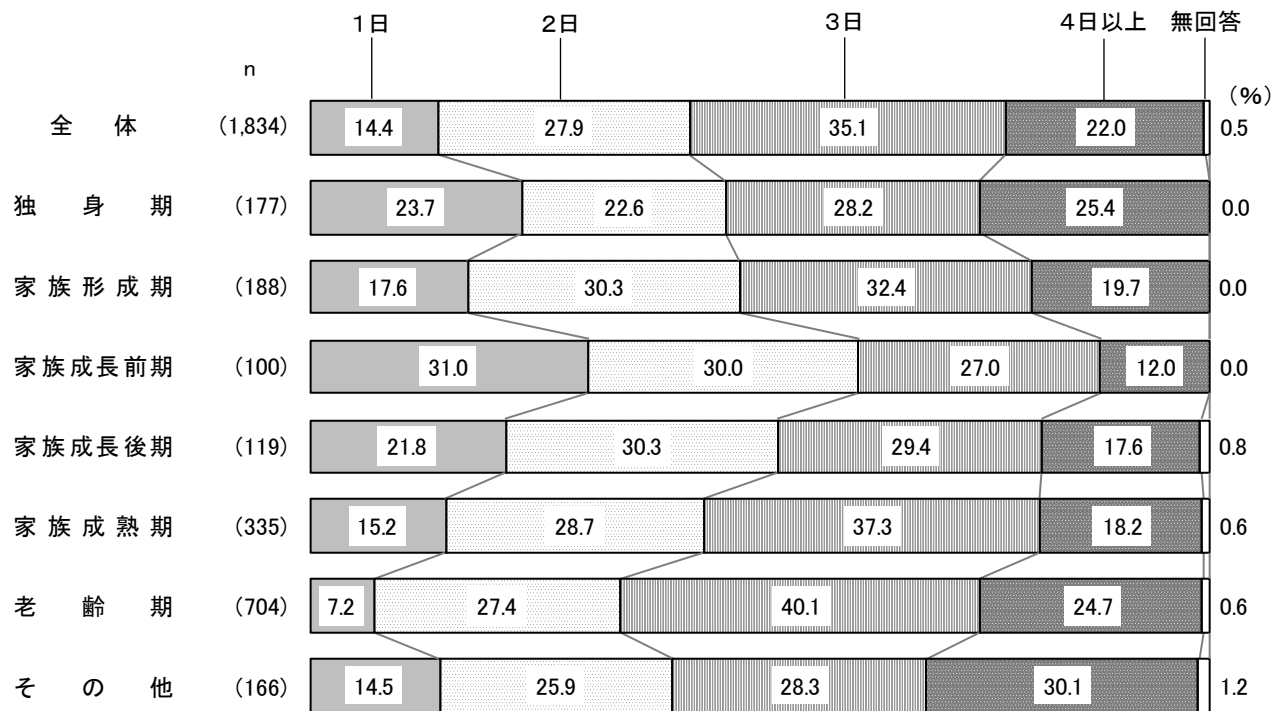
図 3-11-4 飲料水の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「1日」は女性（16.5%）が男性（12.0%）より4.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「4日以上」は65歳以上（24.7%）で2割台半ばと多くなっている。一方、「1日」は18～29歳（22.8%）で2割強と多くなっている。（図 3-11-4）

図 3-11-5 飲料水の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「1日」は家族成長前期（31.0%）で最も多く3割強となっている。
（図 3-11-5）

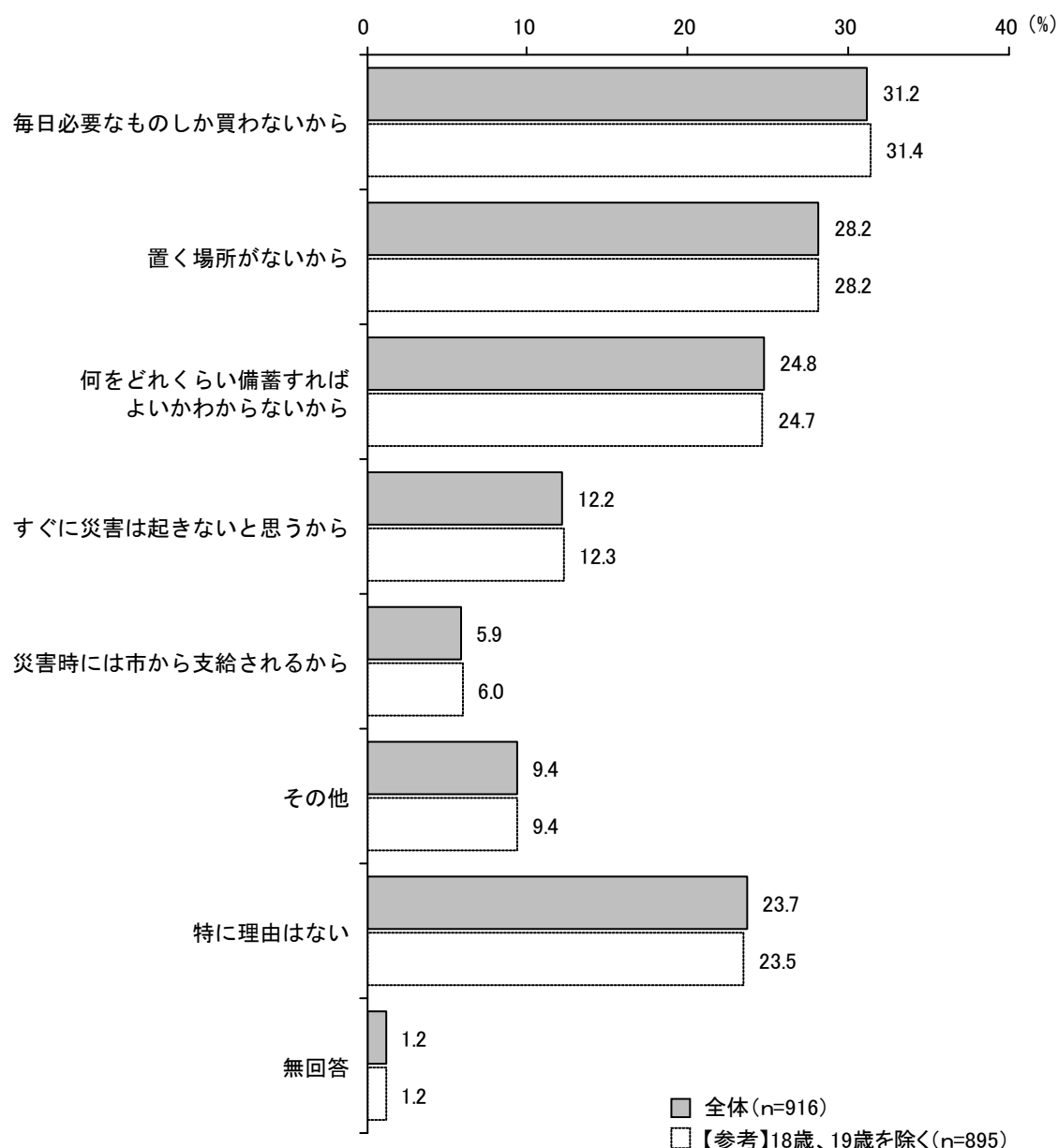
(12) 飲料水を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が3割強

(飲料水を「2 備蓄していない」とお答えの方に)

問18-2-2 備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

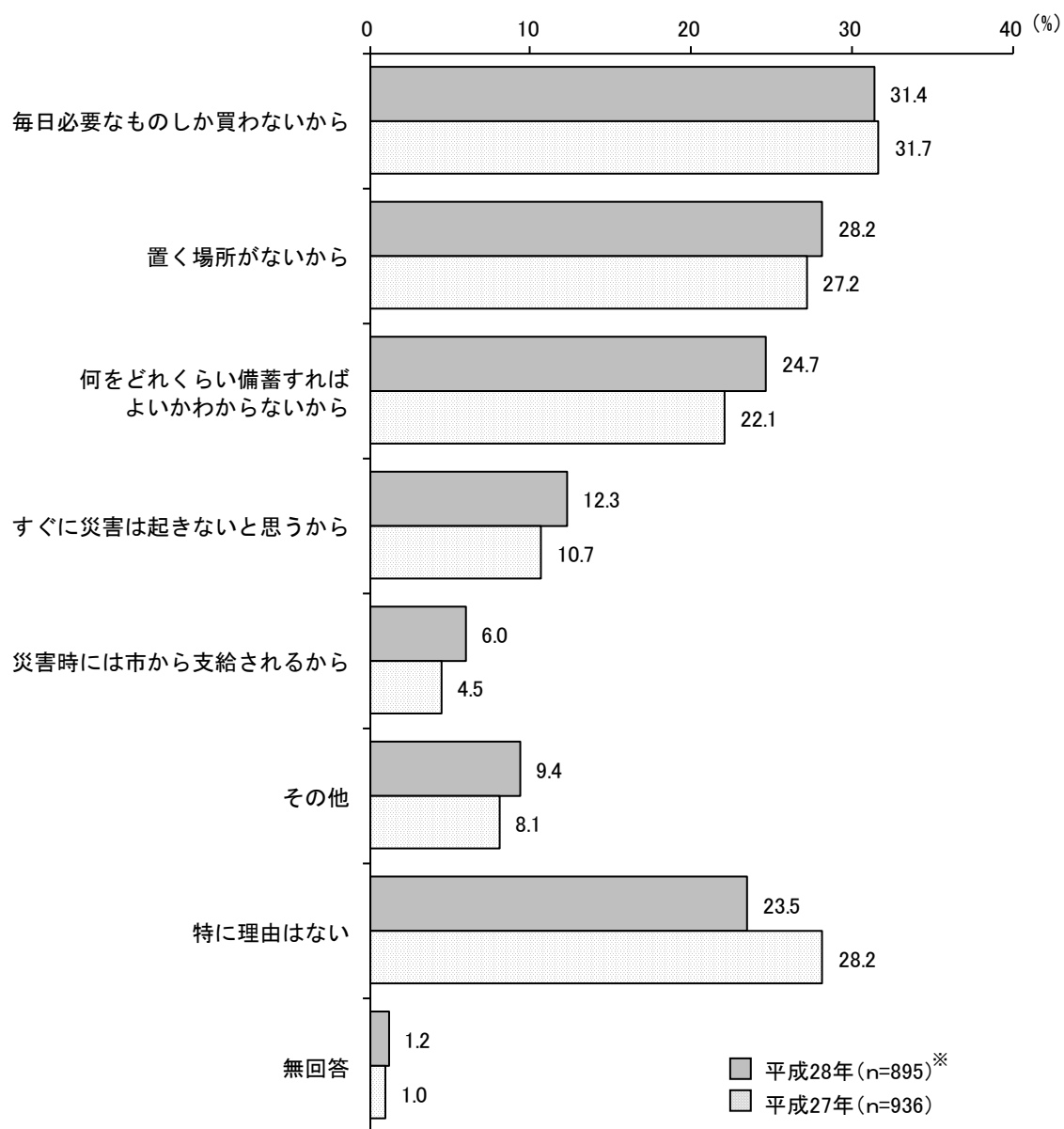
図3-12-1 飲料水を備蓄していない理由－全体



飲料水を「備蓄していない」と回答した916人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(31.2%)が最も多く3割強となっている。次いで「置く場所がないから」(28.2%)、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(24.8%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(12.2%)などの順となっている。一方、「特に理由はない」(23.7%)が2割強となっている。

(図3-12-1)

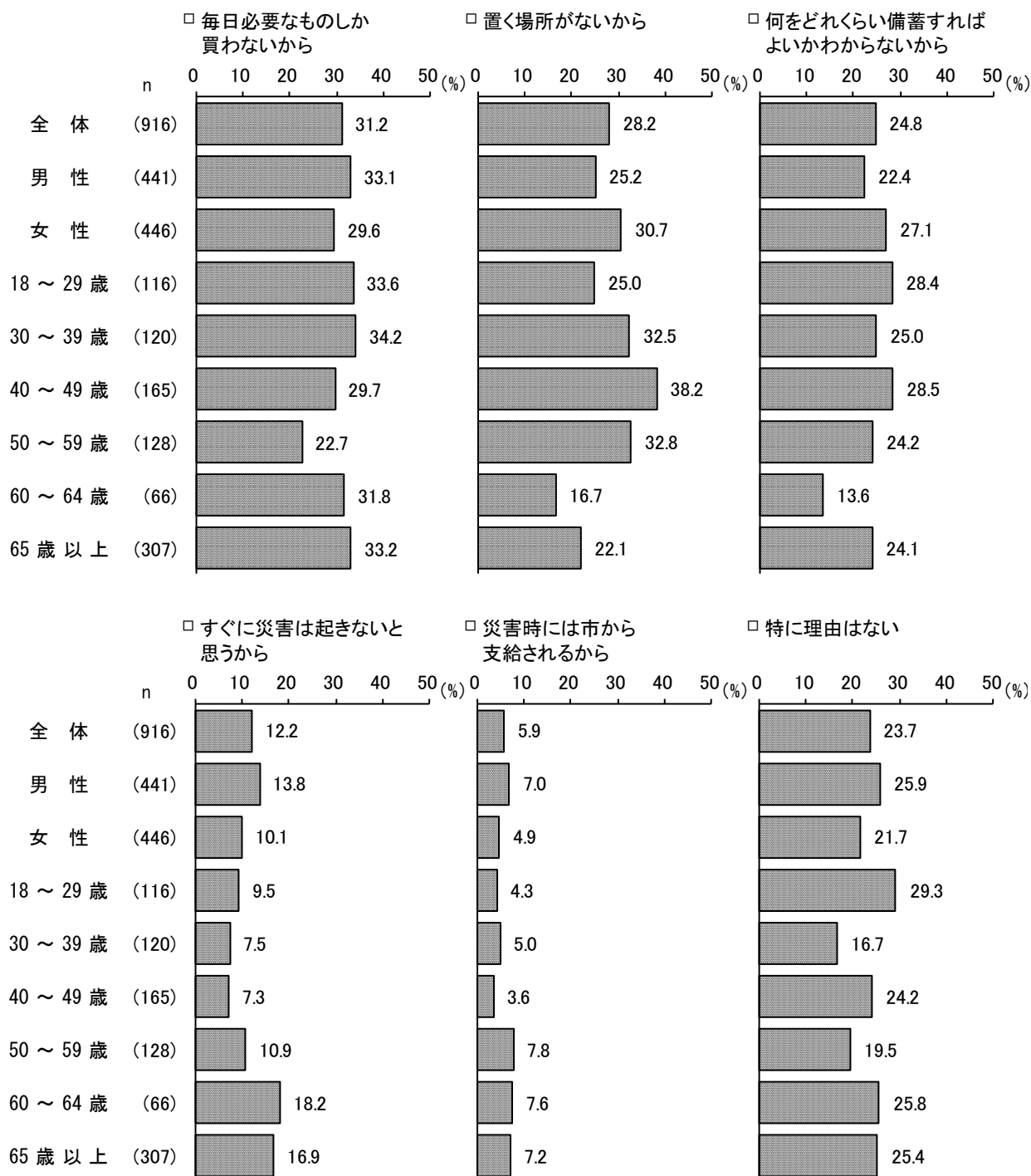
図3-12-2 飲料水を備蓄していない理由—経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は、平成27年(22.1%)より2.6ポイント増加している。(図3-12-2)

図 3-12-3 飲料水を備蓄していない理由－性別、年齢別（上位 5 位＋「特に理由はない」）

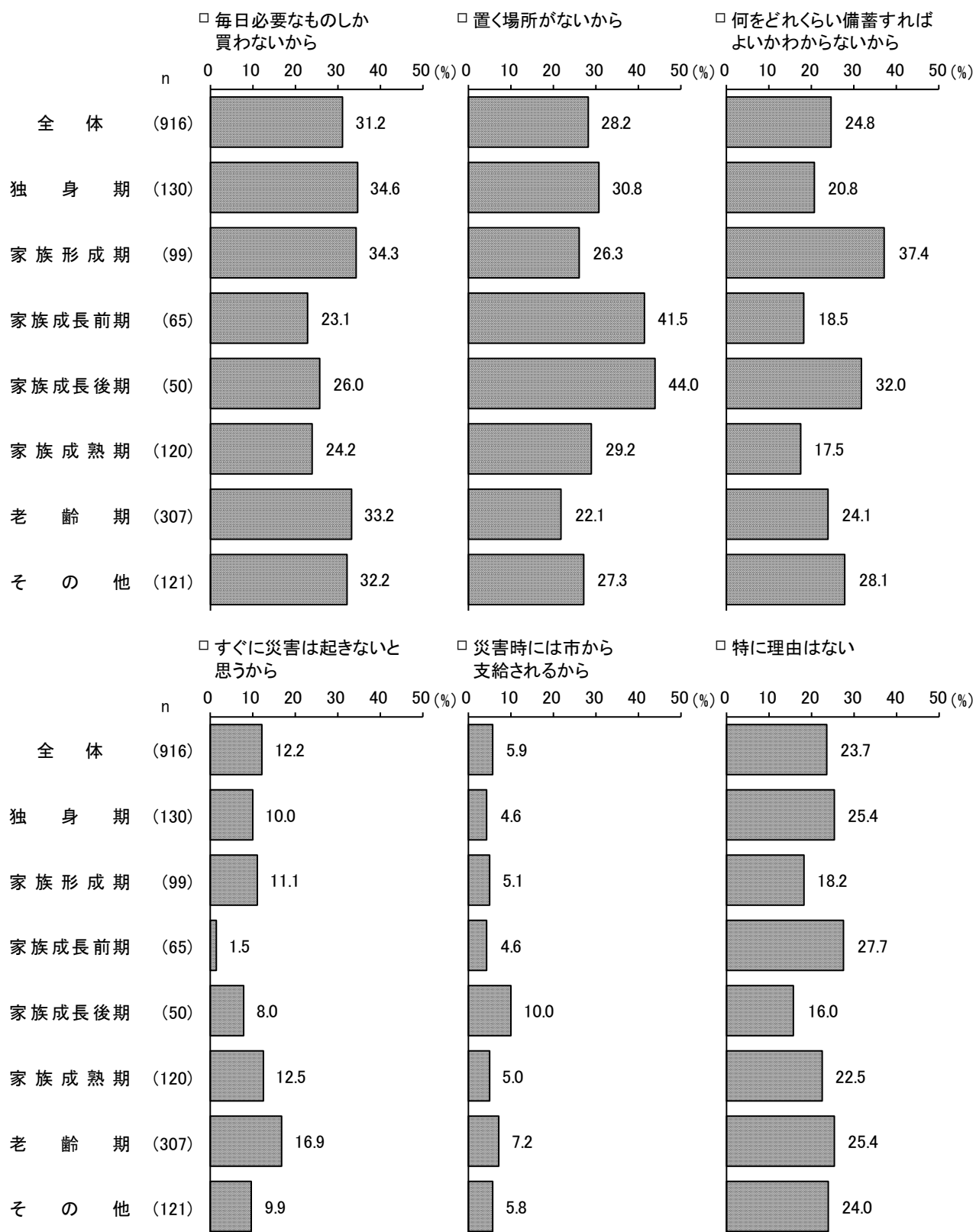


性別にみると、「置く場所がないから」は女性（30.7%）が男性（25.2%）より5.5ポイント高くなっている。「特に理由はない」は男性（25.9%）が女性（21.7%）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「置く場所がないから」は40～49歳（38.2%）で4割近くと多くなっている。

（図 3-12-3）

図 3-12-4 飲料水を備蓄していない理由－ライフステージ別（上位 5 位＋「特に理由はない」）



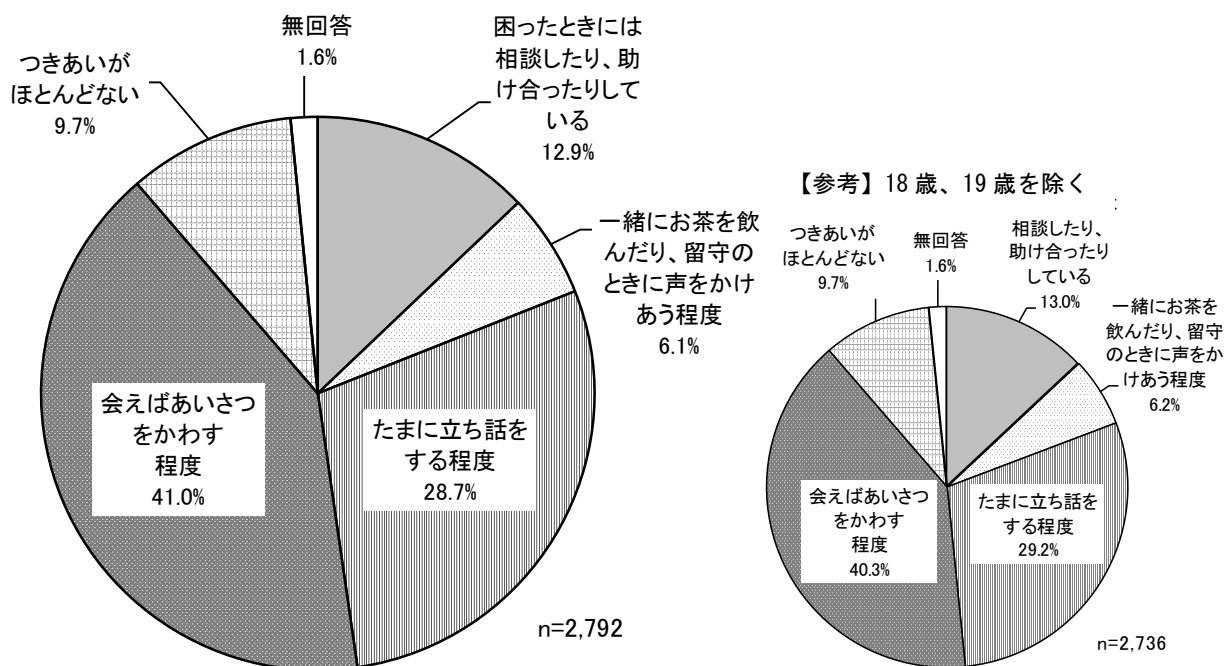
ライフステージ別にみると、「置く場所がないから」は家族成長後期（44.0％）で4割台半ばと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（37.4％）で4割近くと多くなっている。（図 3-12-4）

(13) 隣近所とのつきあい方

◇「会えばあいさつをかわす程度」が4割強

問19 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(○は1つだけ)

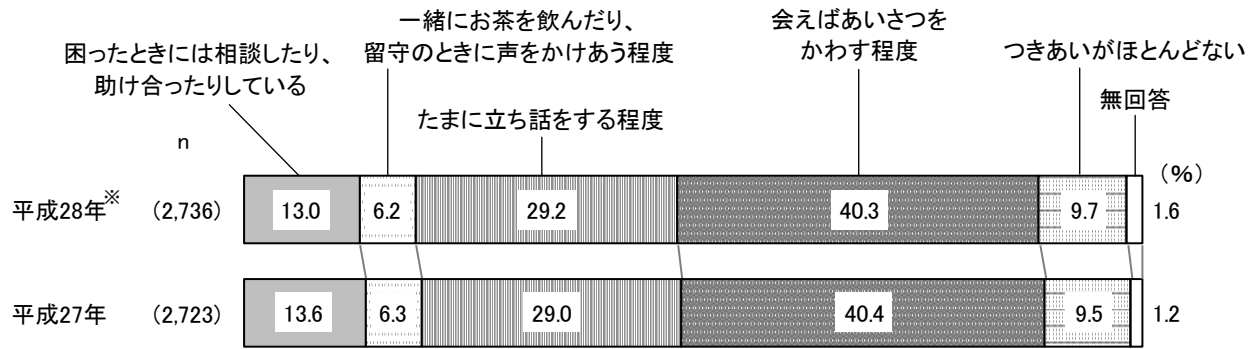
図3-13-1 隣近所とのつきあい方—全体



日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているか聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」(41.0%)が最も多く4割強となっている。「たまに立ち話をする程度」(28.7%)は3割近くで、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」(12.9%)が1割強となっている。

(図3-13-1)

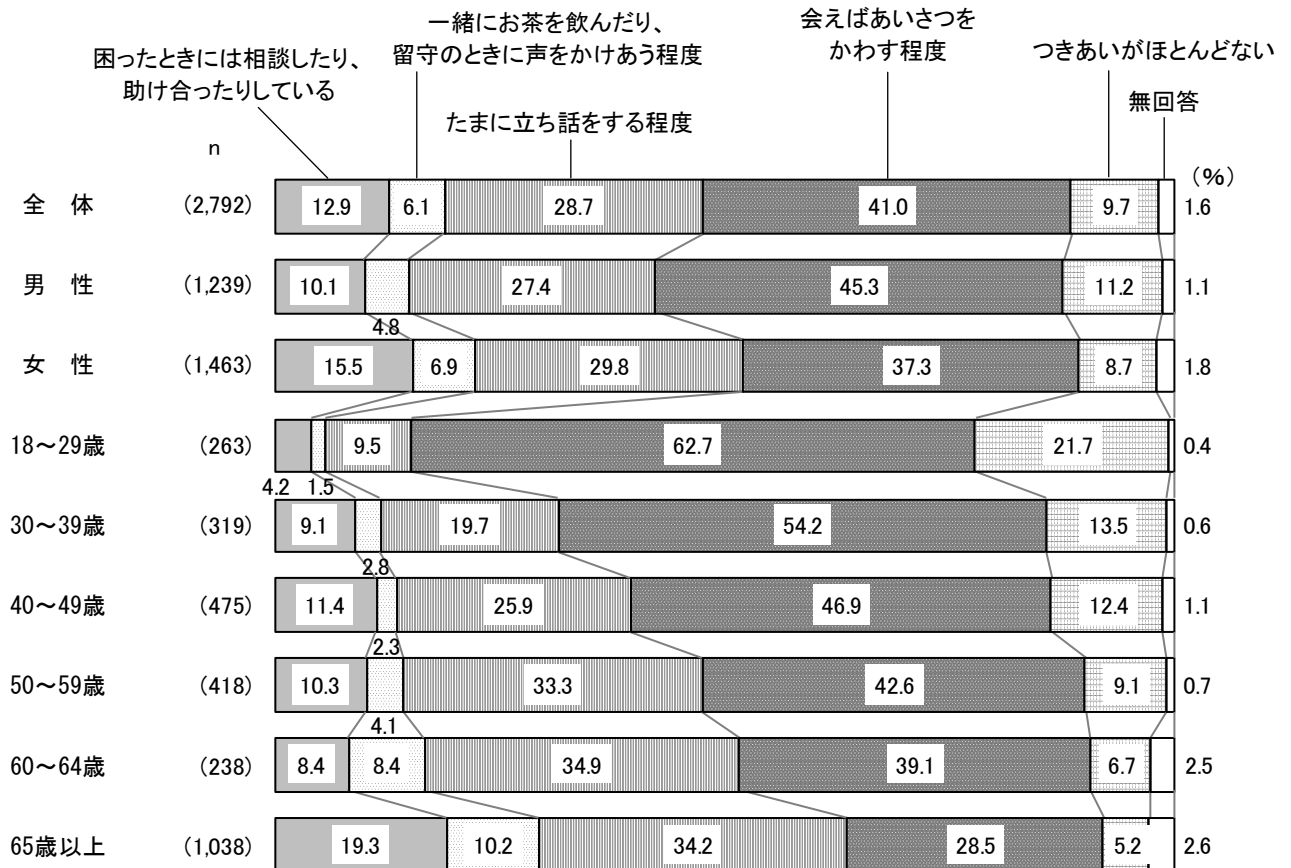
図 3-13-2 隣近所とのつきあい方－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-13-2)

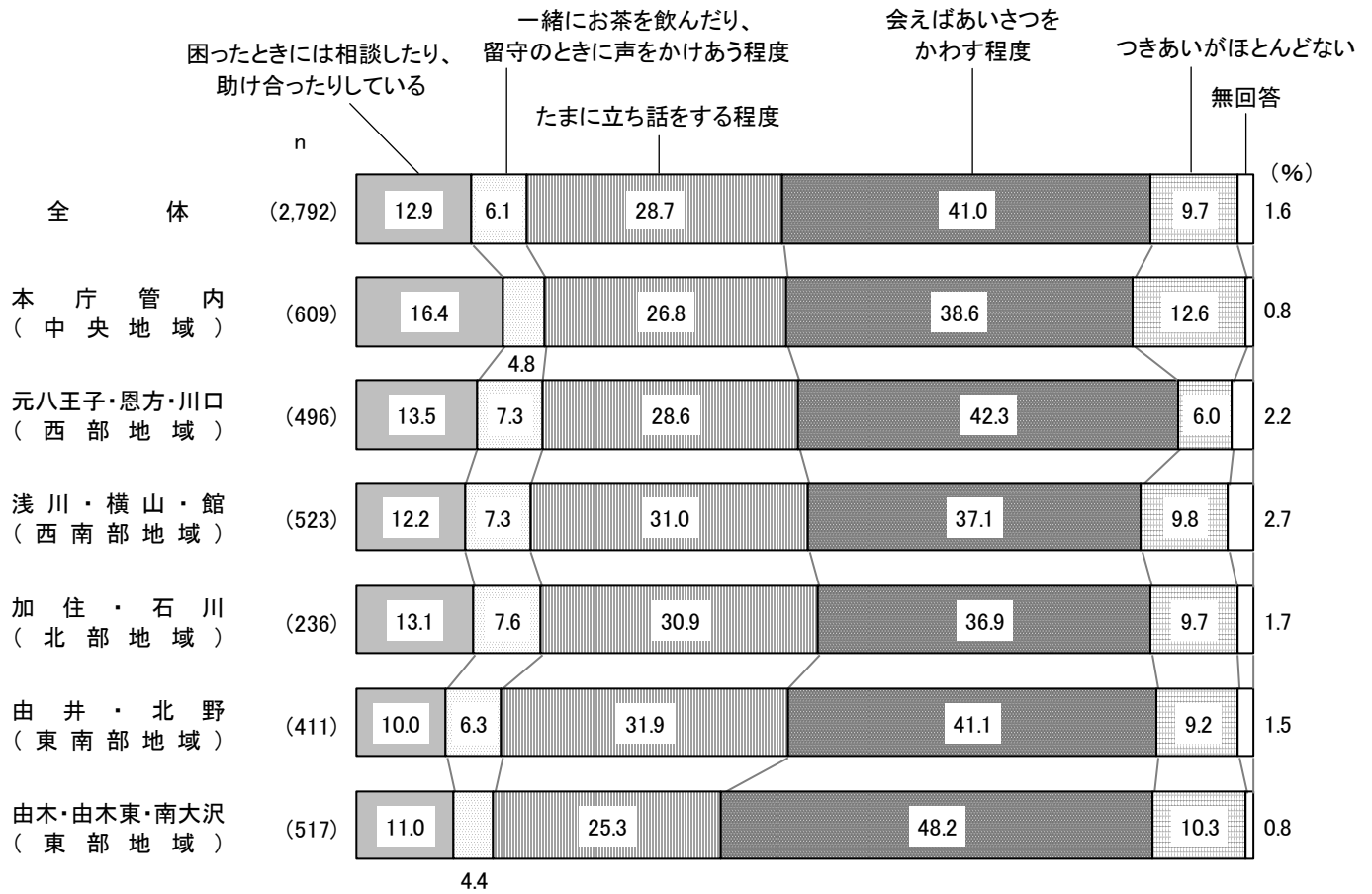
図 3-13-3 隣近所とのつきあい方－性別、年齢別



性別にみると、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は女性（15.5%）が男性（10.1%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は18～29歳（62.7%）で6割強と多くなっている。「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は65歳以上（19.3%）で2割弱と多くなっている。(図 3-13-3)

図 3-13-4 隣近所とのつきあい方－居住地域別



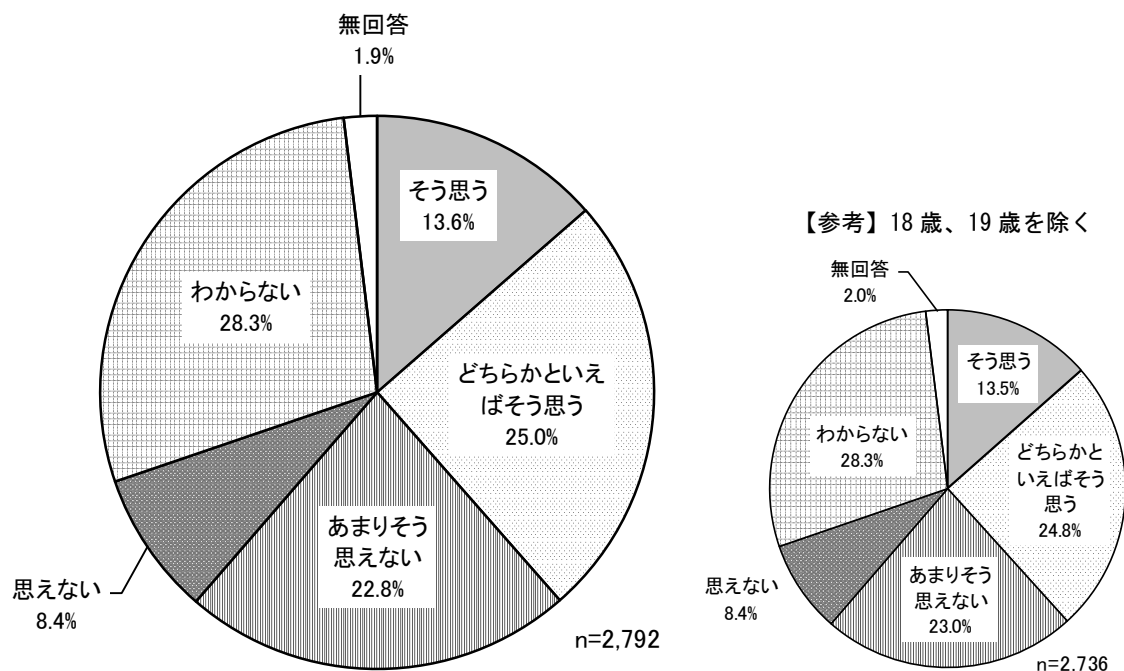
居住地域別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（48.2%）で最も多く 5 割近くとなっている。（図 3-13-4）

(14) 地域と子どもたちとのかかわりあい

◇《《そう思う》が4割近く

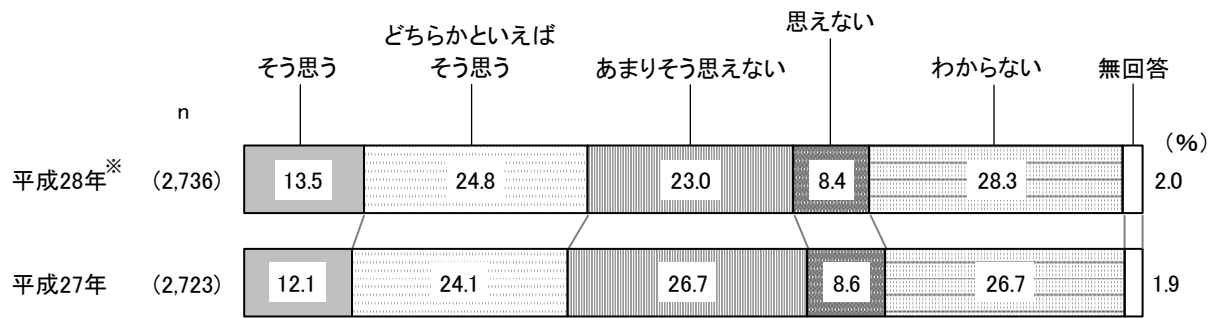
問20 あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。(○は1つだけ)

図3-14-1 地域と子どもたちとのかかわりあい ー全体



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「そう思う」(13.6%)と「どちらかといえばそう思う」(25.0%)を合わせた《《そう思う》》(38.6%)が4割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」(22.8%)と「思えない」(8.4%)を合わせた《《そう思えない》》(31.2%)が3割強となっている。(図3-14-1)

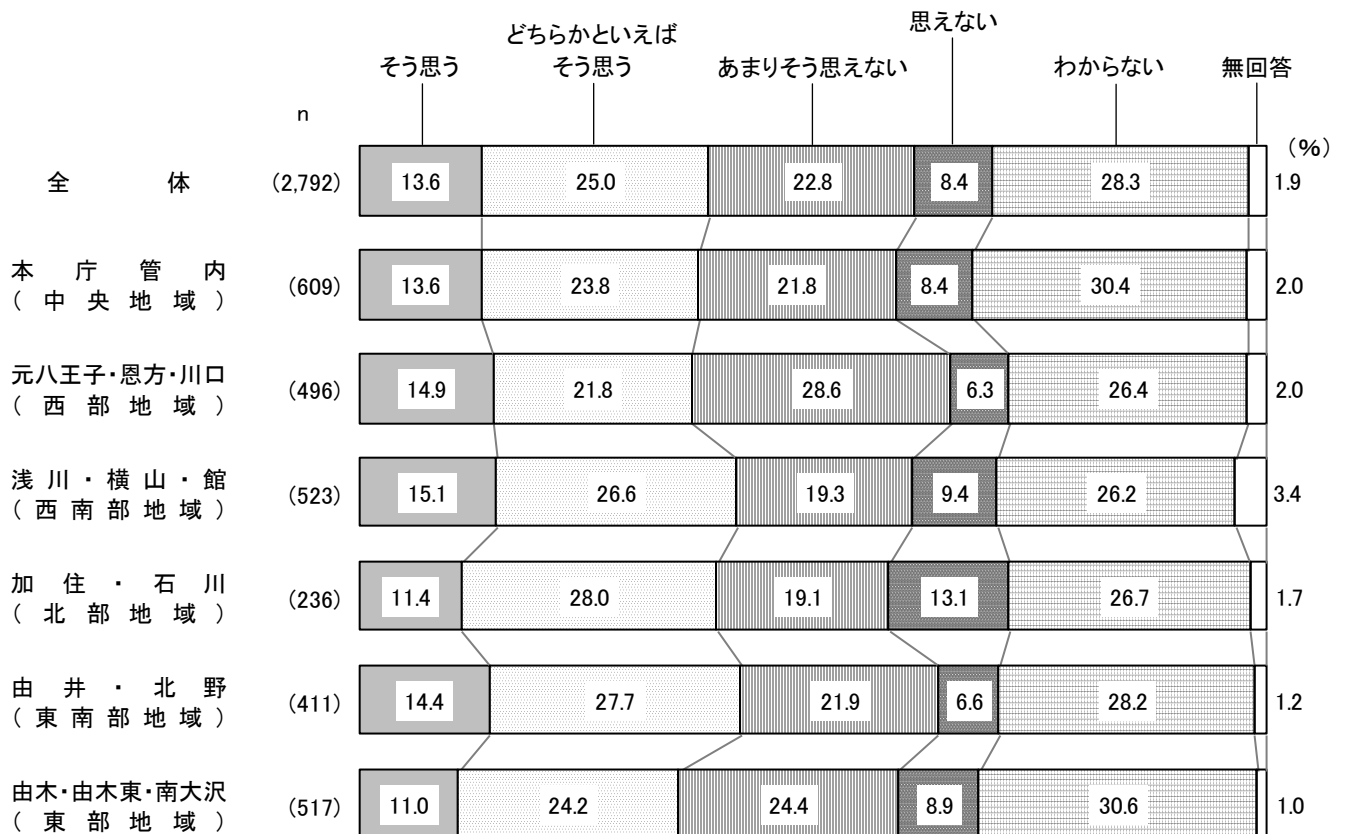
図 3-14-2 地域と子どもたちとのかかわりあい—経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

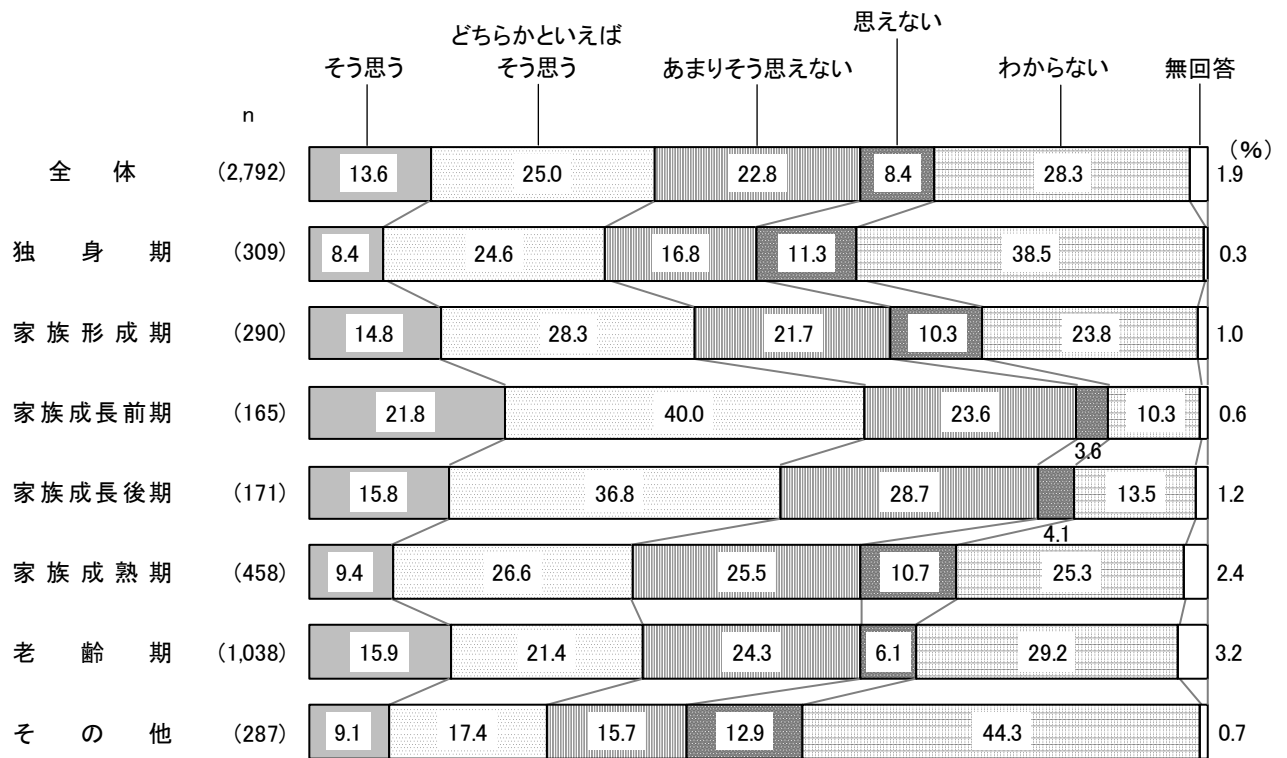
前回調査と比較すると、「あまりそう思えない」は、平成27年（35.3%）より3.9ポイント減少している。（図 3-14-2）

図 3-14-3 地域と子どもたちとのかかわりあい—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は由井・北野（東南部地域）（42.1%）で最も多く 4 割強となっている。（図 3-14-3）

図 3-14-4 地域と子どもたちとのかわりあいーライフステージ別



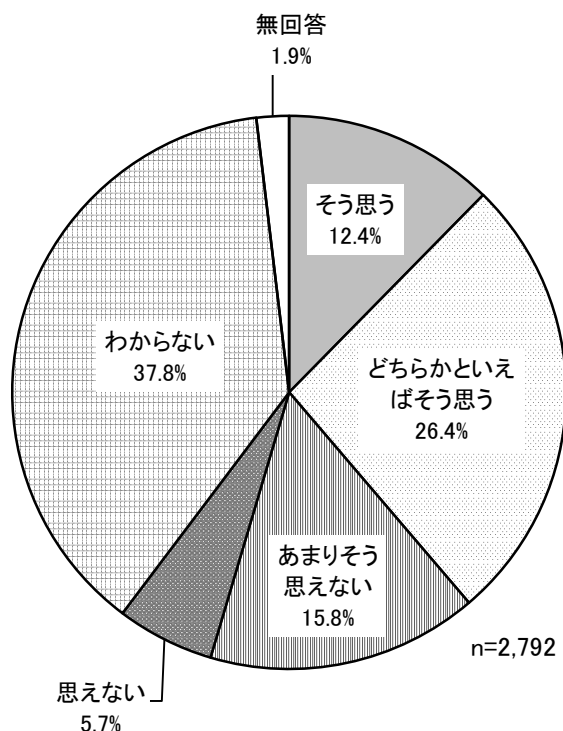
ライフステージ別にみると、「そう思う」は家族成長前期（61.8%）で最も多く 6 割強となっている。（図 3-14-4）

(15) 地域と学校の協力による子どもたちの育み

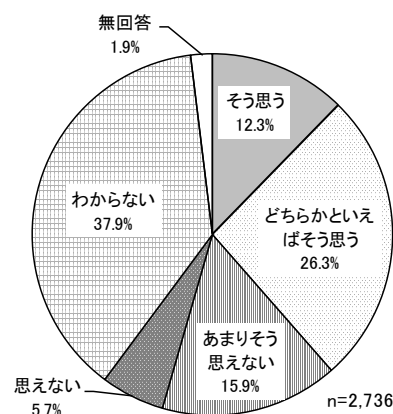
◇《《そう思う》が4割近く

問21 あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育んでいると思いますか。(○は1つだけ)

図3-15-1 地域と学校の協力による子どもたちの育みー全体

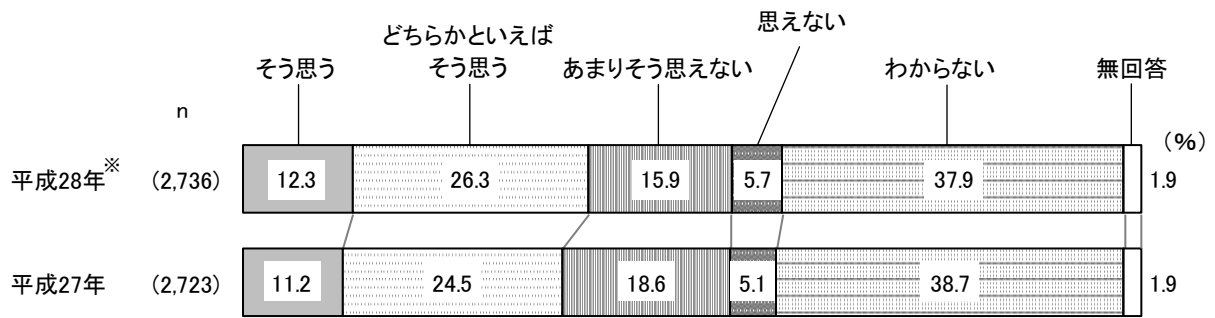


【参考】18歳、19歳を除く



地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育んでいると思うか聞いたところ、「そう思う」(12.4%)と「どちらかといえばそう思う」(26.4%)を合わせた《《そう思う》》(38.8%)が4割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」(15.8%)と「思えない」(5.7%)を合わせた《《そう思えない》》(21.5%)が2割強となっている。(図3-15-1)

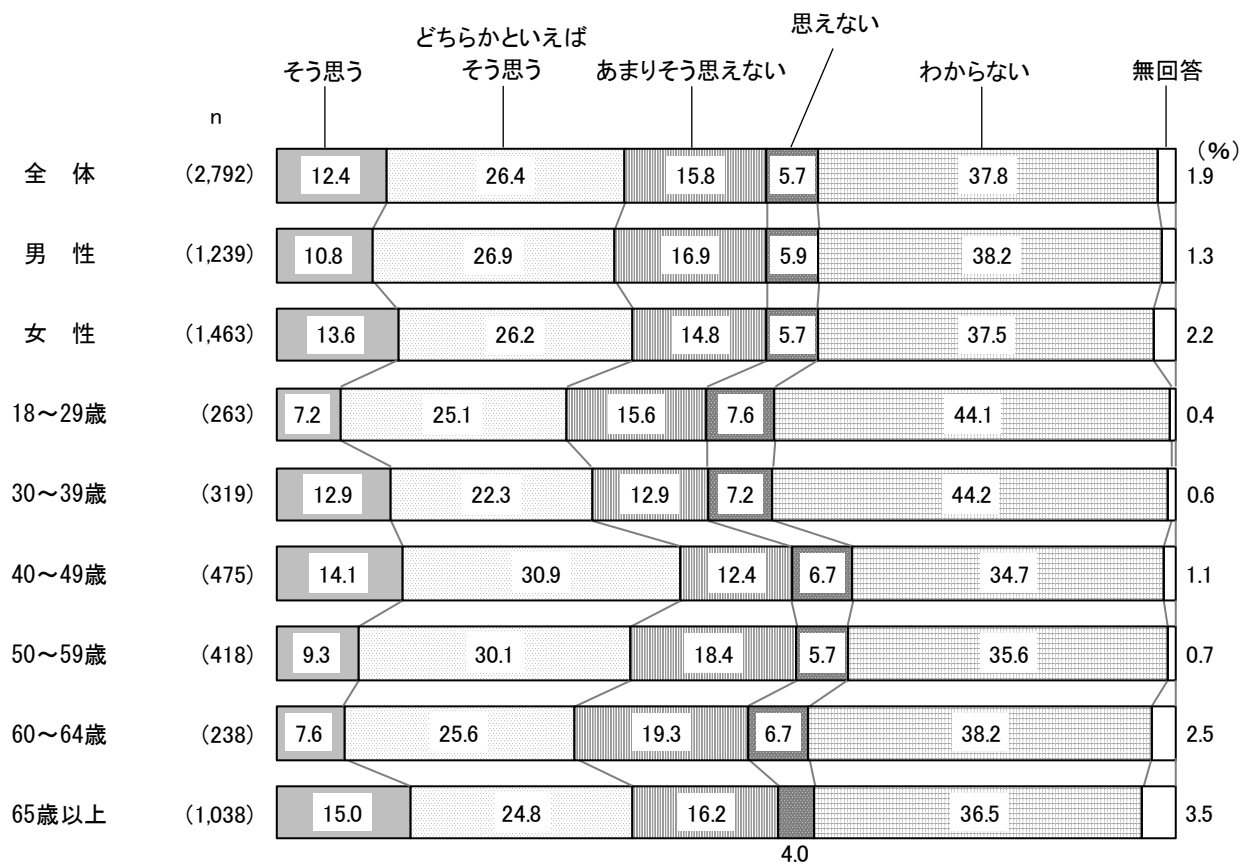
図 3-15-2 地域と学校の協力による子どもたちの育み一経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「《そう思う》」は、平成27年（35.7%）より2.9ポイント増加している。
（図 3-15-2）

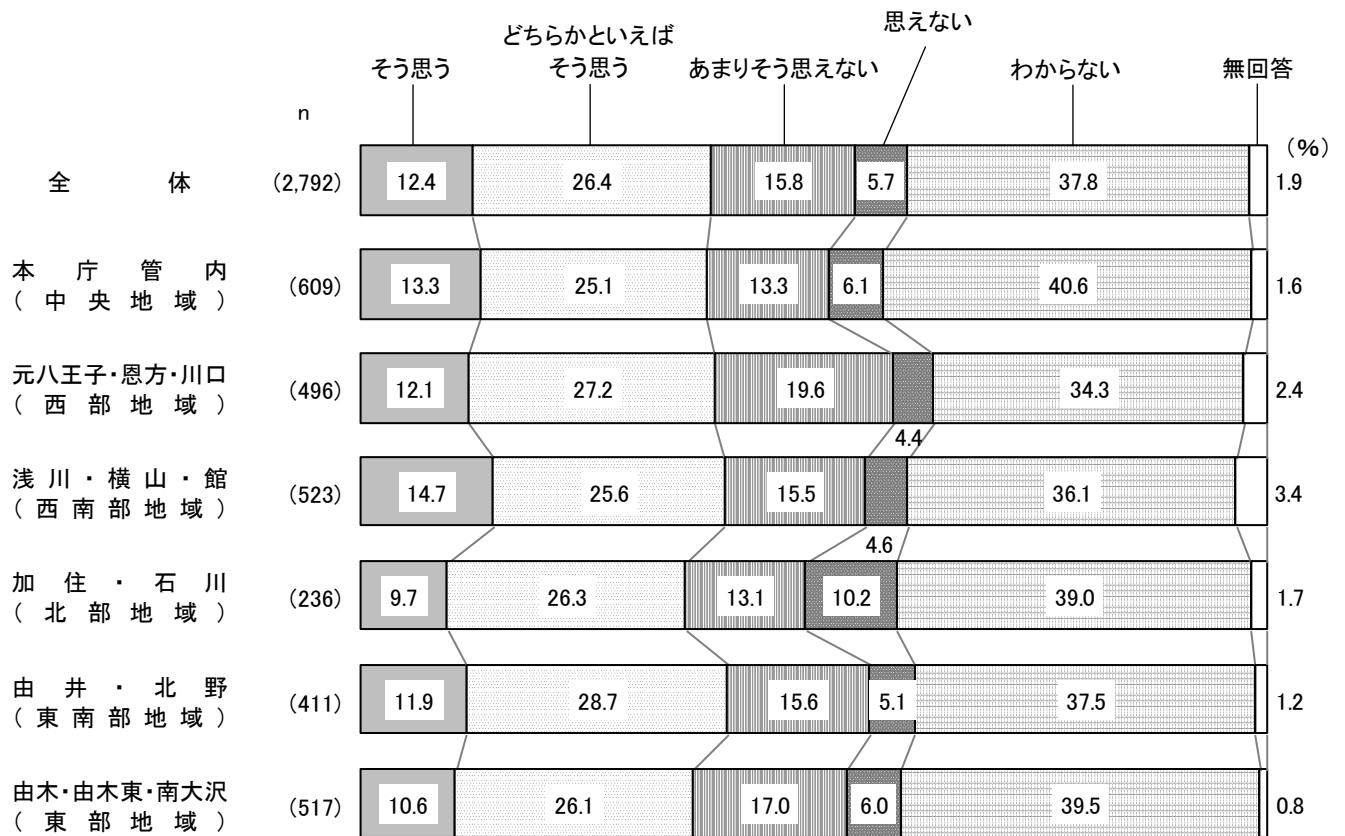
図 3-15-3 地域と学校の協力による子どもたちの育み一性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「《そう思う》」は40～49歳（45.0%）で4割台半ばと多くなっている。一方、「《あまりそう思えない》」は60～64歳（26.0%）で3割近くと多くなっている。（図 3-15-3）

図 3-15-4 地域と学校の協力による子どもたちの育みー居住地域別



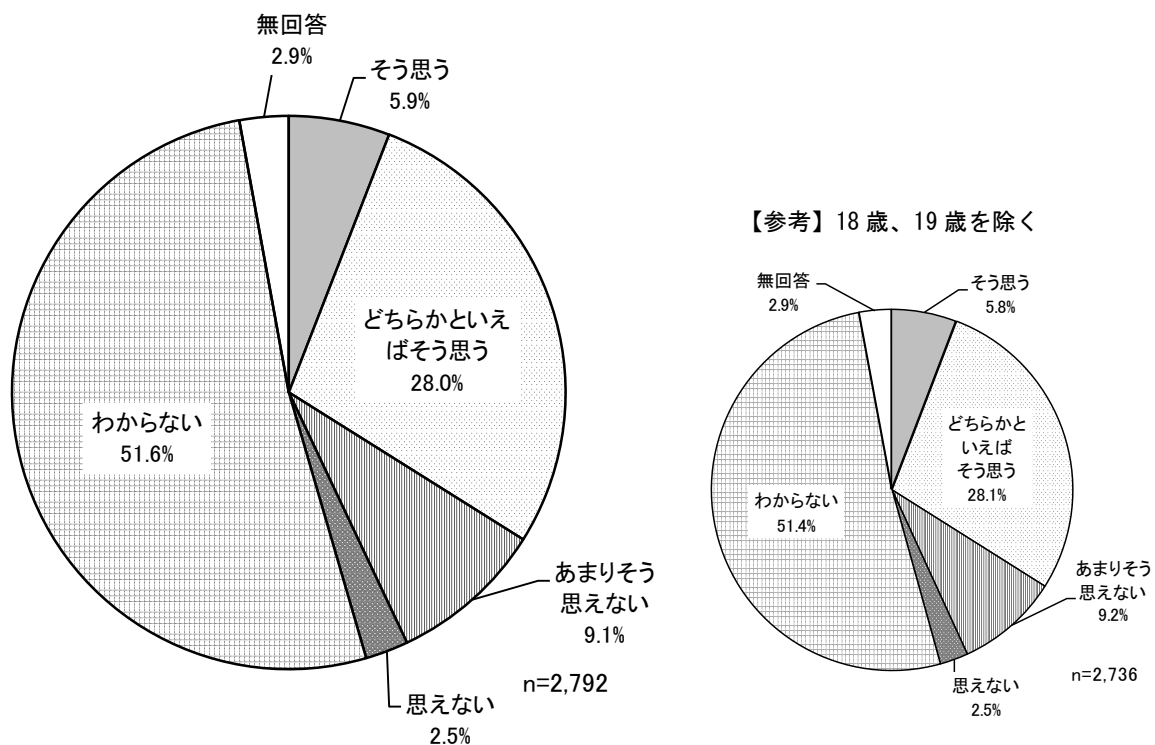
居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図 3-15-4)

(16) 市などの支援による子育ての状況

◇《《そう思う》が3割強

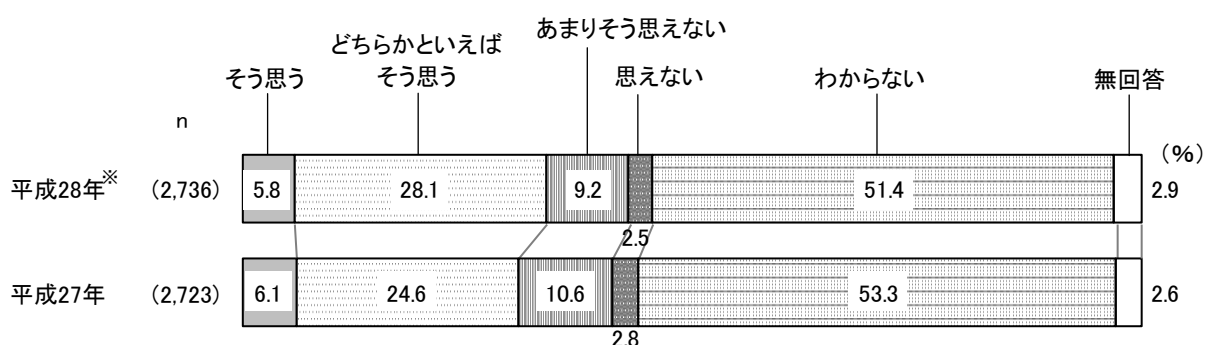
問22 あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-16-1 市などの支援による子育ての状況—全体



子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていると思うか聞いたところ、「《そう思う》」(5.9%)と「《どちらかといえばそう思う》」(28.0%)を合わせた《《そう思う》》(33.9%)が3割強となっている。一方、「《あまりそう思えない》」(9.1%)と「《思えない》」(2.5%)を合わせた《《そう思えない》》(11.6%)が1割強となっている。(図3-16-1)

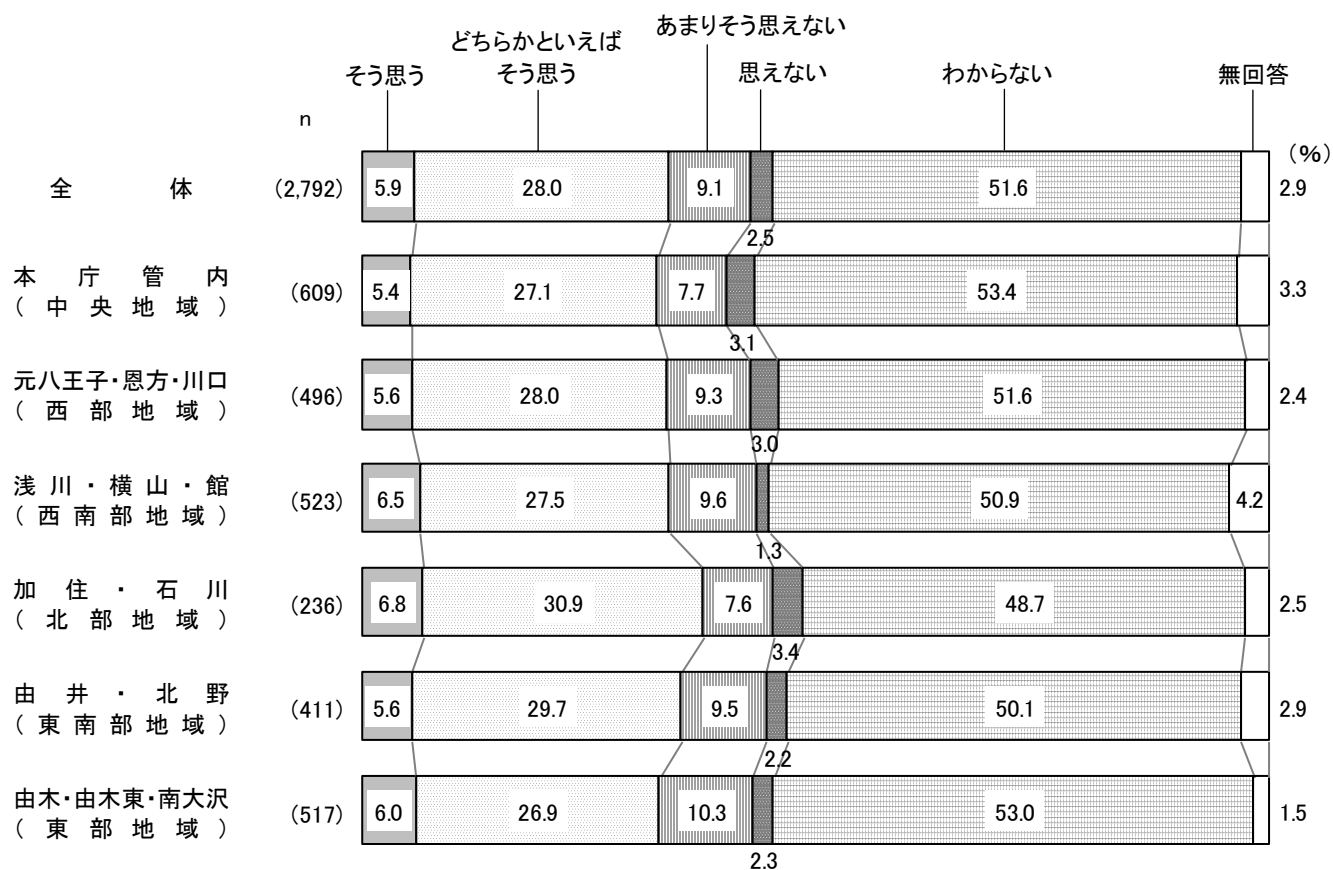
図 3-16-2 市などの支援による子育ての状況－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

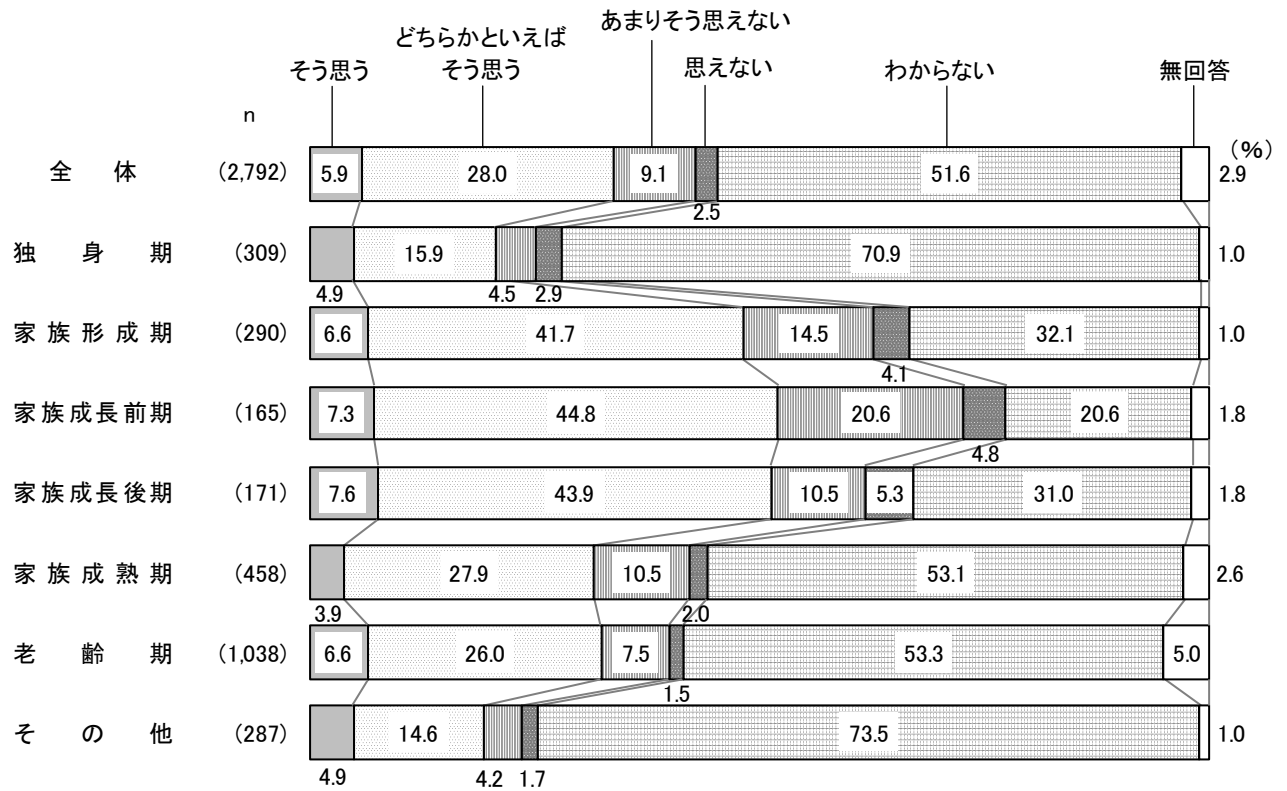
前回調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」は、平成27年（24.6%）より3.5ポイント増加している。（図 3-16-2）

図 3-16-3 市などの支援による子育ての状況－居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は加住・石川（北部地域）（37.7%）で最も多く4割近くとなっている。（図 3-16-3）

図 3-16-4 市などの支援による子育ての状況－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（52.1%）で最も多く 5 割強となっている。（図 3-16-4）

(17) 安心した子育てができていないと思う理由（自由意見）

（問22で「3 あまりそう思えない」または「4 思えない」とお答えの方に）

問22-1 そのように感じる理由があれば、お書きください。（自由記述）

子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができているかについて「あまりそう思えない」または「思えない」と答えた323人に、そのように感じる理由を自由記述形式で聞いたところ、181人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載する。

なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

- 子どもの遊ぶ環境が整備されていない。女性の社会進出をうたっているが、託児所等の施設が充実していない。仕事との両立を支援する整備をしていかないと、子育てしていくことをあきらめざるを得ない。（女性18～29歳）
- 仕事をしている平日のサービスが多く、土日のサービスがほとんどない。土日のサービスを活用したい。（男性30～39歳）
- 支援内容等をもっとわかりやすく大きく告知して欲しい。（男性30～39歳）
- 子どもの福祉、教育が充分ではない。療育センター・教育センター等に相談してもたらい回しにされる。受け入れ態勢に問題がある。（男性30～39歳）
- 市からあまり支援がないように思う。図書館やレクリエーション施設をもっと増やしてほしい。（男性30～39歳）
- 一人で歩いている小学生をよく見るが、犯罪や事故が心配。登下校の見守りや、複数人で帰れるようにしてほしい。（男性30～39歳）
- 市からの支援が目に見えない。通学時の交通安全等、町内会の支援が大きい。（男性40～49歳）
- 4年生になり、学童保育が終わった後に安心して子どもを遊ばせられるところがない。児童館もしくは放課後教室を充実させてほしい。（男性40～49歳）
- 子育て世帯への医療費補助が充分でないと感じられるから。高校卒業までの医療費を無料化してほしい。（男性40～49歳）
- 学童保育所に空きがなく、入れない。（男性40～49歳）
- 収入等、家庭状況によって支援のあり方が大きく変わるため、支援につながらない。（女性40～49歳）
- 小学校、中学校の特別支援学級について、もう少し充実させてほしい。（女性40～49歳）
- 八王子市は市域が広く本庁の地域と自分が住んでいる地域では施設もサービスも違う。（女性40～49歳）
- 治安が悪く、学童保育所に預けないと安心して低学年の子どもを自由に遊ばせられない。共働き世帯が多くさみしい思いをしている子どもが多い。市立小学校の学力レベルが低い。教師のレベルも低く、保護者が信頼していない。学校が荒れている。（女性40～49歳）
- 医療に関しては、まずまず安心して子育てができと思うが、教育に関しては、何をしたいのかよくわからない。例えば小中連携をうたっているが指定校として違う学校が指定されるなど、ちぐはぐな面が見受けられる。（男性50～59歳）
- いじめ対策が不十分であるため、安心して子育てができない。（女性50～59歳）
- 中心部から離れているため、子育ての情報が少ない。子どもの減少に比例して、子育ての情報を共有する機会も少なくなっている。（女性50～59歳）
- 保育所、幼稚園が少ない。共稼ぎへの支援がうすい。（男性60～64歳）
- 民間企業で働くひとり親、共働きの方が保育のことで困っていると聞く。行政側は実情をわかっていないのではないかとつくづくと思う。（男性65歳以上）

(18) 市民協働の進捗状況

◇《《そう思う》が5割強

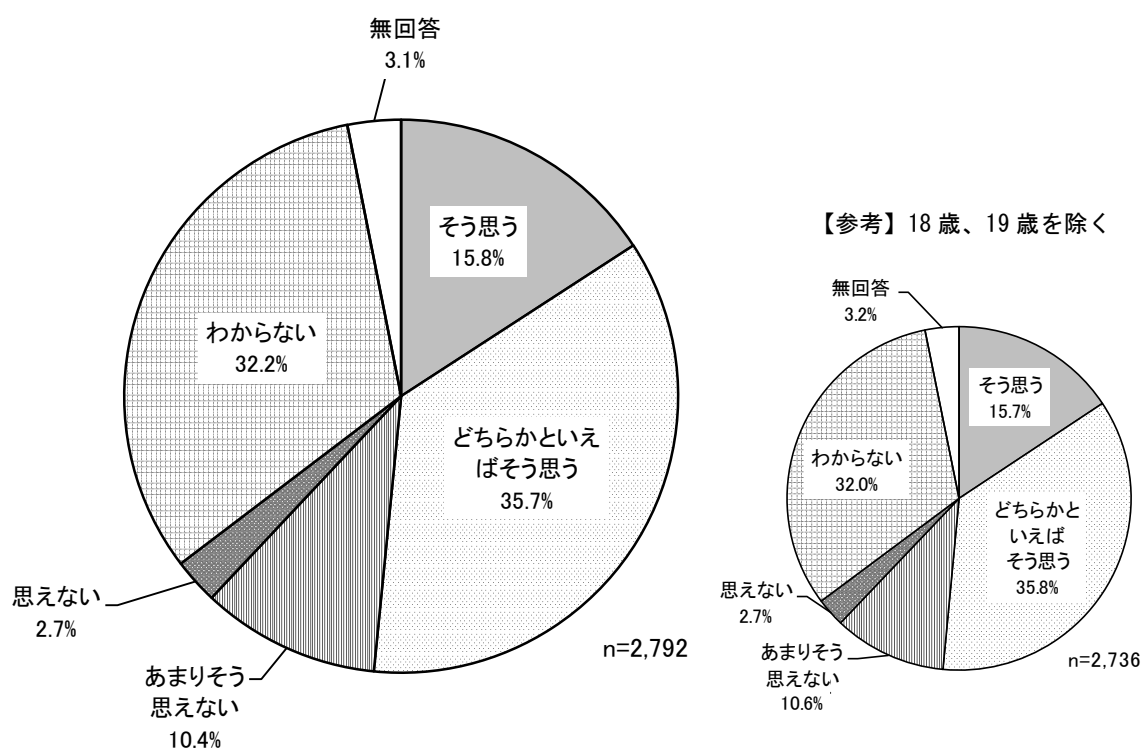
問23 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。(〇は1つだけ)

※市民協働の活動とは・・・

- 八王子まつり、いちょう祭りなどへの支援や協力、また環境フェスティバルなどのイベントを市民と協力して開催
- 町会等が行う防犯・防災活動や環境美化活動などに対する支援や協力
- 公園や道路の維持活動（清掃や除草などのボランティア活動）を地域の住民の方に担っていただくアドプト制度の運営
- 各種審議会や市の計画策定に際して参加いただく市民委員の公募
- 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント（意見公募）の実施

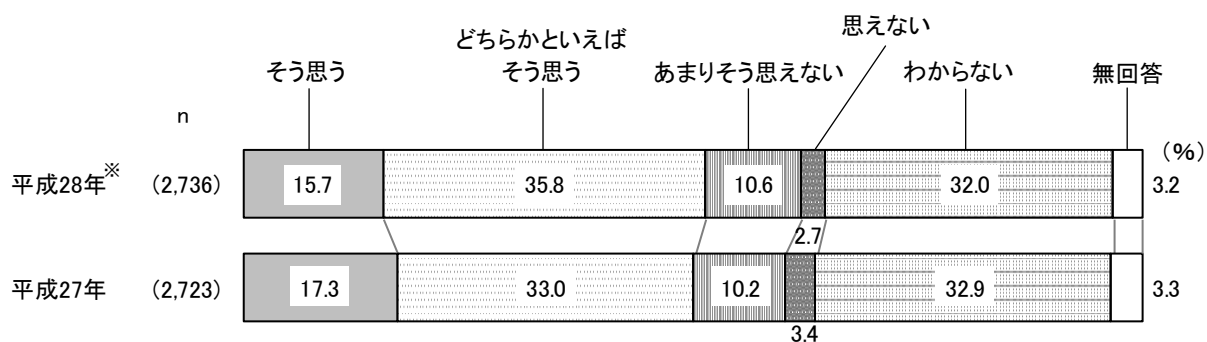
など

図3-18-1 市民協働の進捗状況－全体



市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うか聞いたところ、「そう思う」(15.8%)と「どちらかといえばそう思う」(35.7%)を合わせた《《そう思う》》(51.5%)が5割強となっている。一方、「あまりそう思えない」(10.4%)と「思えない」(2.7%)を合わせた《《そう思えない》》(13.1%)が1割強となっている。(図3-18-1)

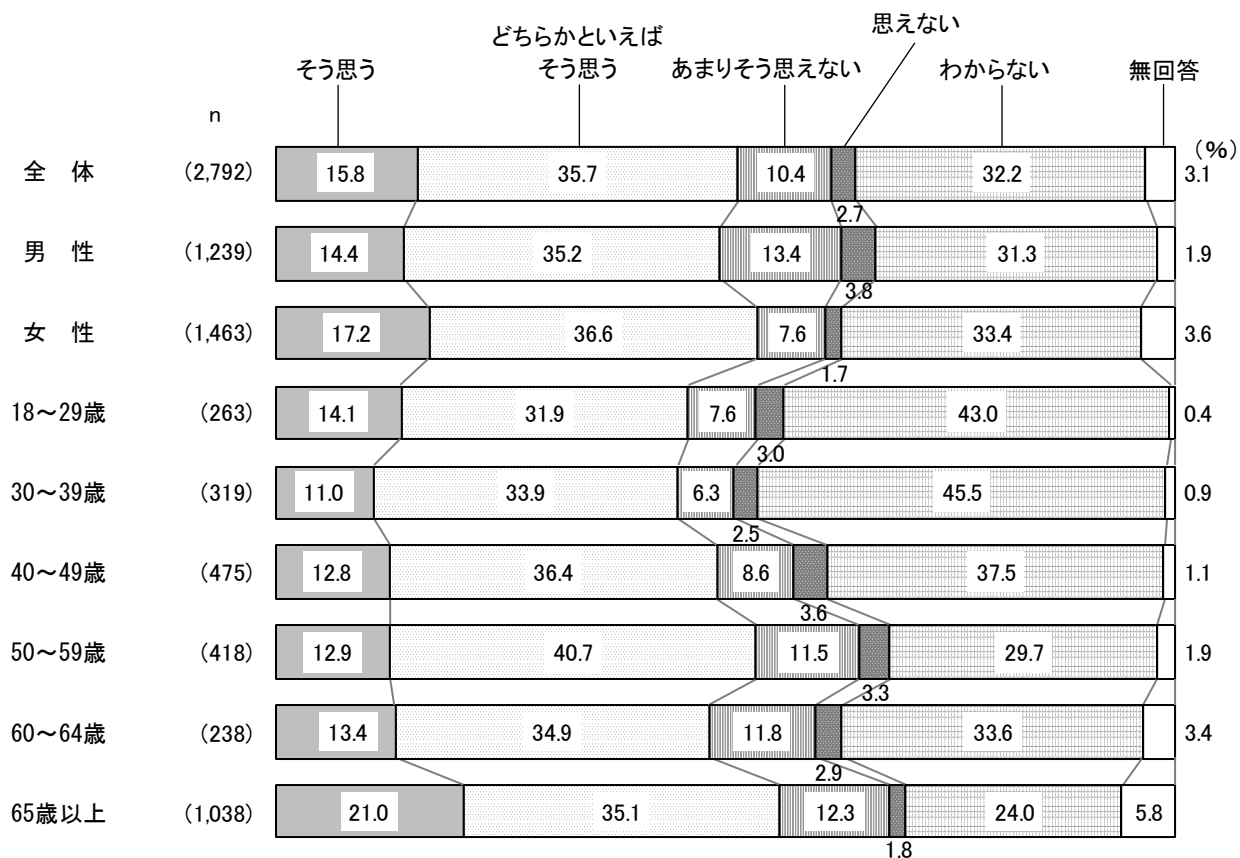
図 3-18-2 市民協働の進捗状況－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」は、平成27年（33.0%）より2.8ポイント増加している。（図 3-18-2）

図 3-18-3 市民協働の進捗状況－性別、年齢別

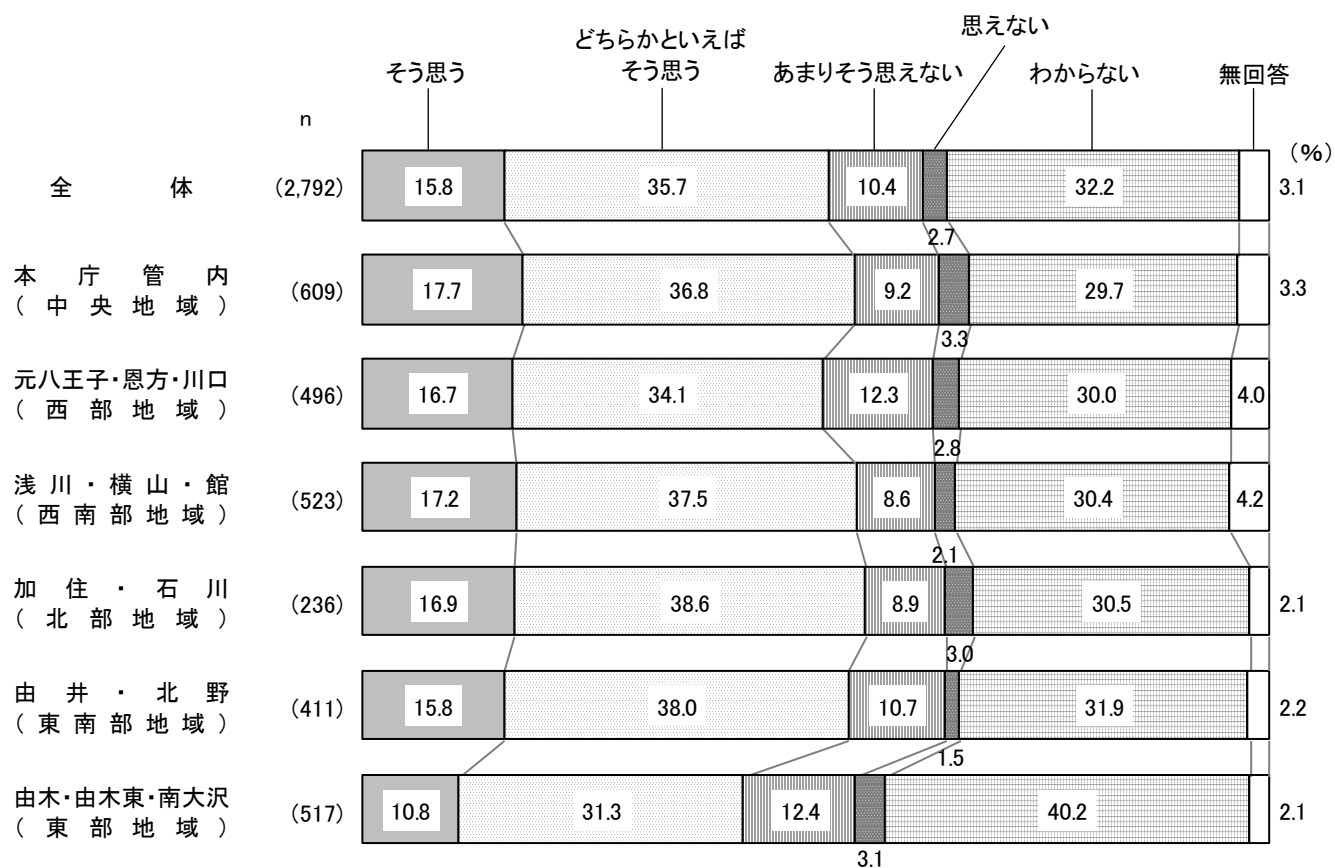


性別にみると、「そう思う」は女性（53.8%）が男性（49.6%）より4.2ポイント高くなっている。一方、「そう思えない」は男性（17.2%）が女性（9.3%）より7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は65歳以上（56.1%）で6割近くと多くなっている。

（図 3-18-3）

図 3-18-4 市民協働の進捗状況－居住地地域別



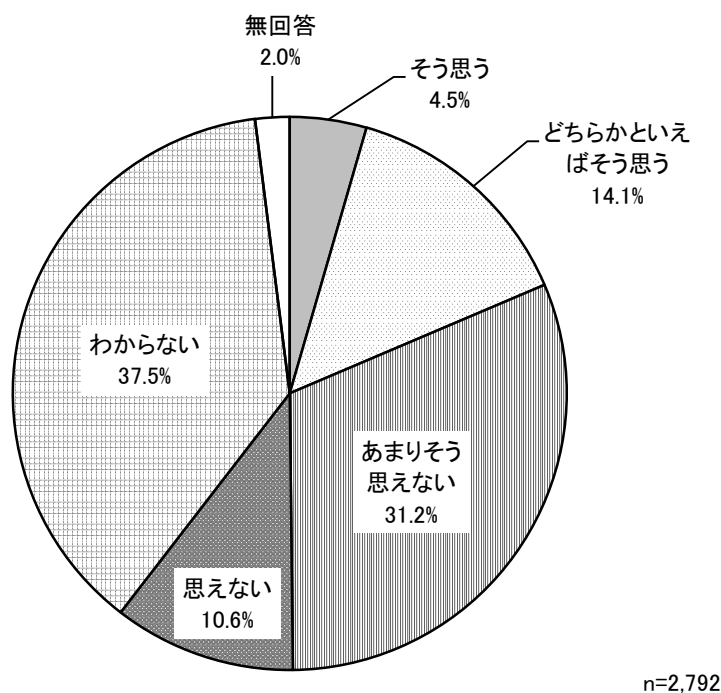
居住地地域別にみると、《そう思う》は加住・石川（北部地域）（55.5%）で最も多く 5 割台半ばとなっている。（図 3-18-4）

(19) 大学等のまちづくりへの活用

◇《《そう思う》が2割近く

問24 あなたは、市内およびその周辺地域に立地している大学・短大・高等専門学校（以下「大学等」とする）の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思いますか。（○は1つだけ）

図3-19-1 大学等のまちづくりへの活用－全体



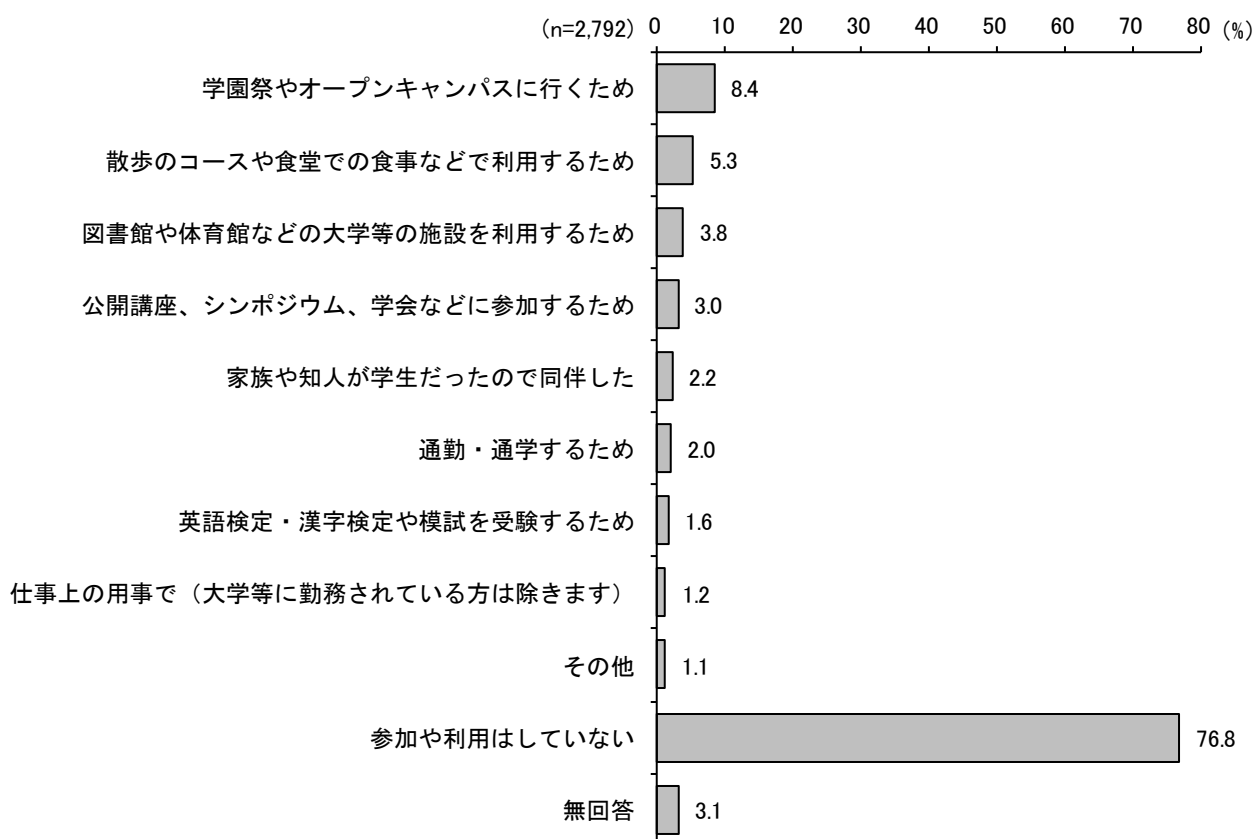
大学等の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」（4.5％）と「どちらかといえばそう思う」（14.1％）を合わせた《《そう思う》》（18.6％）が2割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」（31.2％）と「思えない」（10.6％）を合わせた《《そう思えない》》（41.8％）が4割強となっている。（図3-19-1）

(20) 1年間の大学等の利用状況

◇「参加や利用はしていない」が8割近く

問25 あなたはこの1年間に、次のような目的で市内およびその周辺地域に立地している大学等の行事への参加や施設の利用をしましたか。(○はいくつでも)

図3-20-1 1年間の大学等の利用状況－全体



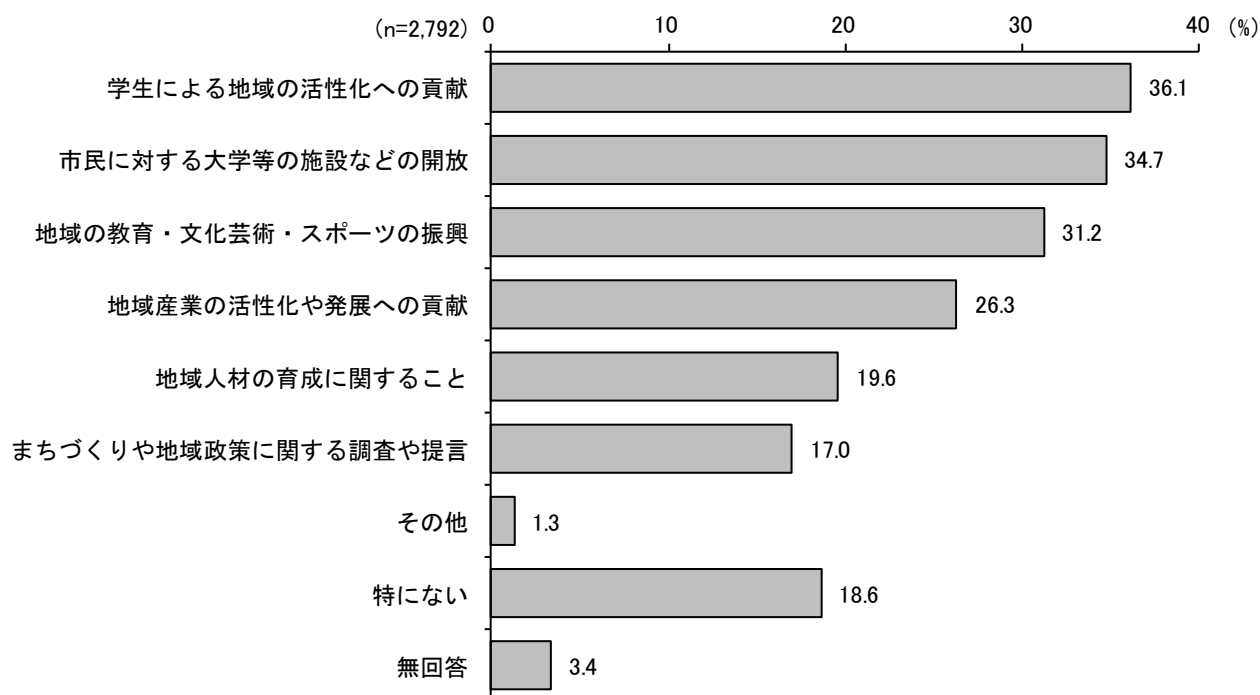
この1年間に、大学等の行事への参加や施設の利用をした目的を聞いたところ、「参加や利用はしていない」(76.8%)が8割近くとなっている。目的としては「学園祭やオープンキャンパスに行くため」(8.4%)、「散歩のコースや食堂での食事などで利用するため」(5.3%)、「図書館や体育館などの大学等の施設を利用するため」(3.8%)などとなっている。(図3-20-1)

(21) ふさわしいと思う大学等の地域への貢献の仕方

◇「学生による地域の活性化への貢献」が4割近く

問26 あなたは、大学等が地域にどのような形で貢献するのがふさわしいと思いますか。
(○は3つまで)

図3-21-1 ふさわしいと思う大学等の地域への貢献の仕方ー全体



大学等が地域にどのような形で貢献するのがふさわしいと思うか聞いたところ、「学生による地域の活性化への貢献」(36.1%)が最も多く4割近くとなっている。次いで「市民に対する大学等の施設などの開放」(34.7%)、「地域の教育・文化芸術・スポーツの振興」(31.2%)、「地域産業の活性化や発展への貢献」(26.3%)などの順となっている。(図3-21-1)

(22) 1年間の文化芸術活動への参加頻度

◇「半年に1～2回程度」が2割近く

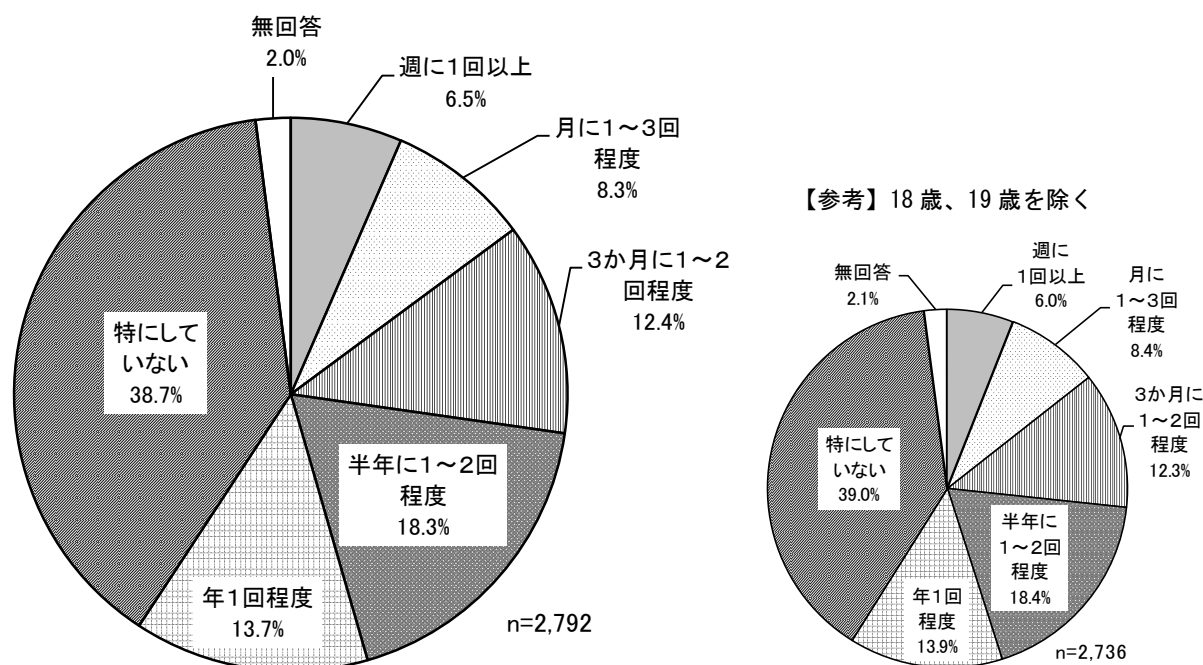
問27 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加（観賞も含みます）しましたか。（○は1つだけ）

※文化芸術活動とは・・・

- 音楽（オペラ、オーケストラ、合唱、吹奏楽、ジャズなど）
- ポップス（J-POP（日本の若者向けポピュラー音楽）など）
- 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）
- メディア芸術（映画、マンガ、アニメーション、メディアアートなど）
- 伝統芸能（歌舞伎、落語、車人形、雅楽、能楽など）
- 歴史的な建物や遺跡（建造物、史跡、名勝など）
- 文学（小説、詩、短歌、俳句など）
- 生活文化（茶道、華道、書道、囲碁、将棋など）
- 演劇（現代演劇、ミュージカル、人形劇など）
- 舞踊（日本舞踊、バレエ、コンテンポラリーダンスなど）
- 芸能（落語、講談、浪曲、漫才など）

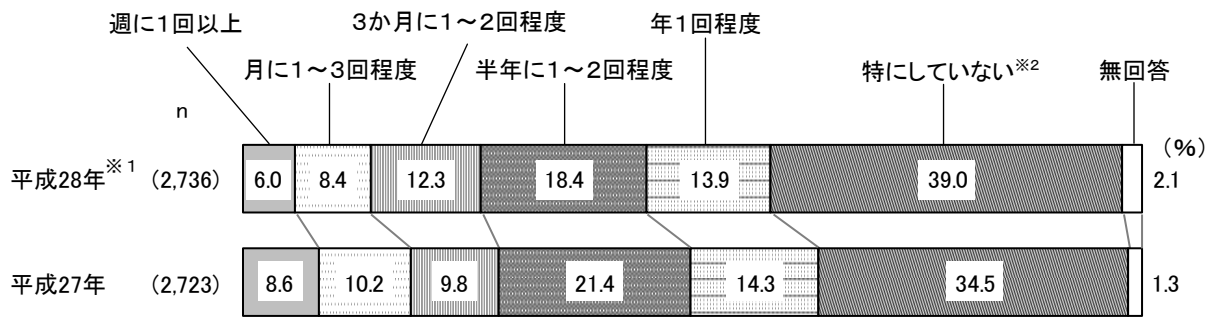
など

図3-22-1 1年間の文化芸術活動への参加頻度－全体



この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加したか聞いたところ、「半年に1～2回程度」（18.3%）が2割近く、「年1回程度」（13.7%）が1割強となっている。一方、「特にしていない」（38.7%）は4割近くとなっている（図3-22-1）

図 3-22-2 1 年間の文化芸術活動への参加頻度－経年比較

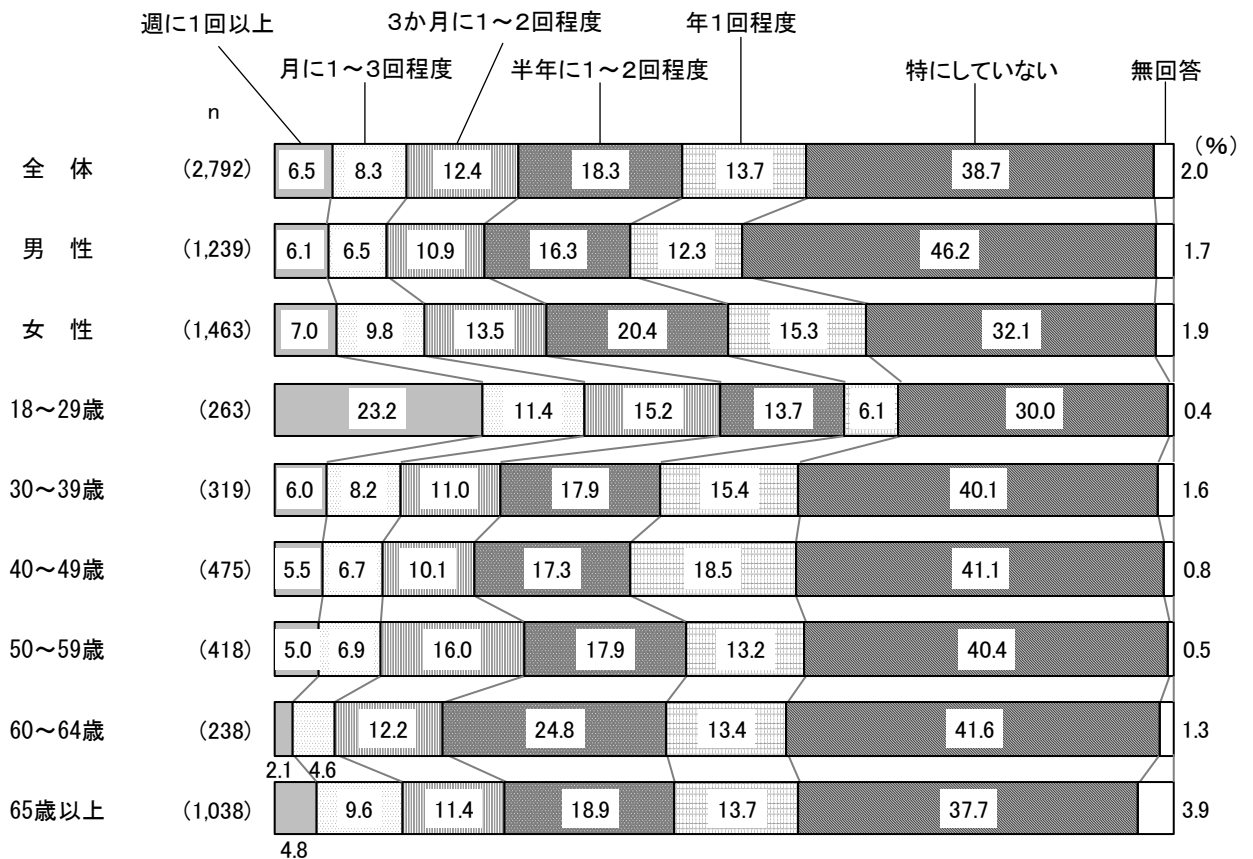


※1 経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

※2 平成27年の選択肢は「この1年間では特にしていない」

前回調査と比較すると、「特にしていない」は、平成27年（34.5%）より4.5ポイント増加している。（図 3-22-2）

図 3-22-3 1 年間の文化芸術活動への参加頻度－性別、年齢別

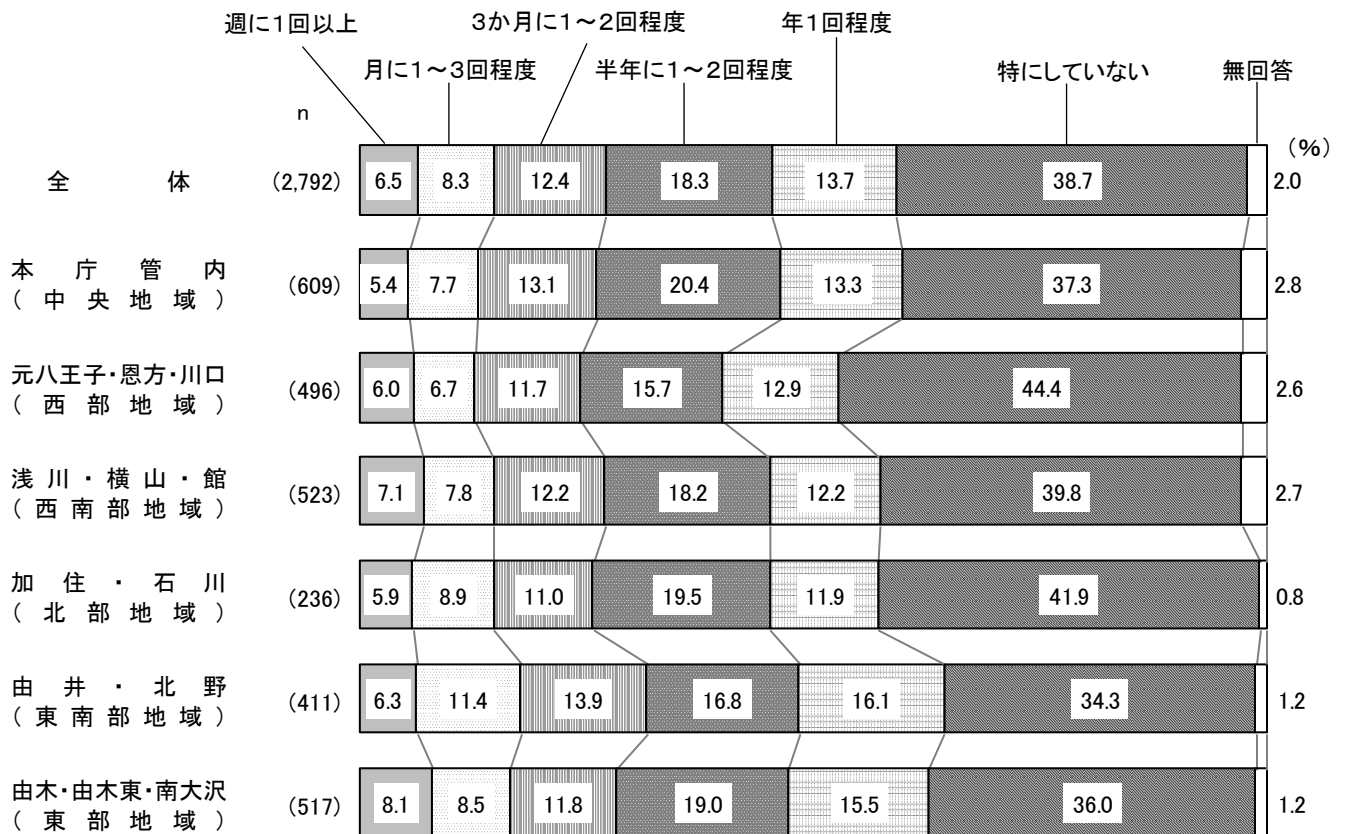


性別にみると、「特にしていない」は男性（46.2%）が女性（32.1%）より14.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「週に1回以上」は18～29歳（23.2%）で2割強と多くなっている。

（図 3-22-3）

図3-22-4 1年間の文化芸術活動への参加頻度－居住地地域別



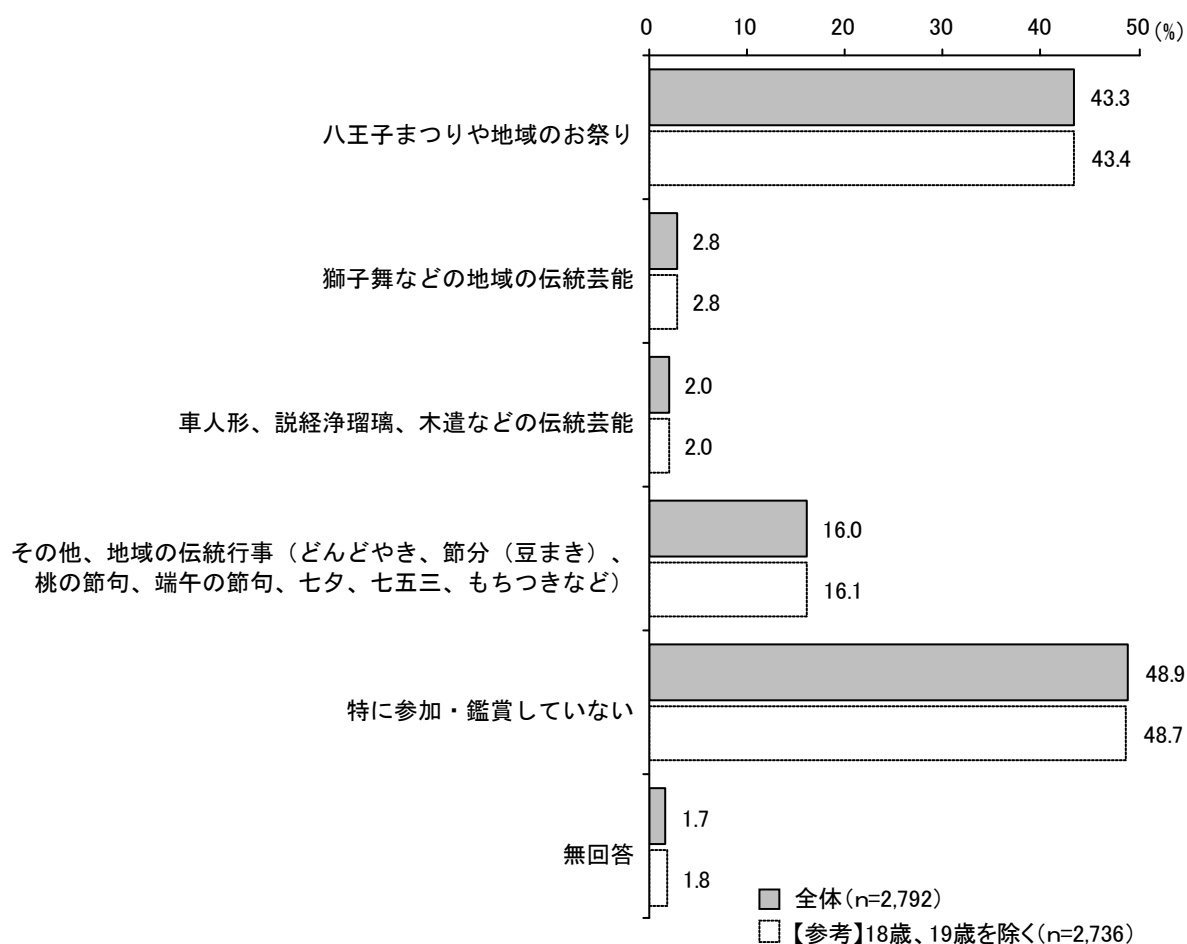
居住地地域別にみると、「特にしていない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（44.4%）で最も多く4割台半ばとなっている。（図3-22-4）

(23) 1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況

◇「八王子まつりや地域のお祭り」が4割強

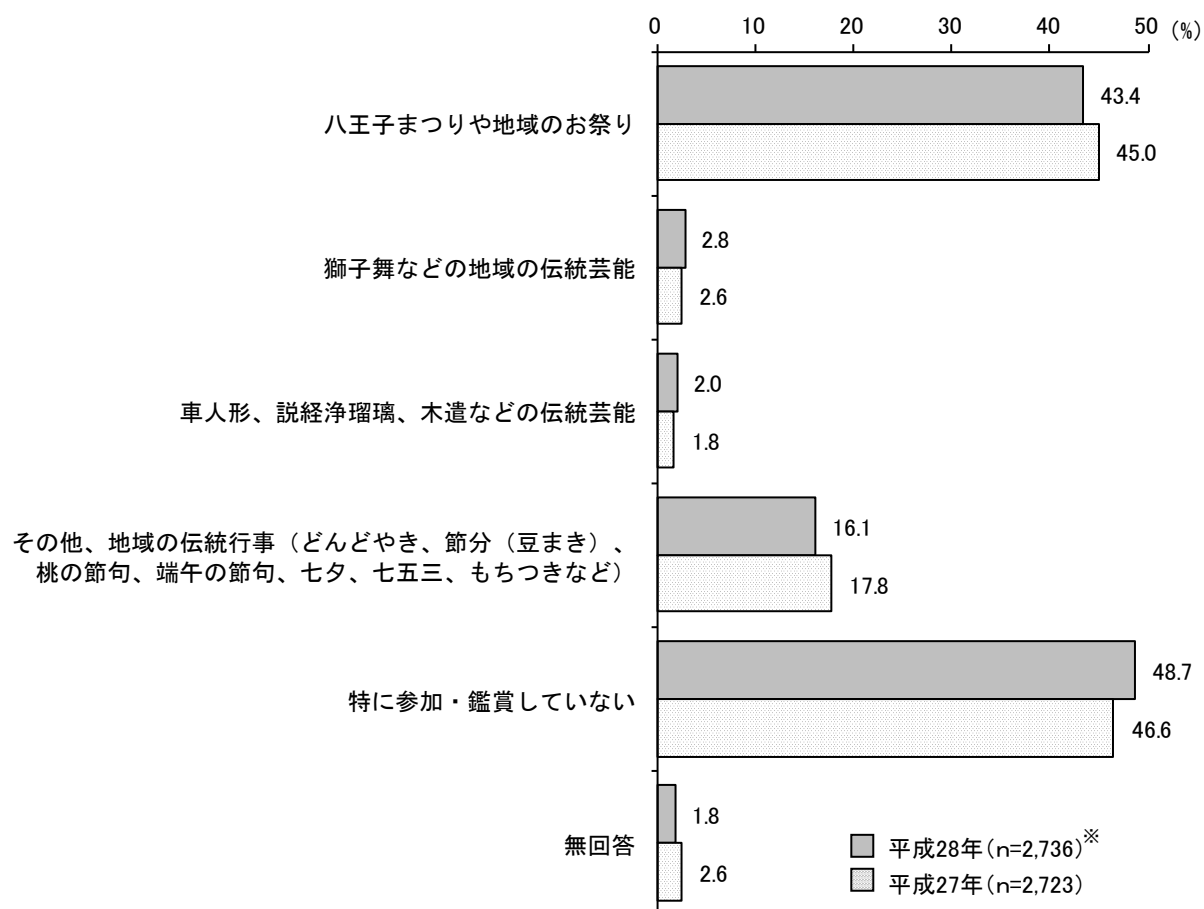
問28 あなたは、この1年間に次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含みます）しましたか。（○はいくつでも）

図3-23-1 1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－全体



この1年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加したか聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」（43.3%）が4割強となっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」（48.9%）が最も多く5割近くとなっている。（図3-23-1）

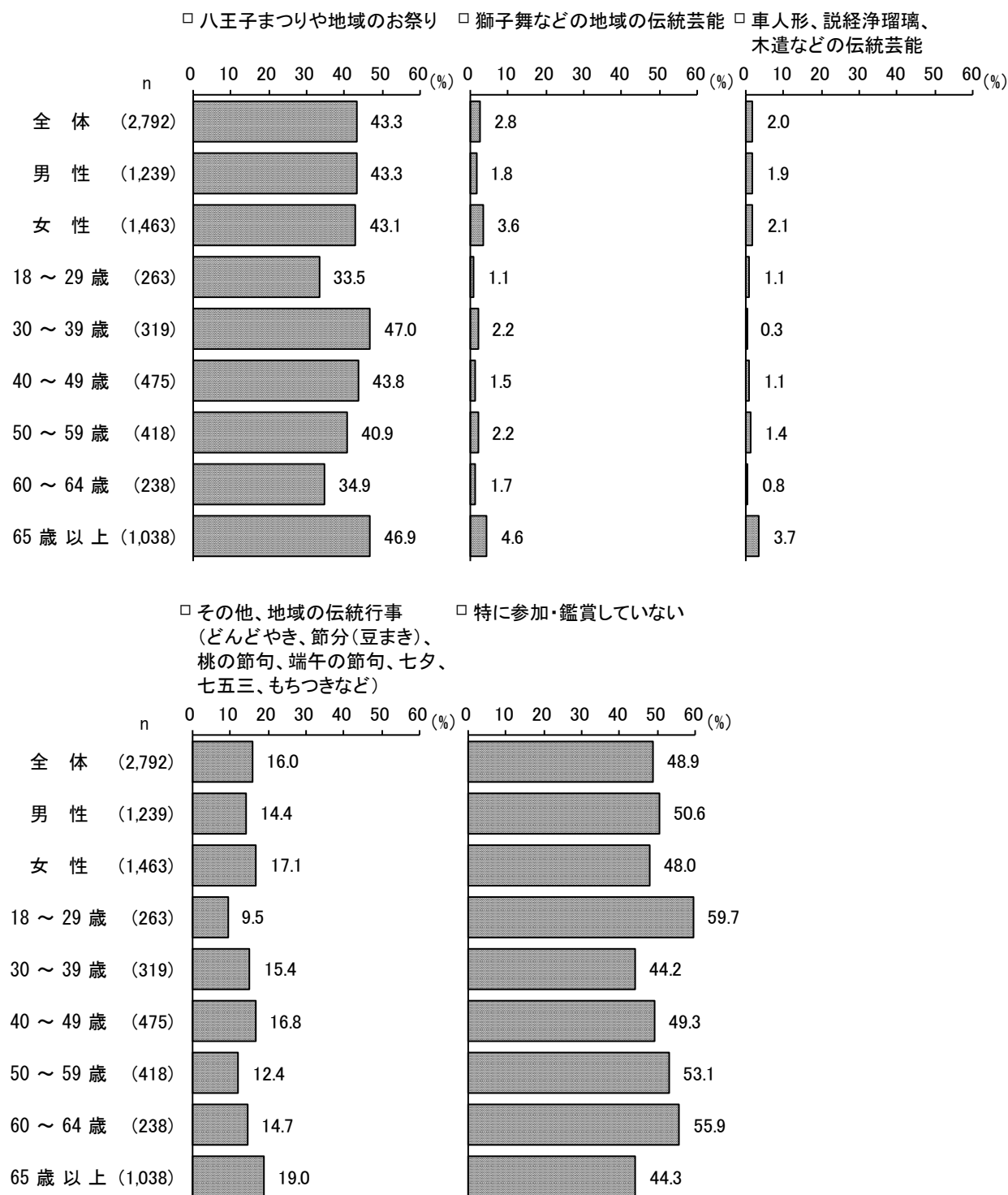
図 3-23-2 1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「特に参加・鑑賞していない」は、平成27年（46.6%）より2.1ポイント増加している。（図 3-23-2）

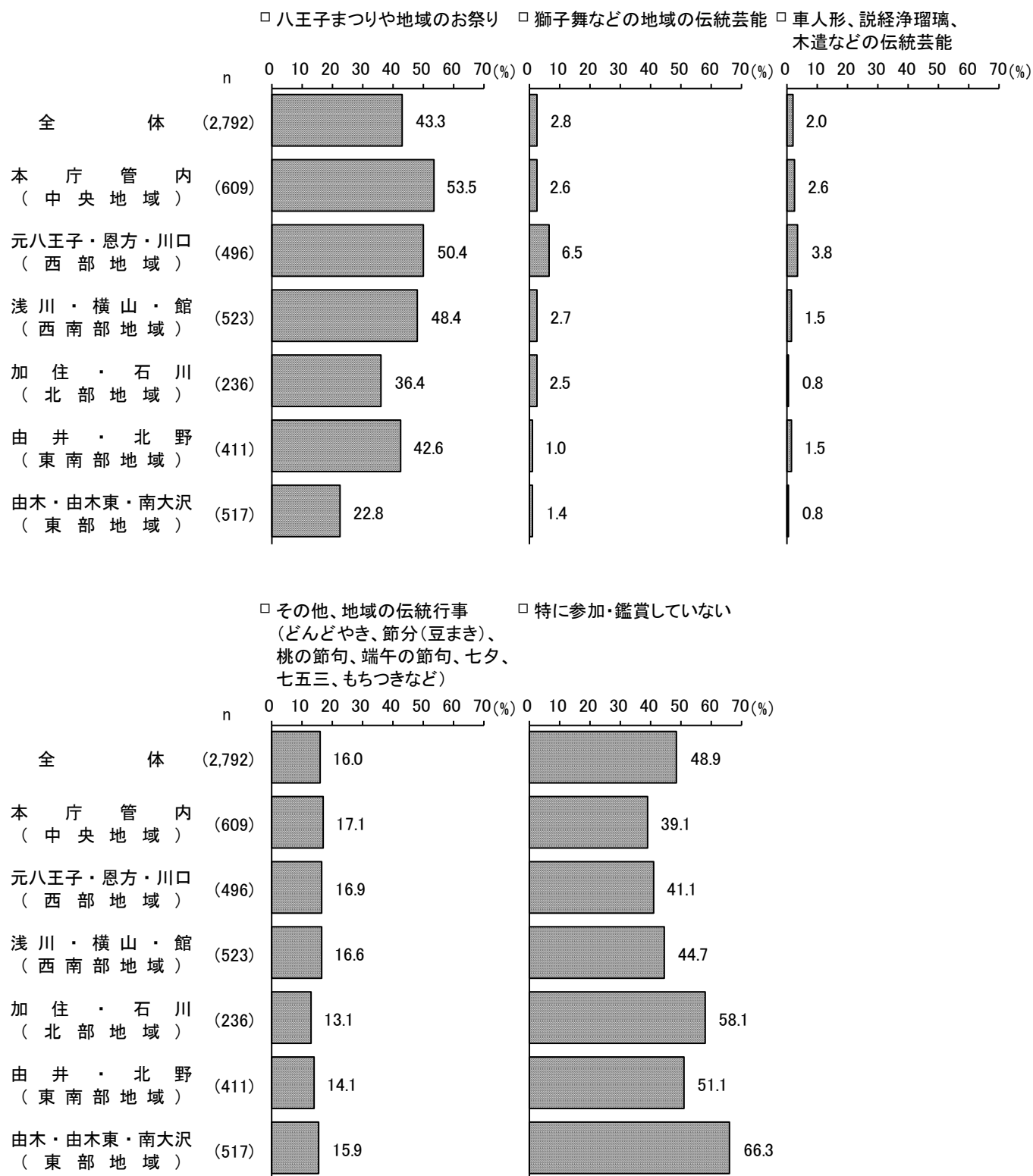
図 3-23-3 1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「特に参加・鑑賞していない」は18～29歳（59.7%）で最も多く6割弱となっている。（図3-23-3）

図3-23-4 1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－居住地域別



居住地域別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は本庁管内（中央地域）（53.5％）で5割強と多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（66.3％）で7割近くと多くなっている。（図3-23-4）

(24) 障害のある方への理解や配慮

◇《している》7割強

問29 あなたは日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしていますか。

(○は1つだけ)

※「適切な配慮」とは・・・

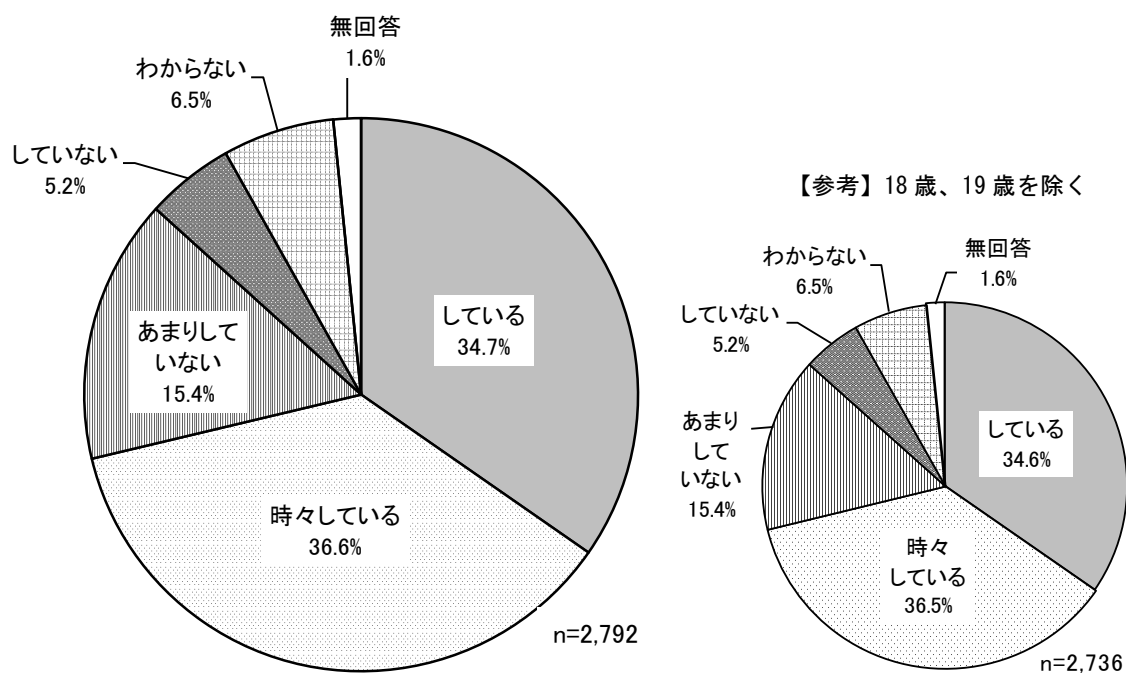
○困っている様子の方を見かけたら、声をかける。

○ゆっくりわかりやすく話したり、筆談など障害特性に応じたわかりやすいコミュニケーションの方法に心配りする。

○優先席、思いやり駐車スペース、点字ブロックなどを必要としている方の妨げにならないように配慮する。(聴覚障害、内部障害、難病など、外見からは障害がわかりにくい方々もいます。)

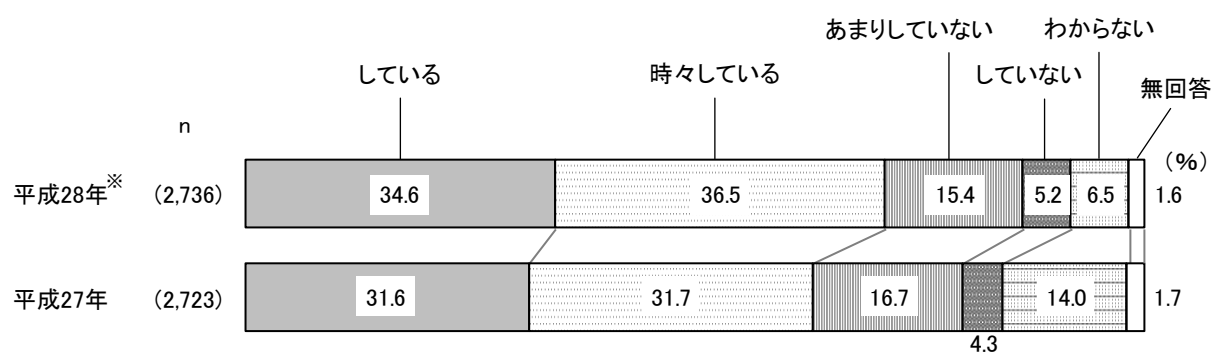
など

図3-24-1 障害のある方への理解や配慮－全体



日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしているか聞いたところ、「している」(34.7%)と「時々している」(36.6%)を合わせた《している》(71.3%)は7割強となっている。一方、「あまりしていない」(15.4%)と「していない」(5.2%)を合わせた《していない》(20.6%)は約2割となっている。(図3-24-1)

図 3-24-2 障害のある方への理解や配慮－経年比較

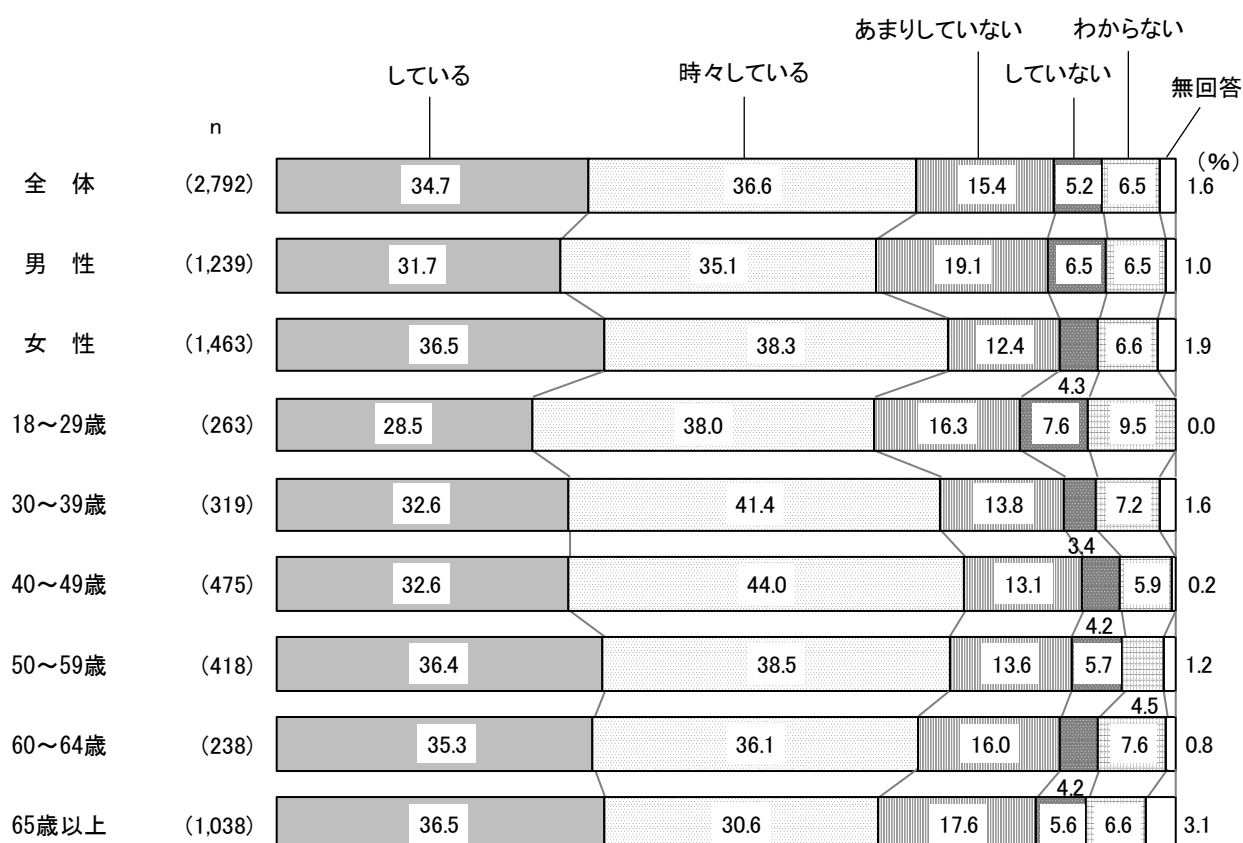


※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「《している》」は、平成27年（63.3%）より7.8ポイント増加している。

（図 3-24-2）

図 3-24-3 障害のある方への理解や配慮－性別、年齢別

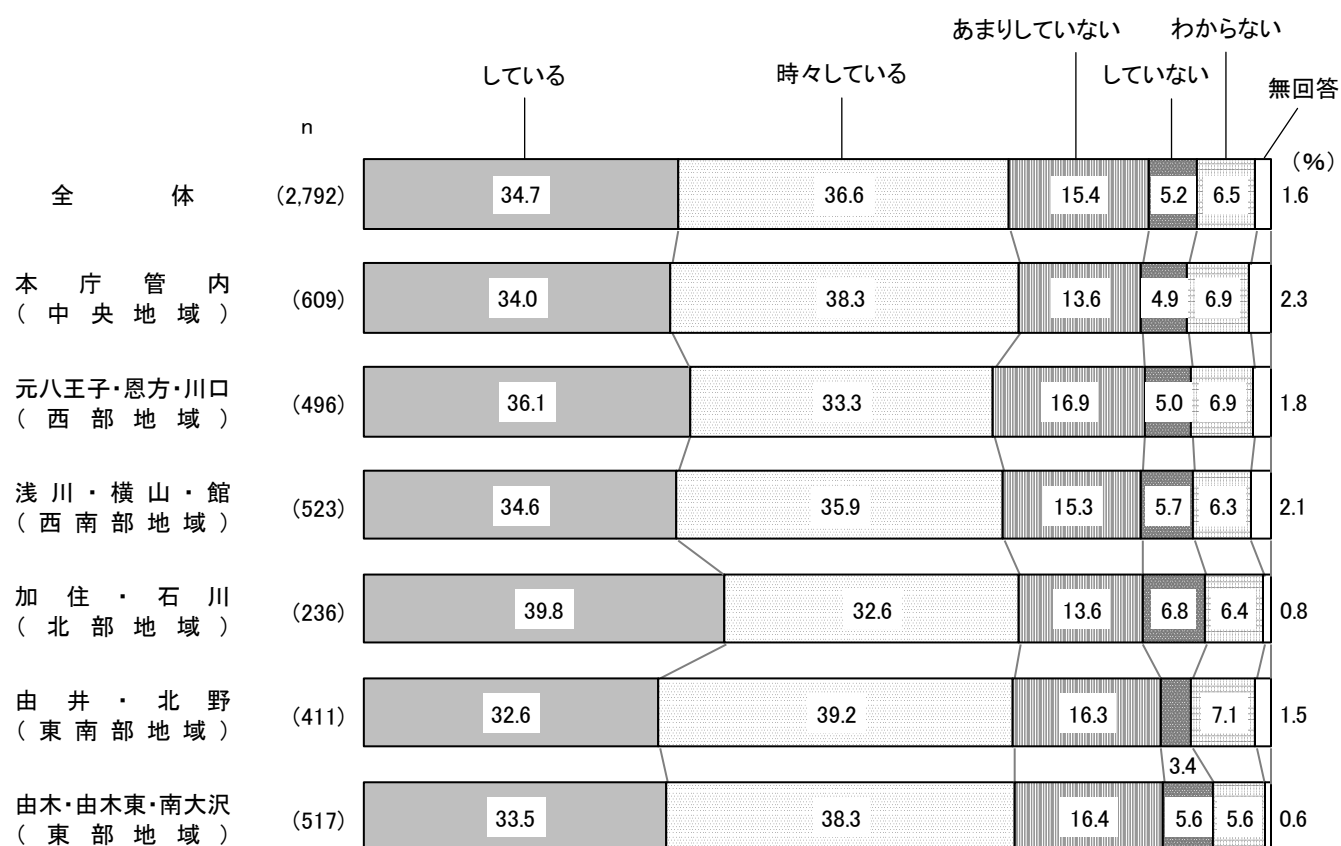


性別にみると、「《している》」は女性（74.8%）が男性（66.8%）より8.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「《していない》」は18～29歳（23.9%）で2割強と多くなっている。

（図 3-24-3）

図 3-24-4 障害のある方への理解や配慮－居住地域別



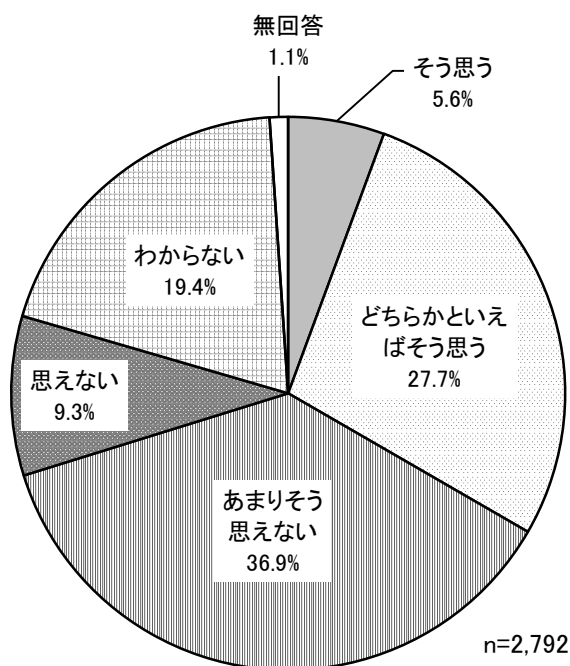
居住地域別にみると、「している」は加住・石川（北部地域）（39.8%）で最も多く 4 割弱となっている。（図 3-24-4）

(25) 誰もが安全で快適に暮らせるまち

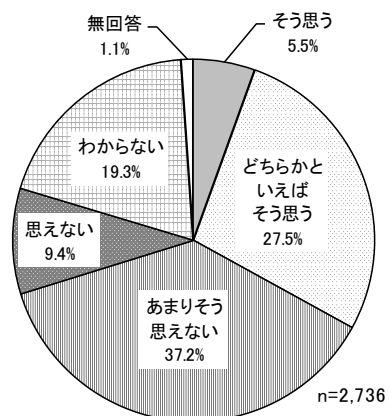
◇《《そう思う》が3割強

問30 あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-25-1 誰もが安全で快適に暮らせるまち－全体

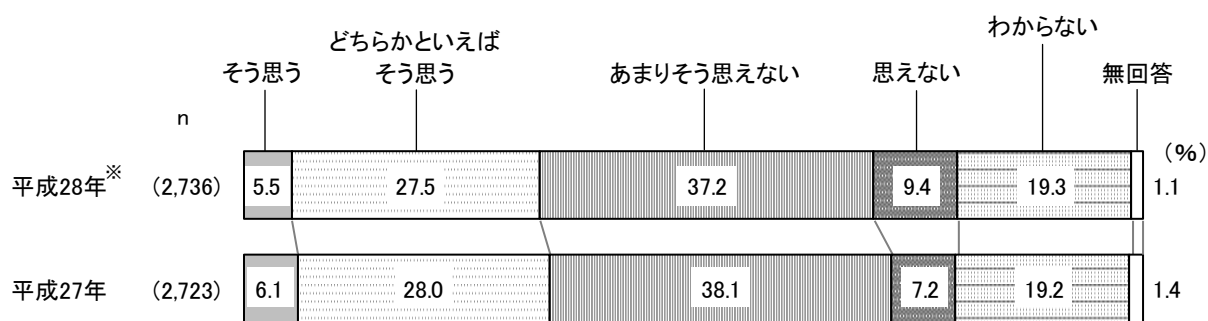


【参考】18歳、19歳を除く



市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.6%)と「どちらかといえばそう思う」(27.7%)を合わせた《《そう思う》》(33.3%)が3割強となっている。一方、「あまりそう思えない」(36.9%)と「思えない」(9.3%)を合わせた《《そう思えない》》(46.2%)が5割近くとなっている。(図3-25-1)

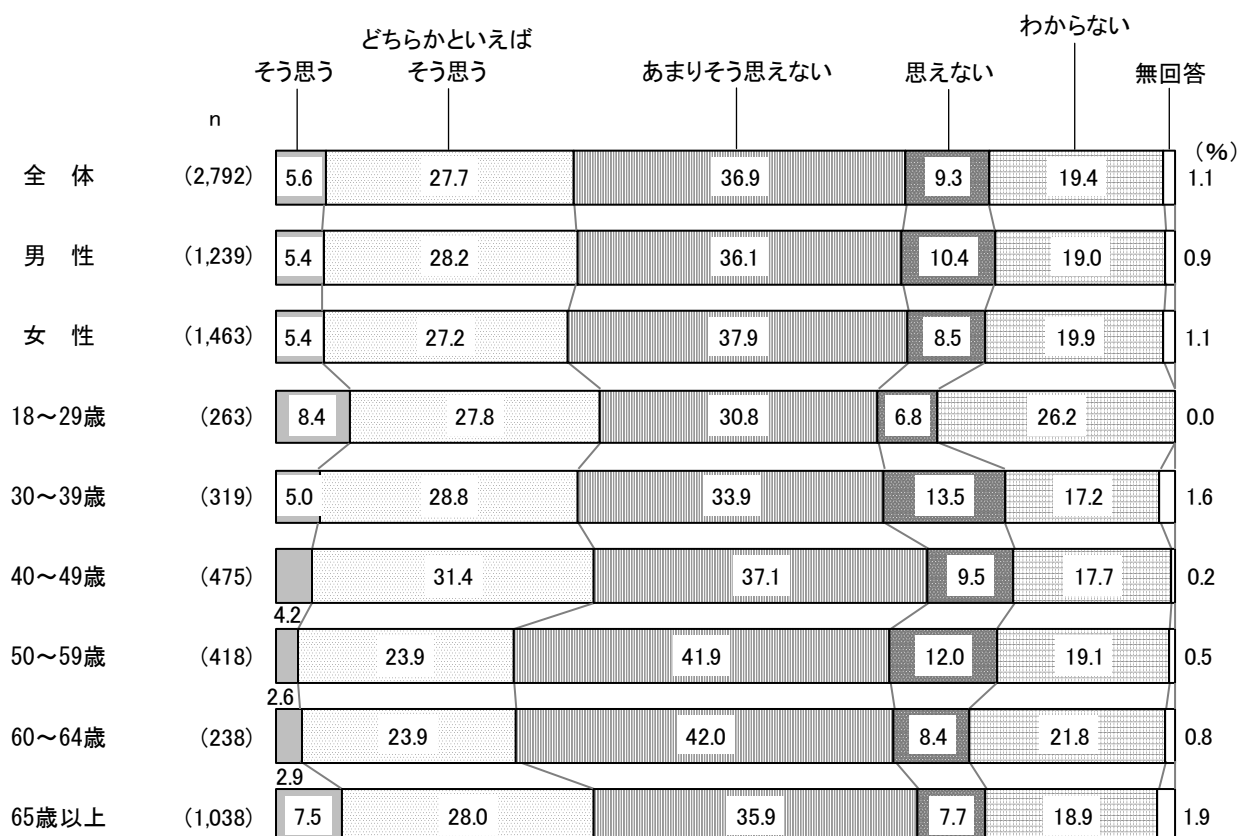
図 3-25-2 誰もが安全で快適に暮らせるまち一経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-25-2)

図 3-25-3 誰もが安全で快適に暮らせるまち一性別、年齢別

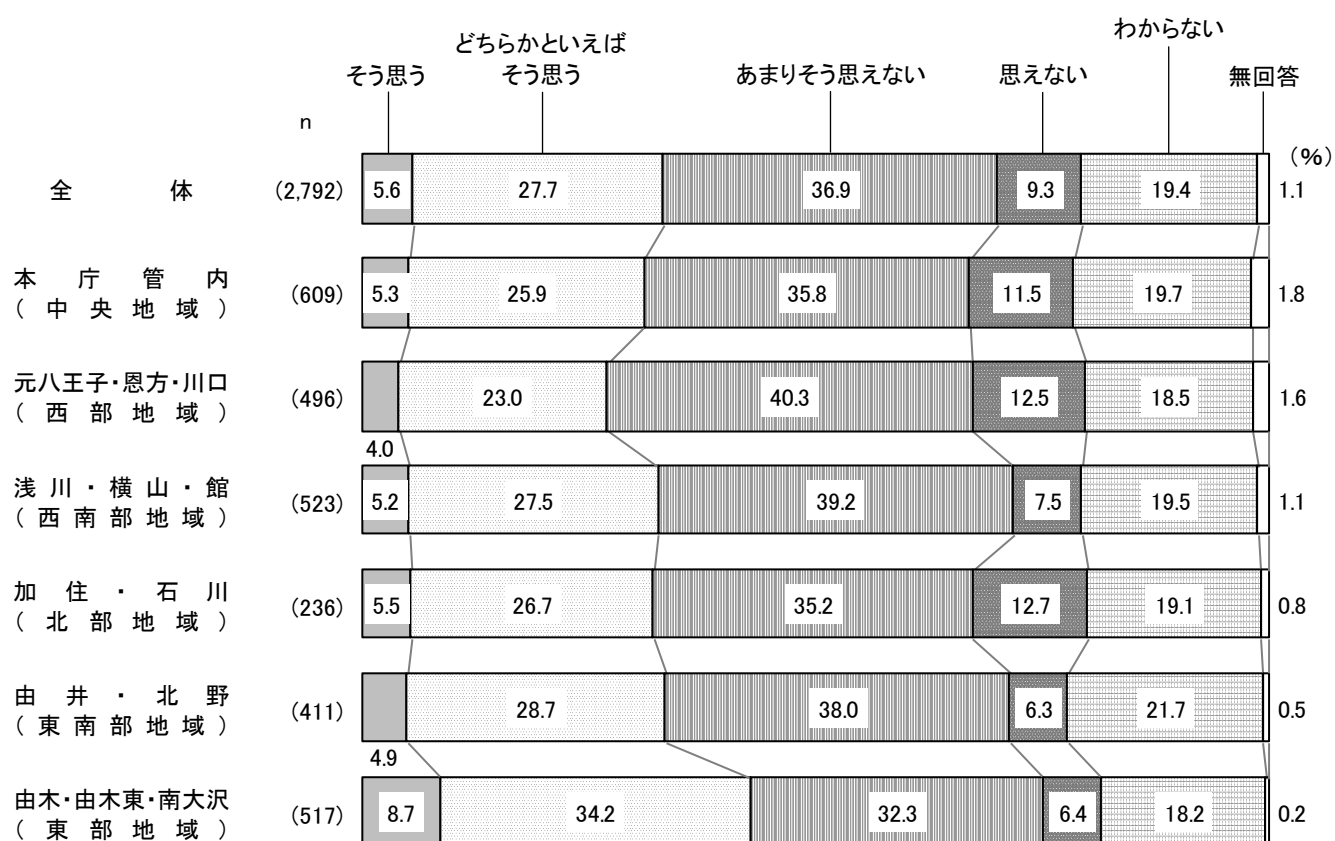


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「そう思えない」は50～59歳（53.9%）で5割強と多くなっている。

(図 3-25-3)

図 3-25-4 誰もが安全で快適に暮らせるまち—居住地域別



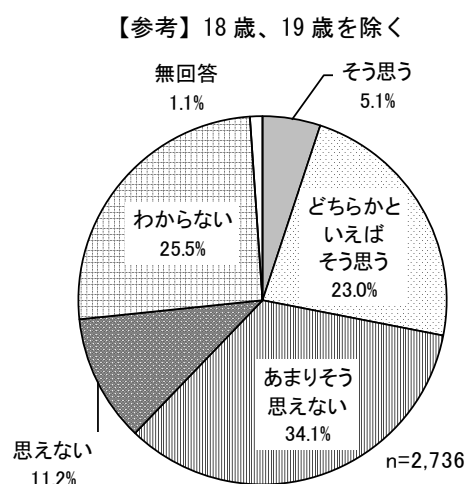
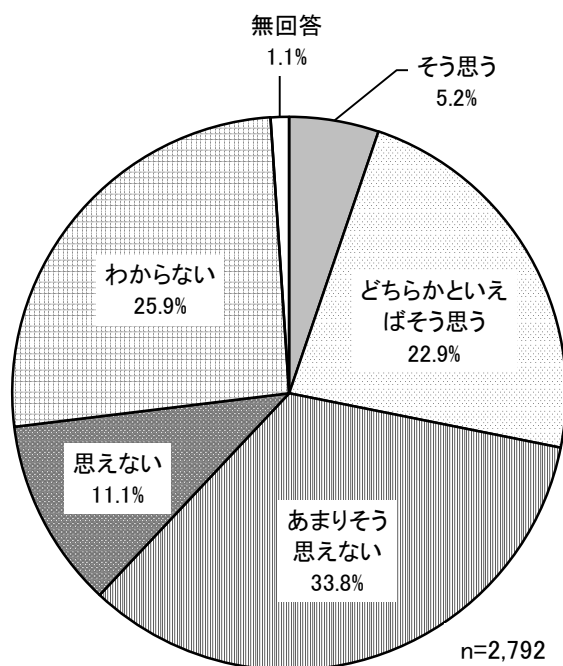
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（42.9%）で最も多く4割強となっている。（図3-25-4）

(26) 市内の交通渋滞緩和

◇《《そう思う》が3割近く

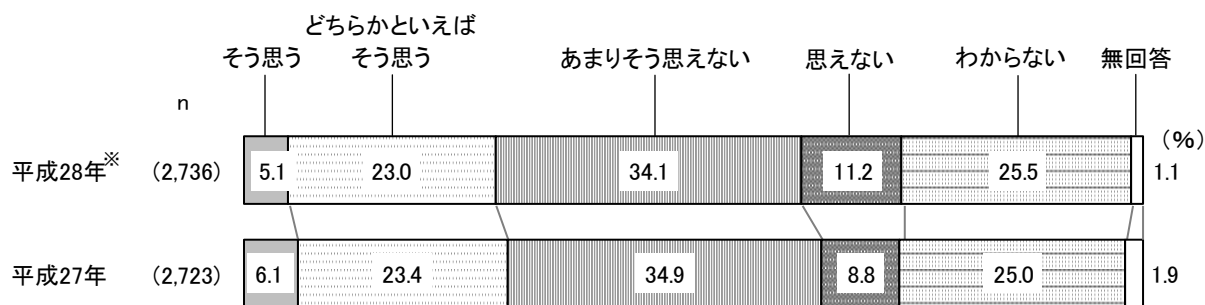
問31 あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-26-1 市内の交通渋滞緩和—全体



市内の交通渋滞が緩和されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.2%)と「どちらかといえばそう思う」(22.9%)を合わせた《《そう思う》》(28.1%)が3割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」(33.8%)と「思えない」(11.1%)を合わせた《《そう思えない》》(44.9%)が4割台半ばとなっている。(図3-26-1)

図 3-26-2 市内の交通渋滞緩和一経年比較

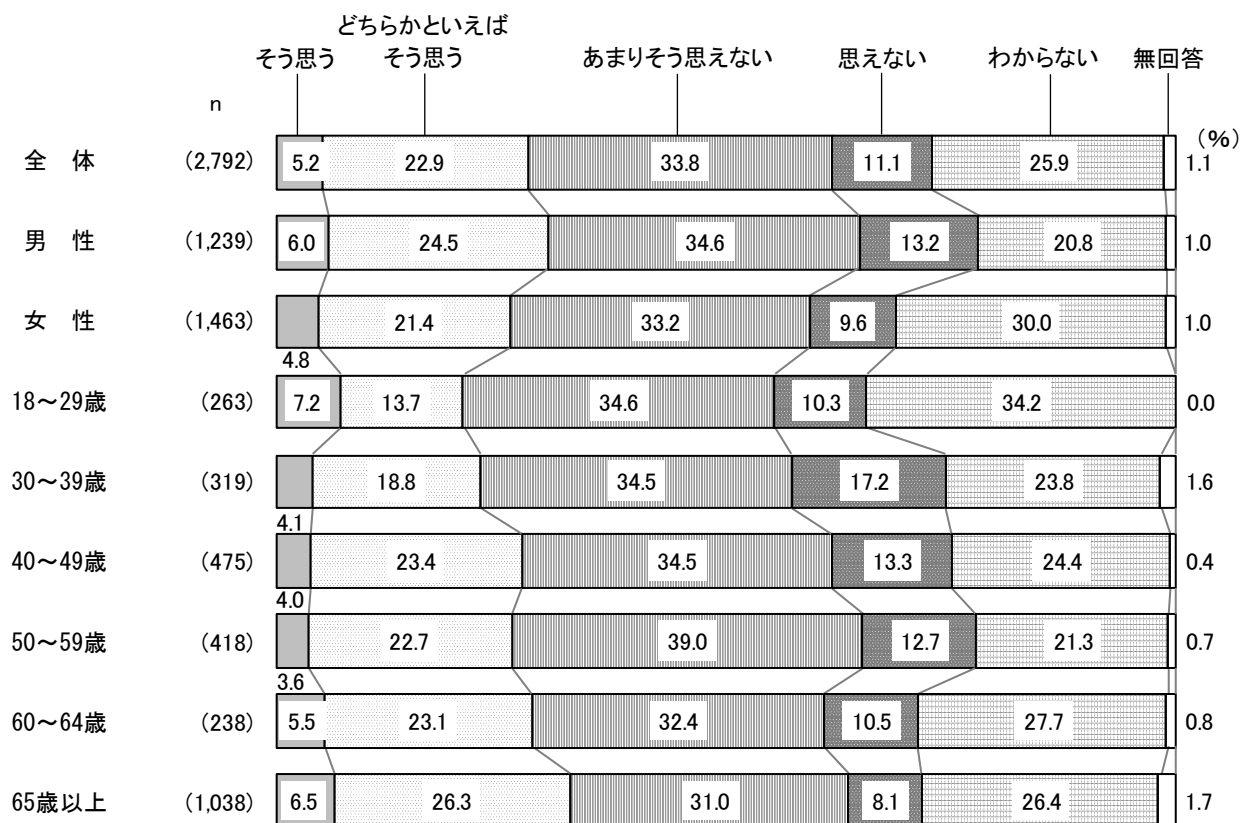


※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「思えない」は、平成27年（8.8%）より2.4ポイント増加している。

（図 3-26-2）

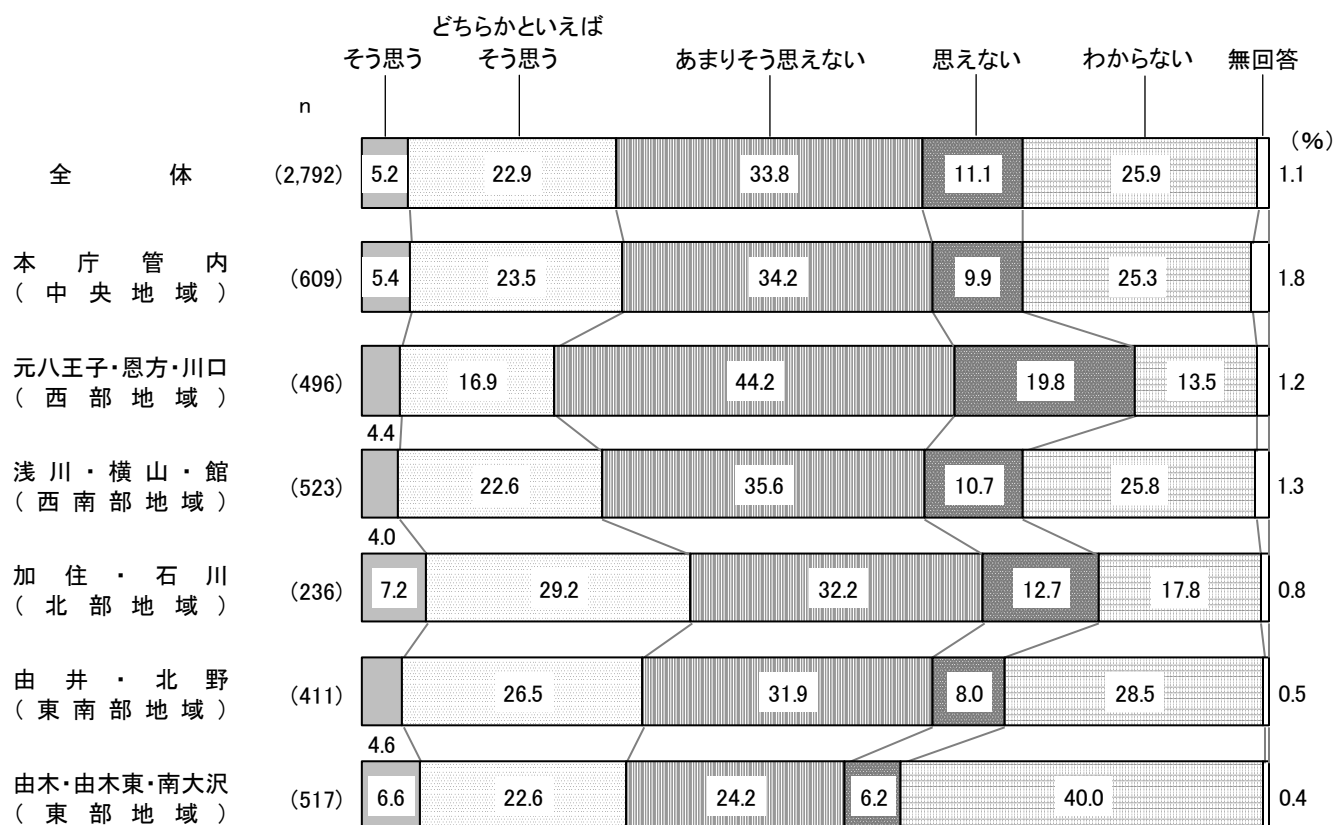
図 3-26-3 市内の交通渋滞緩和一性別、年齢別



性別にみると、「思えない」は男性（13.2%）が女性（9.6%）より3.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「あまりそう思えない」は30～39歳（51.7%）と50～59歳（51.7%）で5割強と多くなっている。（図 3-26-3）

図 3-26-4 市内の交通渋滞緩和—居住地地域別



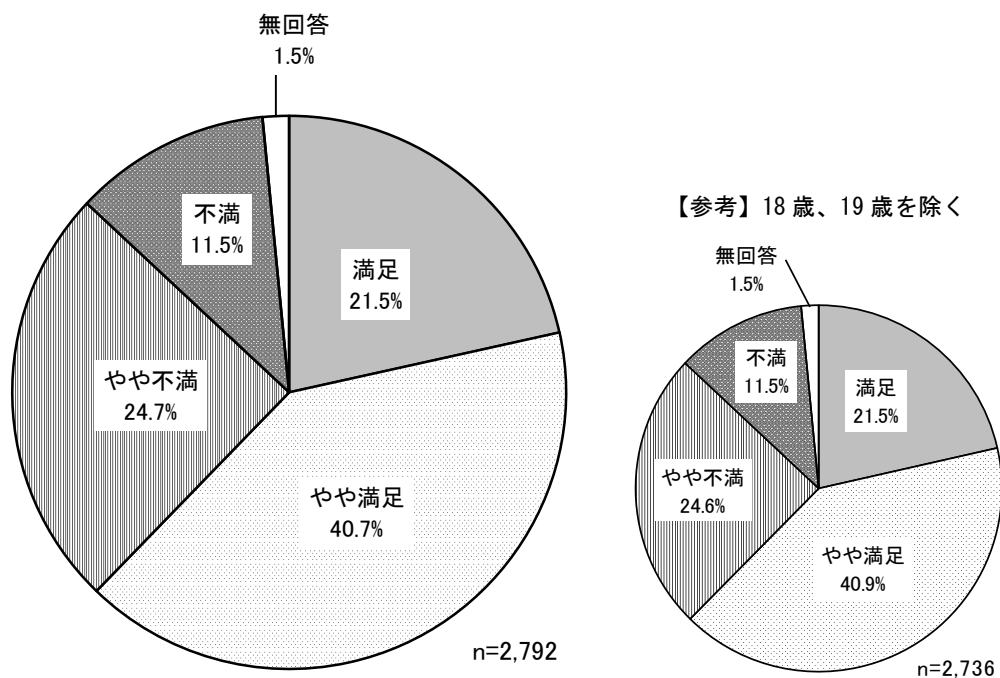
居住地地域別にみると、《そう思えない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（64.0%）で最も多く 6 割台半ばとなっている。（図 3-26-4）

(27) 公共交通の利便性の満足度

◇《満足》が6割強

問32 あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（○は1つだけ）

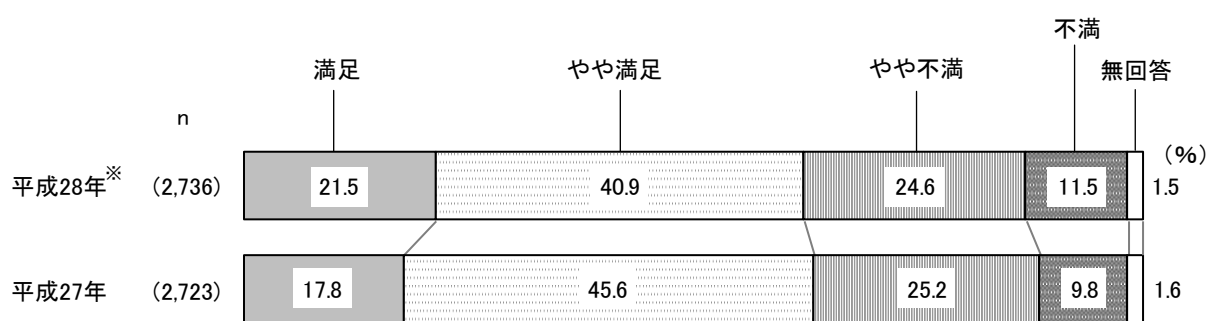
図3-27-1 公共交通の利便性の満足度－全体



地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足しているか聞いたところ、「満足」（21.5%）と「やや満足」（40.7%）を合わせた《満足》（62.2%）が6割強となっている。一方、「やや不満」（24.7%）と「不満」（11.5%）を合わせた《不満》（36.2%）が4割近くとなっている。

（図3-27-1）

図 3-27-2 公共交通の利便性の満足度－経年比較

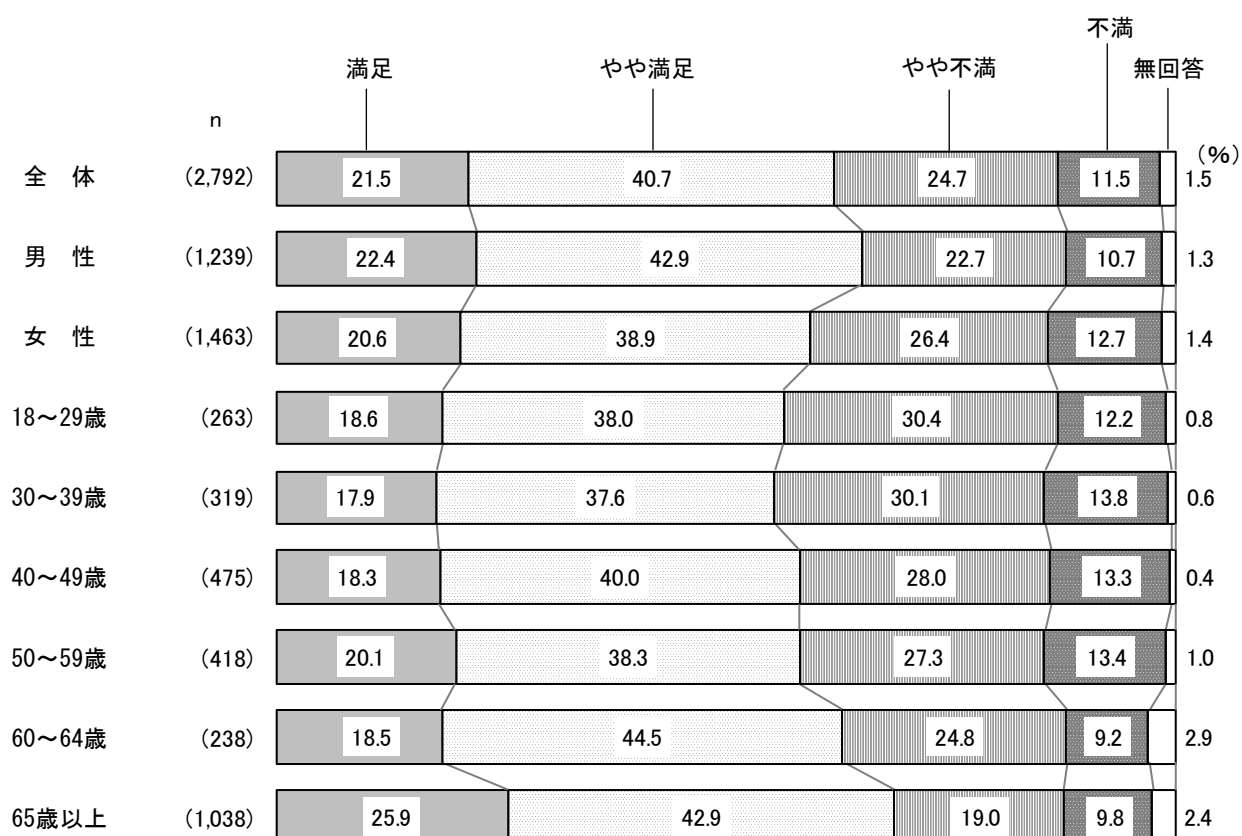


※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「満足」は、平成27年（17.8%）より3.7ポイント増加している。

（図 3-27-2）

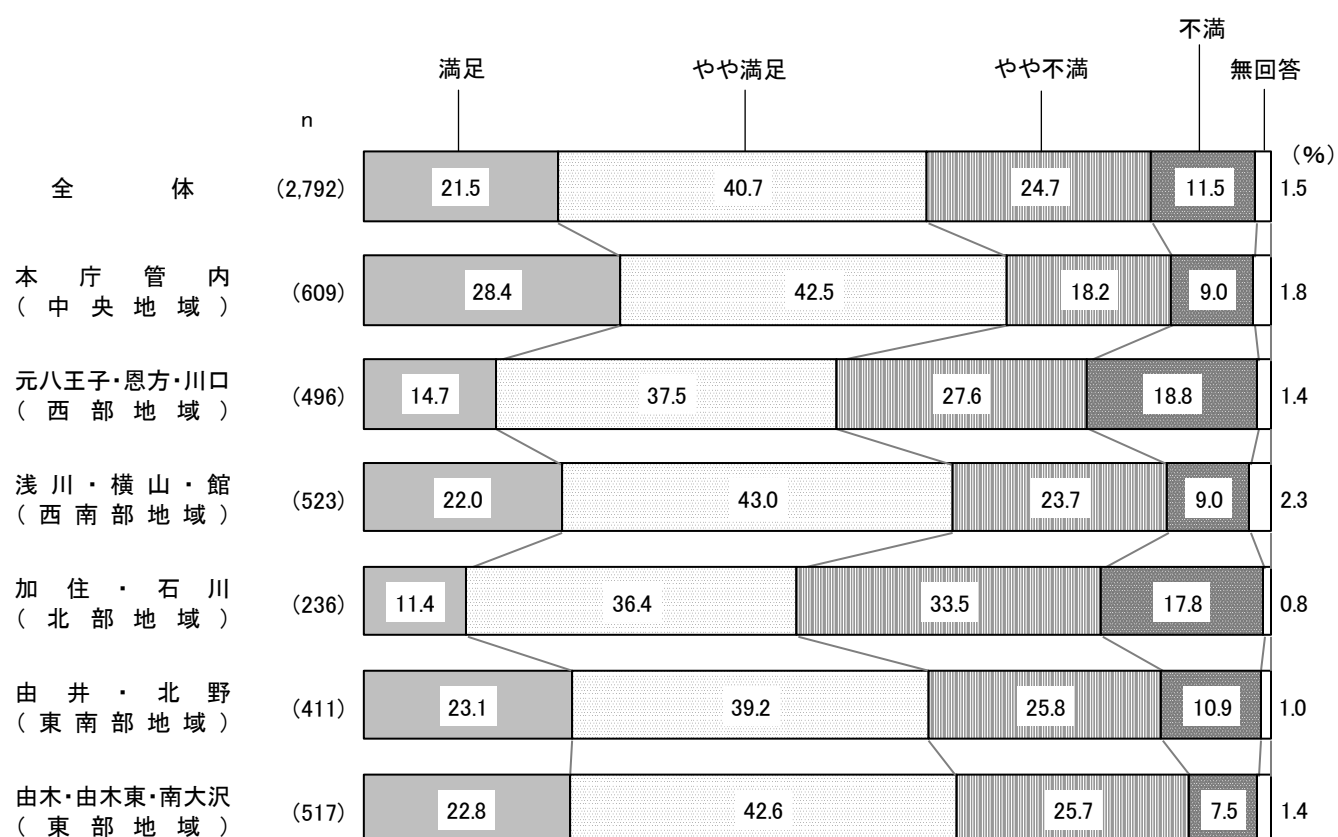
図 3-27-3 公共交通の利便性の満足度－性別、年齢別



性別にみると、「満足」は男性（65.3%）が女性（59.5%）より5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「満足」は65歳以上（68.8%）で7割近くと多くなっている。一方、「不満」は30～39歳（43.9%）が4割強と多くなっている。（図 3-27-3）

図 3-27-4 公共交通の利便性の満足度－居住地域別



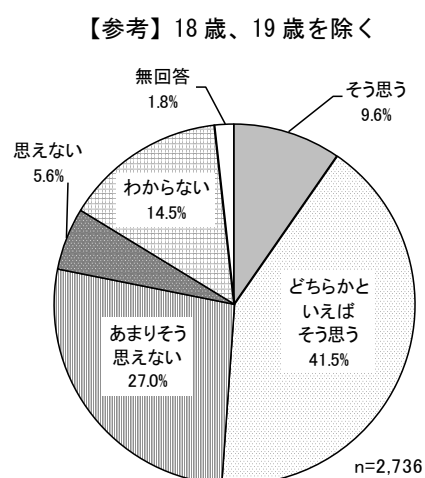
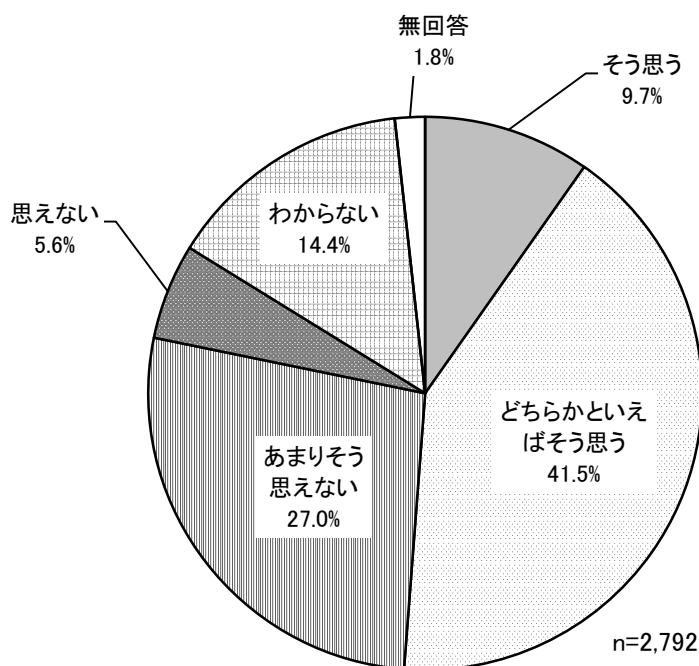
居住地域別にみると、《満足》は本庁管内（中央地域）（70.9%）で約7割と多くなっている。一方、《不満》は加住・石川（北部地域）（51.3%）で5割強と多くなっている。（図3-27-4）

(28) 都市の美観が保持されたまち

◇《《そう思う》》が5割強

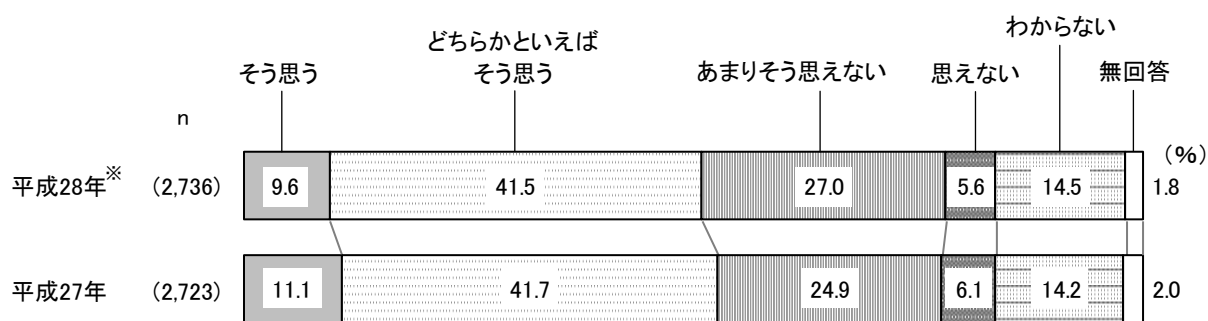
問33 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。(○は1つだけ)

図3-28-1 都市の美観が保持されたまち－全体



都市の美観が保持されているまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」(9.7%)と「どちらかといえばそう思う」(41.5%)を合わせた《《そう思う》》(51.2%)が5割強となっている。一方、「あまりそう思えない」(27.0%)と「思えない」(5.6%)を合わせた《《そう思えない》》(32.6%)が3割強となっている。(図3-28-1)

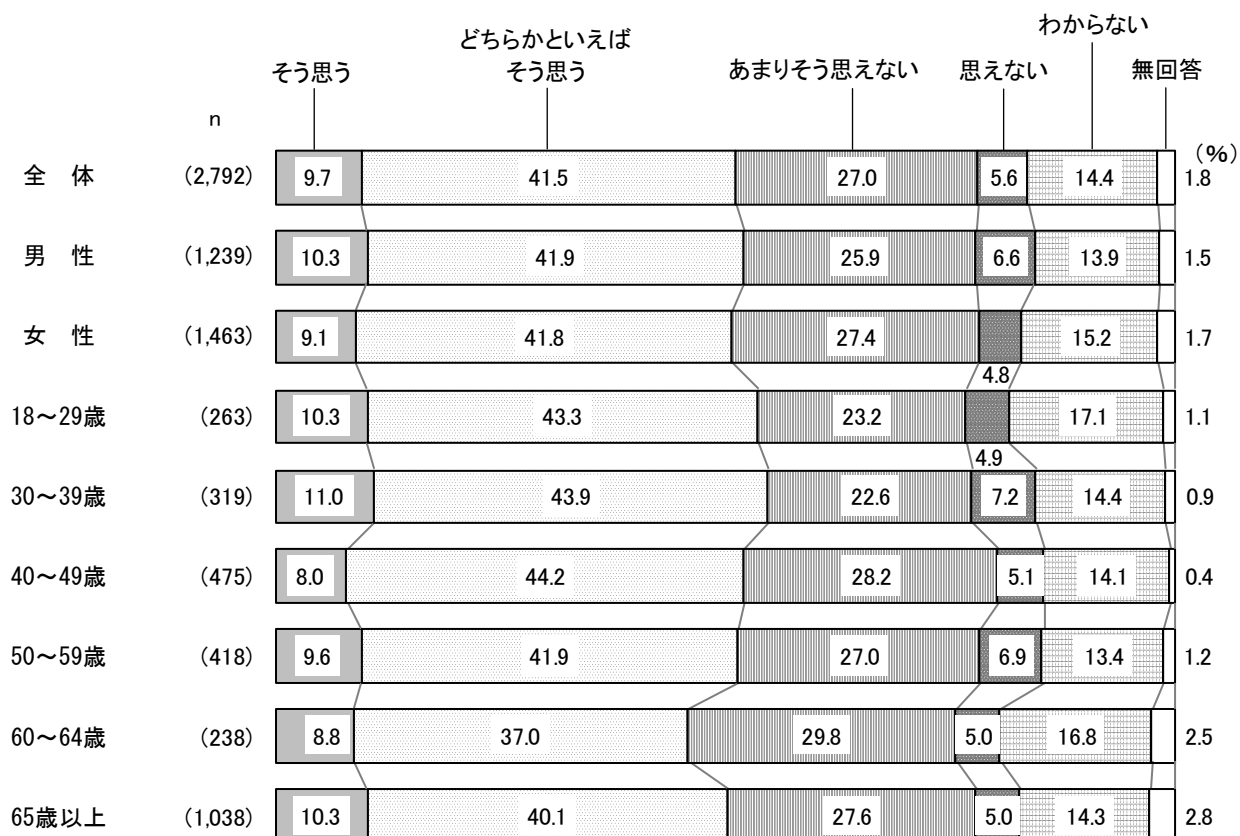
図 3-28-2 都市の美観が保持されたまち一経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-28-2)

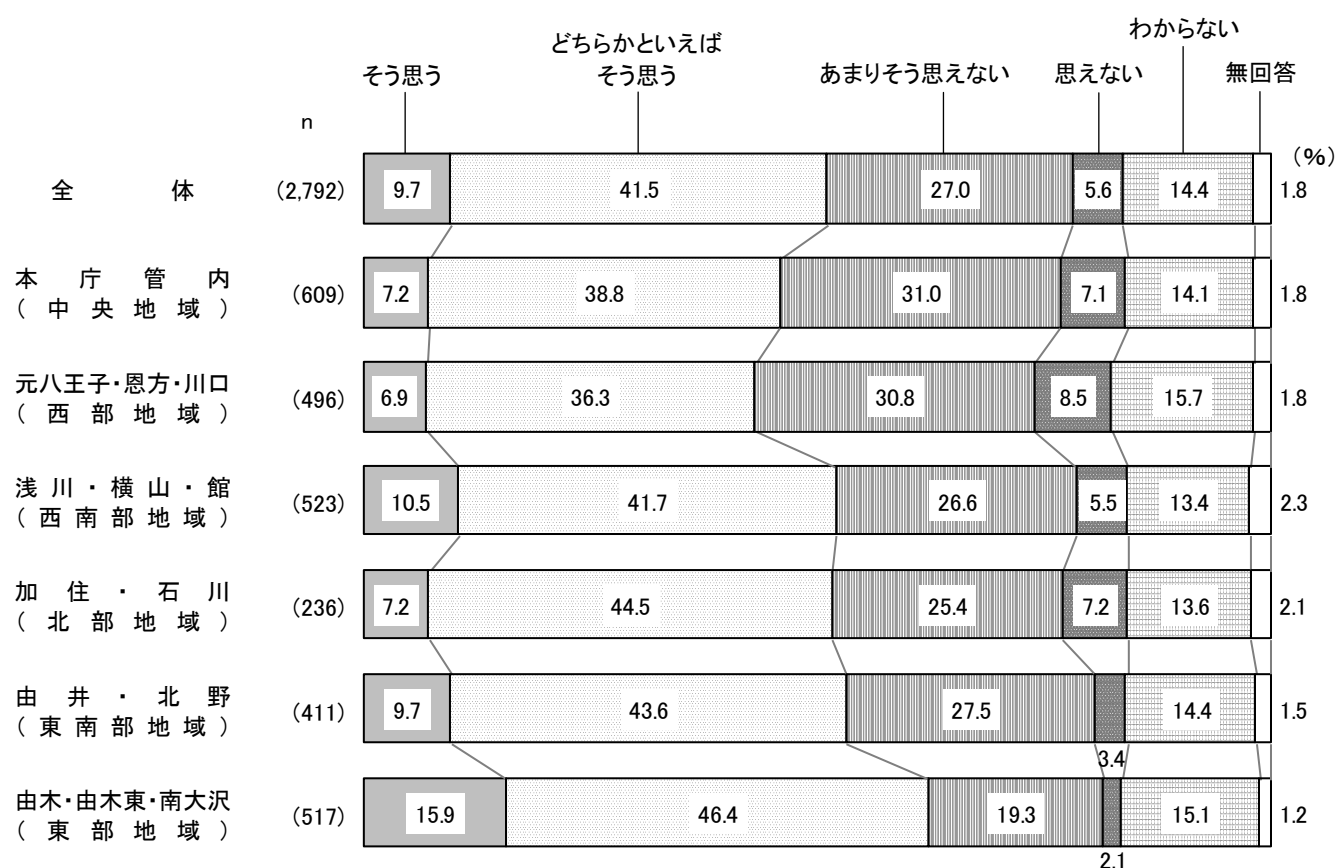
図 3-28-3 都市の美観が保持されたまち一性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《そう思う》は30～39歳 (54.9%) で多く 5 割台半ばとなっている。一方、《そう思えない》は60～64歳 (34.8%) が 3 割台半ばと多くなっている。(図 3-28-3)

図 3-28-4 都市の美観が保持されたまち一居住地域別



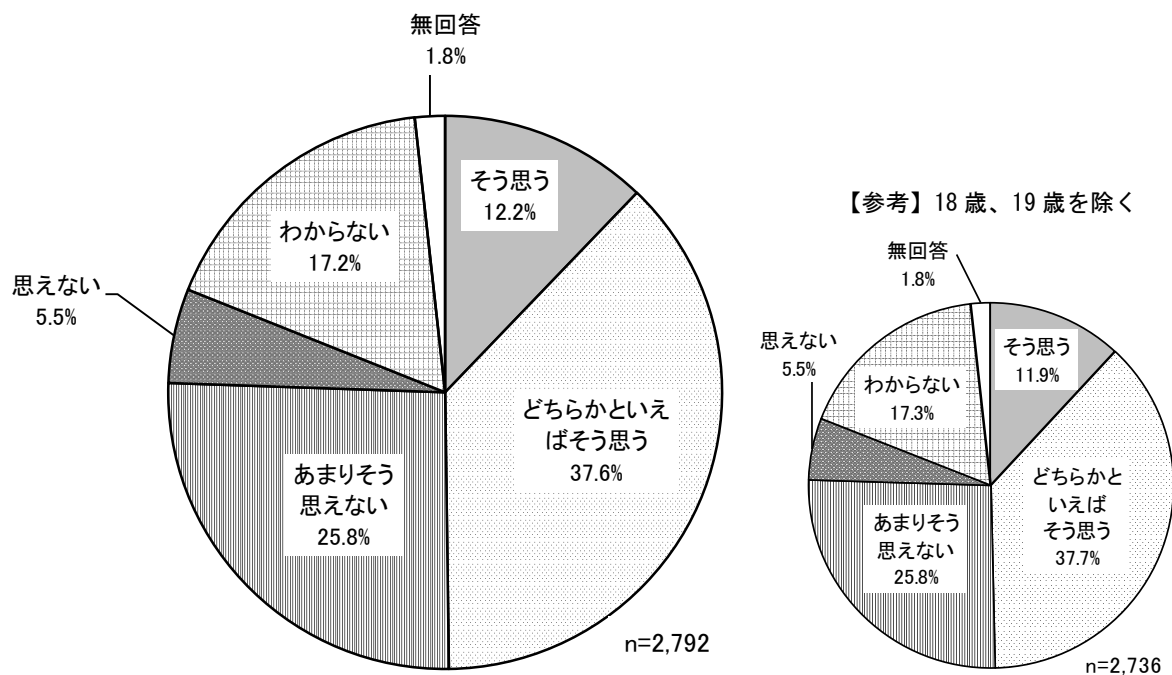
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（62.3%）で6割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（39.3%）で4割弱と多くなっている。（図 3-28-4）

(29) 自然、歴史、文化が生かされた景観

◇《《そう思う》が5割弱

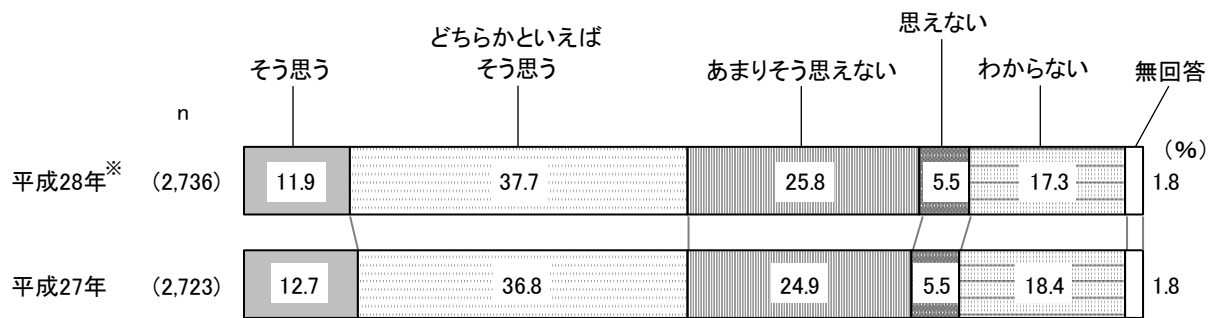
問34 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に生かされていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-29-1 自然、歴史、文化が生かされた景観—全体



市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に生かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」（12.2％）と「どちらかといえばそう思う」（37.6％）を合わせた《《そう思う》》（49.8％）が5割弱となっている。一方、「あまりそう思えない」（25.8％）と「思えない」（5.5％）を合わせた《《そう思えない》》（31.3％）が3割強となっている。（図3-29-1）

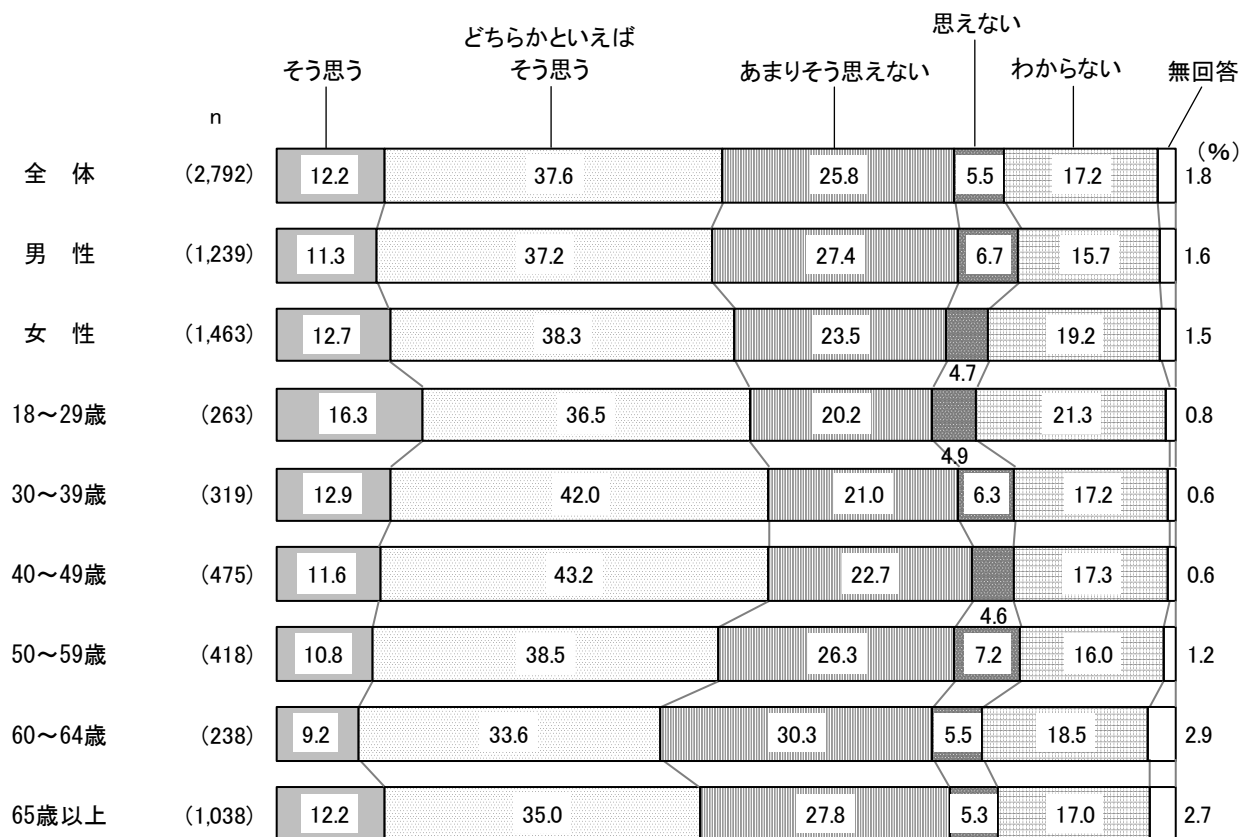
図 3-29-2 自然、歴史、文化が生かされた景観－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-29-2)

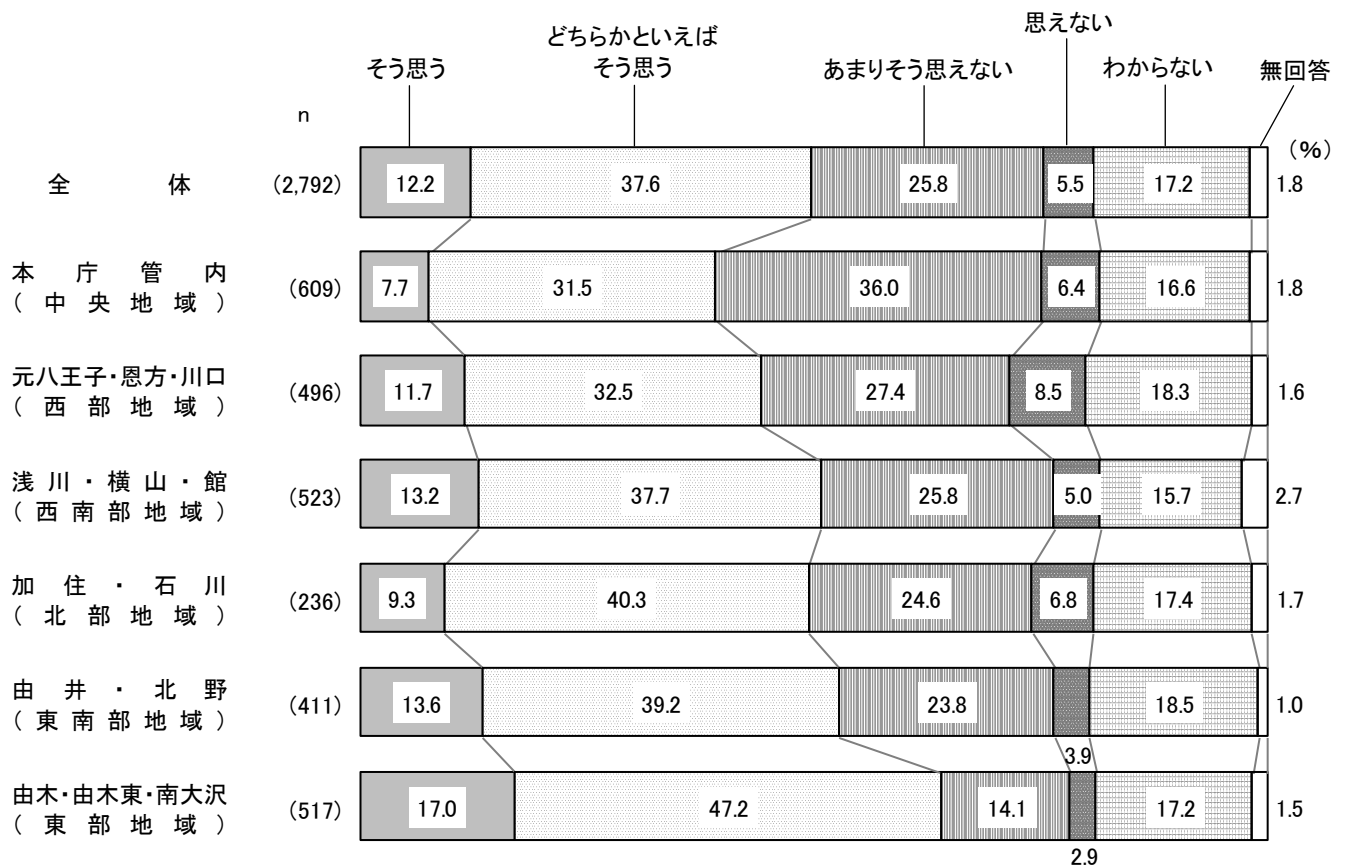
図 3-29-3 自然、歴史、文化が生かされた景観－性別、年齢別



性別にみると、「そう思う」は女性（51.0％）が男性（48.5％）より2.5ポイント高くなっている。一方、「そう思えない」は男性（34.1％）が女性（28.2％）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は30～39歳（54.9％）と40～49歳（54.8％）で多く5割台半ばとなっている。（図 3-29-3）

図3-29-4 自然、歴史、文化が生かされた景観－居住地域別



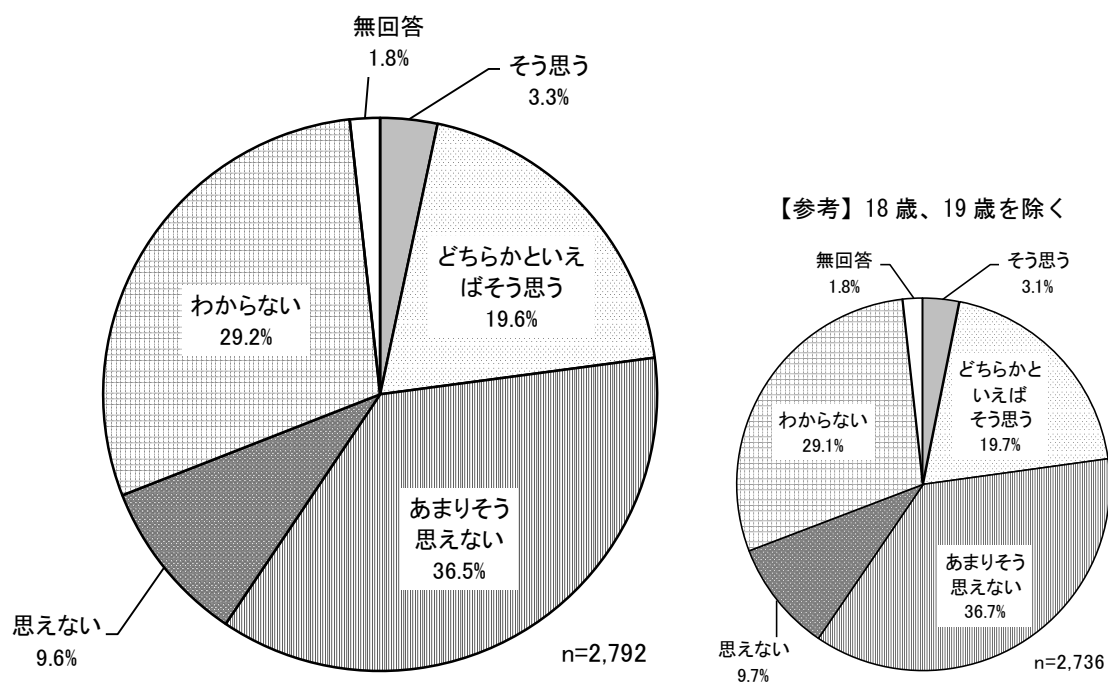
居住地域別にみると、「《そう思う》」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（64.2%）で6割台半ばと多くなっている。一方、「《そう思えない》」は本庁管内（中央地域）（42.4%）で4割強と多くなっている。（図3-29-4）

(30) 市内の産業活動

◇《《そう思う》が2割強

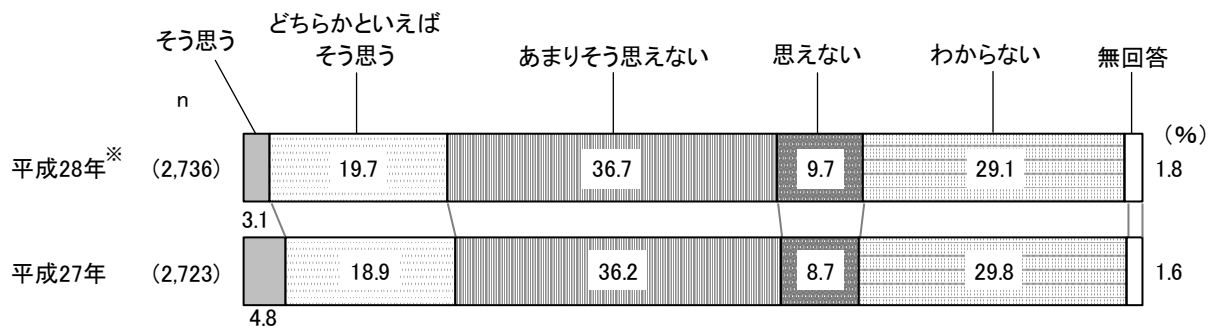
問35 あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-30-1 市内の産業活動ー全体



商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.3%)と「どちらかといえばそう思う」(19.6%)を合わせた《《そう思う》》(22.9%)が2割強となっている。一方、「あまりそう思えない」(36.5%)と「思えない」(9.6%)を合わせた《《そう思えない》》(46.1%)が5割近くとなっている。(図3-30-1)

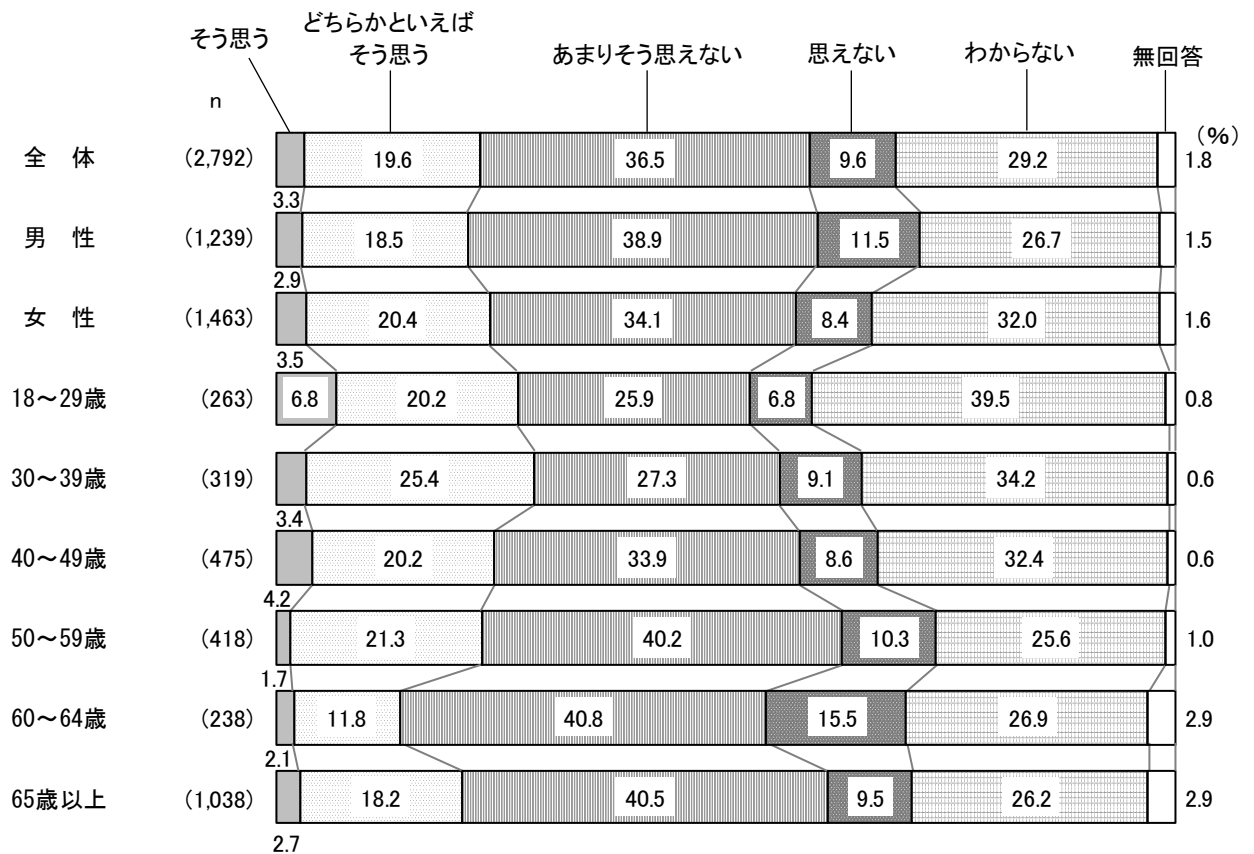
図 3-30-2 市内の産業活動一経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-30-2)

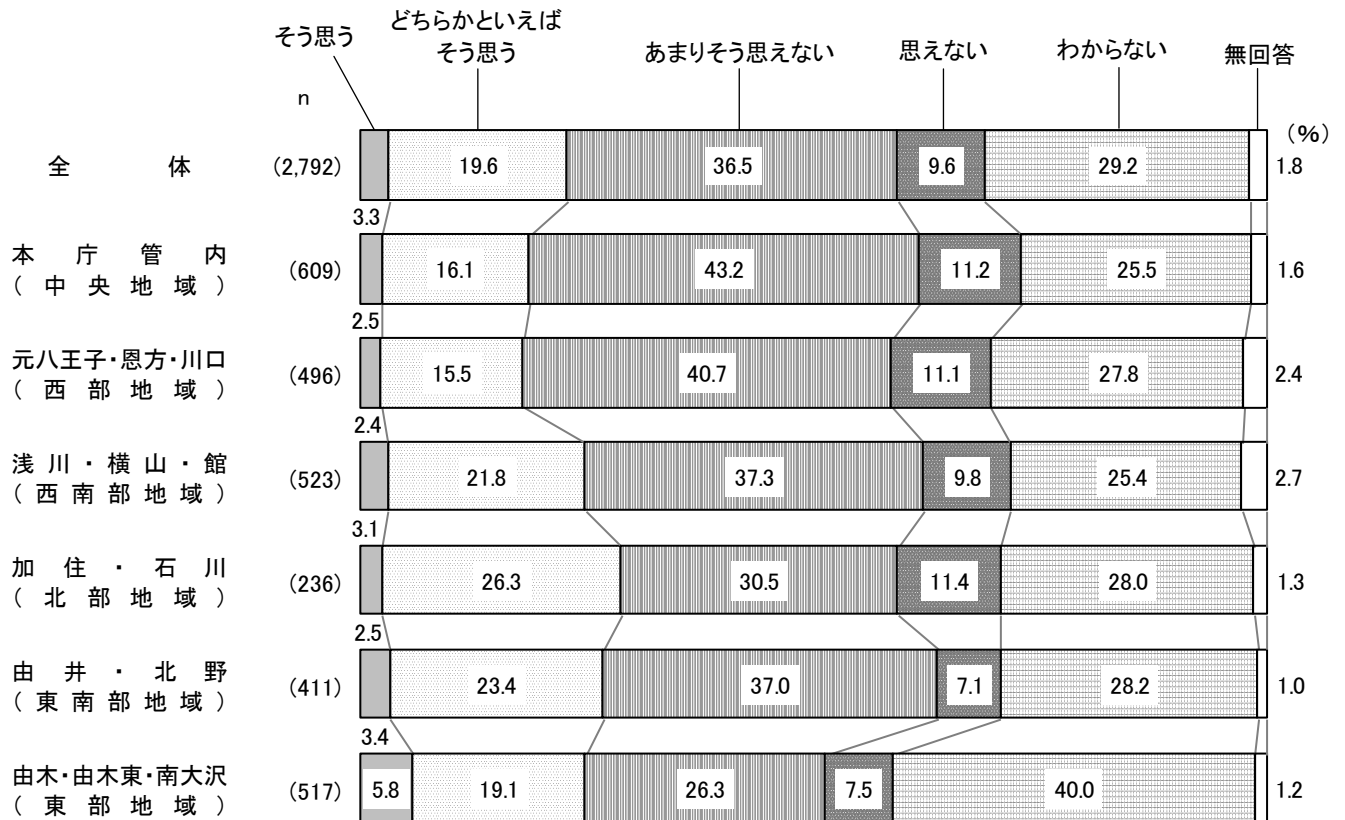
図 3-30-3 市内の産業活動一性別、年齢別



性別にみると、「あまりそう思えない」は男性 (50.4%) が女性 (42.5%) より7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は30～39歳 (28.8%) で3割近くと多くなっている。一方、「あまりそう思えない」は60～64歳 (56.3%) で6割近くと多くなっている。(図 3-30-3)

図 3-30-4 市内の産業活動—居住地域別



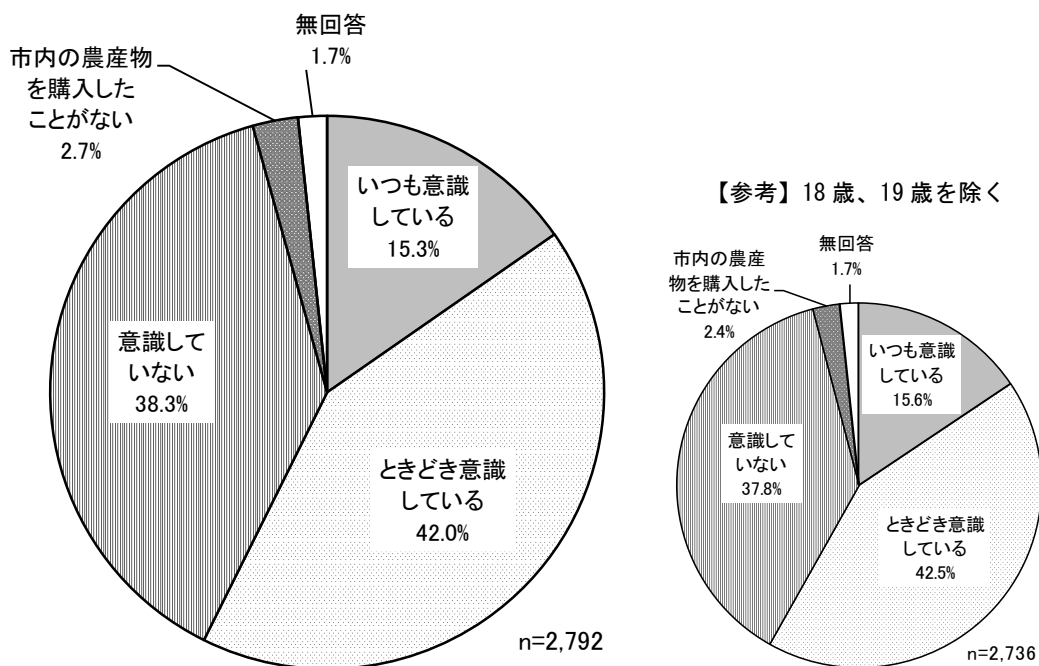
居住地域別にみると、《そう思う》は加住・石川（北部地域）（28.8%）で3割近くと多くなっている。一方、《そう思えない》は本庁管内（中央地域）（54.4%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-30-4）

(31) 市内の農産物の購入

◇《意識している》が6割近く

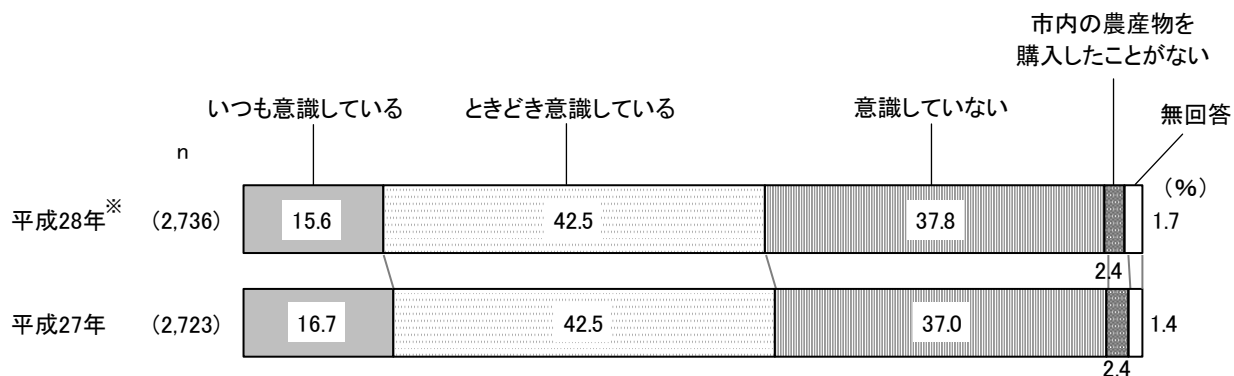
問36 あなたは、市内の農産物（野菜・果物・花など）を意識して購入（消費）していますか。
（○は1つだけ）

図3-31-1 市内の農産物の購入－全体



市内の農産物（野菜・果物・花など）を意識して購入（消費）しているか聞いたところ、「ときどき意識している」（42.0％）が4割強で最も多く、これと「いつも意識している」（15.3％）の2つを合わせた《意識している》（57.3％）は6割近くとなっている。一方、「意識していない」（38.3％）は4割近くとなっている。（図3-31-1）

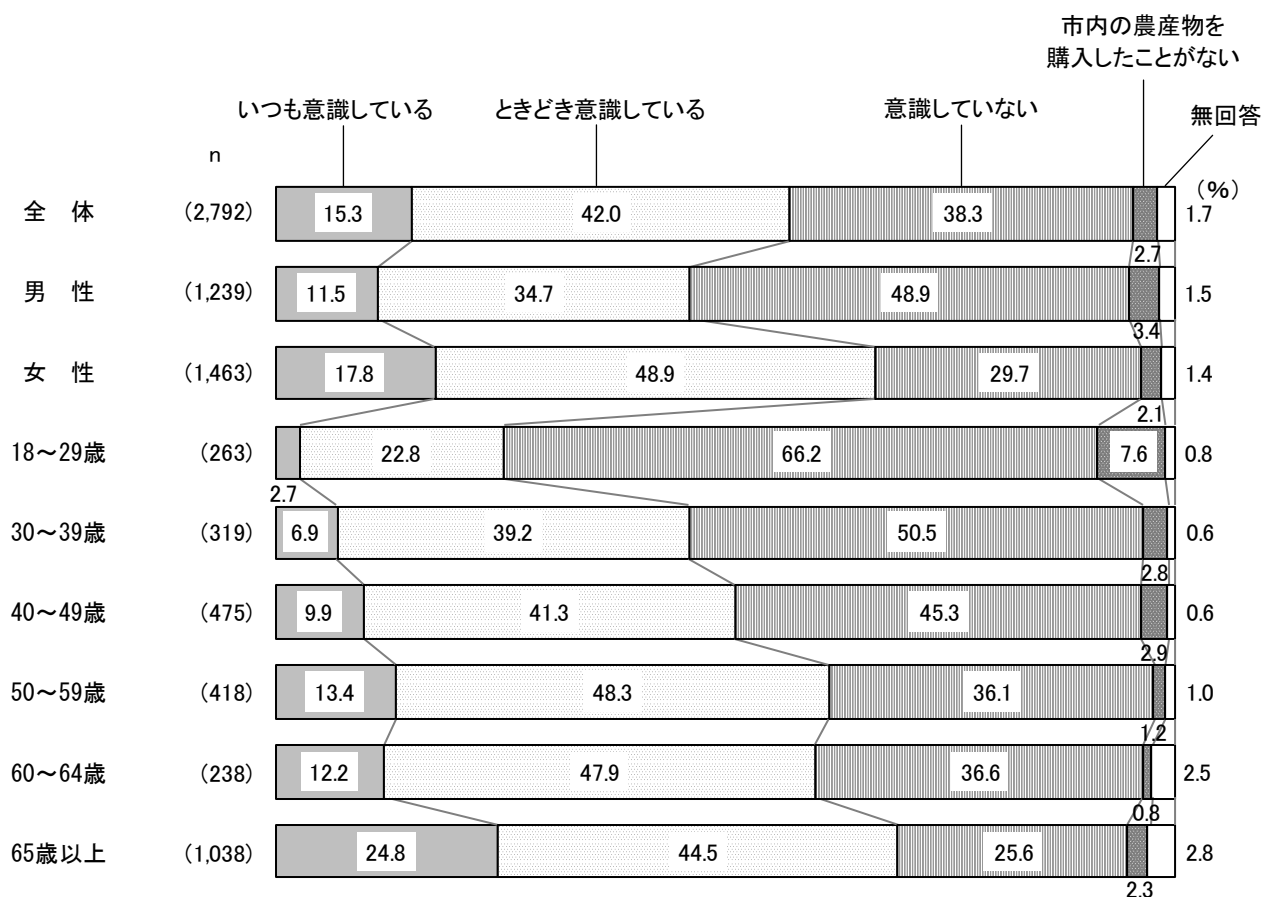
図 3-31-2 市内の農産物の購入一経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-31-2)

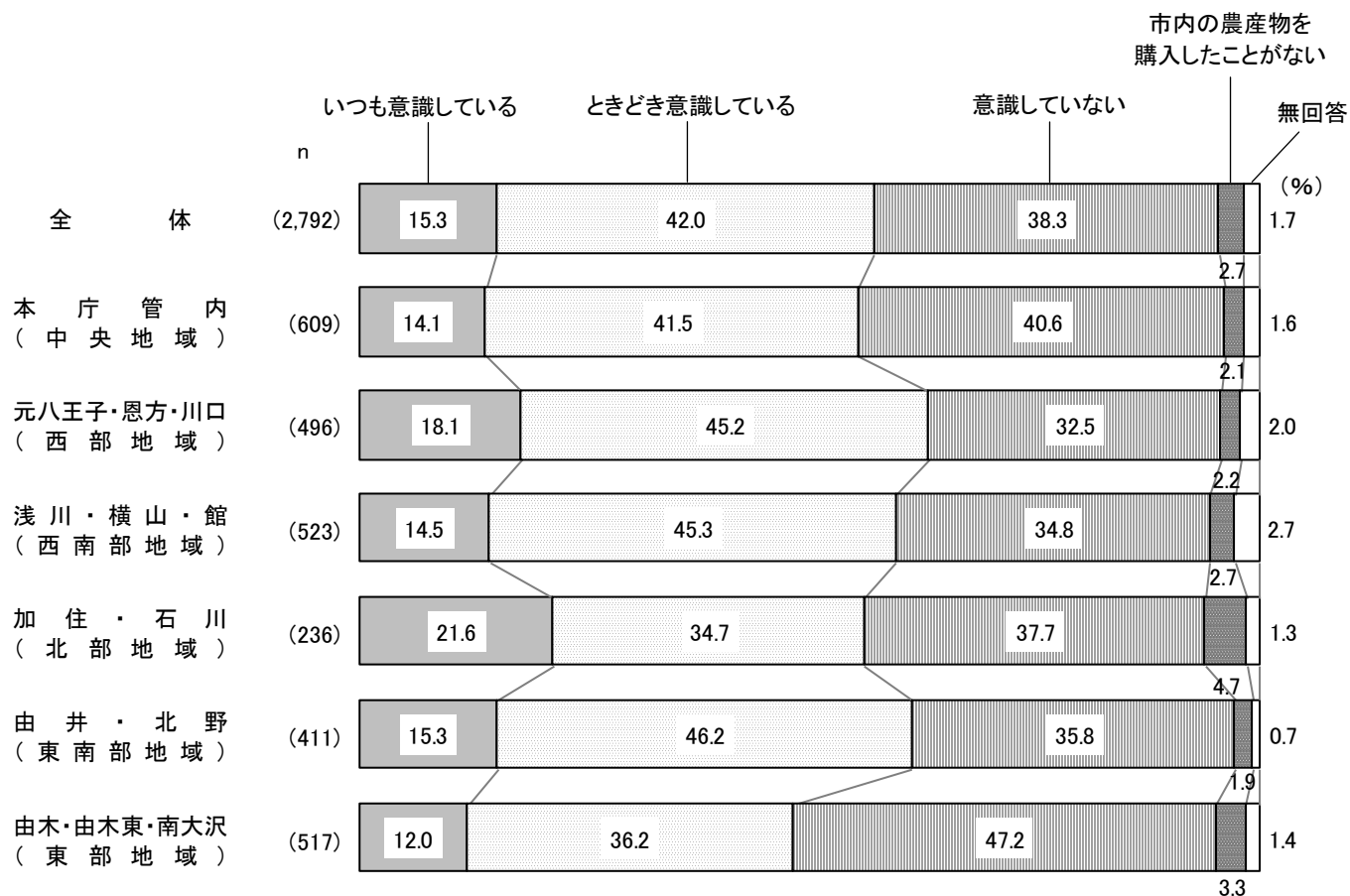
図 3-31-3 市内の農産物の購入一性別、年齢別



性別にみると、「意識している」は女性 (66.7%) が男性 (46.2%) より 20.5ポイント高くなっている。一方、「意識していない」は男性 (48.9%) が女性 (29.7%) より 19.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「意識している」は65歳以上 (69.3%) で7割弱と多くなっている。「意識していない」は18～29歳 (66.2%) で7割近くと多くなっている。(図 3-31-3)

図 3-31-4 市内の農産物の購入－居住地域別



居住地域別にみると、《意識している》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（63.3%）で6割強と最も多くなっている。一方、「意識していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（47.2%）で5割近くと多くなっている。（図3-31-4）

(32) 地球環境への配慮

◇「常にしている」が5割弱

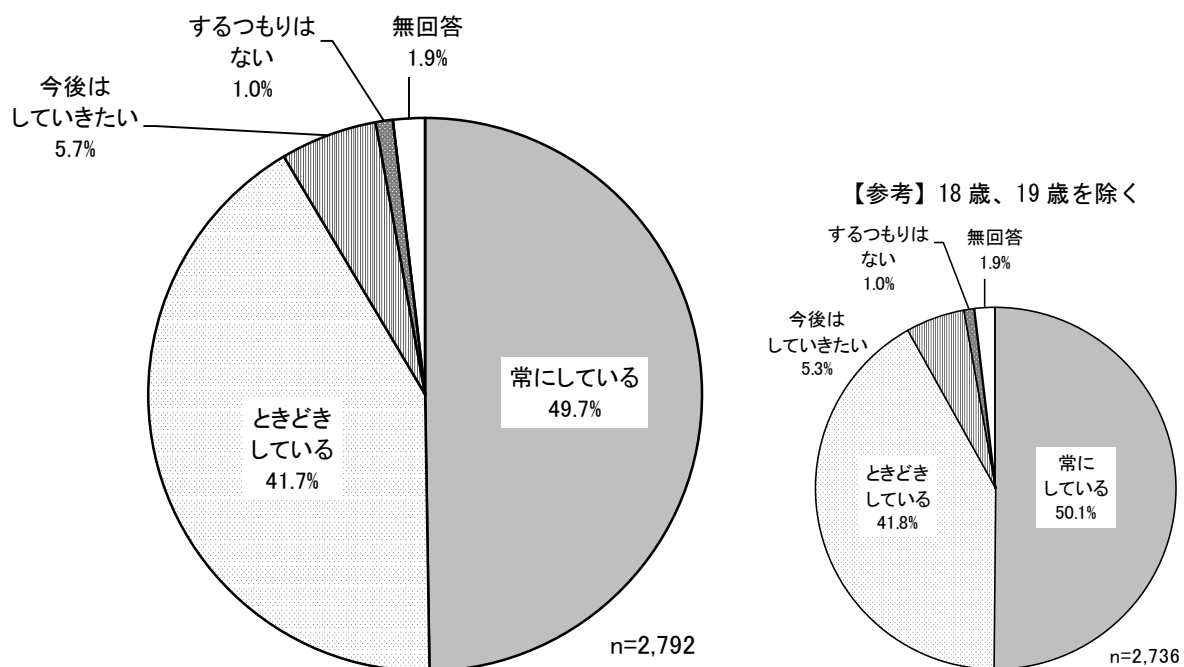
問37 あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。

(○は1つだけ)

※ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取り組みとは・・・

- | | |
|--|--|
| ☐ 過度な冷暖房の使用を抑える | ☐ マイカーの使用を抑える |
| ☐ 電気をこまめに消す | ☐ 省エネ製品を利用する |
| ☐ 冷蔵庫の開閉に気を使う | ☐ 買物用のバッグを持参して買い物に行く |
| ☐ ごみと資源物を分別し、適正に排出する | など |

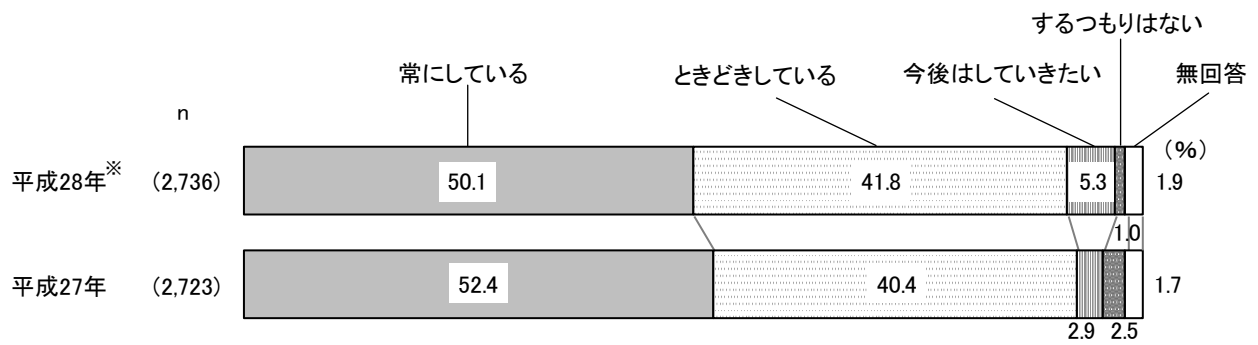
図3-32-1 地球環境への配慮－全体



ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているか聞いたところ、「常にしている」(49.7%)が5割弱で、「ときどきしている」(41.7%)が4割強となっている。

(図3-32-1)

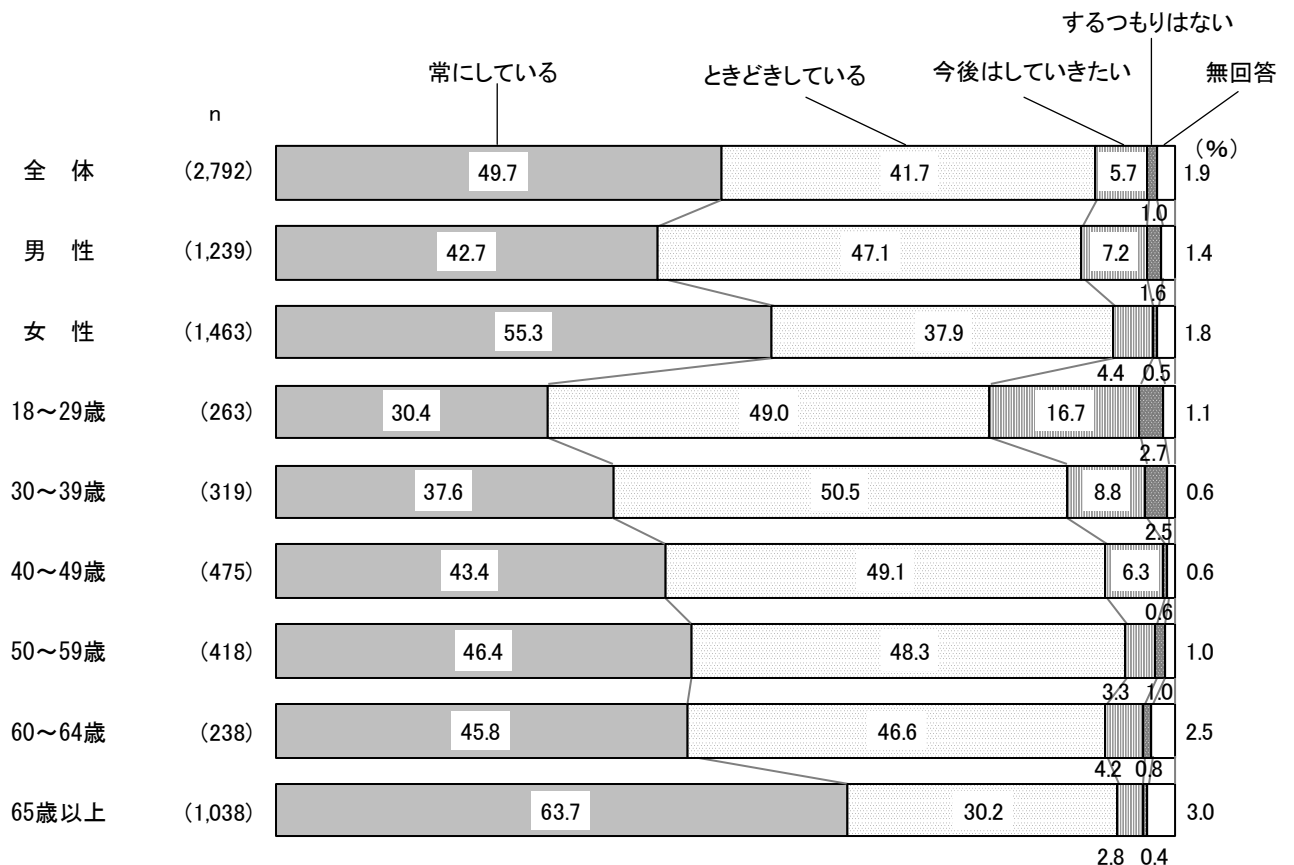
図 3-32-2 地球環境への配慮－経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-32-2)

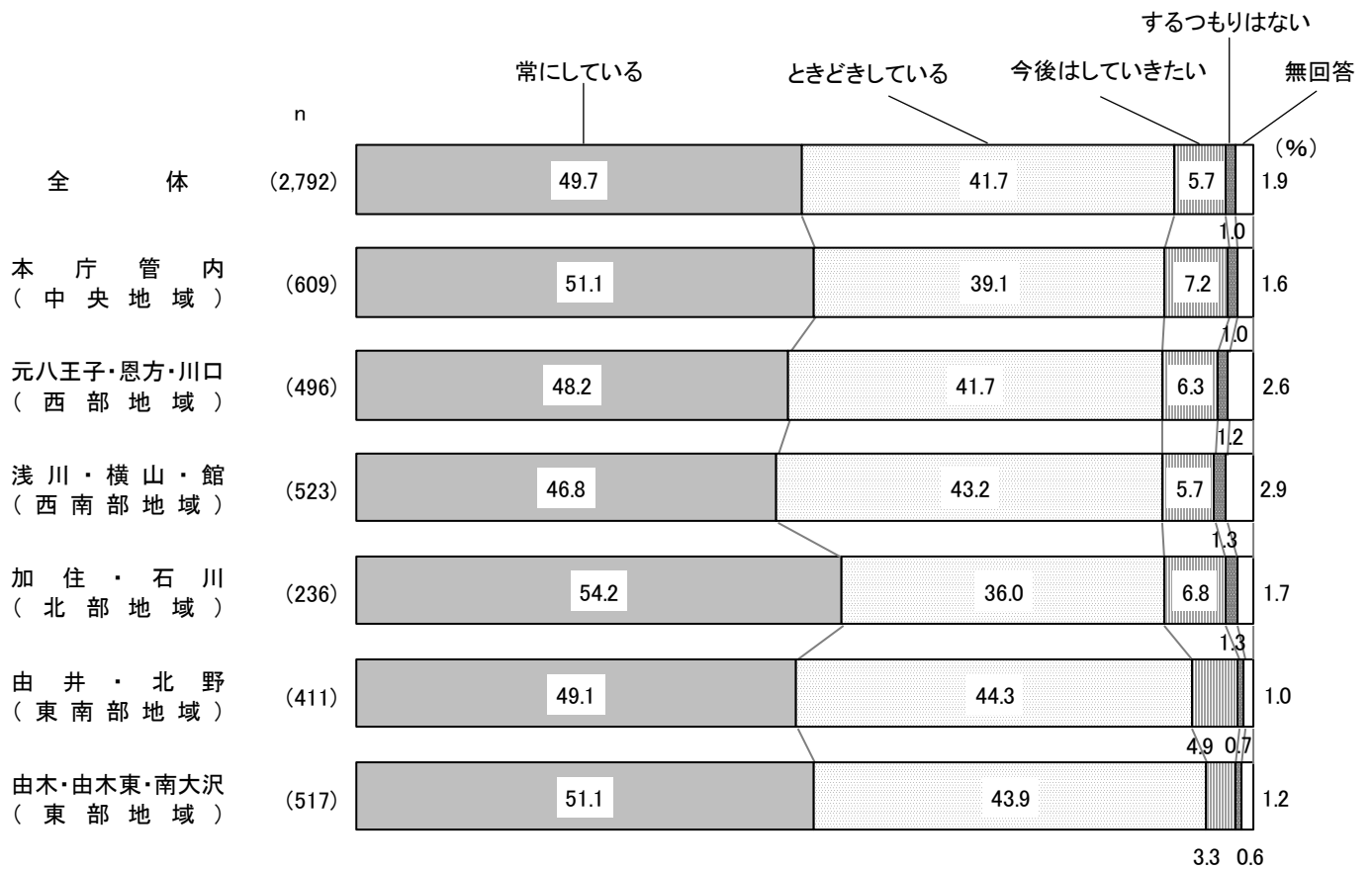
図 3-32-3 地球環境への配慮－性別、年齢別



性別にみると、「常にしている」は女性（55.3%）が男性（42.7%）より12.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「常にしている」は65歳以上（63.7%）で6割強と多くなっている。一方、「今後はしていきたい」は18～29歳（16.7%）で2割近くと多くなっている。(図 3-32-3)

図 3－32－4 地球環境への配慮－居住地域別



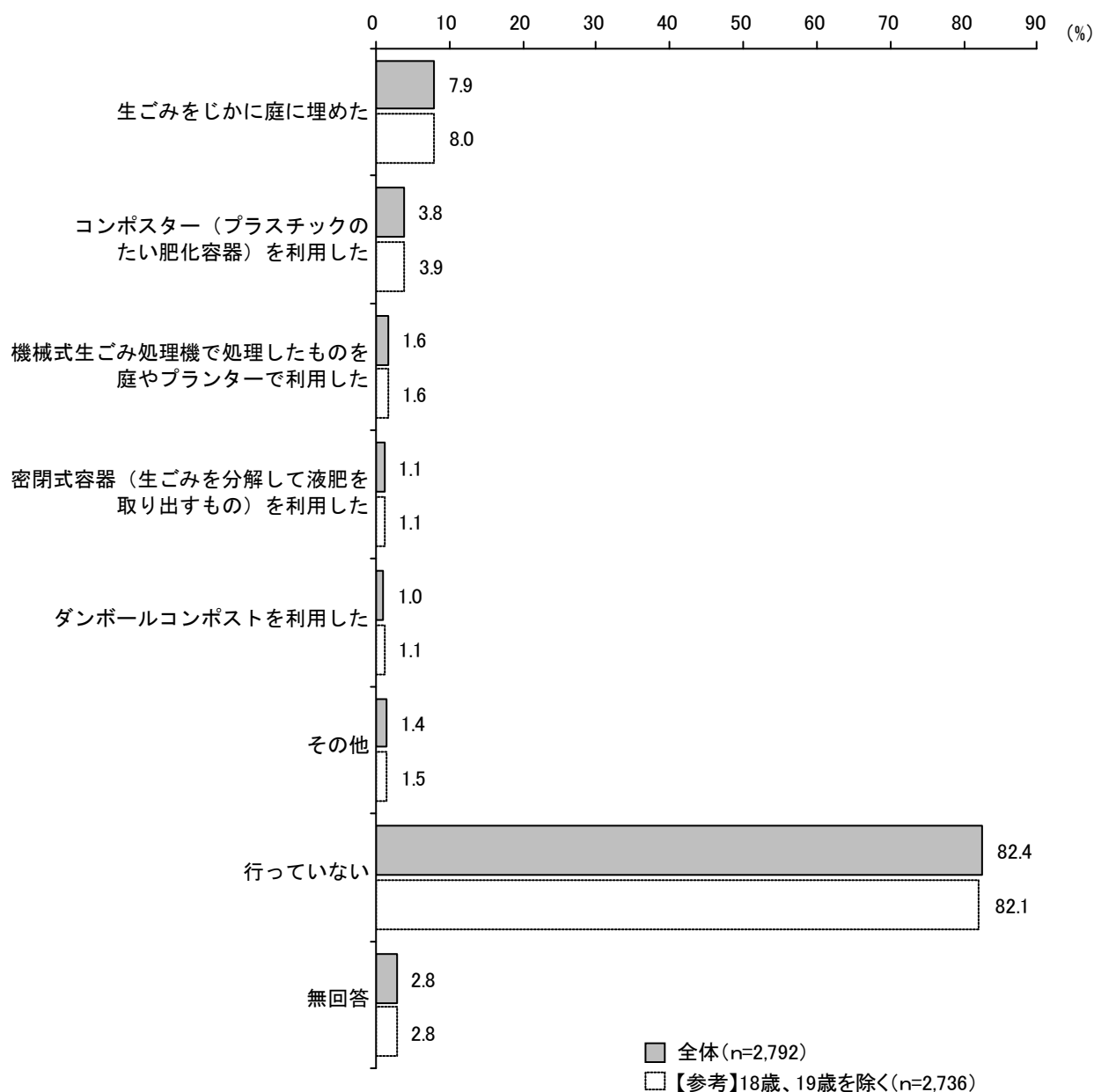
居住地域別にみると、「常にしている」は加住・石川（北部地域）（54.2%）で最も多く 5 割台半ばとなっている。（図 3－32－4）

(33) 生ごみのたい肥化の有無

◇「行っていない」が8割強

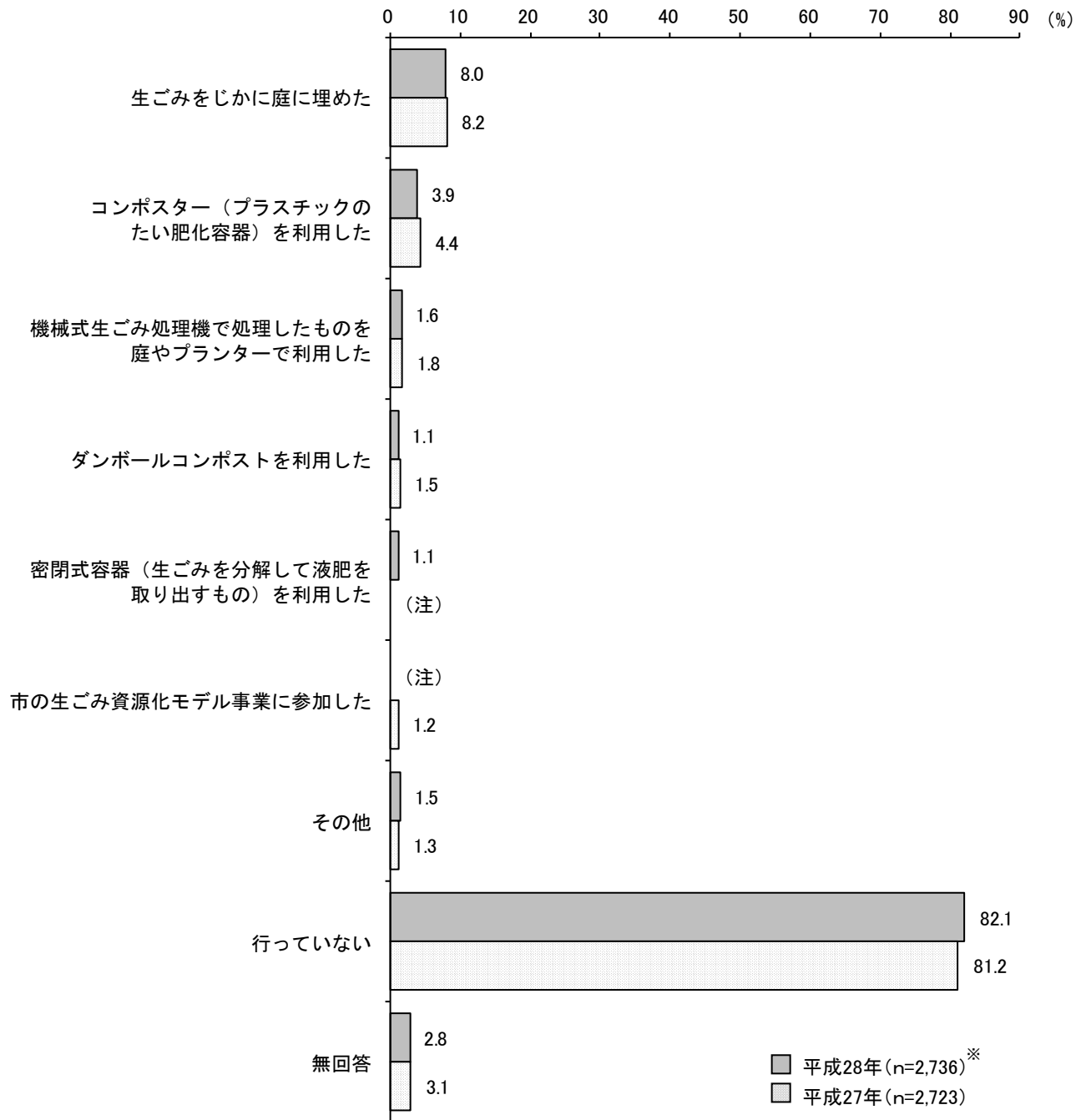
問38 あなたの世帯は、この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行いましたか。
(○はいくつでも)

図3-33-1 生ごみのたい肥化の有無－全体



この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったか聞いたところ、「行っていない」（82.4%）が8割強で多くなっている。一方、「生ごみをじかに庭に埋めた」（7.9%）は1割近くとなっている。（図3-33-1）

図 3-33-2 生ごみのたい肥化の有無一経年比較

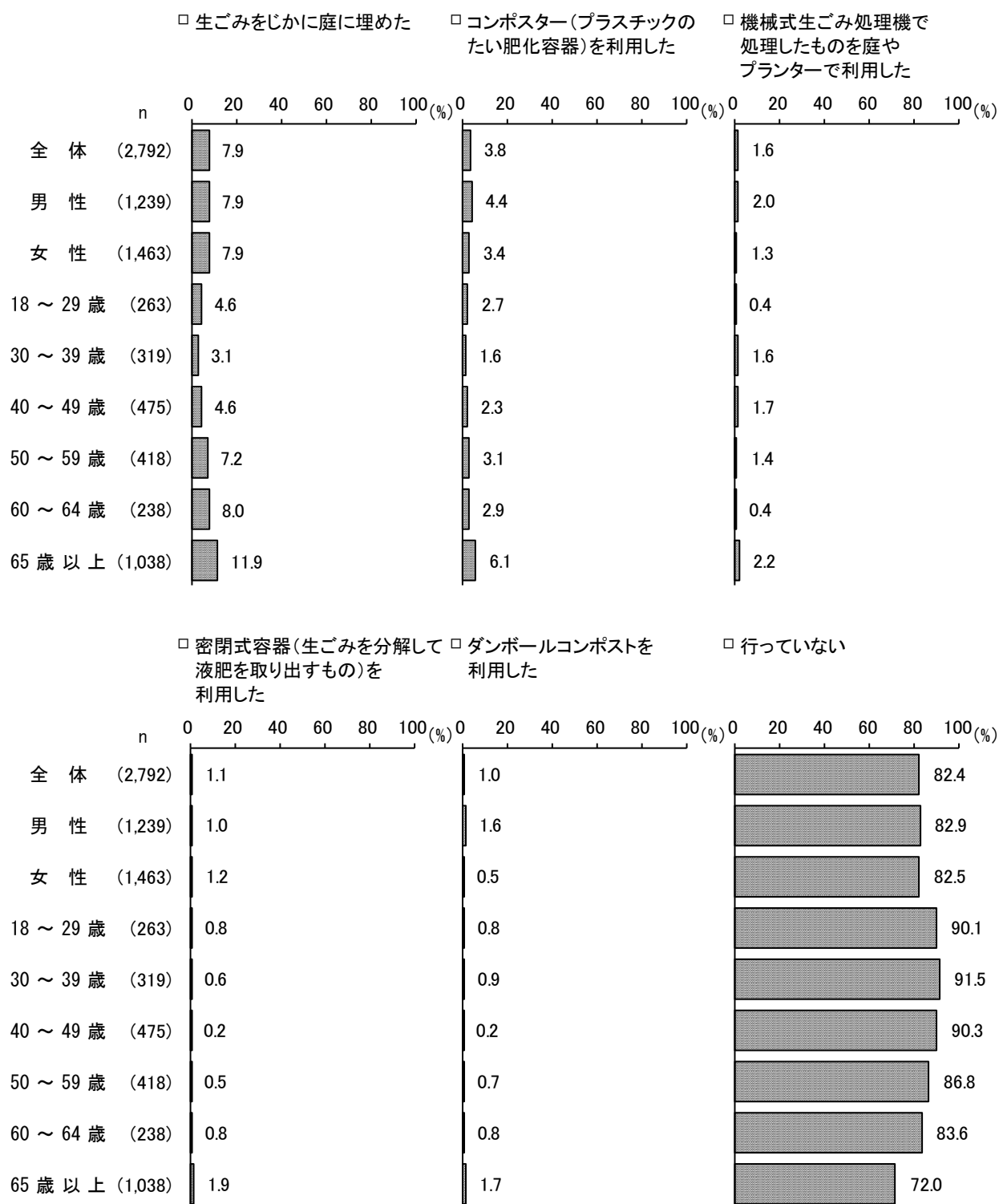


※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

(注) 前回調査の選択肢「市の生ごみ資源化モデル事業に参加した」は今回調査では選択肢から除き、「密閉式容器（生ごみを分解して液肥を取り出すもの）を利用した」は今回調査で追加した選択肢である。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-33-2)

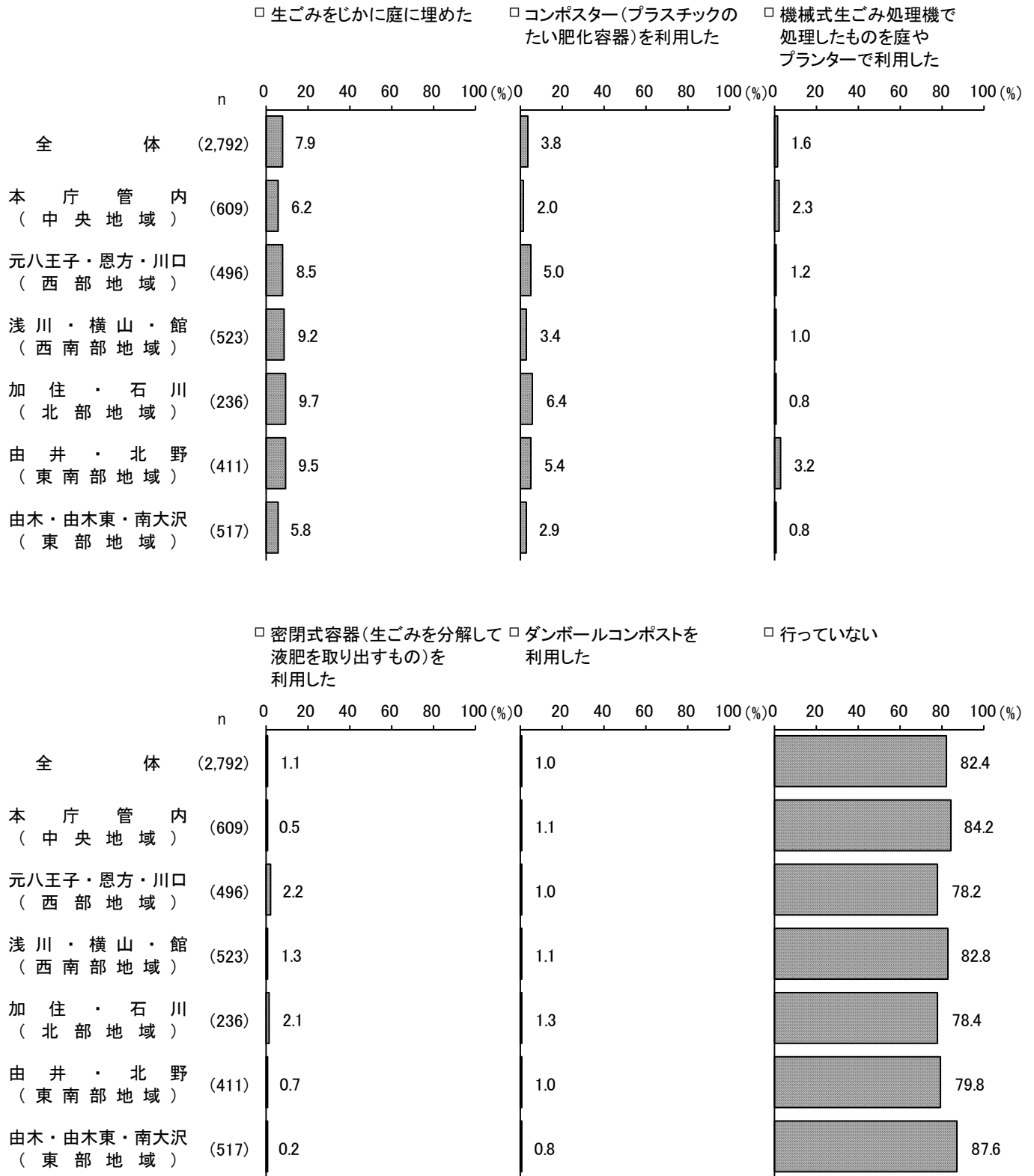
図 3-33-3 生ごみのたい肥化の有無－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は65歳以上(11.9%)で1割強と多くなっている。(図3-33-3)

図 3-33-4 生ごみのたい肥化の有無－居住地域別



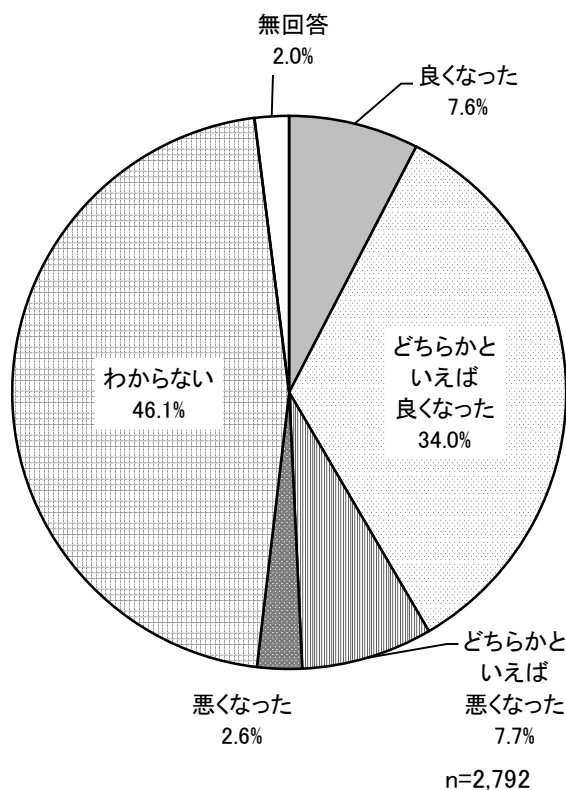
居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図 3-33-4)

(34) 市の生活環境

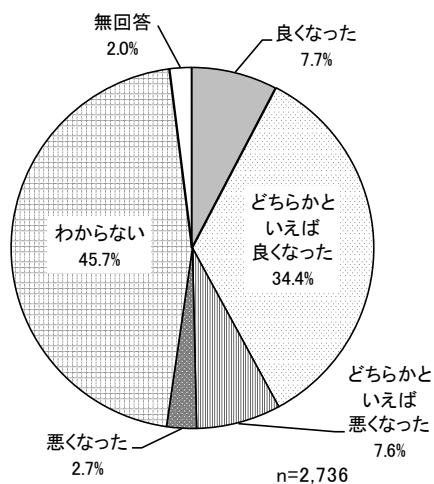
◇《良くなった》が4割強

問39 あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思いますか。（○は1つだけ）

図3-34-1 市の生活環境－全体

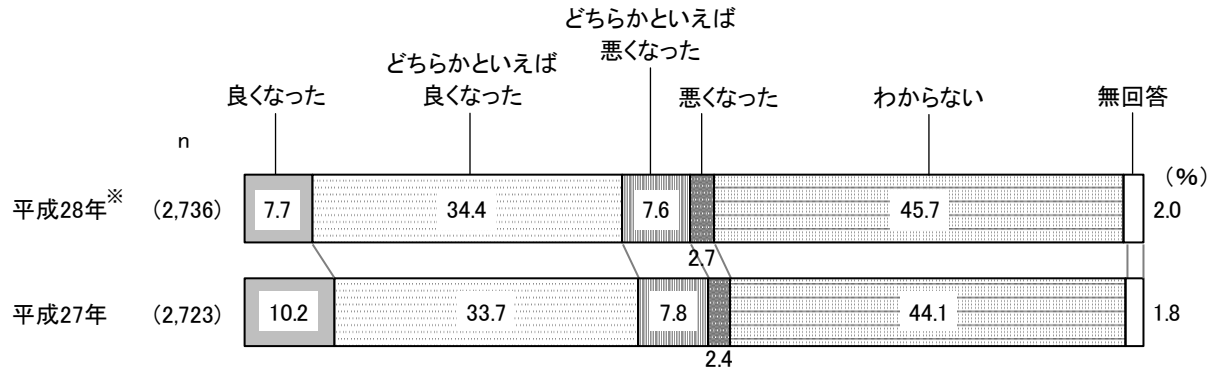


【参考】18歳、19歳を除く



市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思うか聞いたところ、「良くなった」（7.6%）と「どちらかといえは良くなった」（34.0%）を合わせた《良くなった》（41.6%）が4割強となっている。一方、「どちらかといえは悪くなった」（7.7%）と「悪くなった」（2.6%）を合わせた《悪くなった》（10.3%）が約1割となっている。ただし、「わからない」（46.1%）が5割近くとなっている。（図3-34-1）

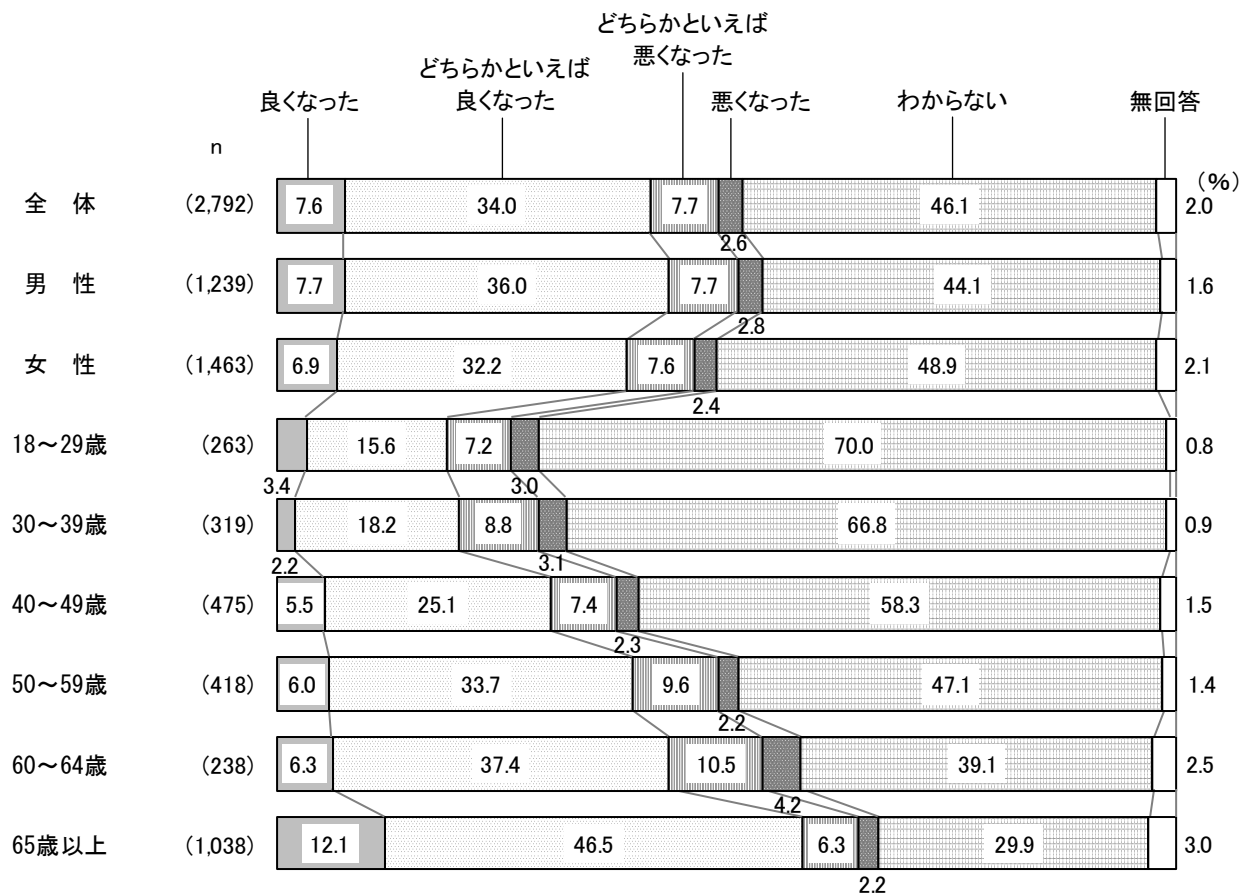
図 3-34-2 市の生活環境一経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、「良くなった」は、平成27年（10.2%）より2.5ポイント減少している。
（図 3-34-2）

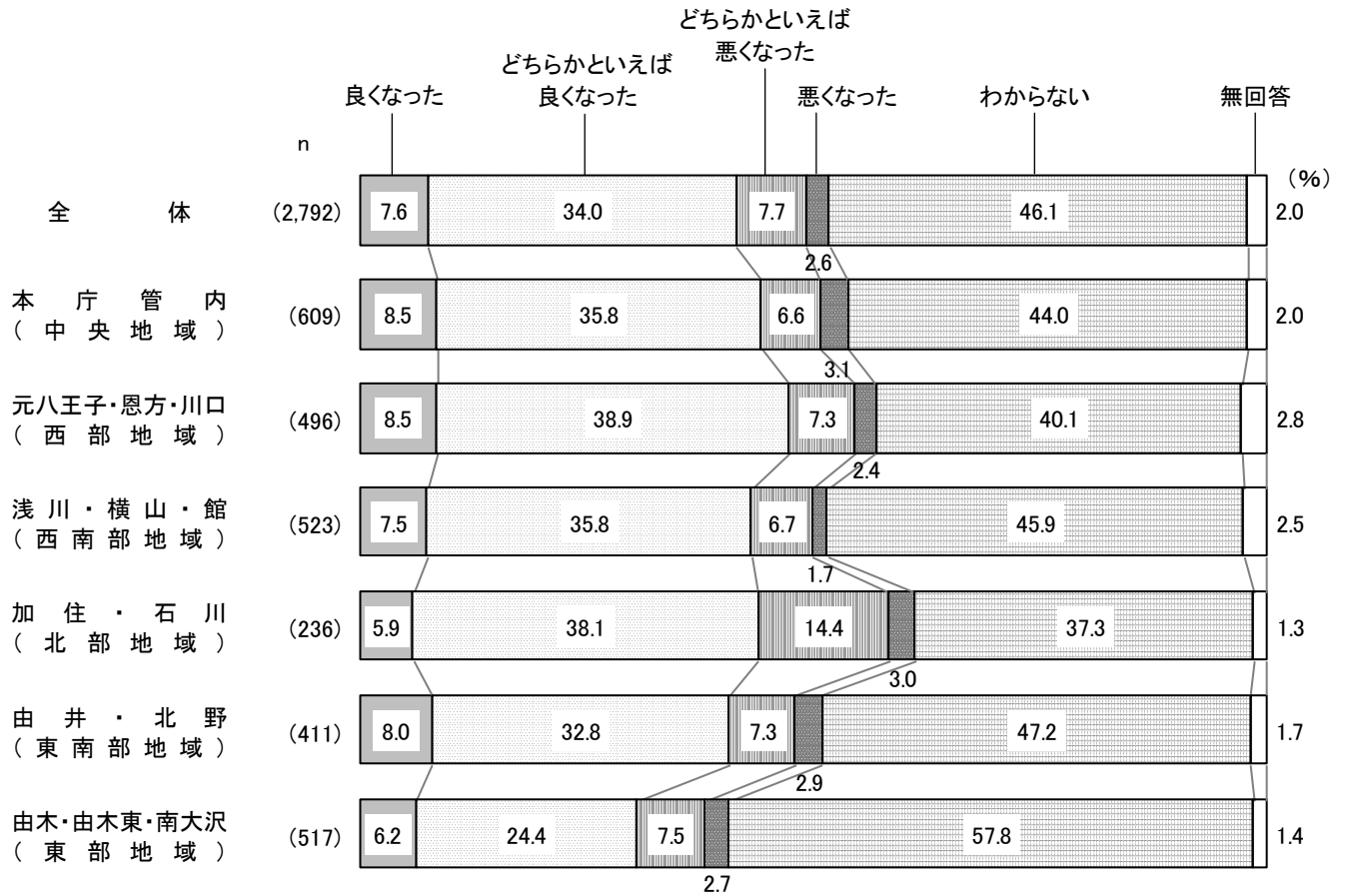
図 3-34-3 市の生活環境一性別、年齢別



性別にみると、「良くなった」は男性（43.7%）が女性（39.1%）より4.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「良くなった」は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（58.6%）で6割近くと多くなっている。（図 3-34-3）

図 3-34-4 市の生活環境－居住地域別



居住地域別にみると、《良くなった》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（47.4%）で5割近くと多くなっている。（図 3-34-4）

(35)「生物多様性」の周知度

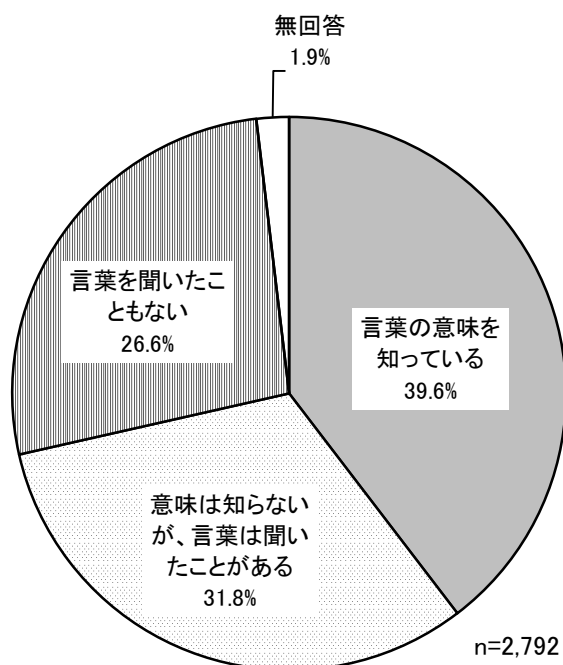
◇「言葉の意味を知っている」が4割弱

問40 あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

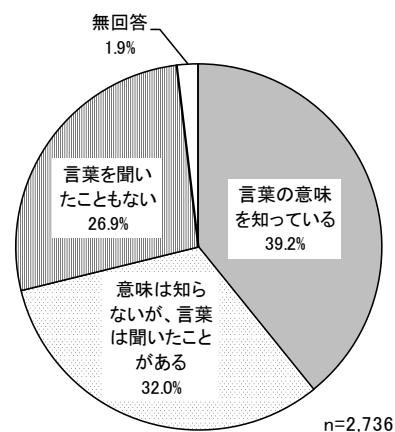
※生物多様性とは・・・

動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけでなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

図3-35-1 「生物多様性」の周知度－全体

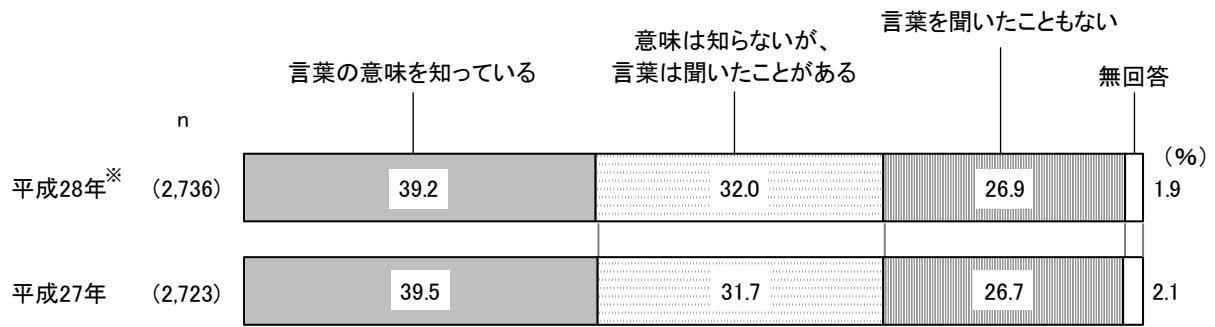


【参考】18歳、19歳を除く



「生物多様性」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」(39.6%)が4割弱となっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(31.8%)は3割強で、「言葉を聞いたこともない」(26.6%)が3割近くとなっている。(図3-35-1)

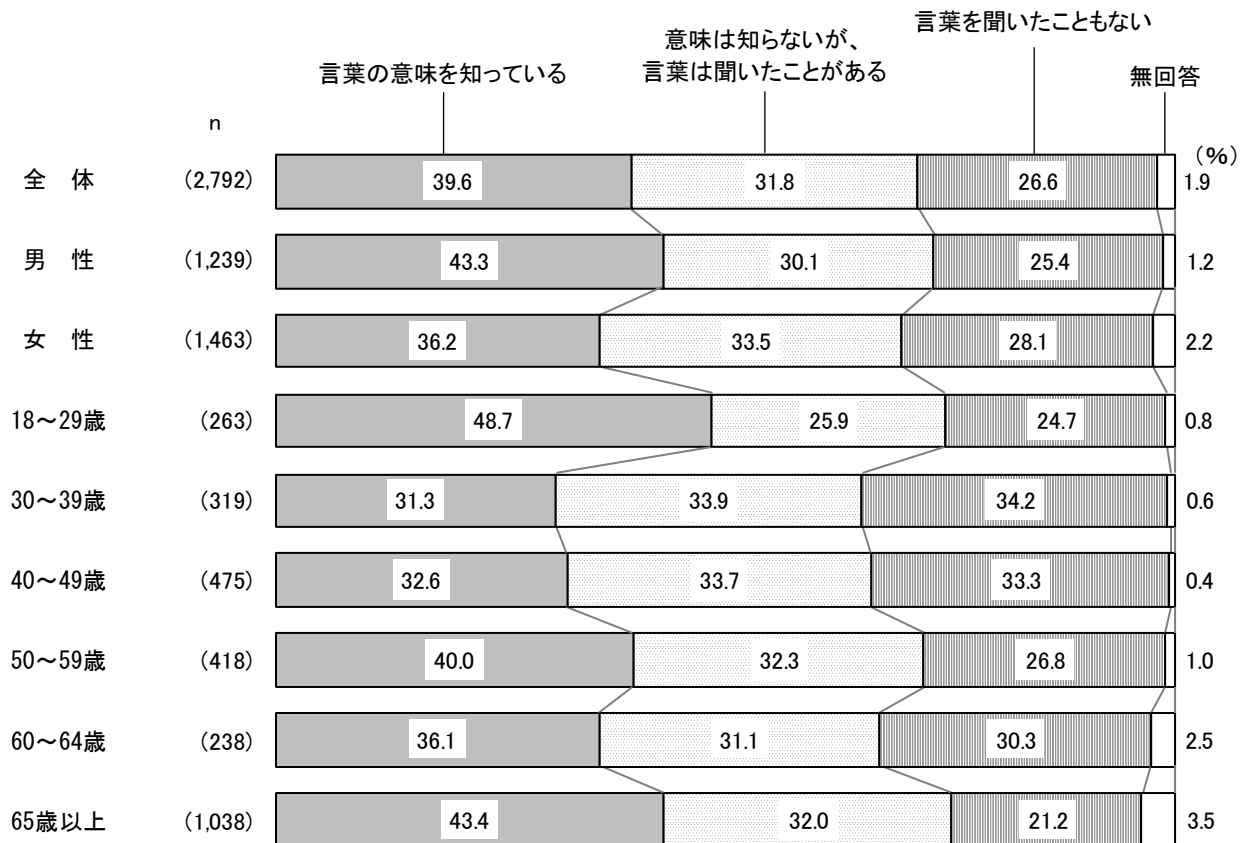
図 3-35-2 「生物多様性」の周知度—経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-35-2)

図 3-35-3 「生物多様性」の周知度—性別、年齢別

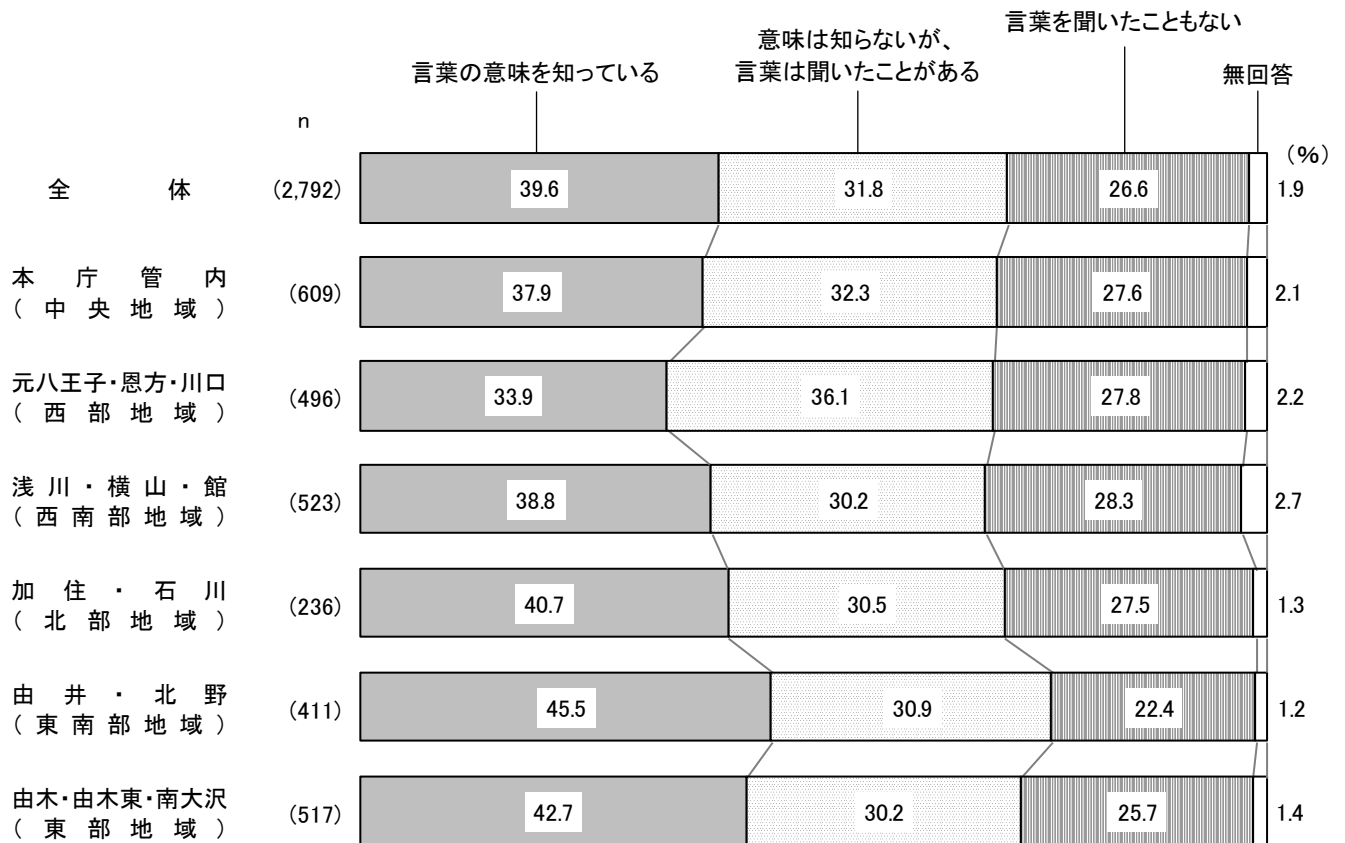


性別にみると、「言葉の意味を知っている」は男性（43.3%）が女性（36.2%）より7.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の意味を知っている」は18～29歳（48.7%）で5割近くと多くなっている。「言葉を聞いたこともない」は30～39歳（34.2%）で最も多く3割台半ばとなっている。

(図 3-35-3)

図 3-35-4 「生物多様性」の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は由井・北野（東南部地域）（45.5%）で最も多く4割台半ばとなっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（36.1%）で4割近くと多くなっている。（図 3-35-4）

(36) ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度

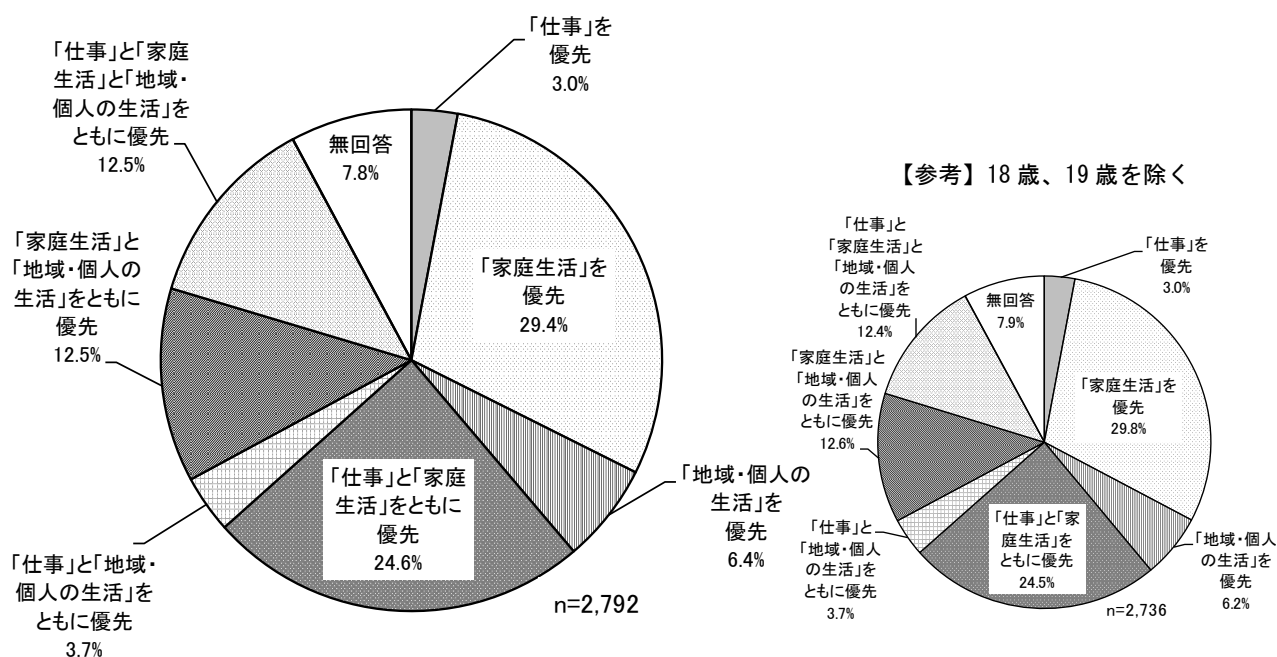
◇希望する優先度は「『家庭生活』を優先」が3割弱

問41 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についてあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ1つだけ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

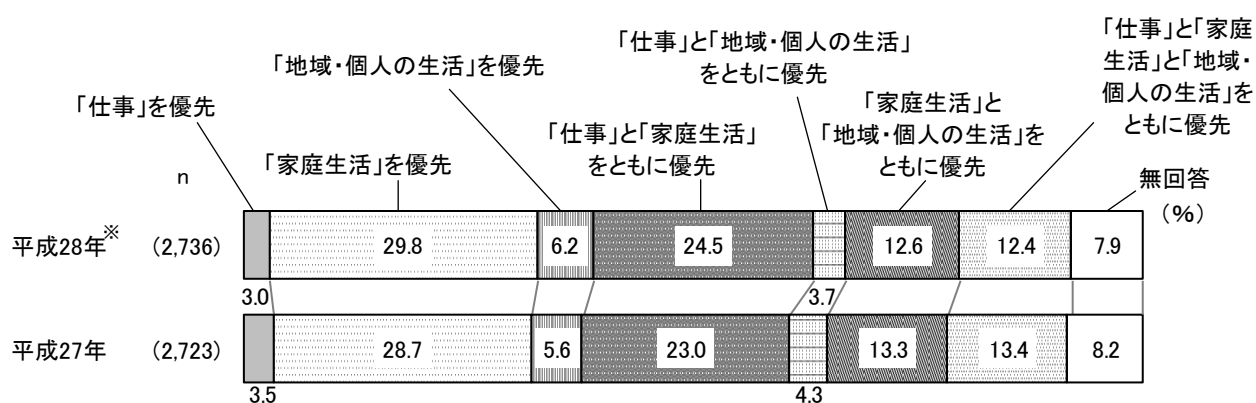
人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

図 3-36-1 ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度—全体



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、希望する優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（29.4%）が最も多く3割弱となっている。次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（24.6%）、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（12.5%）、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（12.5%）などの順となっている。（図 3-36-1）

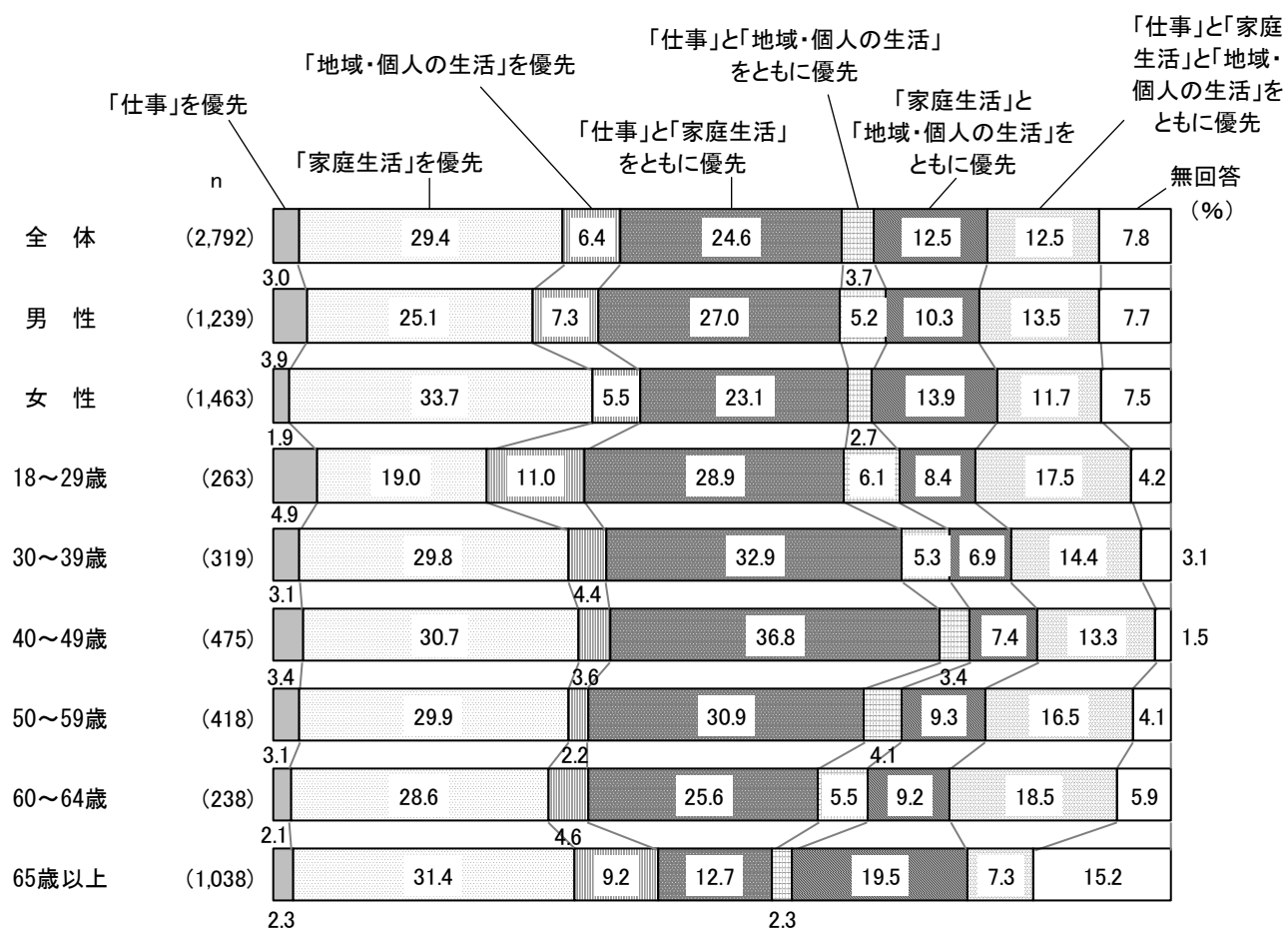
図 3-36-2 ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度—経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-36-2)

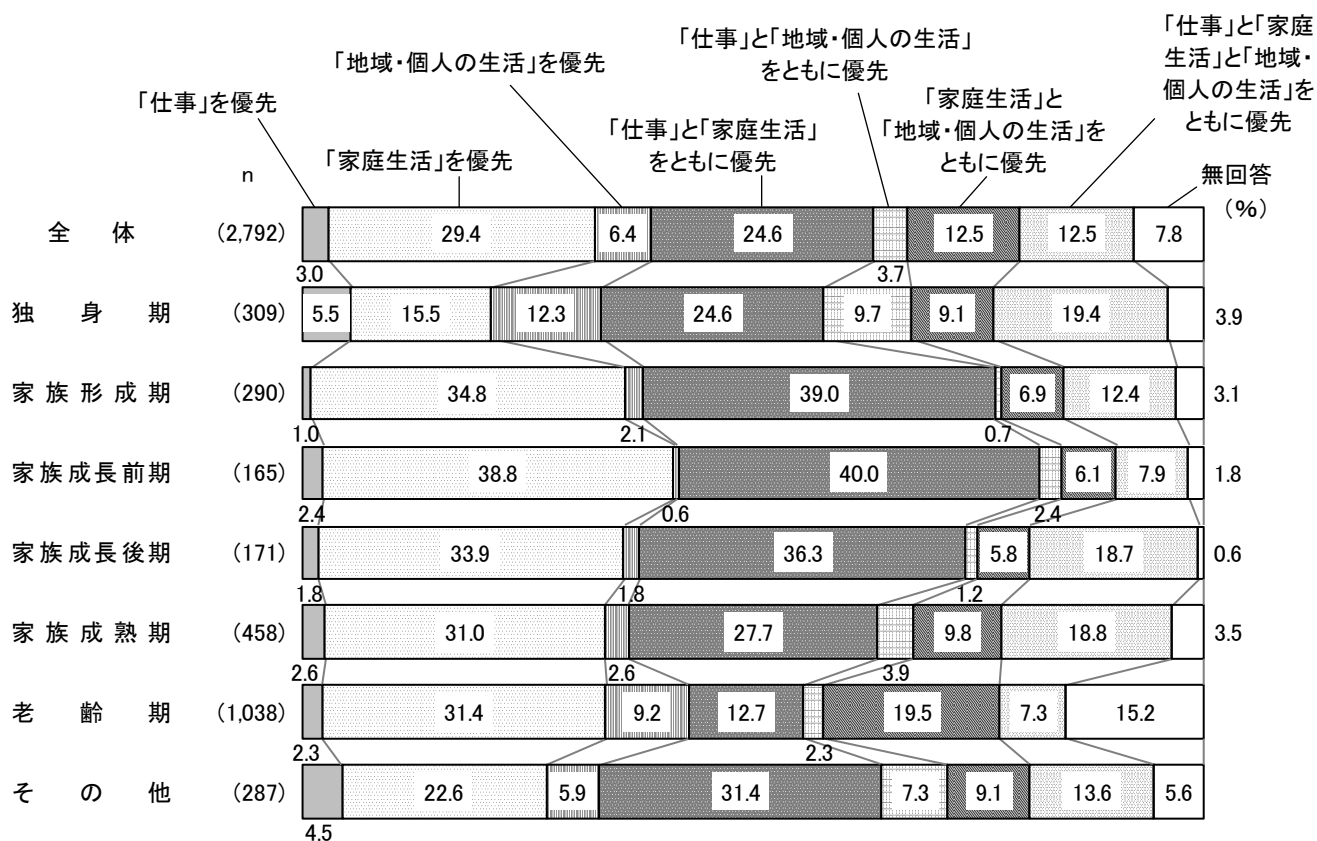
図 3-36-3 ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度—性別、年齢別



性別にみると、『家庭生活』を優先は女性（33.7%）が男性（25.1%）より8.6ポイント高くなっている。

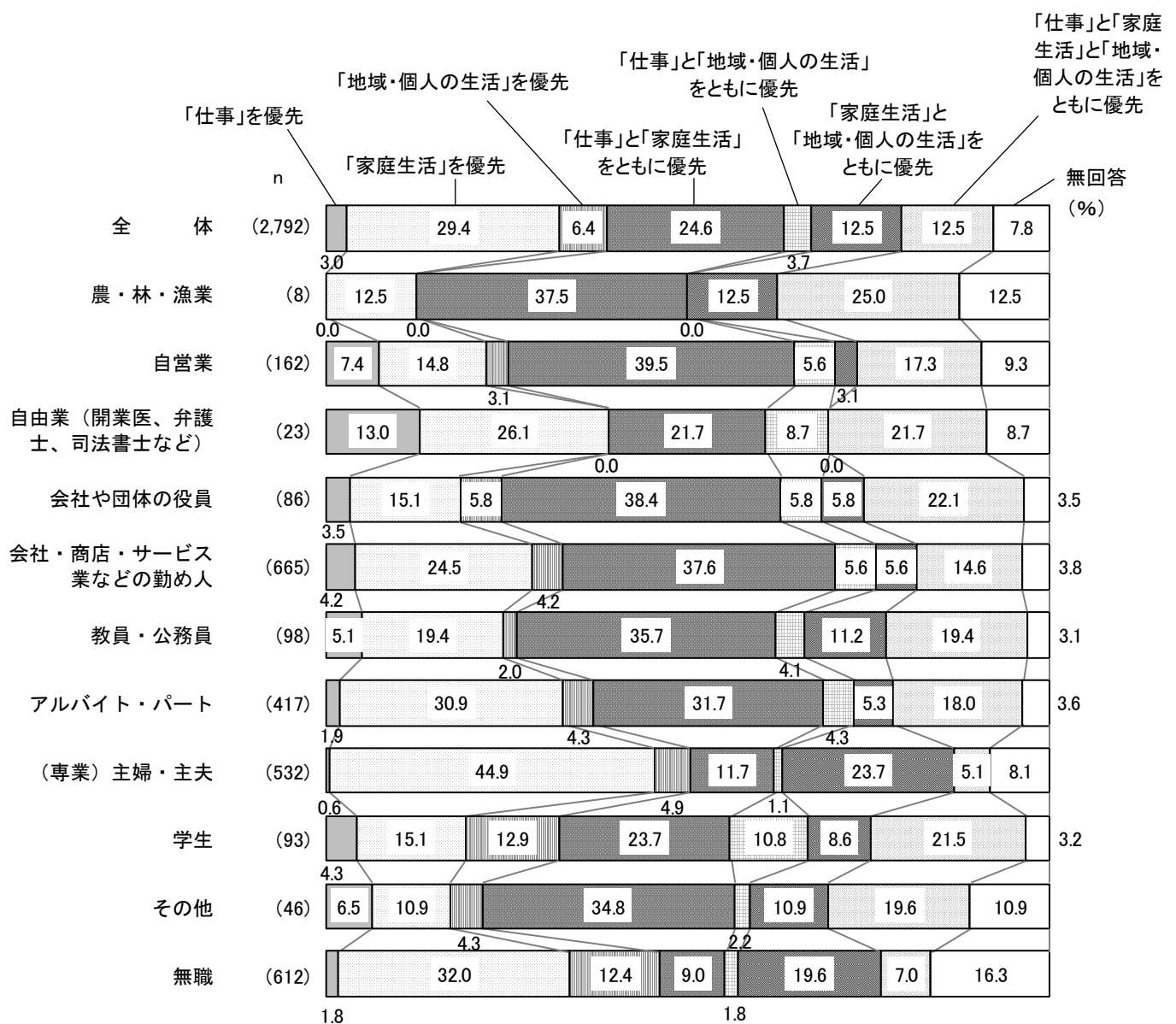
年齢別にみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は40～49歳（36.8%）で4割近くと多くなっている。（図3-36-3）

図3-36-4 ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は家族成長前期（40.0%）で4割と多くなっている。また、『家庭生活』を優先は家族成長前期（38.8%）で4割近くと多くなっている。（図3-36-4）

図 3-36-5 ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度－職業別



職業別にみると、『家庭生活』を優先は（専業）主婦・主夫（44.9%）で4割台半ばと多くなっている。また、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先は（専業）主婦・主夫（23.7%）で2割強と多くなっている。（図 3-36-5）

(37) ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度

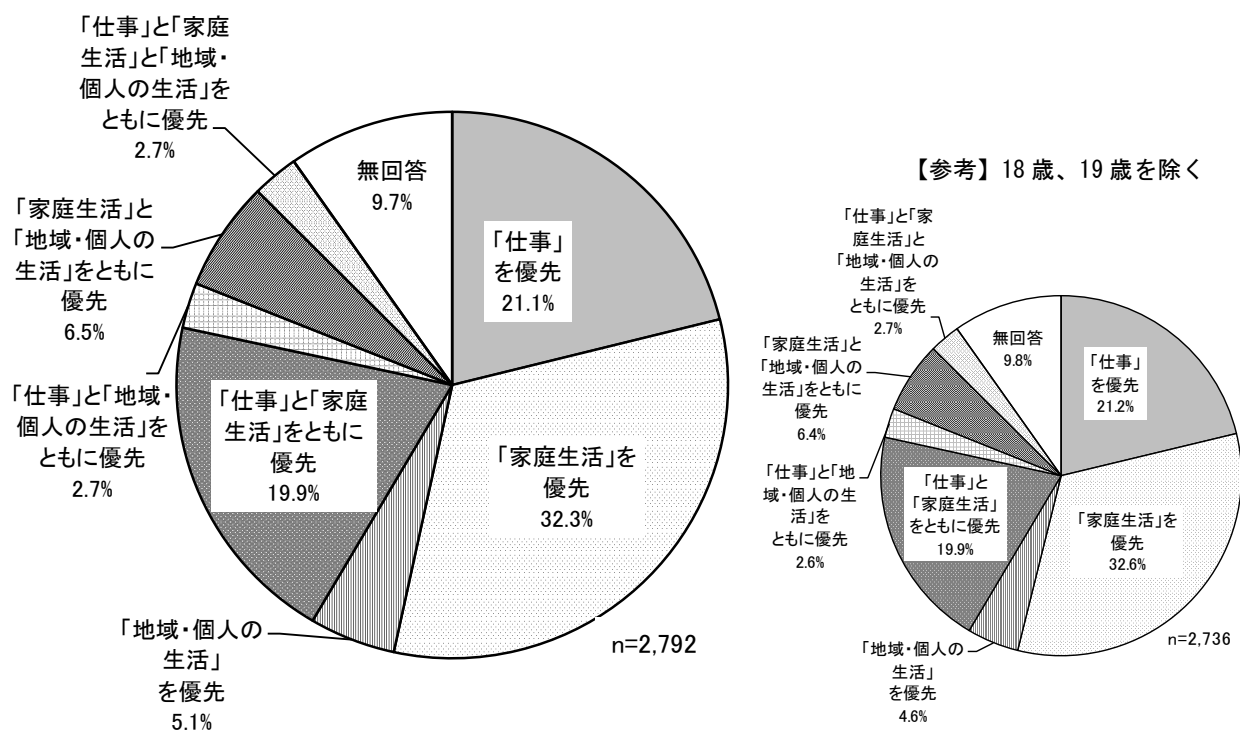
◇実際の優先度は「『家庭生活』を優先」が3割強

問41 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についてあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ1つだけ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

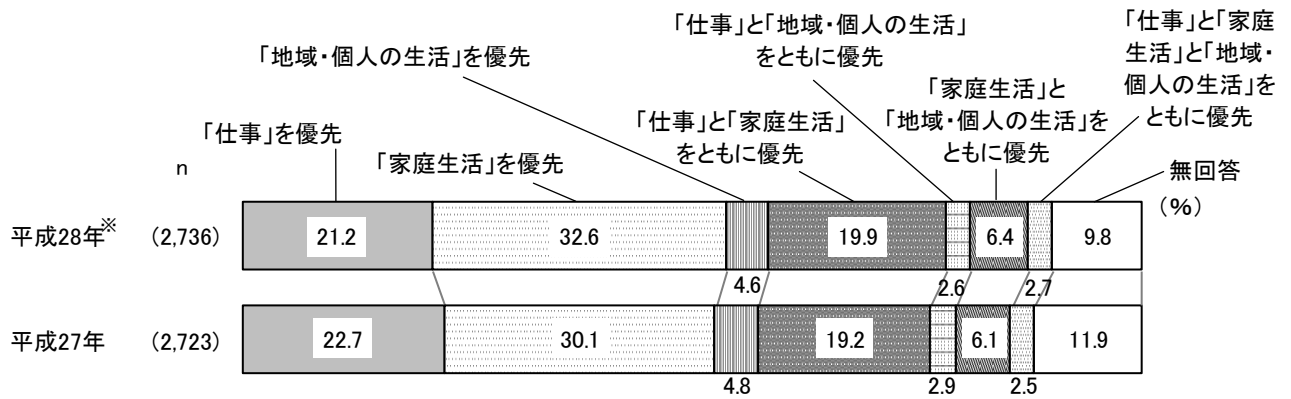
人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

図 3-37-1 ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度－全体



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、実際の優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（32.3%）が最も多く3割強となっている。次いで「『仕事』を優先」（21.1%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（19.9%）などの順となっている。（図 3-37-1）

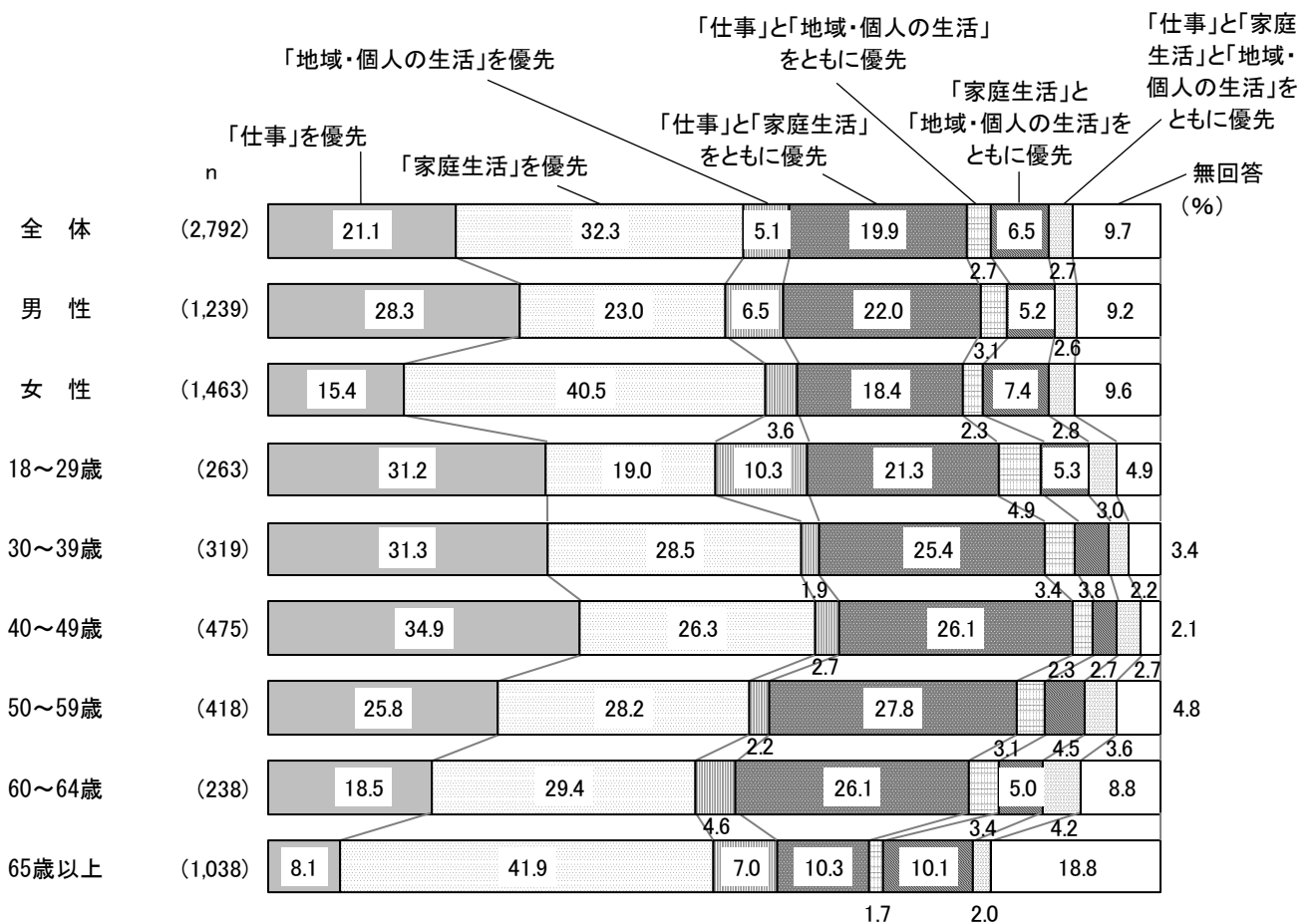
図 3-37-2 ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度—経年比較



※経年比較をするにあたり、平成28年は18歳及び19歳を除いた数とした。

前回調査と比較すると、『「家庭生活」を優先』は、平成27年（30.1%）より2.5ポイント増加している。（図 3-37-2）

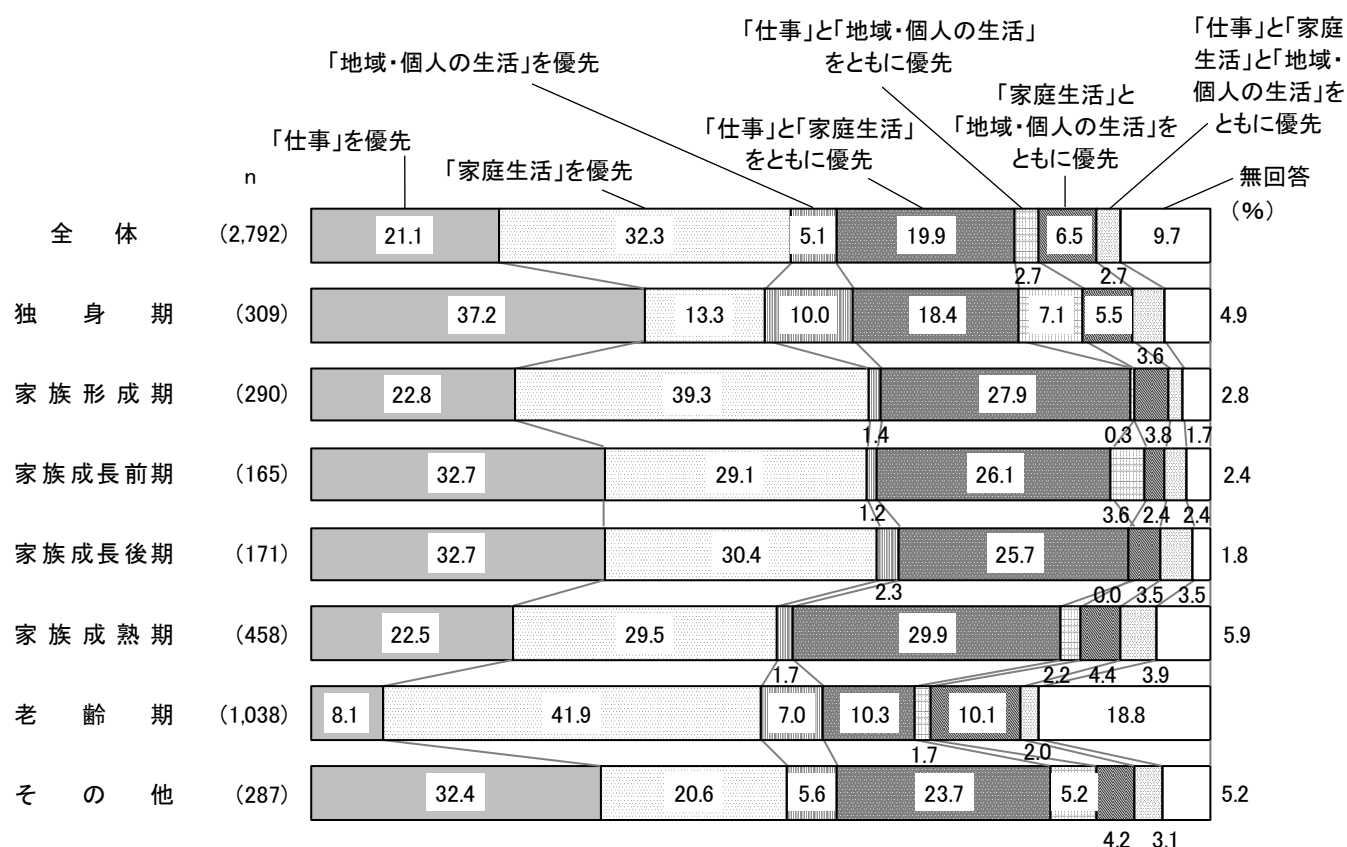
図 3-37-3 ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度—性別、年齢別



性別にみると、『家庭生活』を優先は女性（40.5%）が男性（23.0%）より17.5ポイント高くなっている。『仕事』を優先は男性（28.3%）が女性（15.4%）より12.9ポイント高くなっている。

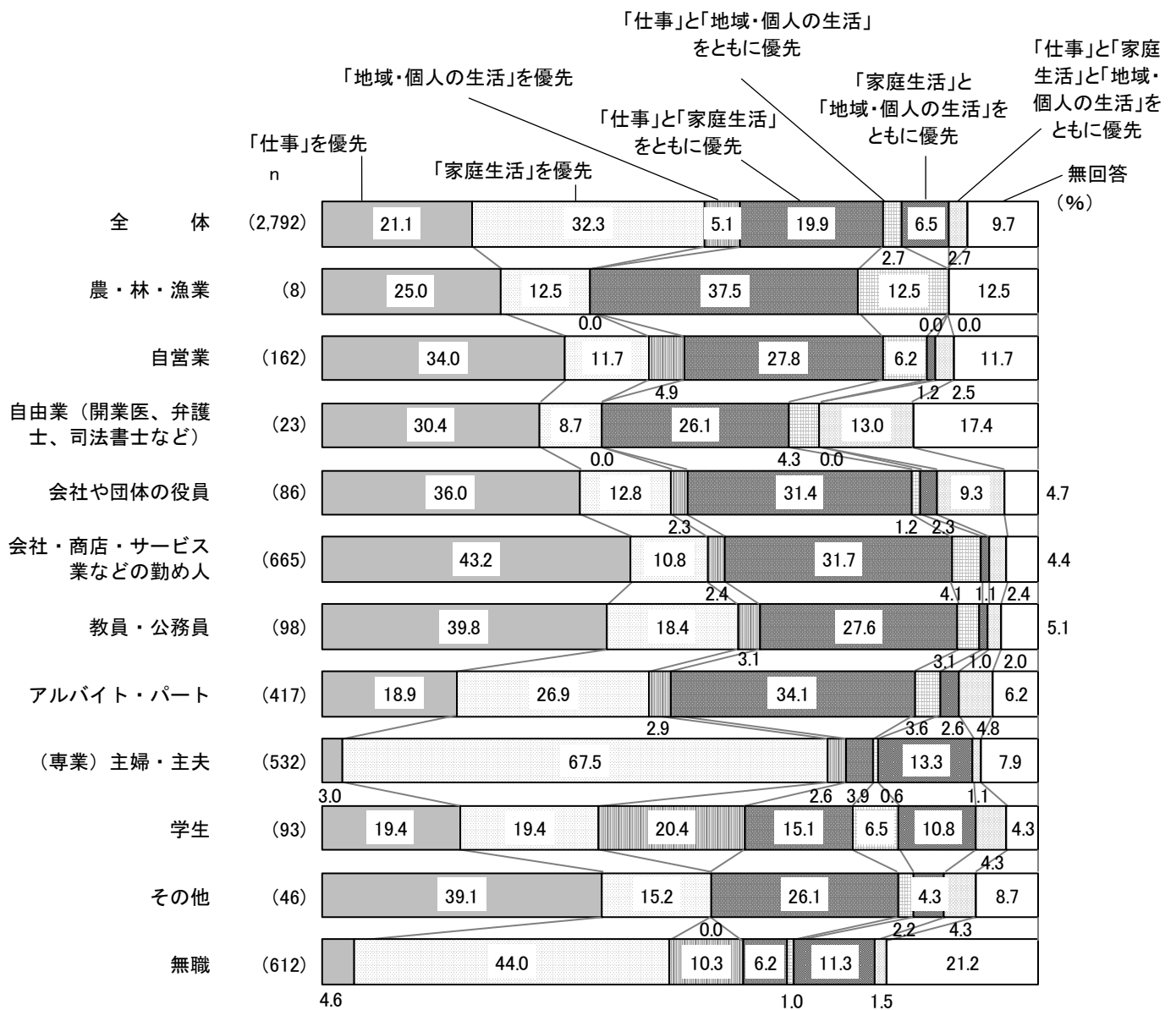
年齢別にみると、『家庭生活』を優先は65歳以上（41.9%）で4割強と多くなっている。『仕事』を優先は40～49歳（34.9%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-37-3）

図3-37-4 ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『家庭生活』を優先は老齢期（41.9%）で4割強と多くなっている。『仕事』を優先は独身期（37.2%）で4割近くと多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は家族成熟期（29.9%）で3割弱と多くなっている。（図3-37-4）

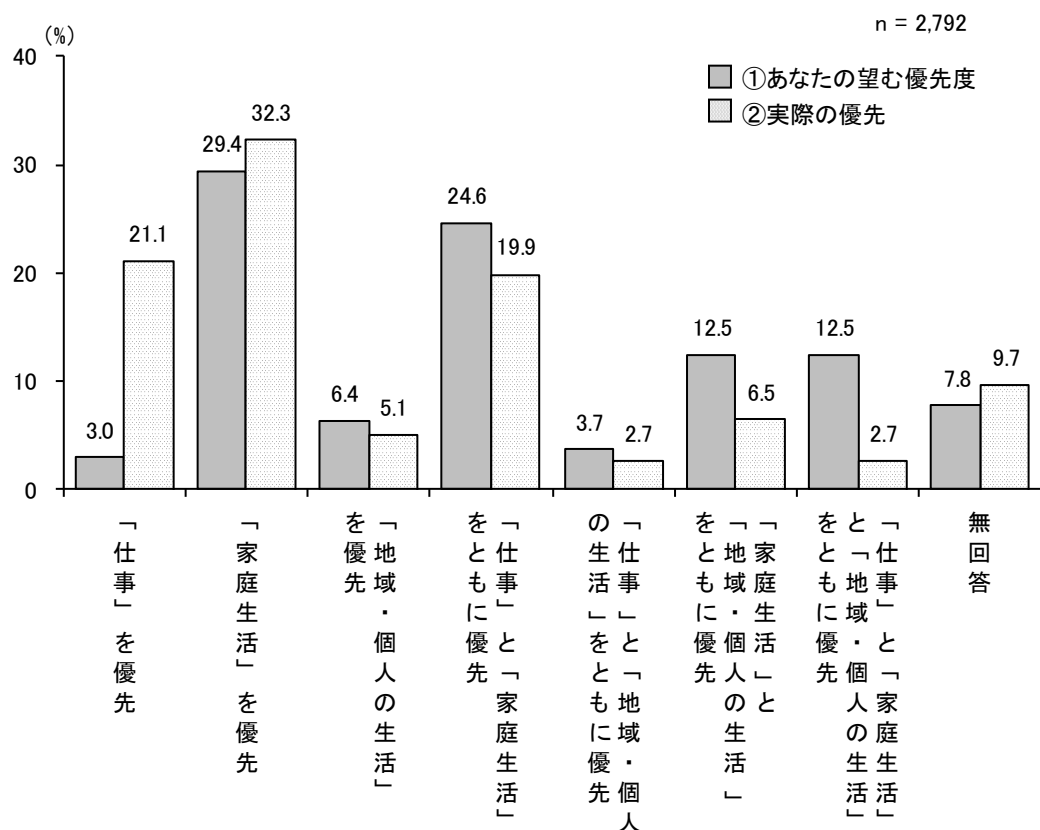
図3-37-5 ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度－職業別



職業別にみると、『家庭生活』を優先は（専業）主婦・主夫（67.5%）で7割近くと多くなっている。『仕事』を優先は会社・商店・サービス業などの勤め人（43.2%）で4割強と多くなっている。『地域・個人の生活』を優先は学生（20.4%）で約2割と多くなっている。

（図3-37-5）

図 3-37-6 ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度について比較したところ、「『仕事』を優先」は、②実際の優先度（21.1%）が①希望する優先度（3.0%）を18.1ポイント上回っている。「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は、②実際の優先度（2.7%）が①希望する優先度（12.5%）を9.8ポイント下回っている。（図 3-37-6）

図3-37-7 ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度-②実際の優先度別

(%)

		調査数 (n)	①あなたの望む優先度							無回答
			「仕事」を優先	「家族生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	を「仕事」と「家庭生活」をともに優先	の「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	を「地域・個人の生活」をともに優先	を「家族生活」をともに優先	
全 体		2,792	3.0	29.4	6.4	24.6	3.7	12.5	12.5	7.8
②実際の優先度	「仕事」を優先	590	10.2	21.5	3.2	42.7	6.3	5.4	9.7	1.0
	「家族生活」を優先	901	1.2	56.6	6.1	12.3	1.3	15.4	5.4	1.6
	「地域・個人の生活」を優先	141	0.7	11.3	49.6	8.5	3.5	16.3	8.5	1.4
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	556	0.5	18.0	1.4	50.2	2.9	4.5	21.8	0.7
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	75	1.3	8.0	8.0	10.7	34.7	6.7	30.7	0.0
	「家族生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	181	0.6	11.0	5.0	2.8	1.7	60.2	16.0	2.8
	「仕事」と「家族生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	76	0.0	7.9	3.9	5.3	1.3	7.9	73.7	0.0
	無回答	272	2.2	13.2	3.3	5.9	1.5	3.7	1.1	69.1

(注) XX.X は項目内での最高値

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をみると、実際には『「仕事」を優先』している人のうち、『「仕事」を優先』することを希望する人（10.2%）は約1割となっており、『「仕事」と『家庭生活』をともに優先』することを希望する人（42.7%）が4割強で最も多くなっている。また、実際には『「仕事」を優先』以外と回答した人の中では、①希望する優先度と②実際の優先度は、一致している人の割合がそれぞれ最も多くなっている。（図3-37-7）

図 3-37-8 ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度の一致

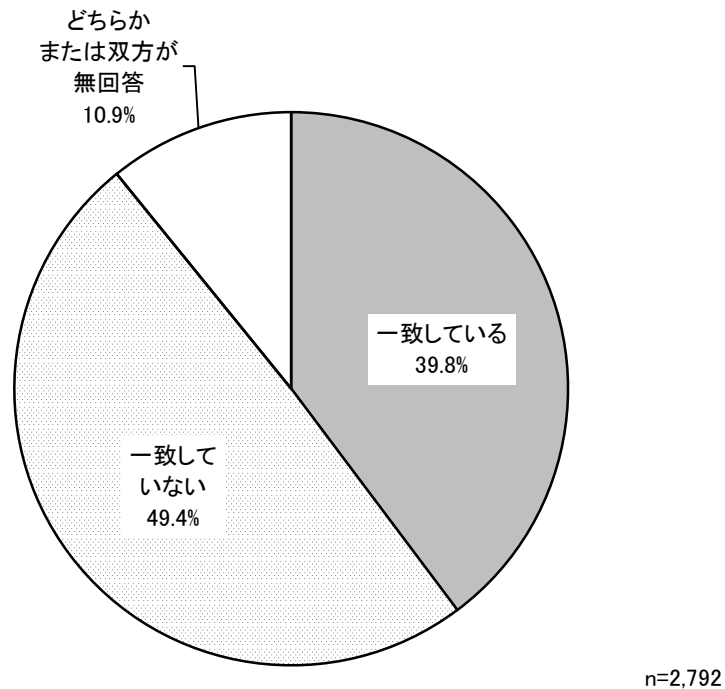


図 3-37-7 に示した、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をもとに、2つの回答が一致した人、すなわち①希望する優先度のとおり②実際の優先度が実現できている人の割合（39.8%）は4割弱となっている。

一方、2つの回答が一致しない人、すなわち①希望する優先度のとおり②実際の優先度が実現できていない人の割合（49.4%）は5割弱となっている。（図 3-37-8）

(38) 市の相談体制の満足度

◇《《そう思う》が3割強

問42 あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。(○は1つだけ)

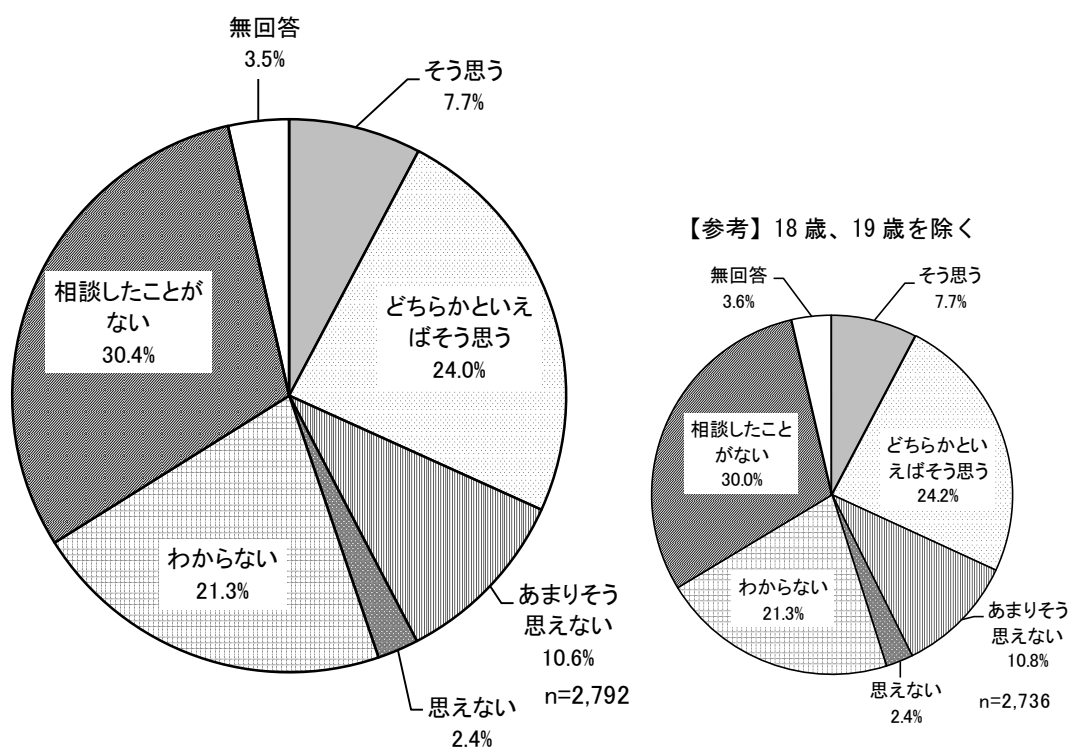
※市では、専門機関・専門家と連携し、次のような相談を行っています。

- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| ○人権、女性福祉、女性のための相談 | ○高齢者の福祉と介護、高齢者総合 |
| ○生活にお困りの方の自立相談 | ○専門家による成年後見制度・権利擁護相談 |
| ○法律、司法書士法律、不動産、登記、
相続・遺言等暮らしの手續 | ○ひとり親家庭、子ども家庭総合、
専門家による子育て相談、 |
| ○年金・雇用保険・労働条件 | ○総合教育相談、こども電話相談 |
| ○交通事故 ○税金 ○行政 ○消費生活 | ○あなたの心の相談室、こころの健康相談 |
| ○外国人のための生活相談、行政書士相談 | ○H I Vに関する相談・検査 |
| ○地域活動への参加 ○起業 ○就職 | ○保健福祉・栄養・歯科 |
| ○住まいのなんでも相談、
住宅の増改築に関する相談 | ○理学療法士による健康相談 |
| | ○医療に関する電話相談 |

など

※これらの相談の「日時・会場・問い合わせ先」については、広報はちおうじの「相談カレンダー」（毎月1日号に掲載）や、市ホームページをご覧ください。

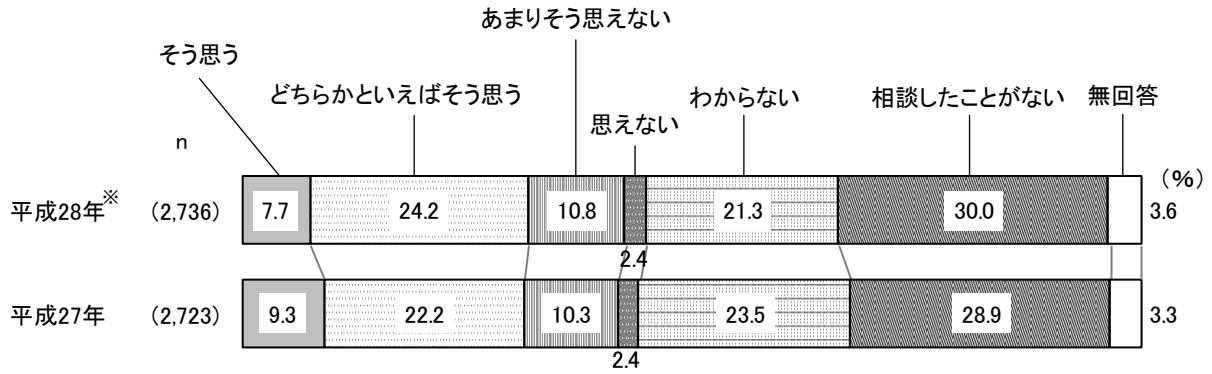
図3-38-1 市の相談体制の満足度—全体



市が実施する相談体制は充実していると思うか聞いたところ、「そう思う」（7.7%）と「どちらかといえばそう思う」（24.0%）を合わせた《《そう思う》》（31.7%）は3割強となっている。一方、「あまりそう思えない」（10.6%）と「思えない」（2.4%）を合わせた《《そう思えない》》（13.0%）は1割強となっている。また、「相談したことがない」（30.4%）は約3割となっている。

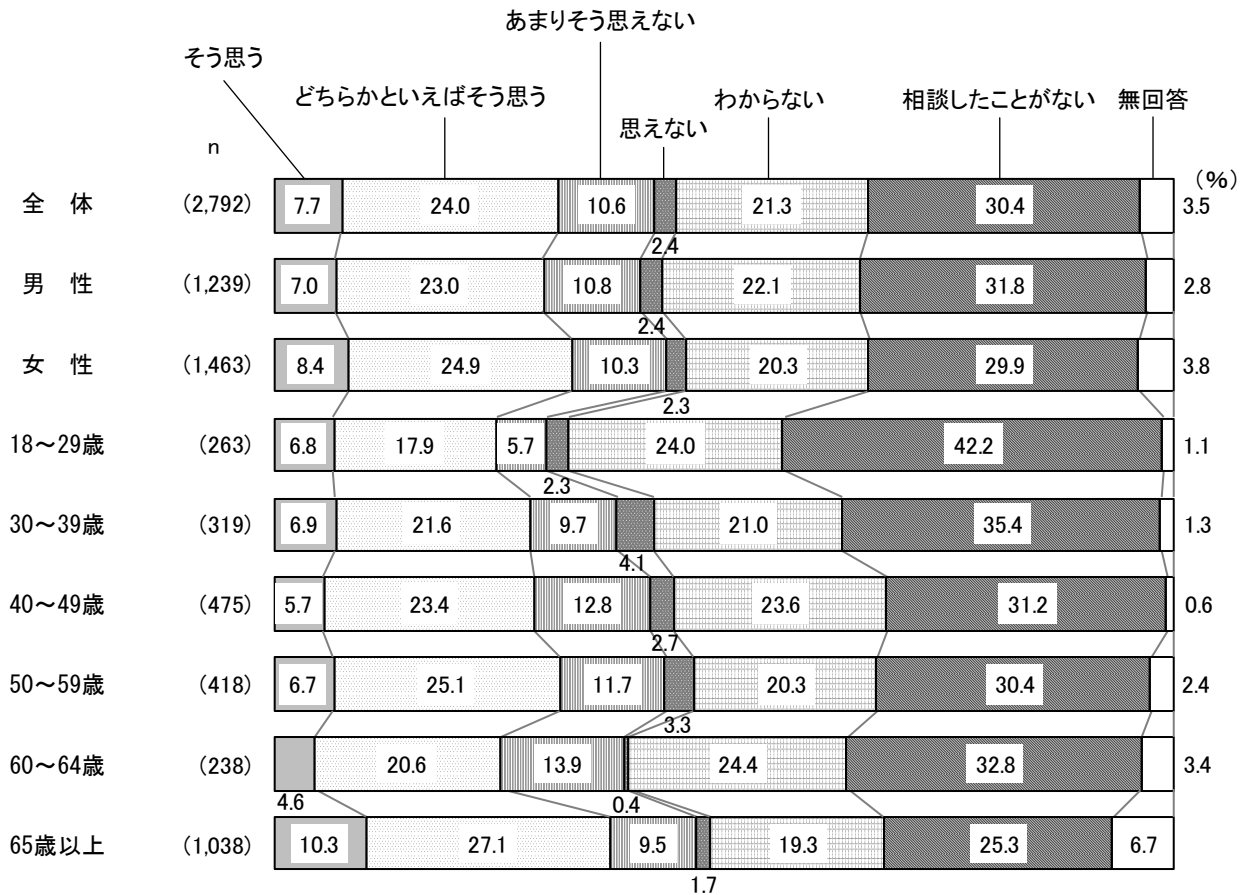
(図3-38-1)

図 3-38-2 市の相談体制の満足度－経年比較



前回調査と比較すると、「《そう思う》」と「《思えない》」の割合は、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-38-2)

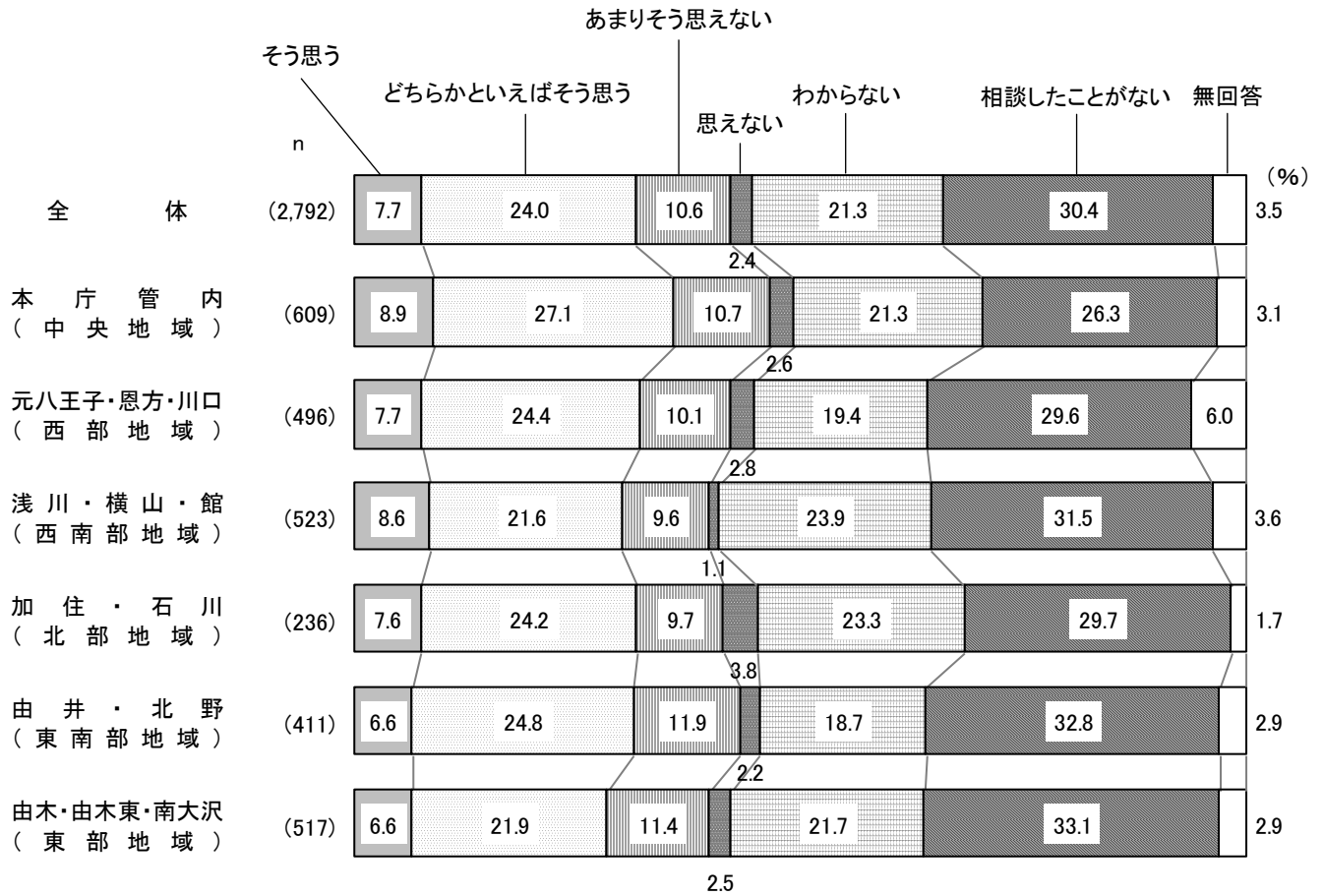
図 3-38-3 市の相談体制の満足度－性別、年齢別



性別にみると、「《そう思う》」は女性（33.3%）が男性（30.0%）より3.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「《そう思う》」は65歳以上（37.4%）で4割近くと多くなっている。一方、「《思えない》」は40～49歳（15.5%）で1割台半ばとなっている。(図 3-38-3)

図 3-38-4 市の相談体制の満足度－居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は本庁管内（中央地域）（36.0%）で4割近くと多くなっている。（図 3-38-4）